

共通教育

開設科目一覧

前期一主題系列

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	日本の政治・経済思想史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	中尾訓生				
<p>●授業概要 授業は民族・国家・国民・社会・市民をキーワードとして講義します。戦中の東亞協同体、日中戦争を取り上げます。戦前と戦後を断絶させて論じる仕方が一般的ですが、断絶できないという視点から講義します。</p> <p>●授業一般目標 上記のキーワードを理解してもらうことを目標とします。ここから思想とイデオロギーを区別して「断絶」の視点を批判します。思想は文化と表裏一体であること、イデオロギーは政治的 権力的に国民に注入されている。日本の戦前をイデオロギー的に塗りつぶすことはできない。文化的要素を抽出していく。</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	外の世界を聞く・知る・見る	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 5名の授業担当者の海外における生活体験や仕事上の体験を通して見た国々の事情を聞き、そこに住む人たちがどのような生き方をしているかを知り、その国・その人たちの現在の姿を見、山口大学の若い学生達が日本の外の世界に目を向ける機会を提供します。</p> <p>●授業一般目標 担当者がそれぞれに長期生活経験・留学経験・勤務経験を持つイスラム文化圏の国々(パキスタン、エジプト、マレーシア)、ヒンズー教文化圏の国(インド)、仏教・儒教文化圏の国々(中国、韓国)、キリスト教文化圏の国々(アメリカ合衆国、カナダ)の(1)文化・宗教・社会習慣、(2)歴史的概要、(3)社会・政治・教育制度、(4)日本との関わり等について、担当者が交代で授業を行なう。</p> <p>●成績評価方法(総合) それぞれの講義毎に課されるレポートの成績と、クラスでの貢献度、出席等を総合的に判断して学期の成績とします。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：授業の中で担当者が紹介します。</p> <p>●教員連絡先 渡邊淳一：w_junichi@hotmail.com, 学内内線：5984 今井新悟：shingoimai@hotmail.com, 学内内線：5088 杉原道子：michikos@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：9037 赤木彌生：yaoia@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：5986 門脇薫：kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：5987</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	中国思想の学習観	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	林文孝				
<p>●授業概要 中国の古典には、学ぶことをめぐる格言がたくさんある。しかし、現代的な学習観とはどこか違う。その違いはどこにあり、何に由るのか、現代人にとってそこから学ぶべきことはないか。こうしたことを考えていく。</p> <p>●授業一般目標 1. 学習をめぐる中国的な考え方の特徴を説明できる。2. 現代的な学習観を相対化して見ることができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 試験 70 %、コメントカード 30 %の割合で評価する。コメントカードは出席確認を兼ね、欠席5回で欠格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。／参考書：適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部5階</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	日本の思想	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	豊澤 一				
<p>●授業概要 日本の思想の諸相を、倫理思想史的な観点から解説します。</p> <p>●授業一般目標 (1) 日本の思想の諸相についての理解。(2) 日本の思想の問題についての関心の保有と、主体的思考。(3) 何かをしない、何かはできない、そうした「恥を知る」人間のあり方。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業の最後に授業内レポートを、毎回、課します。(2) 最後に試験を実施します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『日本仏教史』(新潮文庫)、末木文美士、新潮社、1996年；適宜、原典資料の複写等を配付します。／参考書：適宜、紹介します。</p> <p>●メッセージ 履修希望者が多い場合には、レポートを課し、その成績で履修者を決定します。したがって、初回には必ず出席してください。</p> <p>●教員連絡先 研究室：人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	近代思想家としての夏目漱石	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	村上 林造				
<p>●授業概要 明治から大正にかけて生きた作家夏目漱石の生涯をたどって、そこに示された近代の問題性を考察し、思想家としての彼が近代の問題とどう向かい合い、克服しようとしたかを解説する。講義時間内に、講義内容をテーマとしたレポートを数多く課し、それを評価対象とする。</p> <p>●授業一般目標 近代の特質と問題性を理解する。近代作家の仕事の意義を、近代の問題とのかかわりの中で理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポート(10回以上) = 60~80% 期末レポート = 20~40%</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	メディアコンテンツ概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	熊谷武洋				
<p>●授業概要 メディアコンテンツの中でもエンターテインメント分野を中心事例として技術、産業、教育といった多角的な観点からメディアコンテンツに関する理解を深める。講義はインターネットや視聴覚教材を多用する。なお学生によるグループディスカッションや企画プレゼンテーションを講義中に行う。なお、端末台数以上に受講者希望者がいる場合は、選抜を行う。選抜の方法については第一回目の講義内にて説明、実施を行う。</p> <p>●授業一般目標 本講義は受講者がメディアコンテンツにおける定義とその可能性について理解し、基本的な企画立案を行えることを目標としている。</p> <p>●成績評価方法(総合) グループ制作による企画案のプレゼンテーション、および内容について総合的に評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義中において指示する／参考書：講義中において指示する</p> <p>●メッセージ 漫画、アニメ、ゲーム、映画などに興味があり、単なるマニア的視点ではなく多角的に分析できる客観性を持っていることが望ましい。</p> <p>●教員連絡先 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5403</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	歴史事実と歴史認識を考える	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	月曜日 3・4 時限
担当教員	瀬瀬厚				
<p>●授業概要 なぜ広島・長崎への原爆投下の歴史事実が強く記憶され、なぜ南京虐殺事件などが忘却されるのか。歴史は記憶と忘却との争いの瞬間でもある。そのような課題に触れて、歴史事実をどう認識していくかを考えます。</p> <p>●授業一般目標 歴史事実から現代社会を捉える視点の確立を目指します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：侵略戦争 歴史事実と歴史認識, 瀬瀬厚, 筑摩書房, 1999 年 / 参考書：日本近代史概説, 瀬瀬厚, 弘文堂, 2003 年；日本海軍の終戦工作, 瀬瀬厚, 中央公論新社, 1996 年</p> <p>●メッセージ 現代を読み解く鍵が歴史事実に孕まれている</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	韓国の経済発展と社会構造の変化	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	月曜日 3・4 時限
担当教員	横田伸子				
<p>●授業概要 1. 第二次世界大戦後の世界システムの構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げました。本講義では、1960 年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていきます。2. とくに、1997 年の東アジアの経済危機を契機に韓国では急速に構造改革が進められてきています。なかでも、労働政策、社会保障政策などを具体的に取り上げて、韓国の社会経済構造と人々の生活がどのように変わったのかについて考えます。</p> <p>●授業一般目標 1. 韓国の経済発展のメカニズムについて考える。2. 韓国の労働政策と社会保障政策について考える。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 試験とレポート、講義の内容に対する質問や意見などを総合的に判断する。2. 出席を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：韓国の経済, 隅谷三喜男, 岩波書店, 1976 年；韓国の工業化, 服部民夫, アジア経済研究所, 1987 年；韓国・先進国経済論, 深川由紀子, 日本経済新聞社, 1997 年；東アジアの福祉戦略, 大沢真理編, ミネルヴァ書房, 2004 年</p> <p>●メッセージ 最近、「韓流」と呼ばれる韓国ブームが日本だけでなく、東アジア全体に広がっていますが、そのパワーやダイナミクスの源を一緒に探りましょう！</p> <p>●教員連絡先 オフィスアワーはとくに設けません。質問があるときは、在否を確認の上、研究室を訪ねてください。E-mail: ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp, : 083-933-5559</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	子どもと社会科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	吉川幸男				
<p>●授業概要 小・中学校の社会科教科書を題材に、社会のことを学ぶ目的と方法を原理的に追求する。</p> <p>●授業一般目標 これまで経験的に形成してきた自分の「社会の見方」「社会の学び方」を社会探究史の中に位置付け、社会を学ぶより広い視座を獲得する。また、このことを通して少年期における社会科教育のあり方に関する関心を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎時課す小レポート(出席を兼ねる)と、全回終了後の最終レポートによって評価する。割合は、前者が30%、後者が70%で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: テキストは指定しないが参考書は随時紹介する。</p> <p>●メッセージ 受講者は最大80名程度までに制限します。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	経営理論と応用	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	有村貞則				
<p>●授業概要 経営学の中でも経営戦略に関する基礎的理論を学習するとともに、その理論をもちいて実際の企業の戦略を分析してみる。</p> <p>●授業一般目標 経営戦略の理論の修得と応用(企業分析)</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、発表、期末テスト</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 特になし/ 参考書: 授業の内容におい時手、適時、参考図書を紹介します。また資料もできるだけ配布していきたいと思ひます。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	知の広場—人と学問—	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	渡邊正				
<p>●授業概要 山口大学に入学したばかりの学生が、本学およびそれぞれの部局の設立の経緯、発展の過程、現状、およびそれぞれの学問分野の概要を知ることにより、本学の学生としての自覚を持ち得るようにする。</p> <p>●授業一般目標 本学におけるそれぞれの学問分野のおおよそを理解し、必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を養う。また、講師自身の教育者および研究者としての体験から、それぞれの専門領域の社会的位置づけや将来への展望、さらには人間としての生き方を学ぶことも考えられる。この授業を契機として、学生が学問や社会や人間について問題意識を持つようになることが望ましい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 受講者に毎回短いコメントを提出させる。講師により最後の講義の後半で試験またはレポートを課すこともある。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	情報社会と人間	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	林徳治				
<p>●授業概要 現代の高度情報通新社会において、人間はコンピュータなど情報機器を使い単に情報を機械的に処理する能力だけが求められているのではなく、社会を生き抜く情報社会人として個の確立による主体性、判断力、コミュニケーション能力が求められる。本科目では、現代の社会を振り返り、情報・社会・コミュニケーション活動についての教養を身につけ、実社会で役立つ内容にしたい。</p> <p>●授業一般目標 高度情報通信社会を生き抜く人間としての教養を身につける。具体的な項目は以下の通りである。1. 情報とデータ表現について説明できる 2. 情報活用能力を学び、実践できる 3. コミュニケーション活動について学び、自己改善ができる 4. IT社会の光と影を学び、生活に還元できる 5. 情報倫理について学び、生活に還元できる 6. 企業で求められる人材について学び、自己学修について改善できる 7. 社会を生きる人間の心について学び、生活に還元できる 8. 国際協力と国際理解教育について学び、グローバルな視野からものごとを見ることができる 9. これからの社会について考えることができる</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、出席等を総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：新・情報社会人のすすめ、情報教養研究会、ぎょうせい、1997年/参考書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術、林徳治、ぎょうせい、2000年</p> <p>●教員連絡先 E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp、電話 933-5461、研究室 センター 1 階</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	命と場	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	小林誠、他 9 名				
<p>●授業概要 ヒトは生物界の中で単独で存在するわけではなく、それを取り巻く環境の中で相互依存の関係をもちながら生存している。その環境には、生物学的側面に加えて、ヒトが作り出した社会的側面も密接に関連している。このように、生命とその場の問題を扱う。</p> <p>●授業一般目標 ヒトと生物界の生物学的側面を概略的に理解し、さらに最先端の医学研究や実際の医療現場における先端的医療に加えて、倫理の問題などの生命とそれを取り巻く社会的側面を理解して、それらを総合的に捉えてヒトとしての生命とその場としての環境の現在おかれている問題を主体的に考えることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席点と試験・レポート評価の合計が 60 点以上を合格とする。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：特になし</p> <p>●メッセージ 1. 授業中は、私語をしない、携帯電話の電源をオフにしておく。守れない場合には、退室させ、単位を与えない場合もあるので、よく留意すること。 2. 質疑応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>●教員連絡先 小林 誠 (メール：seikoba@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：医学部基礎研究棟 3 階、オフィスアワー：火曜日 17:30～19:00)</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	科学の中の動物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	林、甲斐、井上、前田、加藤				
<p>●授業概要 病気には多くの種類があり、またその原因も様々である。一方病気の予防や治療には実験動物を用いて病態の解明がなされてきた。そこで実験動物が科学の中で果たしてきた役割について述べるとともに、遺伝子・細胞・組織・個体レベルでの解説を平易にそれぞれの立場から講義する。</p> <p>●授業一般目標 病気という視点から科学的なものの見方、考え方について講義する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席点とレポート</p> <p>●メッセージ 学生のほとんどが一年生であること、学部も異なっていること、専門知識をほとんどが持ちあわせて無いことから、生命現象に対する興味や科学的思考法を学んで欲しい。</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	環境と植物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	田中秀平・執行正義・竹松葉子				
<p>●授業概要 植物は地球環境の保全や食料生産に極めて重要な役割を果たしている。しかし、その植物もまた、周囲の環境から様々な影響を受ける。植物はそれぞれ種固有の生育特性によって環境を選び適応しているが、環境の大きな変化が植物の生存に驚異となる場合も少なくない。また、環境の中では、微生物や昆虫も植物と重要な関わりを持っている。微生物は有機物の分解や土壌生態系の重要な担い手として、昆虫は花粉の運搬者として植物の役になっている。しかし微生物や昆虫の中には病原菌や害虫として植物の生育に悪影響を及ぼすものもある。つまり植物と環境の関係は実に多様であり、バランスのとれた生態系を守り育てることが地球環境の保全に不可欠である。一方、食料生産を目的とする農業は、植物の生育や植物と微生物・昆虫の関係を人間の都合に合わせてようとする行為であり、環境保全や食料の安全性との関係で様々な問題を抱えている。農業の場にも地球環境問題の一面が見える。講義では、自然生態系および農業生態系における植物の生活、植物と微生物・昆虫の関わり方の現状と課題について解説する。</p> <p>●授業一般目標 生態系における植物、微生物、昆虫の多様性とその役割、ならびに農業や工業など人の営みが植物、微生物、昆虫などがつくる生態系に及ぼす影響について解説し、生態系が植物をはじめとするあらゆる生物の連鎖的關係によって成り立っていることを理解させることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 試験を行うほか、適宜レポートを課す。成績は出席 30%、レポート 30%、試験 40% の比率で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配付する。／参考書：参考図書は、最初の講義の時に一括紹介する。</p> <p>●教員連絡先 研究室：田中秀平（農学部 3F 331 号室）、執行正義（農学部 3F 330 号室）、竹松葉子（農学部 3F 327 号室） オフィスアワー：いずれも毎週月曜日 12:00-16:00</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	交通と安全	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	澤 喜司郎				
<p>●授業概要 本授業では、交通事故の原因の 9 割が私たち人間にあると言われているため、私たち人間にスポットをあて、私たちはなぜ交通事故を起こすのか、どうすれば交通事故を回避できるのかを、簡単な実験を行いつつ、交通と安全の問題について講義する。なお、人身事故や重大な交通違反は犯罪として処罰されるため、医師や看護師、獣医師、教育職員、栄養士、弁護士などを目指す者には必修科目である。</p> <p>●授業一般目標 (1) 交通事故の現状を理解し、交通安全に関する知識を習得する。(2) 交通事故を科学的に考える。(3) 交通事故を起こさない、交通事故に遭わない態度を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績評価は、定期試験 60%、出席 15%、毎時間の小レポート 15%、授業外レポート(宿題)10%で評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：交通安全論概説(改訂版), 澤 喜司郎, 成山堂書店, 1998 年</p> <p>●メッセージ 交通安全については間違った知識、中途半端な知識をもてば、命を落とす ことがあり、その点が他の授業とは全く異なります。この授業は諸君の生命にかかわるものですから、不真面目な学生の受講を一切お断りします。また、この授業を受けていれば、事故を起こさずに済んだ学生、死傷せずに済んだ学生がいるのも事実です。</p> <p>●教員連絡先 電話 933-5553(直) 研究室 経済学部 A-419</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	環境と農業	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	小澤忍・藤間充				
<p>●授業概要 今や世界の人口は 60 億を越え、21 世紀の半ばには 120 億人に達するとみられている。世界の耕地面積はほぼ限界に達し、今以上の反収増も期待できないなか、はたして地球はこれだけの人口を養っていけるのだろうか。科学技術の発達により食料・環境問題をどこまで克服できるのだろうか。先進国のなかで、もっとも食糧自給率が低いわが国の農業・農村の将来をどうしたらいいのか。持続的農業の本質および科学技術の発達と環境とのかかわりについて講述する。</p> <p>●授業一般目標 現状を認識することによって、受講生に危機感をもってもらえば本講義は成功である。何らかの具体策が提言できるようになれば大成功である。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 授業後半時間に小レポートを課す。その内容と、出席で成績を評価する。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	火山と地震	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	今岡 照喜				
<p>●授業概要 日本列島は火山列島でもあり、地震列島でもある。日本列島は昔から繰り返しこのような火山噴火、地震や津波に襲われてきた。大陸縁辺の変動する大地に住んでいる以上、我々は宿命的にこうした火山噴火や地震による災害から完全にのがれることはできそうにもない。一方で、火山と隣り合わせに住む我々は観光、温泉や地熱資源など火山の恩恵に浴している。この講義では、火山や地震がどのような場所でどのような活動をするのか、火山の噴火や地震はなぜ起こるのか、両現象に因果関係があるのかないのか、火山の噴火や地震は予知できるのか、また予知のための戦略はどのようなものか、について具体例をあげながら詳述する。</p> <p>●授業一般目標 1. 日本や世界の火山の発生場所、火山噴火のメカニズムについての理解を深める。 2. 巨大地震、直下型地震にの発生機構についての理解を深める。 3. 火山や地震による被害の現状を知り、防災について考える。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト、レポートおよび期末試験の結果を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：基礎地球科学、西村祐二郎ほか著、朝倉書店、2002 年出版</p> <p>●教員連絡先 総合研究棟、701 号室 オフィスアワー 金曜日 15:00～17:00</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	生命現象のいろいろ	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	福本哲夫				
<p>●授業概要 生命現象をいろいろな医学の分野の専門の担当者が生理学的、病理学的あるいは臨床医学的な立場から最近の話題をまじえて解説を行う。</p> <p>●授業一般目標 生命現象についてのいろいろな疑問や、新しい情報を耳にしていろいろな生命現象に興味を持って更に調べてみたりするきっかけを持つ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席ならびに授業態度 50 %、試験の成績 50 %を基本としてこれらをもとに総合的に評価する。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	地球と人間	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	金折裕司				
<p>●授業概要 46 億年におよび地球史や地球で起きている様々な現象が、人間によってどのように理解されてきたのか、地球科学の礎を築いた人たちのエピソードを交えながら、地球環境問題や自然災害と人間の関わり方を講義する。</p> <p>●授業一般目標 1. 地球史の中で人類誕生が持つ意味を理解する。 2. 地球環境変化と人間の営みとの関係を理解する。 3. 自然災害の発生メカニズムとその防災対策を理解する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、5 回ほど小テストを行う。(2) 自分に関わるもしくは関心を抱いている地球科学的な現象についてレポートを作成する。(3) 最後に試験を実施する。以上について、下記の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。毎回授業内容に関連したプリントを配布する。／参考書：初回の授業で副読本を紹介する。</p> <p>●メッセージ 講義内容に関して、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 kanaori@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部南棟 3 階 344 室 オフィスアワー 火曜日 15:00～16:00</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	宇宙と地球と人間	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	飯石一明				
<p>●授業概要 人類はこの世紀に生命の起源、地球の起源、星の起源、宇宙の起源についての大筋のシナリオを描きあげた。そのシナリオは実に神秘的でとても美しい。このシナリオのうちで、私が特に感動した部分を中心に語ってみたい。講義では、単なる記述ではなく、何故そのように考えられたのかを中心に、問題点を投げかけながら、偉大な天才たちが解明していったことを、できるだけわかりやすく、繰り返し、ゆっくり語っていききたい。</p> <p>●授業一般目標 以下の項目を理解できる。1. 宇宙の膨張、2. 宇宙の進化、3. 銀河系の誕生と構造、4. 星の誕生と進化、5. 太陽系の構造と起源、6. 惑星や地球、月の素顔と起源、7. 惑星の素顔</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間試験と期末試験 70 %、コメント票の内容 30 %。無届で 3 回以上欠席した場合、単位はありません。遅刻 3 回は 1 回欠席とみなします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：詳しい講義ノートと資料を配布。</p> <p>●メッセージ 私語は厳重に注意する。毎回のコメント票に書いてある授業に関する要望にはできるだけ応える。また質問にもできるだけ答えるようにする。</p> <p>●教員連絡先 iishi@yamaguchi-u.ac.jp、内 5742、理学部南棟 341 号室、オフィスアワー：木曜日 3・4 時限</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	環境とバイオテクノロジー	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	加藤昭夫				
<p>●授業概要 20 世紀細大の技術といわれている遺伝子工学、バイオテクノロジーとは何かを明らかにし、この技術が現在人間、社会にどのような影響を与えており、将来与えようとしているかを考えてゆく。バイオテクノロジーとは生物のもつ機能を利用して、有用なものを作り出す技術であり、古代より酒、チーズ、醤油などの身近な食品作りに利用されてきた。1980 年代に遺伝子工学の目覚ましい発展により、インシュリン、インターフェロンなどの医薬品の開発が進み、また植物の新しい品種や品質の良い作物が作成できるようになり、さらに、バイオテクノロジーを利用した排水、排ガス処理など環境を守る技術が広く使われており、また、環境にやさしい食料生産方法や製品の開発が進められている。このような人類の健康、食料、環境問題の解決に大きな力を発揮しているバイオテクノロジーの現状と課題について講義で述べる。</p> <p>●メッセージ ようこそバイオテクノロジーワールドへ</p> <p>●教員連絡先 加藤昭夫 (農学部 3 階)、梶原忠彦 (農学部 4 階)、古賀大三 (総合研究棟 6 階) いつでも気軽に訪問大歓迎</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	歴史の中の動物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	萬場光一・田浦保穂・中尾敏彦				
<p>●授業概要 魚類に始まり、両生類、爬虫類、哺乳類と進化してきた脊椎動物の進化の特徴は、化石による骨の変化として捕えることが出来る。次に身近な動物と人間のかかわりあいについて述べる。人間が出現して以来、環境の大きな変化を起こさせた要因の一つに人間による動物の家畜化がある。この歴史を理解することによって、我々と環境とのかかわり合いを理解することが出来るようになるだろう。最後に、中世から現代に至る家畜との関係から、家畜が如何に我々の生活と係わり合い、その増殖に腐心してきたかが分かるであろう。</p> <p>●授業一般目標 1. 三つ目は実在したか？更に、実際の犬、ミニ豚及び猿の骨をもちいて理解を深める。2. 身近な動物とヒトとの関係を環境との観点から考察する。3. 家畜の管理・生産にヒトが如何に腐心してきたかを考察する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率及びレポートの成績により総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：1. 脊椎動物のからだ(ローマン & パーソンズ、法政大学出版、1993) 2. 動物に見る人の歴史(江口保暢、日本図書刊行会、1998) 3. 最新「乳牛の繁殖管理指針」(中尾敏彦、酪総研、2000)</p> <p>●メッセージ 総合評価では、講義への出欠を重視する。</p> <p>●教員連絡先 在室中は何時でも可。933-5882</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	加齢と健康	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	神田 隆ほか				
<p>●授業概要 老化は人の一生の中で避けることのできないプロセスであるが、超高齢化社会をむかえるにあたって、いかに健全に年をとっていくことができるかは人生の重要な課題の一つである。このシリーズでは、各臨床医学部門のエキスパートが講師となり、加齢の持つ医学的意味について学ぶ。また、身体活動と健康についても学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 (1) 加齢が各臓器に与える影響について学ぶ。(2) 老年期特有の疾患についての知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は最終日に行う試験と、各講義の終了時に配布される小レポートの双方を加味して行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：老年医学テキスト(改訂版)、日本老年医学会、メジカルビュー社、2002年／参考書：神経内科学書、豊倉康夫、朝倉書店、2004年；老年医学テキスト(改訂版)、日本老年医学会、メジカルビュー社、2002年；内科学(第8版)、杉本恒明、朝倉書店、2003年</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	健康コンディショニング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	平田牧三				
<p>●授業概要 今日ほど、健康が意識され、求められている時代はありません。本講義では「大学生と健康」を key word に、学生生活での身近な問題をテーマにして、学問と実生活との接点を医学的、保健学的な見地からアプローチします。視覚的な楽しい授業を展開します。</p> <p>●授業一般目標 この授業が motivation となり、「健康に生きる」ことの意味を改めて考え、「サバイバル」の視点から、生涯の健康観を形成する。また、心身ともに健康で、たくましく生き抜く力(知識)を取得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験を実施する。授業外レポートを課す。出席を重視する。 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、欠席が5回以上は単位を認定しない。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：学生と健康(改定第2版), 国立大学等保健管理施設協議会編, 南江堂, 2001年</p> <p>●メッセージ 試験の成績判定基準としては、明確に自分の健康観を示すこと。枝葉末節なことは問わない。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: hirata@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5161, 研究室: 保健管理センター, オフィスアワー: 10-17:00 (月・火・木)</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	健康とアニマル・セラピー	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	早崎峯夫				
<p>●授業概要 動物を介在させた障害者のケアのための活動の実際について講義する。</p> <p>●授業一般目標 盲導犬、聴導犬、介助犬を中心に、活動の実際、その効果、を各種資料やビデオ資料によって講義する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 頻繁にレポートの提出を求める。それを以て理解度を採点する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：幸せになる犬との暮らし, 林 義博監修, 幻冬社, 2003年</p>					

前期—人文科学系列

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	波多江忠彦				
<p>●授業概要 人間や事物など「世界」の本質を追求するとされる哲学をその思考方法の観点から概観する。すなわち、既成の知識／情報の収集ではなく、それらの根拠や限界（効用を含む）を批判的に検討／論及する。具体例として生命倫理の諸問題（たとえば、クローン、生殖補助医療、ターミナルケアなど）を採り上げる。</p> <p>●授業一般目標 「世界」に対する自分自身の信念なり確信は何処に、また何に根ざしているのか、を検討することを通じて、問題自体を発見し、あるいは提起し、できることならそれらにかんする「問題解決的思考法」を習得すること。</p> <p>●成績評価方法（総合） 主としてペーパーテストの結果で行う（75%）が、講義中に提示するテーマに関するレポート（15%）や抜き打ち的な出席調査（10%）を併せて総合的に判断する。なお、云うまでもなく講義中の私語は厳禁で、注意喚起にも応じない場合は退席を願うこともあり得ます。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：倫理学をはじめようー論理学からおむつ体験まで一、波多江忠彦他、木星舎、2003年；「倫理学をはじめよう」波多江／林著 木星舎 ￥2,100（税込み）／参考書：生命医学倫理、ビーチャム／チルドレス、成文堂、1997年；生命倫理学を学ぶ人のために、加藤／加茂編、世界思想社、1998年</p> <p>●メッセージ 出席／レポートは抜き打ち的な2回で評価 講義中の私語厳禁</p> <p>●教員連絡先 E-メール hako1@bronze.ocn.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	波多江忠彦				
<p>●授業概要 人間や事物など「世界」の本質を追求する学問とされる哲学をその思考方法の観点から概観する。すなわち、既成の知識／情報の収集ではなく、それらの根拠や限界（効用をふくむ）を批判的に検討／論及する。具体例として生命倫理の諸問題（たとえば、クローン、生殖補助医療、ターミナルケア）などを採り上げる。</p> <p>●授業一般目標 「世界」に対する自分自身の信念なり確信は何処に、また何にねざしているのか、を検討することを通じて、問題自体を発見し、あるいは提起し、出来ることならそれらに関する「問題解決的思考法」を習得すること。</p> <p>●成績評価方法（総合） 主としてペーパーテストの結果で行う（75%）が、講義中に提示するテーマに関するレポート（15%）や抜き打ち的な出席調査（10%）を併せて総合的に判定する。なお、云うまでもなく講義中の私語は厳禁で、注意を喚起しても応じない場合は退席を願うこともあり得ます。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：倫理学をはじめようー論理学からおむつ体験まで、波多江／林他編著、木星舎、2003年／参考書：生命医学倫理、ビーチャム／チルドレス、成文堂、1997年；生命倫理学を学ぶひとのために、加藤／加茂編著、世界思想社、1998年</p> <p>●メッセージ 講義中の私語厳禁</p> <p>●教員連絡先 E-メール hako1@bronze.ocn.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日5・6時限
担当教員	村田貴信				
<p>●授業概要 歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を基軸に据えて講義を展開する。(1) 自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。(2) ものごとを広く(多面的に)深く(根源的に)考えることの意味と意義とを理解する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 哲学の根本問題について考えてみる。(2) 哲学の対象と方法とにかんする基礎的な理解を得る。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：初回授業時に指示する。</p> <p>●教員連絡先 0836-88-4521 kisin@ed.yama.tus.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教員	脇條靖弘				
<p>●授業概要 この授業では、現代論理学の初歩を学習します。論理学において、われわれは、自分が正しいと考える判断をどのようにして擁護すればよいか、あるいは、自分が間違っていると考える判断をどのように批判すればよいかを学ぶことができます。そして、このことは、当然ながら、どの学問分野においてもとても重要なことです。</p> <p>●授業一般目標 現代の論理学で用いられる代表的な記号の意味、命題論理の基本を理解すること。さらに、できればより一般的な演繹の方法としての量理化理論まで進みたいと考えています。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験による。</p> <p>●教員連絡先 人文科学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	杉尾玄有				
<p>●授業概要 宇宙時代の倫理を既成の倫理学でまかなうことはできない。しかし宇宙時代以前に大いなる宇宙倫理を生きた——幸いにもそんな先人が何人か見つかる。ゲーテしかり、宮沢賢治しかり、道元しかり。あるいは、「おのれを愛するごとく隣人を愛せよ、それからでなくちゃ、どうにもこうにもなりやしない」と説いた太宰治もしかりといえようか。</p> <p>ゲーテ・賢治・道元・太宰らの先人は、相互に共通点をもちながらも、強烈にそれぞれ独自の倫理を生きた。4人は倫理学者ではないが、それぞれ倫理的英雄である。諸君もまた独自の倫理を築こうとするなら、この4人の英雄の誰かと倫理的に格闘してみてもどうか？</p> <p>●授業一般目標 上記の英雄4人中の(2人以上と取り組むのは半期の授業では無理だから)1人と受講生銘々が倫理的格闘を演じた末に、自身の倫理をかちとること——それがこの倫理学授業の眼目である。倫理的英雄1人と格闘する——そのつもりで勇んで受講したものの、途中で早くも格闘から降りる人もいとすれば、受講生は2群に分かれるだろう。あくまで倫理的格闘を継続する人々(A群)と、そうした格闘から降りた人々(B群)。B群はA群の格闘を漫然と見物するだけの存在ではない。この授業の終盤で催されるシンポジウムにおいて、B群のメンバーも登壇してA群のチャンピオンと白熱の論戦を交わすだろう。A群が英雄1人と格闘するあいだに、B群は4人の英雄について満遍なく知識を蓄えることもできよう。A群の格闘体験は、B群が蓄えた知識によって試される。勝敗の行方は、予断を許すまい。まさにこれは人類史上空前の大倫理学実験にほかならない。</p> <p>●成績評価方法(総合) A群学生の築きつつある倫理観のレポート類は、平素からこの授業の教材としても使われる。最後までA群に留まって自身の倫理を築き得た学生(受講者全員の10%くらい?)は、期末試験を免除される。積極的にシンポジウムに参加したB群学生についても、期末試験を免除されることがあり得よう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『ファウスト』第二部,ゲーテ(池内訳),集英社文庫(¥980),2004年;『ゲーテ・賢治・太宰・道元』(資料集),杉尾玄有,私家版(¥1500程度),2005年</p> <p>●メッセージ ゲーテの『ファウスト』は手塚治虫の漫画にもなったが、じつは“読まれない名作”の典型ではないか。ゲーテと賢治、賢治と道元の関係が学問的に取り上げられるのは、この講義が世界最初といってよい。太宰『右大臣実朝』の倫理思想にも注目するが、実朝から道元への流れもまた、大半の研究者や道元ファンにとって未知の問題である。ゲーテも賢治も大の演劇ファンであった。山口市は日本唯一、鷲流狂言(さざりゅうきょうげん)の伝承地であって、山大にも狂言クラブを造るべきです。志願者はいませんか。</p> <p>●教員連絡先 非常勤講師控え室(火曜日7・8の講義終了後、約1~2時間程度)</p>					

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	古荘真敬				
<p>●授業概要 「倫理」とは何なのか。「道徳的な善悪」とはいったい何なのか。各人の「幸福」の追求と「倫理」とは、そもそも調和するものなのだろうか。「倫理」をめぐるこうした問いのうちには、私たち各人が「自由」であることの中に潜む特有の〈不安〉が顔を覗かせている。その〈不安〉と今一度、冷静に向き合ってみよう。そして、私たち各人の魂の〈救済〉について考えてみよう。</p> <p>●授業一般目標 「倫理」「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの日常的理解の根本前提をあらためて問いなおし、人間として生き、死に逝く私たち自身の在り方についての理解を掘り下げる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポートと期末レポートで評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:教科書は特にありません。参考書を、随時、紹介します。/参考書:『倫理とは何か-猫のインジヒトの挑戦-』,永井均,産業図書,2003年</p> <p>●メッセージ 履修希望者が150名を超えた場合は、初回の授業時間中にレポートを書いてもらい、その成績で履修者を決定します。したがって、初回には必ず出席してください。</p> <p>●教員連絡先 furusho@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	谷田憲俊				
<p>●授業概要 医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では生命倫理・医療倫理に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p>●授業一般目標 生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席点 40%、レポート点 40%、試験結果 20%</p> <p>●教科書・参考書 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPoint ファイルとして予め学生に e メールで送付することができる。</p> <p>●メッセージ PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいため、大学のアドレス以外には送れない。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので、試験前になってから得ることはできないので留意すること。</p> <p>●教員連絡先 tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	村瀬 ひろみ				
<p>●授業概要 近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化があります。また、病気の種類や治療に対する考え方も変化してきました。従来の「おまかせ医療」では、解決できない問題が出てきています。本授業では、脳死・臓器移植や、高度生殖医療などの最先端技術について倫理問題としての側面からアプローチします。医療者としてではなく、一般の医療サービスを受ける人としての立場から、技術内容、問題点を理解できるようにします。(もちろん、医療関係者の卵の方も大歓迎です)。</p> <p>●授業一般目標 近年、激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになってきました。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」です。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養うことを目的とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 基本的に、ペーパー試験のみとする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義中に指示。プリントも使用予定。／参考書：医療倫理 I・II, グレゴリー・E・ペンズ, みすず書房, 2000年；毎回、参考書を指示する。</p> <p>●メッセージ 意欲的な取り組みを期待しています。</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	木部和昭				
<p>●授業概要 ●テーマ：近代山口県産業史 本講義では、近代（明治～昭和戦前期）における山口県の諸産業の歴史について取り扱う。明治維新以後、日本が国を挙げて殖産興業政策を推し進め、産業革命を達成するなど近代化・工業化に成功したことは周知の事実である。では、明治維新発祥の地の一つである長州、すなわち山口県地域においては、それはどのような形で進行していったのであろうか。本講義では、江戸時代以来の在来産業から、洋式技術導入によって成立した近代工業までを視野に入れつつ、近代化・工業化が地域経済に及ぼした影響について言及し、あわせて山口県産業・工業の現状を規定する歴史的要因に関しても考察を加えてみたい。</p> <p>●授業一般目標 ・近代における日本史の流れを復習しつつ、より踏み込んだ大学レベルの日本史について学ぶ。 ・山口という地域に対する理解を深める。 ・歴史が現在の我々の生活と深く関わっている事を認識させる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度のレポートを課す。期末試験 65 %、小レポート 20 %、出席 15 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。資料プリントを毎回配布する。／参考書：参考文献については、講義の中で適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ 山口県の土地勘のない人は、適当な山口県地図などを入手した方が、講義を理解する上で役立つと思われる(特に1年生)。</p> <p>●教員連絡先 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	馬彪				
<p>●授業概要 本講義は、中国伝統文化史の面より前近代の東洋史を紹介するものである。その内容は中国人の担当教員として、日本人の大学生によく聞かれる「漢字」「黄河」「兵馬俑」「故宮」「孔子」「廿四史」「天子」などに関する質問に答えるように設けた。それは中国における人間文化・空間文化・時間文化のような担当教員の独創的なわく組みとする授業である。</p> <p>●授業一般目標 近年の中国における大きな社会変化は、21世紀の中国が人類の歴史に巨大な影響を与えるということを次第にはっきりと世の人に知らしめるようになった。「一衣帯水」の隣国である日本の大学生としては、その専門を問わず、中国文化を知る必要があるといえよう。この必要に応じるため、簡潔かつ分かりやすく悠久の歴史をもつ中国文化を教えることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に出席(30%)と試験(70%)で行う。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	滝野正二郎				
<p>●授業概要 前近代の東アジア世界を律する秩序であった冊封体制を理解し、「中世」におけるその変質と、近代における西洋出自の世界システムとの齟齬、それへの併呑に言及する。</p> <p>●授業一般目標 東アジア世界伝統の秩序体系を理解することによって、現代の国家観・国際体系を相対化する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験によって評価する。出席は欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。授業中に適宜プリントを配付する。／参考書：中国古代国家と東アジア世界、西嶋定生、東京大学出版会、1983年；中国と古代東アジア世界、堀敏一、岩波書店、1993年；隋唐の国際秩序と東アジア、金子修一、名著刊行会、2001年；アジアの中の日本史1～6,、荒野・石井・村井編、東京大学出版会、1992年；朝貢システムと近代アジア、濱下武志、岩波書店、1997年；アジア工業圏と日本工業化1500-1900、濱下・川勝編、リプロポート、1991年 近世日本と東アジア、荒野泰典、東京大学出版会、1988 近代中国の国際的契機、濱下武志、東京大学出版会、1990 アジアから考える [2] 地域システム、溝口・浜下・平石・宮嶋編、東京大学出版会、1993 アジアから考える [3] 周縁からの歴史、溝口・浜下・平石・宮嶋編、東京大学出版会、1994 日本の中世 9 モンゴル襲来の衝撃、佐伯弘次、中央公論新社、2003</p> <p>●メッセージ 第一回目授業の受講者が200人を超過した場合は抽選によって受講を制限する。</p> <p>●教員連絡先 研究室:人文学部 517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー月曜 9/10 時限</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	大林洋五				
<p>●授業概要 中国近・現代史(19世紀半ばから20世紀末まで)に限定して講義する。中国の半植民地化の進行と、それからの脱却をめざした中国民衆の苦闘をあとづける。</p> <p>●授業一般目標 事実の羅列(「…があった」「…がおこった」)ではなく、「なぜ、そうなったのか」「それは何をもたらしたか」、つまり原因と結果を考える。とくに、日本との関係を重視して考察・理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(小論文)を行なう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない／参考書：世界史年表(簡単なものでもよい)を用意してほしい</p> <p>●メッセージ 講義中、講義後の質問歓迎。ノートを取ることで、大林の話聞いて、そのロジックを理解し、疑問をもつようにしてほしい</p> <p>●教員連絡先 083-924-9638(自宅)ファックスによる質問歓迎</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	藤永康政				
<p>●授業概要 歴史学は暗記の術ではなく、解釈の学問である。この授業では、1960年代後半よりアメリカ史の叙述の中心のひとつになってきた、アメリカ黒人の通史を概観する。最初に新大陸にアフリカ人が住み始めてから、現代までの概史を取り扱う。</p> <p>●授業一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中の質問、意見、等々の発言をもっとも高く評価する。期末にレポートの提出を課す</p> <p>●メッセージ 質問などがあれば気軽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 11・12 時限
担当教員	中園眞人				
<p>●授業概要 西洋の都市形成史について、古代から近代の産業革命による工業都市形成までを対象に講義する。また近代の建築家等によるコミュニティ計画の提案と実践事例について解説する。具体的には、古代都市(エジプト・ギリシャ・ローマ)・中世都市(イギリス・ヨーロッパ大陸)・初期資本主義時代の都市(イタリア・イギリス・フランス)・イギリスの工業都市形成・工業化社会におけるコミュニティ計画の系譜について解説する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 古代都市の成立過程を生産・社会組織と関連付けて理解する。(2) 中世都市の興亡を封建制度・ローマ教会による支配と関連付けて理解する。(3) 資本主義と産業革命による近代工業都市形成と古典的都市問題について理解する。(4) 近代における都市計画思想・コミュニティ計画の系譜について基本的理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験)90%、宿題・授業外レポート10%の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 都市形成の歴史,アーサー, 鹿島出版会; 明日の田園都市, E. ハワード, 鹿島出版会; コミュニティ計画の系譜, 佐々木宏, 鹿島出版会; 西洋建築史図集, 日本建築学会; 毎回講義資料(プリント)を配布する</p> <p>●メッセージ 建築・都市に関心を持つ学生の受講を希望する。</p> <p>●教員連絡先 nakazono@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 宗教学

科目類型 総説

開設科目	宗教学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	岡村康夫				
<p>●授業概要 世界の宗教、主に世界三大宗教の歴史およびその教えについて学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 世界の宗教、特に仏教、キリスト教、イスラーム教について紹介し、宗教学的観点から「宗教とは何か」を学ぶ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回の授業についての理解度を見るレポートと最終試験によって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：世界の宗教, 村上重良, 岩波書店, 2000 年</p>					

系列 人文科学

分野 心理学

科目類型 総説

開設科目	心理学(青年期の臨床心理学)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	大石英史				
<p>●授業概要 心理学の中の特に関心から青年期までの発達心理学及び青年期の臨床心理学に焦点を当て、講義を行う。</p> <p>●授業一般目標 具体的な事例を通して、人間の成長と発達に必要なかわりと青年期不適応の心の理解がある程度できるようになることが、この授業の目標である。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学(日々の行動を科学する)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限
担当教員	福田廣				
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	恒吉徹三				
<p>●授業概要 ここを理解するための学問である心理学の諸領域の中から、いくつかのトピックスを取り上げて講義します。そのうえで、精神分析学の分野からの心へのアプローチについても一部ふれます。</p> <p>●授業一般目標 心理学について基礎的な理解を得ることを主な目標とします。さらに、精神分析学の立場からのこのころのとらえ方の基礎的事項について理解することを目標とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は、小テスト(30点)及び期末試験(70点)で評価します。講義実施回数の3分の2以上の出席をもって期末試験の受験資格とします。10分以上の遅刻は理由を問わず入室を一切認めません。私語など講義の進行の妨げとなるような行為があつて3回の注意を行った場合を欠格条件とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: はじめて出会う心理学, 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦, 有斐閣, 2000年 / 参考書: フロイト入門, 妙木浩之, ちくま新書, 2000年; 精神分析学からのこのころへのアプローチについて講義では十分にふれることができないので, 参考図書をあけておきます。より詳しく学びたい人には, 「フロイト 著作集」(人文書院), 「フロイト 選集」(日本教文社) など精神分析の創始者フロイトの著作を読むことをおすすめします。</p> <p>●メッセージ 100名を超える場合は, 初回の講義で抽選を行うので必ず本人が出席すること。抽選終了後にはいかなる理由であっても追加受講は一切認めないので留意すること。自らのこのころについても日常生活の中で振り返ってみてほしい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	堂野佐俊				
<p>●授業概要 心理学を「行動の科学」と捉え、人間の行動の原理とメカニズムを科学的方法論に立脚した具体的な研究とデータに基づいて体系的に概説する。我々の日常生活の中で体験する広範囲の興味深い心理現象について、できるだけ実証的な資料等を取り入れながら解明し、人間としての疑問や心の原理の不思議について理解する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 感覚・知覚や学習理論など、人間の行動の基礎について明らかにする。(2) 個性や性格など、人間のパーソナリティの構造や個人差について理解を深める。(3) 集団の中で生活する上で必要なソーシャル・スキルや複雑な人間関係の中で適応的に生きることの意義など、社会生活と適応の理論について考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 2回のレポートをすべて提出し、レポート及び期末試験において、適切な記述ができていることが評価される。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：原岡一馬(編)「心理学概論」, 堂野佐俊・他, ナカニシヤ出版, 1986年 / 参考書：その都度指示します。</p> <p>●メッセージ 日常生活において馴染みの多い体験的な心理現象についてのテーマもあると考えるので、積極的に興味・関心をもって取り組みましょう。</p> <p>●教員連絡先 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30~12:00)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	清 俊夫				
<p>●授業概要 ある人の行動を理解しようとする場合、その人の客観的な人柄と、その行動が起こった時の客観的な環境が理解できれば、おのずからその行動が理解できるというものではない。客観的な人柄や環境と並んで、その人が環境や自らをどう認知していたかが重要な要因となる。加えて、青年期後期にある皆さんには、自分を知り、自分を確立していくことが重要な課題である。そのことによって初めて、私たちは安定し、自分の目標を持って生き生きと生活できるからである。この授業は、他者の理解や援助、自己の理解や形成の基礎となる心理学の基礎知識やを学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 私たちの知(知覚, 学習, 思考など)、情(感情, 動機付け, 態度など)、人柄(パーソナリティと自己)について、心理学がこれまで明らかにしてきたものを理解し、加えて自らを振り返り、理解し、自分の人生の目標を少しでも明確にすることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：心理学, 岡堂哲雄, 金子書房, 1985年</p> <p>●教員連絡先 seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone:(0836)22-2802 office hour:随時(授業・会議等のないときはいつでも)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学(子どもを科学する)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教員	白石敏行				
<p>●授業概要 心理学とはどのような学問であるのかを概説する。</p> <p>●授業一般目標 心理学に関する基礎的事項について理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、授業への参加、および学期末のテストをもとに総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ 人数制限(上限100名程度)を設けますので、初回には必ず出席してください。特別な理由がない限り、初回の欠席者の履修は認めません。子どもの心理発達に関心のある方の受講を望みます。</p> <p>●教員連絡先 連絡先:933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部4階 白石研究室(404室) オフィスアワー:随時</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本文学(テキストと構造(話型))	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教員	平野芳信				
<p>●授業概要 学生諸君は小説や映画(あるいは漫画、テレビドラマ)なども読んだり観たりしていて、この話どこかでみたこと(きいたこと)があると思ったことはないだろうか。それは二つあるいは三つ以上の作品の間に、共通する構造(ストラクチュア)があるためなのだ。今回は現代作家、村上春樹を中心に《最初の夫の死ぬ物語》とでもいうべき、一連のテキスト群の偶然とは思えぬ類縁関係について考察し、芸術にとって独創性とはいったい何であるかという難問(アポリア)に迫りたい。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『村上春樹と《最初の夫の死ぬ物語》』,平野芳信,翰林書房,2001年;適宜、以下に示す作品を事前に読んでおくこと。村上春樹『風の歌を聴け』『螢』『ノルウェイの森』、紡木たく『ホットロード』、高橋留美子『めぞん一刻』、あだち充『タッチ』、夏目漱石『こゝろ』、岩井俊二『ラヴレター』</p> <p>●教員連絡先 連絡先 個人研究室 933-5262 自宅 924-8419 メールアドレス y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー 水曜4時~6時(個人研究室は人文棟5階です。事前にメール等で連絡してください。)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	漢文(中国唐代の小説を読む)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	川口喜治				
<p>●授業概要 本授業では、漢文(中国古典語)で書かれた文献を精読する。</p> <p>●授業一般目標 本授業は、中国および周辺諸国の文化を理解するために、中国古典語(皆さんがこれまでに「漢文」として学習してきたことば)読解の基礎力を養成することを目標とする。なお周辺諸国と書いたのは、例えば日本において、中国古典語(日本化したもの)による文学や歴史などの資料が多く存在するからである。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験を実施する。漢文読解の基礎的知識と読解力に重点を置いて問題を作成する予定である。期末試験のみによる成績評価であるが、授業中に特筆すべき学習態度などが見られた場合は、適宜評価する(但し満点は100点)。なお出席が規定の回数に満たない者は、期末試験の受験を認めず、成績評価の対象としない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: プリントで配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ 漢文の文章は、極めて簡潔に、つまり使用する漢字をできる限り節約して書かれているのが特徴です。漢字、一字一字をおろそかにせず、読解に挑戦してみてください。</p>					

開設科目	言語学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	中野伸彦				
<p>●授業概要 現代日本語に見られるいくつかのきまりについて述べていく。音に関する問題・文法に関する問題を中心とする。</p> <p>●授業一般目標 (1) 現代日本語の持ついくつかのきまりについて理解する (2) 普段使っていることばに対して関心を持ち、主体的に考えることができる</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験による。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部 4 階</p>					

開設科目	芸術史(美術史)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	吉田貴富				
<p>●授業概要 【内容】造形表現を美術史的に概観する。必ずしも通史的な扱いはしない。美術史上の造形表現方法論を用いて簡単な制作(表現)をすることによって体験的な理解をはかる。【留意事項】楽しくかつ厳しく授業を進め、お互いが不快な思いをしないようにしようと思っています。高校までの美術の経験や知識は問いません。それよりも現時点での美術に関する興味・関心・意欲を求めます。遅刻をしないという基本的な生活習慣も必要です。受動的に講義を聴くだけではありません。こちらが提示する作品について「あなたの考え」を話してもらいます。簡単な表現も試みてもらいますし、その過程や結果について語ってもらうかもしれません。できるだけ対話的に進めて行こうと思っています。ほぼ毎回課題を出します。教室の容量に応じて受講者数を制限します(方法はくじ引き)。第2週からの受講はお断りします。初心者(?)向けの授業です。人文学部や教育学部で美術を専攻している方には物足りないと思います。したがって、人数制限をする場合には、まずその方からご遠慮いただきます。受講態度について具体的に指摘しなければ分からない学生が多いので、ここに一部記しておきます。飲食・私語・携帯電話は厳禁。教室内では原則として帽子は脱ぎなさい。遅れて教室に入る場合は静かに歩くこと。授業が始まってから教卓前(授業者と受講者の間)を通らないこと。眠かったり体調が優れなかったりして机に伏せなければいけないような状態ならば、欠席して自宅で寝て下さい(退出してもらいます)。課題等提出物は、所定の形式を守れない物は受け取りません。出席確認や課題提出に不正があった場合には、不正を依頼した側と依頼されて実行した側の双方の受講資格と受験資格が失われます。</p> <p>●授業一般目標 造形表現を美術史的に理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 一応、下記のような評価方法を考えているが、授業の状況に応じて変更もあり得る。授業は生き物である。変更も含めて、最終的な評価の割合については、最終回の授業で説明する。遅刻は10分までは認める。それ以降の入室はお断りする(=欠席)。欠席は理由を問わず3回までは認める。4回以上欠席すると受験資格を失う。出席状況は「欠格条件」でもあるが、当然のことながら「授業態度・授業参加度」としても勘案する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『図説 名画の歴史』,西岡文彦,河出書房新社,2001年; 定価1890円/ 参考書: 必要に応じて授業の中で適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 ■研究室:教育学部南棟2階 ■電話&FAX:083-933-5372 ■E-mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術実践(美術)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	吉賀将夫、中野良寿				
<p>●授業概要 美術の分野の中で、絵画、陶芸の制作と、美術鑑賞をとおして、美術分野の一端を理解する。絵画の分野では描写や彩色の実技をとおして絵画表現の手法を習得する。陶芸の分野では成形、焼成を行い陶芸制作の過程を習得する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 絵画の分野では描写や彩色の実技をとおして絵画表現の手法を習得する。(2) 陶芸の分野では成形、焼成を行い陶芸制作の過程を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業態度、授業への参加度 30% (2) 受講者の制作作品 30% (3) 出席 40%</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

前期一社会科学系列

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	法学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	平中貫一				
<p>●授業概要 法学の基礎として民法を学ぶ。 ●授業一般目標 民法の基礎的知識の修得 ●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	法学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	理	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	立山紘毅				

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	柳井健一				

●授業概要 日本国憲法が拠ってたつところの基本的な考え方、そのもとで人権がどのように保障され、また 統治のための仕組みがどういったかたちで存在しているかについて知ることを通じて、実際に国家・社会がどのような問題に直面しているか、それらの問題にわれわれはどう対処したらよいのか等について考えてもらいたいと思います。その際に強調しておきたいのは「憲法に基づいて考える」という作業が重要であるということです。

●授業一般目標 憲法が保障が保障する権利と統治=政治の仕組みについて理解し、日本国憲法の全体像とその拠って立つ考え方を修得する。

●成績評価方法 (総合) 基本的に試験に基づいて評価しますが、出席状況、課題等を加味します。

●教科書・参考書 教科書：最初の授業の際に指示します。／参考書：最初の授業の際に指示します。

●教員連絡先 kyanai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教員	上杉信敬				
<p>●授業概要 国の基本法である日本国憲法の内容について考えていく。その際、国民主権、基本的人権の保障、権力分立、平和主義、などの主要原則について考えていく。そして、国民が主権者であることを基本として大切なことを理解していく。その際、憲法の問題は、政治と法の双方がかかわることに注意していく。</p> <p>●授業一般目標 最高法規について重要なことを理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 小テスト/授業内レポート = 20%未満 宿題/授業外レポート = 20%未満 出席 = 20%未満</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 開講時に指示する。/ 参考書: 開講時に指示する。</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	学教	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教員	松原 幸恵				
<p>●授業概要 国の根本法である憲法の歴史的意義をおさえた上で、日本国憲法の構造とそれを取りまく憲法状況について考察する。</p> <p>●授業一般目標 日本国憲法の意義と仕組みについて理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 授業において適宜紹介する。</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	石 龍潭				
<p>●授業概要 本講では、近代立憲主義の基本原則及び日本国憲法の保障する基本的人権の内容を理解することを目的とする。現在国会の憲法調査会を中心に“改憲”論争がなされていることから分かるように、日本国憲法は多方面から検討が加えられている。学生諸君には主体的な認識と解釈を形成してもらいたいが、その素材を幅広く、具体的に提供したいと考えている。</p> <p>●授業一般目標 日常生活のいたるところに憲法問題が潜んでいることを知り、そうした問題に対して憲法の基本的知識を活用してひととおりの説明が出来るようになることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 論述試験70%、小テスト20%、出席10%で、総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：追って指示する。小六法を持参のうえで履修のこと。／参考書：開講時に指示する。</p> <p>●メッセージ 日頃から新聞の政治欄・国際欄に興味を持ってもらいたい。</p>					

開設科目	政治学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	渡辺 幹雄				
<p>●授業概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学(国際関係を含む)のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。</p> <p>●授業一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念(キーワード)の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：とくに指定しない。／参考書：講義中に適宜指示する。</p> <p>●メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。</p> <p>●教員連絡先 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	経済学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	山田正雄				
<p>●授業概要 経済を理解する上で必要と思われる基礎的な理論について講義します。</p> <p>●授業一般目標 国内総生産や利子率がどのように決定され、どのような性質を持っているのかを理解することを目標とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験と出席で判定する。出席は加点要素とし最大10点加点する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：マクロ経済学Ⅰ 入門篇, グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社；入門マクロ経済学, 中谷巖, 日本評論社</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	鍋山祥子				
<p>●授業概要 人間は社会的動物である。この世に生まれ落ちた瞬間、いやそれ以前より、私たちは「関係性」の中で生きている。「わたくし個人」という存在は「自分ひとり」のことを指すようでもあり、しかしその個人を存在せしめているものは「関係性」以外の何ものでもない。この関係性を基本的な視点として、講義では毎回異なる身近なテーマを設定する。私たちがこれまで「当たり前」のこととして受け容れてきた事象を社会学的に考察すると、そこにはどのような意味世界が広がっているのだろうか。テーマは、社会学とは何か・自分とは何か・家族とは何か・ジェンダーとは何か・労働とは何か・恋愛とは何か・共依存(依存症)とは何か・感情とは何か・消費とは何か・高齢社会とは何か他である。</p> <p>●授業一般目標 日常生活場面を社会学的に考察することを通じて、「自分」というものがいかに環境によって定義されており、また「常識」だと思わされてきたものがいかに「可変的」なものであるのかということに意識的になることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート 30%・定期試験 70%とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は用いず、テーマの理解を深めるために必要なデータ・資料については、プリントを配付する。／参考書：テーマの理解を深めるための参考文献については、授業中適宜提示する。</p> <p>●メッセージ 講義内容を自分の生活に結びつけて思考する想像力が不可欠です。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	高橋征仁				
<p>●授業概要 学校教育を広めれば、人々の生活水準が向上し、個々人の幸福と社会全体の進歩が実現すると素朴に信じられていた時代があった。他方、現在では、教育改革によって、人々の個性や創造性が発揮され、社会に活気が生まれると考えられている。このように、近代以降の社会では、とかく学校教育に過剰な期待が寄せられてきた。しかし、そうした期待の一方で、学校教育そのものが無気力やあきらめを培養しているというパラドクスも、極めて日常的にみられるようになってきている。学校教育をめぐる言説は、しばしば善意とイデオロギーに覆われ、その真偽を問われないことが多い。この授業では、そうした教育言説を、現実主義的な観点から解体していく作業を通じて、社会学の問題関心やアプローチについて学んでいく。</p> <p>●授業一般目標 ・自分のこれまでの学校生活を、階層や文化、時代の異なった人の視点から相対化して捉える。 ・教育に付きまとう「べきである」論を一旦保留し、丹念に事実を探求し、その結果に基づいて、分析し、議論する態度を身に付ける。 ・学校教育のあり方を、近代社会というマクロな観点とのかかわりから考察する視点を持つ。 ・日常生活を「あたりまえ」のこととして片付けるのではなく、様々な人間の営みや制度、システムなどの観点から複眼的に再構成していく思考様式を身に付ける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教育改革の幻想， 荻谷剛彦，ちくま新書，2002 年／参考書：大衆教育社会のゆくえ， 荻谷剛彦，中公新書，1995 年；立志・苦学・出世，竹内洋，講談社現代新書，1991 年；不平等社会日本，佐藤俊樹，中公新書，2000 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	辻 正二				
<p>●授業概要 現代の社会を理解するために社会学の基本的考え方を身につけるために、社会学の基本的な理論と現代社会が抱える諸問題を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 (1) 社会学の基本的な考え方を身につける (2) 社会学の理論や概念について学び、それを使って社会現象を説明・理解できるようにする</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料を使いながら講義します。教科書は使いませんが、紹介する書物の1冊は自分で購入し、読んでください。／参考書：M・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」(岩波文庫) E・デュルケム『自殺論』(中央公論文庫) G・ジンメル『社会学』(上・下)(白水社) R・K・マートン『社会理論と社会構造』(みすず書房) ミルズ『社会学的想像力』(紀伊國屋書房) C. H. クーリー『社会組織論』(青木書店) F. テンニース『ゲマインシャフトとゼーレンシャフト』(岩波文庫) マッキーバー『コミュニティ』(ミネルヴァ書房) 高田保馬『社会学概論』(岩波書店)</p> <p>●メッセージ 新聞を読む習慣をつけてください。そして、なぜそういう現象が起きたかを考える習慣も身につけてください。</p> <p>●教員連絡先 人文学部辻研究室(309室)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	貞方昇				
<p>●授業概要 古地図を通して世界像の変遷とその背景にあるものを探る。人類は自分たちの世界をどのように把握、理解し、広げてきたのだろうか。大航海時代をメインにして、各種古地図を活用しながら、時代を追って考察したい。そして私たち日本人の持つ世界像とはどのような性格を持つものか、他民族のそれと相対化しながら明らかにすることを目的とする。今日の世界各地に生起する諸問題の理解に役立てば幸いである。</p> <p>●授業一般目標 私たち日本人の持つ世界像がどのような歴史的経過を辿って形成されてきたものかを理解する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適時配布するプリントを主な教材とする。／参考書：地図の歴史－世界篇，織田武雄，講談社現代新書，1974年；地図の歴史－日本篇，織田武雄，講談社現代新書，1974年；大航海時代－旅と発見の二世紀，ボイス・ペンローズ，筑摩書房，1985年；地図に見る日本，海野一隆，大修館書店，1999年；近世日本の世界像，川村博忠，ペリカン社，2003年</p> <p>●教員連絡先 sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00～13:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	Mikhova, Dimitrina				
<p>●授業概要 THIS COURSE IS TAUGHT IN ENGLISH. It focuses on Human Geography. Starts with the origins of humanity and its diffusion over the earth. Discusses agriculture and the emergence of civilizations. Special attention is given to Europe and the rise of today's global culture. The current global geography is discussed, considering some of the problems associated with it. Finally, landscapes around the world are examined, using the cultural-historical approach.</p> <p>●授業一般目標 To learn to understand the processes that create the current human mozaic around the world.</p> <p>●成績評価方法(総合) Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % (Oral presentation is possible only if the number of students in a class is no more than 40). Final test: 60 %. (If oral presentation is not possible, the final test will make 90 % of the total score).</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Study materials will be deposited online, accessible with the respective password. http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	民俗学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教員	湯川洋司				
<p>●授業概要 民俗学とはどのような学問であり、何を追求しようとしているのか、山口県の民俗の具体例を取り上げて考えます。山口県内出身の人も、そうでない人も初めて知るような内容が多いと思います。この授業で山口県の暮らしの歴史や民俗を知ることにより、山口での暮らしを豊かすることができるならば、幸いです。</p> <p>●授業一般目標 1. どのようなものを民俗と言い、それはどのような性質をもっているのかを理解する。 2. 民俗とはどのようなことを考えようとする学問なのかを理解する。 3. 民俗と自分との関係について考えてみる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 毎回の授業終了後に、その授業内容に関して提出したコメントの内容評価(全体の30%) 2. 随時に課す授業外レポートの内容評価(全体の30%) 3. 期末試験の評価(全体の40%) 4. 欠席は欠格条項(全体の75%以上の出席がないと期末試験受験資格がありません)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 用いない。必要な資料はプリントして配付する。/ 参考書: 参考書は、授業中に随時紹介します。</p> <p>●メッセージ 本州西端の山口県は、北浦(日本海)と瀬戸内(周防灘)、中国地方と九州地方、など、多様な民俗が見られます。授業で学んで実際に現地へ出かけて確認するという楽しみも生れるでしょう。</p> <p>●教員連絡先 yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室 オフィスアワー: 原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください</p>					

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教員	北西功一				
<p>●授業概要 文化人類学の基本概念である文化相対主義を具体例を交えながら学ぶ。具体例として取り上げるのは、アフリカ熱帯雨林地域に居住する狩猟採集民アカである。彼らの生業活動、社会組織、結婚、自然観など社会・文化全般にわたって説明する。</p> <p>●授業一般目標 文化相対主義的な考え方で異文化を見ることができるようになる。また、社会においてさまざまな部分が相互に関係を持っていることを理解する。アフリカの人々に対する認識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末レポートと毎回課す宿題の小レポートをあわせて評価する。特別な理由もなく5回以上欠席した学生は失格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 授業ではプリントを用いる。http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kitanisi/culture04/preface.htmlが教科書となっている。/ 参考書: ヒトの自然誌, 田中二郎・掛谷誠, 平凡社, 1991年; 自然社会の人類学, 伊谷純一郎・田中二郎, アカデミア出版会, 1986年; 講座生態人類学2 森と人の共存世界, 市川光雄・佐藤弘明, 京都大学学術出版会, 2001年; 平等と不平等をめぐる人類学的研究, 寺嶋秀明, ナカニシヤ出版, 2004年</p> <p>●教員連絡先 kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 266号室 オフィスアワー 随時</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	荘司泰弘				
<p>●授業概要 人間にとって教育とは何かを概説し、教育の目的、教育の方法、教育の内容を歴史的にたどり、これからの教育はどのように展開するかを紹介する。</p> <p>●授業一般目標 人間教育観、労作教育観、宗教教育観、平和教育観などの教育観の基礎を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席・授業への参加をもとに総合的に判断する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●メッセージ 三分の二以上出席すること。</p> <p>●教員連絡先 荘司：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5443 研究室 406 OH 火 12時～15時</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	吉田香奈				
<p>●授業概要 今日、生涯学習時代を迎え、学校中心の教育体系からの脱皮と生涯学習体系の構築が強く求められている。このような時代背景を踏まえ、本授業では、生涯学習とは何かについて基本的な事項を説明し、併せて生涯学習の観点から学校教育にスポットをあて、その基本的なあり方について概説する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 生涯学習の基本的な事項について理解するとともに、教育の各領域の概要と課題を説明できる。(2) 教育問題について関心を持ち、主体的に考えることができる</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の最後に授業内レポートを毎回提出する、(2) 関心のある教育問題についてレポートを1600字程度で作成して提出する、(3) 最後に試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規, 田代直人編, ミネルヴァ書房, 2003年; 教科書は必ず購入すること / 参考書：参考図書は授業中に紹介する</p> <p>●教員連絡先 ykana@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟 2階 オフィスアワー火曜日 13:00～16:00</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気2年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(医学・工・獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	永崎研宣				
<p>●授業概要 リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な理由もまた含んだものであり、しばしばそうしたものが複雑にからみあっている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p> <p>●授業一般目標 講義における様々な事例の検討を通じて、倫理的問題に対して用意されている様々な基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：齋藤了文編『はじめての工学倫理』昭和堂</p> <p>●メッセージ 混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p> <p>●教員連絡先 nagasaki@ypu.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ベンチャービジネス論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経・医学・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	稲葉和也				

●**授業概要** ベンチャー企業とは「リスクを恐れず新しい領域に挑戦する若い企業」のことを指します。従来 の新規開業企業と異なるのは、高い志や目標を持ち、起業家自身が高度な専門能力と困難に耐え 抜く忍耐力を持ち、創造的かつ才能のある人を集める事業を創業し、高収益で高成長する企業を 作り出すという点にあります。バブルが崩壊した後、グローバル化が進展し、情報ネットワーク 化の本格的な展開によって産業構造が変わり、新しい競争の段階を迎えています。このようなベンチャー企業に対する存立条件をどのように活用して、新しいビジネスチャンスを創出していけばよいのでしょうか。日本経済が元気を取り戻すためには、国内・国外を問わず通用する高付加 価値商品を生み出し、グローバルに新市場の開拓を図ることが必要とされます。独創性・多様性・柔軟性・即応性に富んだ、旺盛な起業家精神を持つ人材を生み出す、多くのベンチャー企業 が生まれることが期待されます。

●**授業一般目標** 日本企業では経営者的能力を持った人材が不足しています。企業が多角化、リストラをはかり、これまで経験したことのない新分野に出て行く時に求められるのはリーダーとしての経営能力です。この講義では経営者的人材の育成を目標としています。

●**成績評価方法(総合)** 受講生の理解度、意欲を高めるために事業計画の提出、レポートを課すことがあります。試験の結果、及び出席状況、レポートを加味して評価します。

●**教科書・参考書** 教科書：『ベンチャー企業』日経文庫 843, 松田修一, 日本経済新聞社, 2001 年

●**メッセージ** 何か分からないことがありましたら遠慮なく聞きに来てください。

●**教員連絡先** E-mail: inaba@tokuyama-u.ac.jp

●**備考** 工学部 JABEE 対応科目

前期一 自然科学系列

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・医学	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	増本誠				
<p>●授業概要 高等学校「数学 III」で扱われる単元のうち、関数、数列と関数の極限、微分法について講述する。</p> <p>●授業一般目標 極限と微分概念を直感的に理解し、これらについて高等学校「数学 III」程度の計算力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験の結果により評価する。小テストの得点は、評価には加えない。ただし、小テストを2回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。授業中に印刷して配布するが、山口大学ホームページのトップ→附属施設・センターのページ→大学教育センター、からリンクを張られる予定であるが、これを書いている時点ではまだ張られていない。／参考書：高等学校「数学 III」の教科書・参考書・問題集はどれも参考書になり得る。</p> <p>●メッセージ 高校でおよそ1学期かけて学ぶ内容を、3週間で履修する現実を直視すること。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館1階130号室 内線5660 E-mail: masumoto@yamaguchi-u.ac.jp (差出人の所属学部学科名・学年・氏名のうち、一つでも明記されていないメールは受理しない)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・医学	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	増本誠				
<p>●授業概要 高等学校「数学 III」で扱われる単元のうち、微分法の応用、積分法、積分法の応用について講述する。</p> <p>●授業一般目標 微分と積分概念を直感的に理解し、これらについて高等学校「数学 III」程度の計算力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験の結果により評価する。小テストの得点は、評価には加えない。ただし、小テストを2回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。授業中に印刷して配布するが、山口大学ホームページのトップ→附属施設・センターのページ→大学教育センター、からリンクを張られる予定であるが、これを書いている時点ではまだ張られていない。／参考書：高等学校「数学 III」の教科書・参考書・問題集はどれも参考書になり得る。</p> <p>●メッセージ 高校でおよそ1学期かけて学ぶ内容を、3週間で履修する現実を直視すること。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館1階130号室 内線5660 E-mail: masumoto@yamaguchi-u.ac.jp (差出人の所属学部学科名・学年・氏名のうち、一つでも明記されていないメールは受理しない)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	教・看護・検査・工	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	尼野 一夫				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学 III と数学 C を履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 数学入門2 とあわせて 3 回の試験 (中間試験と期末試験) を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップのページ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版、の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	教・看護・検査・工	単位	1 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	尼野 一夫				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学 III と数学 C を履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 数学入門1 とあわせて 3 回の試験 (中間試験と期末試験) を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版、の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日 13・14時限
担当教員	宮本政英				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数学入門2とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップのページ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版, の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	水曜日 9・10時限
担当教員	宮本政英				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数学入門1とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版, の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械 (1-60)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	久田見 守				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験・演習で評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年; 教科書の販売：文栄堂 (山口大学正門前) にて各自購入のこと。</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 研究室：理学部本館南棟 1 階 129 室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械 (61-)・電気 (1-35)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	飯寄信保				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: yanagi@yamaguchi-u.ac.jp 電話: 0836-85-9802 研究室: 工学部機械社建棟 1 階 オフィスアワー: 水木 13:00 - 14:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気 (36-)・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	柏木 孝夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる</p> <p>●授業一般目標 一変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年; 取扱店 (文栄堂山口大学前店) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>●メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。適宜演習の時間をもつ。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	加藤崇雄				
<p>●授業概要 理学部数理科学科の学生を対象に解析学を学ぶための基礎になる 1 変数の微分法をその計算法を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 極限, 連続関数, 1 変数の微分法などを理解し, それらの計算法に習熟することを目標とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>●教員連絡先 理学部 1 3 2 号室</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	自然 (1-80)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	三好 哲彦				
<p>●授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>●授業一般目標 一変数、多変数の関数の微分について学ぶ。初等関数の微分、合成関数の微分に習熟する。多変数関数の微分を学び、そのテイラー展開の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>●メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	自然 (81-)・化地	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	内藤博夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学、特に一変数関数の微分法と積分法を講義する。</p> <p>●授業一般目標 一変数微分積分学の基本的概念を理解し、その計算法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分公式、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの理解と習熟のもとに、様々な問題への数学的解決能力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間・期末 2 回の筆記試験 (60%) と 1 回のレポート及び宿題 (40%) により判定する。なお、出席が所定の回数 (初回時に注意) に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦, 加藤崇雄, 菊政勲, 共立出版, 2000 年</p> <p>●メッセージ 十分復習をすること。宿題は原則として毎回提示する。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 1 階 137 号 内線 5 6 5 6 E-mail: naitoh@yamaguchi-u.ac.jp (差出人が明確でないメールは受理しない)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教員	岩本 徳郎				
<p>●授業概要 1 変数の微分、積分法の講義、演習。</p> <p>●授業一般目標 1 変数の微積分について、基本的な概念を理解し、計算が確実にできること。将来専門科目で使うことを考えて、簡単な応用問題が解けること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験、授業時間内の小テストの総合評価。出席は欠格条件です。(所定の回数に達しないと、自動的に不合格)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：入門 微分積分, 水田 義弘, サイエンス社, 2000 年</p> <p>●メッセージ 時間外演習をがんばらないと、難しいです。</p> <p>●教員連絡先 E-mail:iwa0039@sea.plala.or.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	佐藤好久				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系の分野で基本となる数学である。微分積分学にはその根底に厳密な基礎理論があり、専門の微分積分学ではその基礎理論を論じながら講義をすることになる。この科目では、専門の微分積分学を学ぶための準備とその入門的な内容を解説するために、高等学校の微分積分学を復習しながら、微分積分の基本的な考え方を理解させる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできるように指導する。</p> <p>●授業一般目標 関数の概念を正しく理解し、極限や微分の基本的な考え方を説明することができる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできるように指導する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 2 人の教員がそれぞれ、50 点で成績評価し、その合計を全体の成績評価とします。授業中の小テスト (基本的に毎回実施します) や定期試験などにより、総合的に評価しますが、担当教員が最初の授業時に通知します。下記の成績評価方法 (観点別) は佐藤が担当したときのものです。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分と積分, 岡本和夫, 実教出版, 1998 年</p> <p>●教員連絡先 sato@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	柏木 孝夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験と講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年; 取扱店 (文栄堂山口大学前店) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>●メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	三好 哲彦				
<p>●授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>●授業一般目標 一変数、多変数の関数の微分について学ぶ。初等関数の微分、合成関数の微分に習熟する。多変数関数の微分を学び、そのテイラー展開の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための 微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>●メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能 (1-50)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	寿恵村 泰生				
<p>●授業概要 自然科学の基礎である微分積分学を講義する。特に工学系の学生は微分積分の知識は必修である。高校である程度、微積分について学習していると思うが、復習をかねて進める。もちろん 1 変数の微分積分から始めるが、大学での微積分の本命は 2 変数関数の微分積分にある。そのため高校で既に習っているからと気を抜かないで 1 変数の微分積分もしっかり身につけてほしい。2 変数の微分積分も 1 変数のそれが基礎になるわけだから。</p> <p>●授業一般目標 学生はとにかく学生は数学と言え、問題を解くことが主な目的のように考えているが、これも今までの受験数学の勉強方法が身に付いて仕方のない面もあるが、本来の数学の勉強方法は定義、定理の意味をしっかりと理解して自分のものにして先に進んでいくものであって問題を解くことは二の次である。この本来の数学の勉強の仕方を早く身につけてほしい。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 基本は定期試験、小テスト (1 回) レポート、出席状況も考慮する (無断欠席を 5 回以上すると不可)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 独自のプリントで進める。(今まで使用していたが、ぴったりしたものが無く、結局プリントになる) / 参考書: 参考書を見るのも悪いことではないが、本により進め方が異なり混乱することもある。</p> <p>●メッセージ あくまでも授業を理解することに専念してほしい。分からないときは質問する。</p> <p>●教員連絡先 非常勤控え室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能 (51-)・機材 (1-30)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	吉村浩				
<p>●授業概要 自然科学の基礎である微分・積分 (1 変数) を講義する。この数学 I での 1 変数の微分・積分に引き続き、後期の数学 II では多変数の微分・積分を講義する。</p> <p>●授業一般目標 微分・積分の厳密な理論の理解より、具体的な計算を通して基本的な概念や計算方法を習得することに重点をおく。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト、中間試験、期末試験の得点の合計で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者は欠格となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年</p> <p>●メッセージ 数学は、「講義の受けっぱなし」ではなかなか身につかない学問です。ともかく手を動かして数多くの計算問題を繰り返し解くことが肝要です。</p> <p>●教員連絡先 研究室: 理学部 1 階 1 4 3 号室 内線 (5 6 6 2)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材 (31-)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	小宮克弘				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 高校数学に引き続いて、1 変数関数の微分積分およびこれに関連した事項について講義する。 ●授業一般目標 工学部の学生にとって数学は工学を学ぶための道具である。1 変数関数の微分、積分に関して、その道具としての使い方に習熟することを目指す。 ●成績評価方法 (総合) 3 回行う試験の合計点が 60 点以上の者を合格とする。 ●教科書・参考書 教科書：微分積分通論, 内田・仲田, 裳華房, 1996 年；文栄堂書店で各自購入されたい。 ●教員連絡先 理学部 133 室 ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	尼野 一夫				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である一変数関数の微分、積分についてその概念の理解と計算方法を修得させる。 ●授業一般目標 一変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、微分法、積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。 ●成績評価方法 (総合) 3 回の試験 (中間試験と期末試験) を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。 ●教科書・参考書 教科書：石原 繁、浅野重初 共著「微分積分 (増補版)」裳華房 ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化 (1-57)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	大城紀代市				
<p>●授業概要 微分積分学は線形代数学とともにすべてのサイエンスの基礎学問であり、特に理工学系での必須の数学である。この講義では一変数の微分の定義、基本性質、更には様々な応用について講義する。</p> <p>●授業一般目標 1. 微分の基本的概念に精通し、通常関数の微分の計算法を習得する。微分の様々な応用に接し、応用力を養う。2. 最終的目標は、与えられた関数の微分を自分で工夫して求めることができる解決能力を養うこと。</p> <p>●メッセージ 十分復習すること</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 1 4 1 号室 E-mail: oshiro@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化 (58-)・社建 (1-25)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	栗山 憲				
<p>●授業概要 理工系の基礎となる微分積分学において、1 変数関数の微分と積分について講義し、その概念を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 1 変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の分野で生じる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 2 回の試験 (中間試験と期末試験) とレポート、および講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により以下の割合で総合的に判断する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 微分積分概論, 高橋泰、加藤幹雄, サイエンス社</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建 (26-)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	柳 研二郎				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: yanagi@yamaguchi-u.ac.jp 電話: 0836-85-9802 研究室: 工学部機械社建棟 1 階 オフィスアワー: 水木 13:00 - 14:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門 1』及び『数学入門 2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限 金曜日 9・10 時限
担当教員	増本誠				
<p>●授業概要 1 変数の微分積分学の, 高等学校「数学 III」よりも進んだ理論を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 微分積分学に現れる様々な概念や定理の意味を直観的に理解し, 専門課程で必要になる微分積分学の知識の基礎を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間試験と期末試験の結果により評価する。小テストの得点は, 評価には加えない。ただし, 小テストを 2 回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 理工系の数学入門コース 1 「微分積分」, 和達三樹, 岩波書店, 1988 年</p> <p>●メッセージ 自分で手と頭を動かさなければ身に付かないことを肝に銘ずること。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 1 階 130 号室 内線 5660 E-mail: masumoto@yamaguchi-u.ac.jp (差出人の所属学部 学科名・学年・氏名のうち, 一つでも明記されていないメールは受理しない。)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門1』及び『数学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限 水曜日 9・10 時限
担当教員	尼野 一夫				
<p>●授業概要 理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である一変数関数の微分、積分についてその概念の理解と計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 一変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、微分法、積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：学期始めに指定する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門1』及び『数学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限 水曜日 9・10 時限
担当教員	河野俊一				
<p>●授業概要 理工系の基礎となる微分積分学において、1変数関数の微分と積分について講義し、その概念を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 1変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の分野で生ずる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・定期試験(中間・期末試験)で70%、宿題・授業外レポートで15%、授業内の演習において15%の成績評価をする。なお、5回以上(5回も含む)欠席したものは、定期試験を受ける資格がない。すなわち、5回以上欠席したものは、本科目の単位は得られない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：理工系の基礎 微分積分(増補版), 石原繁、浅野重初, 裳華房, 2005年</p> <p>●メッセージ 中学、高校の数学を復習しておくこと。</p> <p>●教員連絡先 Email: skawano@robo.mech.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	真田篤志				
<p>●授業概要 大学で物理学を学ぶための心構え，物理現象を理解するための思考法などについて解説する．その後，主に力学を学ぶための考え方を説明していく．</p> <p>●授業一般目標 授業科目の「物理学 I」と「物理学 II」を履修するために必要な思考方法と計算方法を身につける．</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中の演習問題のレポートと宿題レポートから成績を評価する．</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「物理学 I」で使用する教科書を購入していれば持参すること．</p> <p>●教員連絡先 as@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 工学部応化・知情・機能・共通実験研究棟 2 階</p>					

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	電気・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	真田篤志				
<p>●授業概要 「物理学入門1」に引き続いて，大学で電磁気学を学ぶための考え方を説明していく．その後，力学，電磁気学の他に，物理学ではどのようなことを学んでいくかについて説明する．</p> <p>●授業一般目標 授業科目の「物理学 I」と「物理学 II」を履修するために必要な思考方法と計算方法を身につけることが目標である．</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中の演習問題のレポートと宿題レポートから成績を評価する．</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「物理学 I」で使用する教科書を購入していれば持参すること．</p> <p>●教員連絡先 as@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 工学部応化・知情・機能・共通実験研究棟 2 階</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門 1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	石川敏三				

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門 2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	石川敏三				

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	末岡 修				
<p>●授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>●授業一般目標 位置 & # 8226; 速度 & # 8226; 加速度の関係を表し、簡単な例題が解けるようになる。放物運動が解けるようになる。これらの過程で、ベクトルとその成分の関係を理解し、各成分の運動が独立であることを理解する。正規の講義”物理学”が理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>●教科書・参考書 教科書：2「新物理学」、シッフマン著, 学術図書出版社, 2002年 / 参考書：「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版社 1996</p> <p>●教員連絡先 非常勤のため E-mail osueoka@fm2.seikyoku.ne.jp にて対応する</p>					

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	末岡 修				
<p>●授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>●授業一般目標 電気力・電場・電位・電気的エネルギーの関係を学ぶ。オームの法則が自由に使えるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>●教科書・参考書 教科書：2「新物理学」、シッフマン著, 学術図書出版社, 2002年 / 参考書：「改訂版 基礎物理学」原康夫著 学術図書出版 1996</p> <p>●教員連絡先 非常勤のため E-mail osueoka@fm2.seikyoku.ne.jp にて対応する</p>					

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	増山和子				
<p>●授業概要 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであるとともに、応用を目指した学問であり、将来の専攻分野を学ぶ場合に、基礎となる物理学を十分に理解しておく必要がある。この授業は、高校で物理学を履修しなかった学生の物理学への入門として、大学で物理学を履修するために必要な思考方法と計算方法を学び、物理学の基礎を身につけることを目標とする。前期クォーター1では物理学の中で最も基礎的な「力学」を説明する。力が働く時の物体の運動がどのような法則で記述できるか、自然の中にはどのような運動があるかなどを、基礎的な事項からはじめ、具体的な例題を通じて直感的な理解が得られるように配慮して講義する。</p> <p>●授業一般目標 力学の基礎を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数回のレポート(50%)と、試験(50%)で成績評価する。また、7割以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：楠川絢一他編修「基礎シリーズ 物理学入門」実教出版</p> <p>●メッセージ 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	増山和子				
<p>●授業概要 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであるとともに、応用を目指した学問である。将来の専攻分野を学ぶ場合に、基礎となる物理学を十分に理解しておく必要がある。高校で物理学を履修しなかった学生の物理学への入門として、大学で物理学を履修するために必要な思考方法と計算方法を学び、物理学の基礎を身につけることを目標とする。前期クォーター2ではクォーター1の「力学」に続き、電気及び磁気に関する物理現象を扱う「電磁気学」を学ぶ。基礎的な事項からはじめ、具体的な例題を通じて直感的な理解が得られるように配慮して講義する。</p> <p>●授業一般目標 電磁気学の基礎を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数回のレポート(50%)と試験(50%)で成績評価する。また、7割以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：楠川絢一他編修「基礎シリーズ 物理学入門」実教出版</p> <p>●メッセージ 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・医学・ 生機・獣医	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	長谷部勝彦				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩、運動の記述や運動の法則について講義する。</p> <p>●授業一般目標 運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験、小テスト・授業内レポート、授業外レポートにより評価する。出席は欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からの物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 2000 年；物理学入門 II でも同じ教科書を使います。</p> <p>●メッセージ 教科書を精読するとともに、できるだけ問題を解いて理解を深めてください。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 244 号室</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・医学・ 生機・獣医	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	長谷部勝彦				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>●授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験、小テスト・授業内レポート、授業外レポートにより評価する。欠席は欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からの物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 2000 年；物理学入門 I と同じ教科書を使います。</p> <p>●メッセージ 教科書を精読するとともに、できるだけ問題を解いて理解を深めてください。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 244 号室</p>					

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	繁岡透				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩、運動の記述や運動の法則について講義する。</p> <p>●授業一般目標 運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>●メッセージ 物理は難しいという先入観を持たないでください。積極的に取り組めば物理の面白さがわかると思います。</p> <p>●教員連絡先 E-mail shigeoka@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5674, 研究室 理学部 2 2 8 号室</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	繁岡透				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>●授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>●メッセージ 電磁気学を応用してものは身の回りにあふれています。これらの原理を少しでも理解できるようになると思います。</p> <p>●教員連絡先 E-mail shigeoka@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5674 研究室 理学部 2 2 8 号室</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	白石清				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩、運動の記述や運動の法則について講義する。</p> <p>●授業一般目標 運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からの物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 2000 年</p> <p>●教員連絡先 理 2 0 5</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	白石清				
<p>●授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>●授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からの物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 2000 年 物理学入門1 と同じ</p> <p>●教員連絡先 理 2 0 5</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	松野好雅				
<p>●授業概要 古典力学（ニュートン）力学の基礎を学ぶ。具体例をあげながら運動の3法則を説明する。講義は初歩的な事柄から始め、身近な物理現象を多く取り上げるにより、高校での物理を不得意とした学生諸君に対しても十分内容が理解できるよう努める。</p> <p>●授業一般目標 1. 運動の3法則、及びその使い方を理解する。 2. 等速円運動、放物運動、単振動等の基本的な運動を理解する。 3. 運動量保存則、角運動量保存則、エネルギー保存則、及びその使い方を理解する。 4. 剛体運動の基礎を理解する。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。（A）確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に着ける。 A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法（総合） 中間、及び学期末試験の2回の試験で総合的に評価する。配点は各50%とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版 基礎物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>●メッセージ 予習、復習をきちんとやること。講義ノートをとること。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	原 哲彦				
<p>●授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。（1）位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。（2）運動方程式（微分方程式）を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。（3）運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。</p> <p>●授業一般目標 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年</p> <p>●メッセージ 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します</p> <p>●教員連絡先 tetuhara @ c-able.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 11・12 時限
担当教員	佐伯壮一				
<p>●授業概要 物理学の中でも最も基礎的な古典力学について説明する。高校までの物理と違い、微分・積分を使って、論理的に見通し良く、基本原理からさまざまな法則が導けることを示す。また、具体的な問題に法則を適用して自分で解く力を養う。</p> <p>●授業一般目標 物理学の中でも最も基礎的な古典力学を学習する。ニュートンの運動方程式を自分でたてることができ、微分・積分を使って、具体的な問題を論理的に自分で解く力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期試験の結果およびレポートをもとに力学の知識・理解および解析に必要な数学力を評価する。また、小テストによる予習確認により意欲を、レポートにより思考・判断の評価を行う。4 回以上欠席した学生には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎 力学, 永田一清, サイエンス社, 2000 年 / 参考書：参考となるホームページ・物理のための数学 http://doraneco.pos.to/physics/column/column.html # butsurikougi ・微積を使って力学の世界を見る http://doraneco.pos.to/physics/column/bisekir.html</p> <p>●メッセージ シラバスを参考に教科書の関連箇所の予習をして講義に臨むこと。また、講義後は講義内容の理解度を自己評価し、復習のうえ次回の講義に臨むこと。機械工学の基礎= (1) 熱力学, (2) 材料力学, (3) 流体工学, (4) 機械力学, (5) 制御工学, これらのさらに基礎となるのが力学である。専門科目受講までにしっかり基礎を身に付けておくこと。</p> <p>●教員連絡先 s-saeki@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	西岡道夫				
<p>●授業概要 力学は物理学の中で最も基礎的な学問の一つであり、広い範囲の関連分野に力学の手法や結果が応用されている。講義では力学を中心とし、重要な概念と法則を丁寧に説明する。例を豊富に使って法則とその使い方の理解を深め、法則・現象に適切なイメージが描けるようにする。</p> <p>●授業一般目標 1) 運動の表し方を学ぶ。2) 運動法則を理解する。3) 円運動・放物線運動・抵抗力がある場合の運動の定式化ができる。4) 振動現象の解析を学ぶ。5) エネルギー・運動量・角運動量の保存則を理解する。6) 剛体の釣り合い・回転運動の取り扱いを学ぶ。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	原 哲彦				
<p>●授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。(1)位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。(2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。(3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。</p> <p>●授業一般目標 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理の基礎,長岡洋介,東京教学社,2000年</p> <p>●メッセージ 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します。</p> <p>●教員連絡先 tetuhara@c-able.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	田之上健一郎				
<p>●授業概要 物理学の中でも最も基礎的な古典力学について説明する。高校までの物理と違い、微分・積分を使って、論理的に見通し良く、基本原理からさまざまな法則が導けることを示す。また、具体的な問題に法則を適用して自分で解く力を養う。</p> <p>●授業一般目標 物理学の中でも最も基礎的な古典力学を学習する。ニュートンの運動方程式を自分でたてることができ、微分・積分を使って、具体的な問題を論理的に自分で解く力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期試験の結果およびレポートをもとに力学の知識・理解および解析に必要な数学力を評価する。また、小テストによる予習確認により意欲を、レポートにより思考・判断の評価を行う。4回以上欠席した学生には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎力学,永田一清,サイエンス社,2000年/参考書：参考となるホームページ・物理のための数学 http://doraneco.pos.to/physics/column/column.html # butsurikougi・微積を使って力学の世界を見る http://doraneco.pos.to/physics/column/bisekir.html</p> <p>●メッセージ シラバスを参考に教科書の関連箇所の予習をして講義に臨むこと。また、講義後は講義内容の理解度を自己評価し、復習のうえ次回の講義に臨むこと。機械工学の基礎=(1)熱力学,(2)材料力学,(3)流体工学,(4)機械力学,(5)制御工学,これらのさらに基礎となるのが力学である。専門科目受講までにはしっかり基礎を身に付けておくこと。</p> <p>●教員連絡先 tano@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	山本惺史				
<p>●授業概要 古典力学（ニュートン力学）の基本的な事柄を概説する。</p> <p>●授業一般目標 物理学の基礎である古典力学（ニュートン力学）を学ぶ。運動の記述，運動の法則などについて，微分・積分やベクトルなどの数学的手段を活用して理解する。また，日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から理解する態度を養う。</p> <p>●成績評価方法（総合） 1. 授業の中で小テストを3回行う。 2. レポートを1回課す。これは欠格条件とする。 3. 期末試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学，原康夫，学術図書出版社，1996年</p> <p>●メッセージ 質問や意見など遠慮無く。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: seiy@haginet.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	朝日孝尚				
<p>●授業概要 古典力学（ニュートン力学）は目に見える大きさの物体の運動を扱います。そこには，位置，速度，加速度，運動エネルギー，位置エネルギー，運動量，角運動量といった物理に不可欠な概念が現れます。また，いくつかの基本法則から，いろいろな物理量の間になり立つ関係を導く過程は，物理の議論の進め方のお手本となるものです。ただ，話を聞くだけでは身につかないので，演習問題を自分で解くことが大事です。</p> <p>●授業一般目標 物理学の基礎である古典力学（ニュートン力学）を学ぶ。運動の記述，運動の法則などについて，微分積分やベクトルなどの数学的手段を活用して，論理的に見通し良く理解する。また，日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から捉え直す態度を養う。</p> <p>●成績評価方法（総合） (1) 授業の中で小テストをおこなう。(2) 宿題・授業外レポートを課す。(3) 中間試験と期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理の基礎，長岡洋介，東京教学社，2000年</p> <p>●メッセージ 第1回は，同じ時間帯に開かれる物理学 I（鍋木修先生担当）のクラスとの間で人数調整をします。</p> <p>●教員連絡先 居室；理学部 242 号室，E-mail; hcc30@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	理	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	鍋木修				
<p>●授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。1) 位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。2) 運動方程式(微分方程式)を解くことによって、物体がどのように運動するかがわかること。3) 運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が、運動の3法則から自然に導きだせること。</p> <p>●授業一般目標 古典力学の基礎をしっかりと身に付け、物理学の他の分野を学ぶための足場を固めること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000年; 販売店：生協</p> <p>●教員連絡先 理学部217号室、内線(5671)</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	山本隆				
<p>●授業概要 物理学の中でも、最も早く完成した古典力学(ニュートン力学)の基礎的な概念とその取り扱いを、例題を通して教授する。</p> <p>●授業一般目標 古典力学は、自然科学の雛形で、もっとも美しく数学的に纏め上げられている。この講義では、古典力学が如何に豊富な内容を有し、自然界の森羅万象をうまく説明しているかを理解する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：力学, 川村清, 裳華房, 1998年</p> <p>●教員連絡先 理学部本館335室 オフィスアワー 月曜 13:00 - 15:00</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	平林晃				
<p>●授業概要 前半は高校物理で学んだ力学の問題を論じていきますが、そのために微分方程式を用います。後半ではビデオ教材を用いながら、(特殊)相対性理論の導入を口述し、日常では考えられない現象の世界をのぞいてみることにします。</p> <p>●授業一般目標 1. 微分方程式を用いて力学系の問題を解決できるようになること。 2. 特殊相対性理論で現れる現象を理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験40点+期末試験60点=合計100点</p> <p>●教科書・参考書 教科書: プリントを適宜配布する。</p> <p>●メッセージ 1. 高校時代は使わなかった微分・積分を力学の解析に用いることの有用性を理解してください。 2. 今年は相対論の発表からちょうど100周年にあたります。タイムリーなこのときに、日常ではありえない現象を説明するこの理論に興味をもってもらえればと思います。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(理))・理・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	横山和平				
<p>●授業概要 化学の基礎的事項の修得</p> <p>●授業一般目標 化学 I の履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 知識・理解を測定する定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポートを従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教科書については講義の冒頭で紹介する。/ 参考書: 参考書については講義の冒頭で紹介する。</p> <p>●教員連絡先 農 417</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(理))・理・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	横山和平				

●授業概要 化学の基礎的事項を修得する。
 ●授業一般目標 化学 II の履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。
 ●成績評価方法(総合) 知識・理解を測定する定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポート を従とする。出席は欠格事項として扱う。
 ●教科書・参考書 教科書：講義の冒頭で紹介する。／参考書：講義の冒頭で紹介する。

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械・応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	阿部憲孝				

●授業概要 高校で化学を履修しなかった学生を対象に、化学の基礎を解説する。
 ●授業一般目標 自然科学系列化学分野の化学 I、化学 II を履修するために必要な基礎知識を身に付ける。
 ●教科書・参考書 教科書：化学入門, 大野公一、妹尾学ら, 共立出版, 1997 年
 ●メッセージ 小テストの結果が成績判定に関わります。化学は基礎から考えると理解しやすいので、最初が肝心です。手を動かして、図を書き、計算しましょう。
 ●教員連絡先 研究室：理学部南棟 4 階 438 号室。随時研究室で、できるかぎり対応します。

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	機械・応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時間	木曜日 9・10 時限
担当教員	阿部憲孝				
<p>●授業概要 高校で化学を履修しなかった学生を対象に、化学の基礎を解説する。</p> <p>●授業一般目標 自然科学系列化学分野の化学 I、化学 II を履修するために必要な基礎知識を身に付ける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：化学入門, 大野公一、妹尾学ら, 共立出版, 1997 年</p> <p>●メッセージ 小テストの結果が成績判定に関わります。化学は基礎から考えると理解しやすいので、最初が肝心です。手を動かして、図を書き、計算しましょう。</p> <p>●教員連絡先 研究室：理学部南棟 4 階 438 号室。随時研究室で、できるかぎり対応します。</p>					

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時間	金曜日 7・8 時限
担当教員	田中経彦				
<p>●授業概要 医学部保健学科看護学専攻学生で高等学校で化学を専攻してこなかった学生、プレテストで化学の基礎を復習する必要性が指摘された保健学科学生に対し開講する。この入門 講義の後、化学 II 化学 I を受講できる。目標にも書くが、看護師に必要な化学常識を育成 ための講義である。化学を専門にする学生に対する講義とは内容を変える。前期前半に 化学入門1 と 2 を終了し、前期後半に化学 II (有機化学主) を学ぶ。時間は限られているし、科学全般に苦手意識があると思うので、高校化学の必要な知識をゆっくり勉強する。</p> <p>●授業一般目標 看護師は医療の現場で多くの薬品を取り扱う。薬品の取り扱いを間違えれば重大な医療事故につながる。最近あった事故ではカルシウムをカリウムと間違え、点滴して死亡させた例がある。当然、業務上過失致死として、訴追された。事故を防ぐためには判断力が必要である。判断力をつけるには考える材料として化学の知識が必須である。化学の専門家を目指す人に必要な化学ではなく、素養となる化学を理解するために必要な基本知識を教える。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業内レポートにより評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：フォトサイエンス化学図録 (数研出版)</p> <p>●メッセージ 化学を高校時代に選択した人が、学力不足でないのに受講する必要はありません</p> <p>●教員連絡先 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	田中経彦				
<p>●授業概要 講義概要 医学部保健学科学生の内、化学を高校で履修していない者及び化学プレテストで基礎の復習が必要と判断された者に対し、化学入門1とセットで行われる。特に有機化合物―炭素でできた化合物（例、砂糖、でんぷん、たんぱく質、脂肪等）の性質を理解するのに必要な基礎知識を与える。</p> <p>●授業一般目標 講義目標 高校での化学履修者と同程度の化学知識の理解。</p> <p>●成績評価方法（総合） 授業内レポートで評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：フォトサイエンス化学図録（数研出版）</p> <p>●教員連絡先 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	情報・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	和泉研二				
<p>●授業概要 化学Iの履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。具体的には、物質の構造、状態、平衡、化学変化などについて学習する。</p> <p>●授業一般目標 高校レベルの化学の内容を確認しながら、物質の理解に必要な基本的な原理や考え方を確実に理解・習得し、共通・専門教育で開講されている化学関連の授業を受講するための基礎を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合）（1）最終テストの実施。（2）毎回の小テスト。（3）レポート課題提出。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配付する。</p> <p>●メッセージ 化学の辞典、化学の入門書、高校の教科書等を参考にして、関連項目・専門用語について、確実に理解すること。</p> <p>●教員連絡先 bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部1階</p>					

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	情報・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	和泉研二				
<p>●授業概要 化学 I の履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。具体的には、有機化合物と高分子化合物を中心に学習する。</p> <p>●授業一般目標 高校レベルの化学の内容を確認しながら、物質の理解に必要な基本的な原理や考え方を 確実に理解・習得し、共通・専門教育で開講されている化学関連の授業を受講するための基礎を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 最終テストの実施。(2) 毎回の小テスト。(3) レポート課題提出。以上を下 記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配付する。</p> <p>●メッセージ 化学の辞典、化学の入門書、高校の教科書等を参考にして、関連項目・専門用語について、確実に理解すること。</p> <p>●教員連絡先 bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階</p>					

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	今村速夫				
<p>●授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関しての理解が不十分な学生に対して、工学を学 ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に 化学について関係しなればならなくなった時に勉強するための初歩の知識についてやさしく解説する。</p> <p>●授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強す るに当たっての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験および講義中のレポートにより総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録(新課程用), 数研出版編集部, 数研出版, 2004 年</p> <p>●メッセージ よく復習をすること。</p> <p>●教員連絡先 hi-khm@yamaguchi-u.ac.jp, 総合研究棟 6 階 614 号室</p>					

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	金曜日9・10時限
担当教員	笠谷和男				
<p>●授業概要 化学I、化学IIを受講するために必要な基礎知識を講義する。</p> <p>●授業一般目標 化学結合を理解する。簡単な有機化合物の種類と性質を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(約80%)及び小テスト(約20%)により評価する。2回以上欠席すると単位を認定しない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録(新課程用), 数研出版編集部, 数研出版, 2003年</p> <p>●メッセージ わかりやすい説明を行うので、遅刻や欠席をせずに全部の説明を聞いて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 質問等は授業中に示す電子メールアドレスで対応する。</p>					

開設科目	化学I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2単位	曜時限	月曜日3・4時限
担当教員	川俣純				
<p>●授業概要 化学は生体をも含めた全ての物質の成り立ちと状態、物質の変化や新しい物質の創製を研究する学問です。この講義では、反応熱、およびその温度・圧力との関係、化学平衡、物質の三態など身近なことを話題とします。</p> <p>●授業一般目標 高校の化学で学習した「物質の状態」、「化学反応と熱」、「反応の早さと平衡」などの概念を系統立てて習得し、日常体験する様々な現象に化学がどのように関与しているのかを理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 中間試験・期末試験の成績を重視する。2. 小テスト・授業内レポートに現れた思考力や関心・学習態度も評価に加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 入門 化学熱力学, 松永義夫, 朝倉書店, 2001年 / 参考書: 現代の物理化学, 松永義夫, 三共出版, 1990年; 相律と状態図, 吉岡甲子郎, 共立出版, 1984年</p> <p>●メッセージ 単に知識を覚えるのではなく、化学という学問の根底を流れる考え方を学ぶ姿勢で授業に参加して下さい。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館434号室 j_kawa@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	松 浩司				
<p>●授業概要 モルの概念、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元など物理化学の初歩の内容である。高校での化学とのつながりに注意を払い、専門科目に必要な基本的事項について講述する。配布演習問題や小テストなどを通じて、自学を促しながら進める。</p> <p>●授業一般目標 無機化学や物理化学の基礎を習熟し、実際の身の回りの現象を化学的（科学的）に説明できることを目標とする。また専門科目への橋渡しとしての必要な概念も習得させる。</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験と出席状況で総合評価する。毎回小テストを行うが、これは講義内容の理解度を把握するとともに、学生への自学を促すものである。よって評価の対象とはしないが、出席状況の判断に用いる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：大学生の化学, 大野惇吉, 三共出版, 2001 年；（文栄堂大学前店で販売）／参考書：物質化学の基礎, 多賀光彦他, 三共出版, 1993 年；化学の基礎, 竹内敬人, 岩波書店, 1996 年；演習問題を配布する。</p> <p>●メッセージ 化学は機能材料工学科の学生にとっては専門科目の基礎として重要な科目であり、高校での履修から専門科目への橋渡しの役割をしています。よって、単なる暗記ではなく、内容をよく理解し物の本質が見抜けるような態度で取り組んでもらいたい。</p> <p>●教員連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	青島均				
<p>●授業概要 原子の電子配置を説明した上で、原子が集まってどのように分子が作られるか述べる。次に分子の間の平衡、酸化還元、反応速度などについても述べる。</p> <p>●授業一般目標 私たちを取り巻く物質を物理化学的法則に基づいて、新しい観点からより深く理解することを旨とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 下記の方法で評価します。小テストにより出席をとります。欠席が多い場合は不可とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000 年／参考書：図書館に多くの参考書があるから利用すること。</p> <p>●メッセージ 大学は自分で勉強するところです。受身にならず自主的、積極的に取り組んでください。</p> <p>●教員連絡先 理学部北棟 403 号室、電話：5762、e-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：会議などの用事がなければいつでも対応します。できれば前もって電話、メールでご連絡ください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生資・生機	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	右田たい子				
<p>●授業概要 化学は物質そのものを対象とする学問であり、あらゆる物質についてその本性を統一的に理解することを目的としている。この講義では化学の基本的な事項について学び、物質の成り立ちと性質の関係、変化の仕方を決める要因などについて考え、物質を科学の原理に立って理解する、とはどういうことなのかを学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 無機系化学（無機化学、物理化学、分析化学等に関係する分野）の基礎を理解する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 知識・理解を測る定期試験、中間試験、小テストを主とし、思考・判断を測る演習・レポートを従とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000年；熟読すること。欄外には、高校で物理学を履修しなかった学生のために、理解に必要な事項（単位系等）を解説して有るので、参考にすること。例題をしっかり理解し、章末問題が自力で解答できれば十分合格点に達している。／参考書：生命科学のための基礎化学、Molly M. Bloomfield、丸善（株）、1999年；アトキンス物理化学上、P. W. Atkins 千原・中村訳、東京化学同人、1985年；カステラン物理化学、G. W. Castellan 目黒・田中・今村訳、東京化学同人、1986年</p> <p>●メッセージ 化学 I は、化学の基礎部分に当たるので、生命科学を学ぶすべての学生にとって、必修の内容を含んでいる。高年次のさまざまな専門科目の履修の基礎となるので、まじめに取り組むこと。</p> <p>●教員連絡先 ctmigita@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：農学部本館南 4 階 420 オフィスアワー：月曜日 15:00-17:00</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	谷口仁				
<p>●授業概要 化学では物質を主な研究対象とするので、化学は物質科学の中心となる学問分野といえる。この講義では、大学で学ぶ理科系学生にとり共通して必要と考えられる現代化学の基礎を、物理化学の立場から体系的にとりあげていく。各回の講義内容は、物質の構造、性質（物性）、変化（反応）を理解するうえで基礎となる概念や理論について、おおむね教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。また、一方通行になりがちな講義を補い、受講者の理解を深めるため、毎回演習問題を課し、その週の金曜日午後5時までに解答の提出を求める。質問や感想、希望なども、この解答用紙に記入しておけば、できるだけ個別に回答する。次回の最初に、提出された答案を返却し、演習問題の略解を配布して必要な説明を加える。</p> <p>●授業一般目標 物理化学の立場から、物質の構造・性質・変化についての基礎的な理解を深める。</p> <p>●成績評価方法（総合） 中間試験（30点満点）、期末試験（50点満点）、平常点（毎回の演習問題への取り組みと出席状況で20点満点）を総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000年；山口大学生協ブックセンターにて販売</p> <p>●メッセージ わかりにくいところは放置せずに、研究室へ質問に来てください。</p> <p>●教員連絡先 E-mail, tanigu@yamaguchi-u.ac.jp; 電話, 933-5908; 研究室, 農学部北棟 210 室; オフィスアワー, 随時</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	学教(教科(理))・情報・数理・自然	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	青島均				
<p>●授業概要 原子の電子配置を説明した上で、原子が集まってどのように分子が作られるか述べる。次に分子の間の平衡、酸化還元、反応速度などについても述べる。</p> <p>●授業一般目標 私たちを取り巻く物質を物理化学的法則に基づいて、新しい観点からより深く理解することを旨とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 下記の方法で評価します。小テストにより出席をとります。欠席が多い場合は不可とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000 年 / 参考書：図書館に多くの参考書があるから利用すること。</p> <p>●メッセージ 大学は自分で勉強するところです。受身にならず自主的、積極的に取り組んでください。</p> <p>●教員連絡先 理学部北棟 403 号室、電話：5762、e-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：会議などの用事がなければいつでも対応します。できれば前もって電話、メールでご連絡ください。</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	中山雅晴				
<p>●授業概要 原子の構造、電子配置、化学結合、化学平衡、反応速度など物理化学の内容が中心である。高校化学の復習から始め、将来専門科目を学ぶ上で必要な基本的事項について詳しく解説する。いくつかの項目については十分に演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 化学量論や物質量の表し方など、まず高校の化学をおさらいする。次に専門科目の履修に不可欠ないくつかの基礎的概念を使えるようになるまでマスターする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 中間試験、期末試験を行う。(2) 授業中に小テストを 3 回実施する。(3) 宿題を課す。(4) 出席状況を点数化する。以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：大学生の化学, 大野惇吉, 三共出版, 2001 年 / 参考書：物質化学の基礎, 多賀光彦他, 三共出版, 1993 年</p> <p>●教員連絡先 nkymm@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部本館南側 4 階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	中野 昭夫				
<p>●授業概要 分子を原子のレベルから学ぶ。さらに化学物質の状態や、変化を理解するため、化学の基礎原理（物理化学分野）を学ぶ。又、健康や環境と化学の関わりについて講義する。</p> <p>●授業一般目標 この世の中の全ての物が、化学物質であることを再認識し、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴く。さらに専門知識として必要となる基礎化学を、化学 I と化学 II を通じて理解して戴くことを最終目標とするが、本講義（化学 I）では、分子理解の基礎になる原子構造と化学の基礎原理を理解して戴く。より健康的でかつ地球に優しい生き方を志して戴く為、化学へ興味を持って戴くことを主目標とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席点（出席回数）、平常点（毎回の試験結果）、レポート（数回分）、及び期末試験を総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生活の基礎化学, 飯田 真 他, 東京教学社, 2003 年；「生活の基礎化学」飯田 真・加藤陽一 他, 東京教学社 2003 年／参考書：図表で学ぶ化学, 大城芳樹 他, 化学同人；「図表で学ぶ化学」大城芳樹・平嶋恒亮 著 化学同人</p> <p>●メッセージ 出席を重視します。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。</p> <p>●教員連絡先 Email:a-nakano@toua-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	本多 謙介				
<p>●授業概要 化学は、物質の構造や性質、およびその変化を研究することを目的とした学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の三分野に分けられる。本講では、化学の基本概念を総括して学習する。</p> <p>●授業一般目標 物質の性質、構造、反応性を支配する基本法則を系統的に理解することを目指す。このため、小テスト・演習をまじえながら講義を行なう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：わかりやすい基礎化学 ―材料・環境・生体へのアプローチ―, 神戸 哲, 講談社サイエンスフィック, 1998 年</p> <p>●メッセージ 講義内容を理解するためには、予習・復習を欠かさず行うこと。特に、教科書の章末問題を解くことによって化学の基本知識の理解を深めて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 4 階 441 号室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	伊原 靖二				
<p>●授業概要 (1) 化学の基礎: 化学の歴史、原子、周期律、化学結合の基礎概念及び物質の状態と物理的性質を学ぶ。(2) 化学反応: 反応速度、平衡状態及び電離平衡の概念を質量作用の法則及び速度論から学び、物質の化学現象を理解する。(3) 物質の性質: 熱力学的性質、化学結合、酸・塩基の概念及び材料、エネルギー、環境、生命の化学の基礎を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 化学は特に物質の変化すなわち現象を理解する学問であり、我々の身近な現象は化学と深くかかわりをもっている。この化学 I においてはこれらの化学現象を理解するための基礎的概念及び理論について、物理化学の立場から体系的に学習する。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の終わりに、10 回程度講義の理解度の判定のため、小テストを行う。(2) 期末試験の実施、(3) 出席点の重視、以上を下記の観点・割合で成績を総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 現代化学の基礎, 柏野節夫 他, 培風館, 1999 年</p> <p>●メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p> <p>●教員連絡先 ihara@yamaguchi-pu.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	谷口仁				
<p>●授業概要 化学では物質を主な研究対象とするので、化学は物質科学の中心となる学問分野といえる。この講義では、大学で学ぶ理科系学生にとり共通して必要と考えられる現代化学の基礎を、物理化学の立場から体系的にとりあげていく。各回の講義内容は、物質の構造、性質(物性)、変化(反応)を理解するうえで基礎となる概念や理論について、おおむね教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。また、一方通行になりがちな講義を補い、受講者の理解を深めるため、毎回演習問題を課し、次の週の水曜日午後1時までには解答の提出を求める。質問や感想、希望なども、この解答用紙に記入しておけば、できるだけ個別に回答する。次回の最初に、提出された答案を返却し、演習問題の略解を配布して必要な説明を加える。</p> <p>●授業一般目標 物理化学の立場から、物質の構造・性質・変化についての基礎的な理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験(30点満点)、期末試験(50点満点)、平常点(毎回の演習問題への取り組みと出席状況で20点満点)を総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000 年; 山口大学生協ブックセンターにて販売</p> <p>●メッセージ わかりにくいところは放置せずに、研究室へ質問に来てください。</p> <p>●教員連絡先 E-mail, tanigu@yamaguchi-u.ac.jp; 電話, 933-5908; 研究室, 農学部北棟 210 室; オフィスアワー, 随時</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 11・12 時限
担当教員	笠谷和男				
<p>●授業概要 1. 原子の構造と性質、周期律表 2. 化学結合 3. 物質の状態の熱力学 4. 無機化学・有機化学の初歩 等</p> <p>●授業一般目標 ・マクロな物質の性質を分子レベルで理解する。 ・原子・分子の中で電子の果たす役割を理解する。 ・化学式を用いて化学反応を理解する。 ・熱力学においては、式を用いて定量的な扱いができる。 ・無機化合物・有機化合物の多様性を系統的に理解する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間試験と定期試験、及び小試験を以下の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現代化学の基礎—物質科学へのアプローチ, 渡辺 啓, サイエンス社, 1995 年</p> <p>●メッセージ 欠席しないように努力して欲しい。</p> <p>●教員連絡先 e-mail: kasatani@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話：0836-85-9641 研究室：工学部本館北棟 4 階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 11・12 時限
担当教員	野口三千彦				
<p>●授業概要 現代社会の中で多くの化学物質とりわけ有機化合物が生活や先端技術を支える材料として広く用いられているだけでなく、新たな機能を求めて今なお新たに創出されています。この有機化合物を支配している原理としての「有機化学」を学ぶことにより、ただ単に有機物質の製造だけでなく生命科学、生活科学や環境科学との関わりを理解させ、化学工業が社会の中で果たしている役割の一端を示したいと考えています。</p> <p>●授業一般目標 高等学校で学ぶ「化学」は物理化学、無機化学、分析化学および有機化学をまとめたものでした。その中で「有機化学」は教科書の後半部に配置されており、多くの学生諸君にとってはただ覚えるだけ（もちろん理解したうえで）の課題であったかも知れません。本講義では有機化学の基礎的概念や有機反応の面白さを学ぶことにより、「覚えるだけの有機化学」を「その面白さを楽しむ有機化学」に変換させることを目標としています。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ミニテスト、中間試験および期末試験結果と出席状況により総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：はじめて学ぶ 大学の有機化学, 深澤義正・笛吹修治, 化学同人, 1997 年 / 参考書：大学生の有機化学, 大野惇吉, 三共出版, 2000 年</p> <p>●教員連絡先 noguchi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：応用化学工学科（工学部本館北側 3 階 346 号室） オフィスアワー：火～金曜日 17:30～19:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	田中 経彦				
<p>●授業概要 医学部保健学科検査技術学専攻学生のみを対象に開講する必修講義です。看護の学生は途中でやめる人が続出したのでお断りします。有機化合物の官能基の反応性や化合物の命名法を主体に学習し、現代医学の基礎となっている生化学が理解できる基礎知識を習得する。</p> <p>●授業一般目標 後期に履修する生化学及びそれに続く検査学科目を理解するために必要な有機化学知識 を活用できることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト及び定期試験による</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書 教科書 ハート基礎有機化学 培風館 3900円</p> <p>●メッセージ 構造式は、漢字の書き取りと一緒に、4～5回も書けば覚えられます。いや漢字に比べれば楽なものかもしれません。関連科目の生化学、薬理学、生理学では物質の構造式は必須です。昨年は、必修でなかったので、受講しなかった人達でしたが、後悔すると思います。</p> <p>●教員連絡先 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。小テスト、参考資料等もここから入手できるようにします。保健学科シラバスからもいけます。http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/pmt2001/po-login/Syllabus/index.htm この URL はお気に入りに追加して下さい。ここで、教官ホームページをクリックして下さい。検査を選び田中化学をクリックすれば到達します。授業の終わりに質問を受け付けるつもりです。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『化学入門1』及び『化学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	田中経彦				
<p>●授業概要 医学部保健学科看護学専攻学生を対象に有機化学を主に講義する。有機化学とは、炭素を含んだ物質の性質を調べる化学である。生物を構成する物質の大半は炭素を成分とする有機化合物である。生命活動のエネルギーは糖、脂肪、たんぱく質などの有機化合物を酸化することで得ている。生命活動は多種の有機化学反応の組み合わせによって構成されている。人間も同じである。人間が病気になるのは体の有機物質の質的または量的異常のせいである。健康状態を維持するには栄養素である有機化合物の理解が必要である。有機化学の知識がなければ現代医学は理解できない。</p> <p>●授業一般目標 講義目標 医学の基本である生化学や、薬理学で出てくる多数の有機化合物の名前や構造式にパニックにならないように、事前に顔見知りになることを目的にします。生化学は、時間数が少なく消化不良に陥りがちですが、この化学の授業で準備をします。また身の回りの化学物質について知識を深めることは、意義があるでしょう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：コ・メディカル領域の化学（三共出版）</p> <p>●教員連絡先 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・工	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	井上愼一, 室伏 擴				
<p>●授業概要 生物学の基礎的な考え方、生物が持つ驚くべき機能について説明する。</p> <p>●授業一般目標 高等学校で生物を履修して来なかった学生に対して、生物学 I・II の授業内容を理解出来るような生物学の知識を学ばせる。</p> <p>●教員連絡先 いつでも可 理 3 号館 107 号室 tel 083-933-5715, e-mail murofusi@sci.yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理・工	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	井上愼一, 遠藤克彦				
<p>●授業概要 高等学校で生物を履修してこなかった学生に生物学の基礎となる科学の進歩、生物の身体構造と機能、生物活動を支える化学反応、生命の連続性および生物集団の成り立ち などについてわかりやすく解説します。地球上の生命はどこで生まれ、どこから来たのか？そしてどこへゆくのか？地球以外の世界には生命はあるのか？等の身近な問題から生物学の基礎を解説します。</p> <p>●授業一般目標 生物学に親しみを持たせること 生命の仕組みの不思議さを伝えること</p> <p>●成績評価方法(総合) 高等学校で習った生物の内容を大急ぎで、基本と考えられる部分だけを教科書に従って説明する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 数研出版, 1998 年；高等学校で使用されている「生物 IB」の教科書／参考書：図説現代生物学, 新津恒良, 丸善, 平成6年</p> <p>●教員連絡先 遠藤克彦：endo@yamaguchi-u.ac.jp, Office Hour 月曜日 13:00-15:00 井上愼一：inouye@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour 月曜日 15:00-17:00</p>					

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	渡部省二				
<p>●授業概要 高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。入門1では、まず生物の多様性について学び、この多様な生物をいかにして整理、分類するか、それぞれの生物の構造がどうなっているのか、どのような機能をもっているのか、について概説する。そして、この多様な生物が、その基本的な営みにおいて驚くべき共通性をもっていることを理解する。</p> <p>●授業一般目標 生物学 I、II を学ぶための生物学の基礎知識を修得する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) *授業外レポート (宿題) を課すが、評価には加えず、欠格条件とする (未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。*出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 鈴木孝仁監修, 数研出版, 2004 年</p> <p>●メッセージ 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/nyumon.htm わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p>●教員連絡先 shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	渡部省二				
<p>●授業概要 高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。入門2では生物の多様性に焦点をあてて、この多様性がどのようにして形成されたかを発生、遺伝のしくみ、生物の進化を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 生物学 I、II を学ぶための生物学の基礎知識を修得する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) *期末試験を行う。*授業外レポート (宿題) を課すが、評価には加えず、欠格条件とする (未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。*出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 鈴木孝仁監修, 数研出版, 2000 年</p> <p>●メッセージ 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/nyumon.htm わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p>●教員連絡先 shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	真野純一				
<p>●授業概要 高校で生物を履修していない人に対して、大学での生物学の授業に最低限必要な基礎知識と考え方を講義します。前半期の授業では生物の物質的成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝のしくみについて学びます。</p> <p>●授業一般目標 1. 生命の成り立ちを物質とエネルギーの観点から理解する。2. 動物と植物の体の基本構造と機能を理解する。3. 細胞の基本構造と機能を理解する。4. 遺伝のしくみ、遺伝子のはたらきについて理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席点を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 鈴木孝仁, 数研出版, 2003年; 教科書は講義の際に必ず持参すること。/ 参考書：生物学超入門, 大石正道, 日本実業出版社, 2002年; 分子生物学講義中継 part 1, 井出利憲, 羊土社, 2002年</p> <p>●教員連絡先 メール man@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月、火、木、金の午後1時から4時</p>					

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	山本芳実				
<p>●授業概要 生物学入門1に引き続きおこなわれる講義であるが、独立した講義としておこなう。教科書に従ってそのダイジェストを出来るだけ平易に説明する。</p> <p>●授業一般目標 高等学校時に生物学の基礎的な知識を得ていない学生に対して、後期に学ぶ「生物学」の学習の手助けになる程度の知識を与える事を目標にして設定されている。</p> <p>●成績評価方法(総合) 全体的な理解度を診るために簡単な試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生きもののからくり, 中村/高橋編, 培風館, 1998年</p> <p>●教員連絡先 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室) 農学部209号室 Tel & Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月曜日10時から12時</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	化地	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	金折裕司				
<p>●授業概要 惑星としての地球そのものとその表層で起きている変動現象を主なテーマとして、地球の姿、内部構造、表面形態、変動帯および地球の歴史に関する基礎知識を学び、それらを新しい地球観の中で位置づける。</p> <p>●授業一般目標 (1) 惑星としての地球そのものとその表層で起きている様々な変動現象を理解する。(2) 地球の姿、内部構造、表面形態および地質時代に関する基礎知識を理解する。(3) 地球で起きている様々な変動現象を新しい地球観の中で位置づけることができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で小テスト、授業内レポートを数回行う。(2) 地球科学的に関心を持っている現象に関するレポートを2回提出する。(3) 最後に試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎ほか, 朝倉書店, 2002年</p> <p>●メッセージ 講義内容について、予習復習を十分に行い、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 kanaori@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部南棟3階344室 オフィスアワー 火曜日 15:00~16:00</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	溝田忠人				
<p>●授業概要 最初に、化石と地球の歴史、地震波の伝播と地球の内部構造、地球の重力や大気圏外の状態、マグマから生成する岩石とその風化、堆積過程、造岩鉱物の種類と同定法等について知識を深める。その後、人類の生活に不可欠な金属やエネルギーの塊である地下資源の産状や採掘法、岩盤の力学や掘削、地球環境の問題について解説する。さらに、地震によって発生する自然災害の本質、さらに人間社会との係わり、およびその軽減対策について、特に新しい事例を取り上げることで理解を深める</p> <p>●授業一般目標 1. 人類が生活している地球の表面および地球の中心から宇宙への広がりを理解する。2. 人類と地球・宇宙等の環境との関わりを理解できる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 講義の後に小レポート (50%) と課題レポート (50%) で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎ら, 朝倉書店, 2002年 / 参考書：生命と地球の歴史, 丸山茂徳ら, 岩波新書, 1998年</p> <p>●メッセージ 我々人類は地球上で生存していますが、地球がどのように進化し、人類と係わりでどのような問題が生じているかを学びます。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	飯石一明				
<p>●授業概要 地球科学は実に幅広く面白い学問である。この講義では、地球の生い立ち、地球の内部構造、変動する大地、プレートの離合集散、日本列島の生い立ち、天変地異と環境破壊について講義し、生きている地球を実感し、そしてダイナミックな地球科学の醍醐味を味わってもらいたいと思っている。</p> <p>●授業一般目標 地球が奇跡の惑星であり、人間がいかにすばらしい生き物であるかを理解する。地球を大切にする気持ちを抱く。テレビや新聞・雑誌の地球に関するニュースに関心を持つ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績は中間試験、期末試験およびコメント票の内容で判定します。出席は授業はじめに点呼し、授業の終わりにコメント票を提出してもらって確認します。3 回以上無届で欠席した場合は単位はありません。遅刻を 3 回以上した場合は 1 回欠席とみなします。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●メッセージ 私語は厳重に注意する。毎回のコメント票に書いてある授業に対する要望には できるだけ応えるように、また質問にもできるだけ答えるようにする。</p> <p>●教員連絡先 iishi@yamaguchi-u.ac.jp、内 5742、理学部南棟 341 号室、オフィスアワー：木曜日 3・4 時限</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	数理・自然・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	三浦 保範				
<p>●授業概要 地球に関する基本的な考えと最新情報の基礎的な知識を得るため、宇宙・銀河・太陽系天体（月・火星など）の基礎知識を通して、地球惑星の成り立ちを循環システムとして理解する。</p> <p>●授業一般目標 地球の成り立ちの基礎的な知識を得るために、宇宙・銀河・太陽系天体（月・火星など）の基礎知識を学び、その結果広い循環システムとして地球を理解することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験で主な評価 (70 %) をし、小テスト・レポートの評価を加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教材は、プリントで毎回配布する。／参考書：宇宙のしくみ、磯部秀三、日本実業出版社、1999 年；地球のしくみ、浜野洋三、日本実業出版社、1995 年；参考書として、「地球・環境・惑星系」(丸善)、CD-ROM:「小さな星大きな 謎」(NHKBS1) がある。</p> <p>●メッセージ 定期試験が主な評価なので、きちんと勉強すること。</p> <p>●教員連絡先 連絡先：理学部 1 号館北棟 343 号室；Tel/Fax:(083)933-5746；E-mail:yasmiura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 15:00～17:00</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生資・生機 (1-15)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	西山壮一				
<p>●授業概要 農学における実際の課題を、数学を用いて解決しようとするときその手法の序説を講義する。手法はプログラムを作りコンピュータを使って解く方法である。</p> <p>●授業一般目標 授業の例題程度が参考書でも見ながらアルゴリズムができ、実際の農学の課題について、解決しようとする意欲が持てる程度までぐらいを目標としている。簡単な問題は参考書なしでプログラムが書けること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 計算機を用いて、数学の課題を解く手法を講義している。コンピュータによる解析に習熟は実技である。したがって、出席は重要である。試験も重要である。出席率が75%以下のものは、試験ができて単位を認めない。</p> <p>●メッセージ 初歩的なことから講義します。割とゆっくり進みます。ほとんどの学生がついてこれると思います。</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生機 (16-)・獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	深田・荊木・早川				
<p>●授業概要 農学は物理学、化学、生物学などを基礎とする応用学問ですが、様々な現象を数式で記述しその変化の傾向をとらえる事が重要になってくる場合が多くあります。また、いろいろな観測、調査に基づいたデータや、実験室でとったデータを整理して解析し、定量的な評価をする場合などに数学は重要になってきます。この講義では数学を通して自然の成り立ち、自然の奥深さを理解することを目的としています。</p> <p>●授業一般目標 自然界に生起する現象は場所や時間に依存して変化するので2つの変数や3つの変数で表されるのがほとんどで、現象の時間的変化や場所的変化を記述する数学的手法が必要となってきます。また、最近では解析にコンピュータは不可欠な道具であり、コンピュータによる分析や解析を念頭においた講義を行います。物質やエネルギー輸送、化学反応などを記述する手法としての微分方程式、多変数をもつ物理量の演算を扱う「行列と行列式」、取得したデータの傾向をみる微分方程式や乱数発生による「シミュレーションの基礎」等の講義を行います。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート=40 宿題/授業外レポート=20 出席=40</p> <p>●教科書・参考書 教科書：シラバス入力時点(2月5日)で未定、決まり次第通知する。/参考書：参考書：科学技術者のための基礎数学、矢野健太郎・石原繁、裳華房、2000年</p> <p>●メッセージ 入学時に購入したPCを用いて演習を行う。使用する日はあらかじめ連絡する。</p> <p>●教員連絡先 深田：E-mail mfukada@yamaguchi-u.ac.jp 荊木：E-mail ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp 早川：E-mail hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp ご用件はメールで問い合わせてください。</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経 I(1-180)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	馬田哲次				
<p>●授業概要 1次関数、2次関数等の理解から始めて、関数を理解し、基本的な関数の微分ができ簡単な最大化問題が解けるようにする。</p> <p>●授業一般目標 次のことを理解する。1. 数と式の計算ができる。2. 1次関数が理解できる。3. 2次関数が理解できる。4. 基本的な関数が理解できる。5. 1変数の微分が出来る。6. 2変数の微分ができる。7. 簡単な最大化問題が解ける。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：講義プリントを配布する予定です。</p> <p>●教員連絡先 umada@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経 I(181-)・経 II	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	柏木芳美				
<p>●授業概要 高等学校と大学の数学の橋渡しを目的に1変数関数の微分について概説する。微分というのは関数の性質を調べるための強力な道具である。また、経済学で重要な概念である凹関数、凸関数についても説明する。ミクロ経済に限らず、金融工学などのために高学年次や大学院生になってから数学が必要になる人がある。そういう人は数学概論程度の予備知識はしっかり身につけること。応用として最後に国家公務員試験の簡単な解説も行う。</p> <p>●授業一般目標 微分は関数を調べる強力な道具である。その基本をしっかり身につけて、ある程度の計算ができることがこの授業の目標である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験と期末試験の平均が60点以上が合格。演習問題には詳しい解説を付けてあるので毎回出す宿題をしっかりと解いておくように。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。尚、テキストの誤植指摘に最大20点の点数を与える。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：数学概論改訂版、柏木芳美、2004年；生協で販売する。</p> <p>●メッセージ 演習問題を解くことが一番重要。分からないところは遠慮なく質問すること。その為にオフィスアワーもある。</p> <p>●教員連絡先 E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp、電話:933-5595、研究室:経済学部 C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。</p>					

開設科目	現代化学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	西口 毅				
<p>●授業概要 本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。すべての授業はパソコンからスクリーンに出力しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ (http://www2.to/chemistry) からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。学生諸君の質問(日頃の疑問など)にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p> <p>●授業一般目標 多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に 適応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識+行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かに することである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生 諸君に納得してもらうことが必要であろう。授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次回の授業開始時にそれについての 解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連するこ とがらについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は 1 : 1 である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996 年；プリントを数種類配布する。</p> <p>●メッセージ 学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えることであろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代 についての私見を話すこともある。</p>					

開設科目	現代生物学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	祐村稔子				
<p>●授業概要 ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位から構築されている。一方、「細胞」を構成する「部品」は生体分子の集合体であり、生きていない。すなわち「細胞」は生命と物質の境界をなす「生命の最小単位」である。本講義では「細胞」の構造と機能 について、分子レベルで解説を行う。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に解説を進めていく。</p> <p>●授業一般目標 「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識であるのみならず、今日、医療、農業、工業とさまざまな分野にまたがり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連技術および氾濫する関連情報を、正しく理解し評価するのにも必須のものである。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのか、自ら判断し、未来を見極める知識、能力を身につけることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(テキスト、ノート、プリント参照可) 80% 宿題レポート 20%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：いきものからくり, 中村和行・高橋進, 培風館</p> <p>●メッセージ 古典的生物学にとどまらず、物理学、化学を含む自然科学全般の知識をもって生命を理解することに興味のある学生の受講を希望します。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: discoideum@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	永尾隆志				
<p>●授業概要 私たちは、半径 6400km の地球の上に住んでいる。しかし、そのことを実感することはあまりない。この授業では、私たちが体験したりマスコミで報道される地震や火山噴火を とおして地球の構造や運動のしくみについて学習する。</p> <p>●授業一般目標 日ごろ接する情報から地球のダイナミクスを理解するための基礎的な力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の内容に関するレポートの提出をもとめそれを評価する。(2) 試験。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものは単位をあたえない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特に指定しない。／参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●教員連絡先 理学部 340 号室, e-mail: tntagao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	君波和雄				
<p>●授業概要 地球は生きた天体であり、地球内部や太陽からのエネルギーを源として様々な変動を繰り返しながら進化してきた。地球科学は、こういった地球の表面や内部における変動を解析し、地球の発展過程を明らかにすることを目的としている。この講義では、地球上部の主要な変動を説明するための理論であるプレートテクトニクスの基本的骨格やプレートテクトニクスと地質との関連などについて解説する。</p> <p>●授業一般目標 この講義をとおして、地球科学における時間の感覚を把握するとともに、プレートテクトニクスの基本骨格を理解し、ダイナミックに変動する地球についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は、期末試験 80 %、小テスト・レポート 20 %とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。</p> <p>●教員連絡先 kimik@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部 4 階 445 室 オフィスアワー：時間があるときはいつでも。</p>					

開設科目	物理学通説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・生資	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	増山博行				
<p>●授業概要 17世紀のガリレオやニュートンの時代から19世紀にかけて、自然に対する科学的認識は飛躍的に深まり、物理学の基礎が確立した。これは、力学、熱力学、振動・波動論、光学、電磁気学と呼ばれている古典物理学の分野である。さらに20世紀にはいと原子などの微視的世界を記述する量子論が誕生した。授業では古典物理学の基礎を中心に講義し、量子論の誕生についてもふれる予定。</p> <p>●授業一般目標 (1) 古典物理学の基礎を理解する。(2) 物理学の発展過程を知るとともに、他の学問との関わりを理解する。(3) 量子論の見方を知る。(4) 物理学の課題や社会との関わりについて考察する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 下記の観点別評価割合は目安であり、試験結果をもとに総合的判断を加える。なお、欠席回数が多い者は単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：新物理学, シッフマン, 学術図書出版社, 2002年 / 参考書：物理学基礎(第3版), 原康夫, 学術図書出版社, 2004年</p> <p>●メッセージ 初修の人は、特に予習・復習を行ってください。既習の人は数学力を伸ばしてください。2年生以上には現代物理学総説の読替科目となります。</p> <p>●教員連絡先 増山：理学部本館南棟238室 e-mail: mashi@yamaguchi-u.ac.jp URL http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/mashi/</p>					

開設科目	生物学の考え方	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	伊藤真一				
<p>●授業概要 生命科学の成果はわれわれの日常生活を大きく変えつつあります。文系の学生であっても今後生命科学と無縁で暮らすことはできない時代になりました。この授業は、高校で生物を履修する機会がなかった学生を対象に、生命科学のもっとも基礎的なところ、すなわち最低これぐらいは知っておかないといけないところを解説します。</p> <p>●授業一般目標 クローン動物、遺伝子組換え食品、テーラーメイド医療など、テレビや新聞に登場する生物学関連ニュースに関心を持つとともに、それらを理解するために必要な基礎知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験および小テストの成績を総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：プリント配付。参考書：図説生物の世界(遠山益著, 裳華房), 生物学と人間(赤坂甲治編, 裳華房)など。</p>					

開設科目	地球科学の考え方	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	君波和雄				
<p>●授業概要 固体地球・大気・海洋の形成と進化，およびこれらの出来事と生命の発生・進化との関わり，カタストロフィックな出来事が地球に与えた影響等を通じて，地球科学の基本問題と考え方に関して説明する。</p> <p>●授業一般目標 地球の形成と発展・進化の概要を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。期末試験 80%，小テスト・レポート 20%。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布</p> <p>●教員連絡先 kimik@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部 4 階 445 室 オフィスアワー：時間のあるときはいつでもどうぞ</p>					

開設科目	物理学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然・化地・獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	朝日孝尚, 藤澤健太				
<p>●授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>●授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>●メッセージ 次回のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>●教員連絡先 朝日孝尚;理学部 242 号室, hcc30@yamaguchi-u.ac.jp 藤澤健太;理学部 231 号室, kenta@sci.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然・化地・生資	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	野崎浩二/長谷部勝彦				
<p>●授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表（ガイダンス後に掲示）に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>●授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。 ・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>●メッセージ 次のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>●教員連絡先 野崎浩二；理学部 236 号室, nozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー随時</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	機械・知能・機材・看護・検査	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	大島直樹				
<p>●授業概要 物理学実験と化学実験は対になっている。6回ずつ物理学実験と化学実験を交互に行う。物理学実験では、高等学校俺バルの物理学の知識をもとに、力学・熱力学・光学・電磁気学などの基礎分野から6テーマの実験を行って、実験データの解析とレポートの作成を行う。</p> <p>●授業一般目標 物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学の分野における基本トけいな物理現象や原理・概念を説明できるようにするとともに、「ものづくり」のための基礎技術と初歩的な技術作文の書き方を身につけることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績は実験の出席とレポートで評価する。単位修得の必要最低条件は、すべての実験に出席し、すべてのレポートを提出することである。病気入院などの事情により欠席せざるを得ない場合は、事前にその旨を申し出ること。無断欠席した場合は、不合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理学実験, 山口大学理学部自然情報科学科, 山口大学, 2004 年；履修する人は、必ず購入すること。</p> <p>●メッセージ 物理学実験ホームページ http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/</p> <p>●教員連絡先 連絡先は、共通教育事務室まで</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	医学	単位	1 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	笠野裕修、山本惺史				
<p>●授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Kの11テーマをローテーション表（ガイダンス後に掲示）に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>●授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。 ・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>●メッセージ 実験テーマについて必ず予習をしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館239号室 月曜日9：30～11：30</p>					

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	大島直樹				
<p>●授業概要 物理学実験と化学実験は対になっている。6回ずつ物理学実験と化学実験を交互に行う。物理学実験では、高等学校俺バルの物理学の知識をもとに、力学・熱力学・光学・電磁気学などの基礎分野から6テーマの実験を行って、実験データの解析とレポートの作成を行う。</p> <p>●授業一般目標 物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学の分野における基本Tけいな物理現象や原理・概念を説明できるようにするとともに、「ものづくり」のための基礎技術と初歩的な技術作文の書き方を身につけることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は実験の出席とレポートで評価する。単位修得の必要最低条件は、すべての実験に出席し、すべてのレポートを提出することである。病気入院などの事情により欠席せざるを得ない場合は、事前にその旨を申し出ること。無断欠席した場合は、不合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理学実験, 山口大学理学部自然情報科学科, 山口大学, 2004年; 履修する人は、必ず購入すること。</p> <p>●メッセージ 物理学実験ホームページ http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/</p> <p>●教員連絡先 連絡先は、共通教育事務室まで</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然・生資・獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	藤井寛之, 梶原忠彦				
<p>●授業概要 本実験では、有機化学実験、分析化学実験 I・II、物理化学実験、および総合実験の五つの実験から指定された四つを行う。一つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧せっけん、色素、ビニロン等の合成を、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始までに準備しておくこと（フローチャートの作成や問いの答えの記入など）、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40~60% 授業態度や授業への参加度 = 20%未満 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20%未満 出席 = 40~60%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：化学実験テキスト(2005年度)2005年 販売店：共通教育講義棟売店/参考書：現代の生活と物質、西口 毅,化学同人,1996年 ライフサイエンス基礎化学,青島 均・右田たい子,化学同人,2000年 セミマイクロ無機化学定性分析,林・中間・鈴木,東京教学社,1981年 無機半微量分析第2版,松浦・西川・栗村,東京化学同人,1978年</p> <p>●メッセージ 毎回予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出すること。提出しなければ欠席として処理する。理由のいかんを問わず、3回以上欠席すると成績は不可とする。予習段階のフローチャートや問題解答、授業時間の実験態度と実験結果、提出されたレポートや課題の内容などを総合的に評価する。参考書の貸し出しを行っているので、活用して欲しい。</p> <p>●教員連絡先 藤井寛之：E-mail fujii@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5739, 研究室 理学部 405</p>					

開設科目	化学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	化地・生機	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時限
担当教員	外山博英				
<p>●授業概要 本実験では、有機化学実験、分析化学実験 I、II、物理化学実験、および総合実験の五つの実験から指定された四つを行う。一つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ビニロン等の合成を、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始までに準備しておくべきこと（フローチャートの作成や問いの答えの記入など）、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40~60% 授業態度や授業への参加度 = 20%未満 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20%未満 出席 = 40~60%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：化学実験テキスト 2004年度 販売店：共通教育講義棟売店/参考書：現代の生活と物質、西口 毅,化学同人,1996年 ライフサイエンス基礎化学,青島均・右田たい子,化学同人,2000年 セミマイクロ無機化学定性分析,林・中間・鈴木,東京教学社,1981年 無機半微量分析第2版,松浦・西川・栗村,東京化学同人,1978年</p> <p>●メッセージ 参考書の貸し出しを行っているので、活用して欲しい。毎回予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出すること。提出しなければ欠席として処理する。理由のいかんを問わず、3回以上欠席すると成績は不可とする。</p> <p>●教員連絡先 農学部 311号室 内5859 随時</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	機械・機材・看護・検査	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	青島均				
<p>●授業概要 本実験では、有機化学実験、分析化学実験 I、II、物理化学実験および総合実験の 5 つの実験から指定された 2 つを行う。1 つの実験は各々 3 日間で行う。有機化学実験では化粧 石けん、色素、ビニロン等の合成を、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属 陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の 背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始までに準備しておくべきこと（フローチャートの作成や問の答の記入など）、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p>●成績評価方法（総合） 予習（フローチャートの作成）、実験、レポートにより評価する。なお 2 回以上の欠席で 不可とする。なお課題やレポートは次週火曜日の 1 時まで、化学実験室入り口の提出ボックスに提出すること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：化学実験テキスト（2005 年度版）を共通教育売店で販売します。なお毎年更新しますのでガイダンス時まで必ず購入してください。／参考書：現代の生活と物質、西口毅、化学同人、1966 年；ライフサイエンス基礎化学、青島、右田、化学同人、2000 年；セミマイクロ無機化学定性分析、林、中間、鈴木、東京教学社、1981 年；毎回問題を課しますから、図書館などで調べて回答してください。</p> <p>●メッセージ 他人のレポートを写した場合は、両者とも不可にします。実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。自分でやることにより、社会に出たときの力となります。いやいややるのではなく、喜びをみいだしながらやってください。</p> <p>●教員連絡先 青島均：理学部北棟 4 0 3 号室、電話：933-5762、e-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp；会議などの用事が無い限りいつでも対応します。できれば前もって電話、メールでご連絡ください。なお事務的なことは、事務室の実験担当の方にご連絡ください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	医学	単位	1 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時限
担当教員	谷誠治、松崎浩司				
<p>●授業概要 本実験では、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験、および総合実験から 指定された二つの実験を行う。有機化学実験では化粧石けん等の合成を、分析化学実験 では金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を、そして、総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p>●授業一般目標 化学実験における試薬や器具の扱い方など基礎的実験法を習得し、実験を通じて操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、フローチャートの作成、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。</p> <p>●成績評価方法（総合） 「出席」と知識・理解の目安となる「課題（予習など）およびレポート」を重視するが、関心・意欲・技能・技術をはかる「実験態度」も評価する。課題やレポートは期限までに提出すること。提出しない場合は欠席として処理する。2 回以上の欠席者は不適格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書名：化学実験テキスト（2005 年度）販売店：共通教育講義棟売店／参考書：セミマイクロ無機化学定性分析、林・中間・鈴木、東京教学社、1981 年；無機半微量分析第 2 版、松浦・西川・栗村、東京化学同人、1978 年；現代の生活と物質、西口毅、化学同人、1996 年；ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000 年</p> <p>●メッセージ 上記以外にも多数の参考書が用意されているので、予習・復習に十分活用して欲しい。</p> <p>●教員連絡先 谷誠治/E-mail:stani@yamaguchi-u.ac.jp/電話:083-933-5737/研究室:理学部 本館 4 階 433 号室/オフィスアワー:随時</p>					

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時限
担当教員	吉本信子, 星田尚司, 遠藤宣隆, 山崎鈴子, 徳光隆雄, 西口 毅				
<p>●授業概要 本実験では、有機化学実験、分析化学実験 I, II, 物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された2つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。また、総合実験では身の回りにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始前までに準備しておくべきこと（フローチャートの作成や予習問題の解答など）、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p>●成績評価方法（総合） 予習（フローチャートの作成）、実験、レポートにより評価する。なお2回以上の欠席で不可とする。課題やレポートは次週火曜日の13時までに化学実験室入り口の提出ボックスに提出すること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：化学実験テキスト（2005年度版）を共通教育売店で販売します。なお毎年更新しますのでガイダンス時までには必ず購入して下さい。／参考書：現代の生活と物質、西口 毅、化学同人、1966年；ライフサイエンス基礎化学、青島、右田、化学同人、2000年；セミマイクロ無機化学定性分析、林、仲間、鈴木、東京化学社、1981年；物理化学の基礎、柴田茂雄、共立出版、1999年；毎回、予習問題や課題を課しますので、図書館で調べて解答してください。</p> <p>●メッセージ 他人のレポートを写した場合は、両者とも不可にします。実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。自分でやることにより、社会に出たときの力となります。毎回、何かひとつでも喜び（楽しみ）を見出しながら実験をしてください。</p> <p>●教員連絡先 吉本信子：工学部本館4F, 410教室, e-mail: nobuko@yamaguchi-u.ac.jp, 会議・出張などの用事がない限り対応します。前もってメールで連絡してください。レポートの提出などの事務的なことは、事務室の実験担当の方に聞いてください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教員	渡辺雅夫, 上野秀一, 岩楯昭博				
<p>●授業概要 いろいろな方法で生命現象を科学的に研究していく態度や基礎的な知識の修得を目指し、解剖学、細胞組織学、生理学、生化学、生態学などの分野にわたる実験実習を行い、毎回レポート作成する。毎回の実験の目的、方法については、プリントを配布して説明を行うほか、視聴覚機器を通じて資料を提示して経験密度を高めてもらう予定である。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行うなかで機器や器具の基本的な扱い方、観察・研究の姿勢、実験結果のまとめ方、レポート作成の仕方を修得することを目的とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 毎回のスケッチ、レポートの評価（宿題、学習課題を含む）および定期試験（理解度テスト）の成績を下記のような割合で合計し、総合評価とする。遅刻や欠席は減点対象とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料プリントを配付する予定。／参考書：授業時間に紹介する</p> <p>●教員連絡先 渡辺雅夫 E-mail: masao.w@yamaguchi-u.ac.jp, 内線 5767, オフィスアワー：月曜 14:30～16:00</p>					

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	渡辺雅夫、堀 学				
<p>●授業概要 いろいろな方法で生命現象を科学的に研究していく態度や基礎的な知識の修得を目指し、解剖学、細胞組織学、生理学、生化学、生態学などの分野にわたる実験実習を行い、毎回レポート作成する。毎回の実験の目的、方法については、プリントを配布して説明を行うほか、視聴覚機器を通じて資料を提示して経験密度を高めてもらう予定である。</p> <p>●授業一般目標 これらの実験を行うなかで機器や器具の基本的な扱い方、観察・研究の姿勢、実験結果のまとめ方、レポート作成の仕方を修得することを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回のスケッチ、レポートの評価(宿題、学習課題を含む)および定期試験(理解度テスト)の成績を下記のような割合で合計し、総合評価とする。遅刻や欠席は減点対象とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 資料プリントを配付する予定。/ 参考書: 授業時間に紹介する</p> <p>●教員連絡先 渡辺雅夫: E-mail: masao.w@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 理学部3号館113号室(内線5767)</p>					

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	山内直樹				
<p>●授業概要 生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に用い、それを通じて地球上の生命全体に関わる学問の進展に寄与しています。新入生諸君は今それらの入り口にいます。諸君がこれから教育を受けていく学問分野の多くは、実験を行い確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学です。ここで言う実験は、これから農業教育を受けていくに当たって、あらかじめ触れておくのと良いと思われることからです。</p> <p>●授業一般目標 本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理および分子遺伝の教育を受けるのに必要な基本的実験手法を修得し、これらの実験を通じて生命現象の科学的アプローチの仕方を会得することを目的としています。実験は微生物、動物、昆虫、植物について行います。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席回数、レポート、実験中の態度などを総合して評価する。</p> <p>●メッセージ ★白衣着用のこと。★携帯電話の電源を OFF にしておくこと。実験中は携帯電話を使用しないこと。★最初に説明をするので遅刻しないこと。★実験終了後は実験に使用した物や消しゴムのかすなどを残さないこと。丸イスを実験台にのせること。</p>					

開設科目	地球科学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	自然・獣医	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	鎌田祥仁				

- 授業概要 地球科学は、地球上で発生する現在および過去の自然現象を解明する分野であることから、地層・岩石、化石などを扱いながら、これらの観察の基礎実習を行う。本実験では室内作業だけでなく野外実習も行う。
- 授業一般目標 地球科学に関する基礎的な実験・演習を通して、地球科学に対する理解を深めると共に、室内の実験方法および野外での観察方法を取得する。
- 成績評価方法(総合) 毎回提出するレポートにより理解度、技能・表現などを、出席と授業中の参加態度から関心・意欲を評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。
- 教員連絡先 研究室：理学部4階446号室

前期一応用科学系列

開設科目	社会科学のためのやさしい統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	野村淳一				
<p>●授業概要 統計学とは具体的に何を明らかにするための学問であるかを解説する。講義では理論の解説は最小限にとどめ、具体的な応用例を多く解説・計算しながら、統計学的センスを養うよう努める。ジャンボ宝くじの期待賞金額の計算、池にいる魚の数の推定、学習塾の効果の検証など、電卓を用いて実際に計算・考察してみる。また、社会科学で用いられる社会調査（アンケート調査等）を利用する際の注意点も併せて解説する。</p> <p>●授業一般目標 統計学の基礎的な理論を習得し、統計学の見方・考え方を理解する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験 80 %、質問書・レポート 20 %。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：確率・統計のしくみがわかる本、長谷川勝也、技術評論社、2000 年／参考書：「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ、谷岡一郎、文春新書、2000 年</p> <p>●メッセージ ルートの計算できる電卓を用意すること。</p> <p>●教員連絡先 nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）</p>					

開設科目	社会科学のためのやさしい統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	橋本 寛				
<p>●授業概要 統計学の初歩的事項について、社会科学分野で必要と思われるものを平易に紹介する。</p> <p>●授業一般目標 統計学における基本的な概念や手法について学ぶ。</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験による。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定。</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	中村秀明				
<p>●授業概要 自然科学、社会科学を問わず、世の中にはさまざまなデータが溢れている。統計学はこのようなデータの中から有用な情報を抽出する手法である。本講義では、初めて統計学の講義を聴く学生が、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法が身につけられるように、実例を交えながらわかりやすく説明する。</p> <p>●授業一般目標 本講義では、統計に対して正しい理解を得ることを最大の目的とし、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法を身につけることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験 (中間試験と期末試験) = 75 % 授業内レポート = 20 % 授業外レポート = 15 % 出席 = 欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は、特に指定しない。毎回プリントを配布する。／参考書：図解雑学 統計, 今野紀雄, ナツメ社, 1999 年；図解でわかる統計解析, 前野昌弘、三國 章, 日本実業出版, 2000 年</p> <p>●メッセージ 授業では、パソコンを用いた Excel での演習を行うことがあるので、ノートパソコンを持っていることが望ましい。必要に応じてプリントを配布します。授業に関する情報は、下記のホームページに掲載します。 http://gateway2.design.csse.yamaguchi-u.ac.jp/lab/</p> <p>●教員連絡先 nakamura@design.csse.yamaguchi-u.ac.jp 電話：0836-85-9531 研究室：工学部総合研究棟 8 階 オフィスアワー：月曜日 13:00～17:00</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	北村 寿之				
<p>●授業概要 確率論は数学的には完成された理論である。一方統計学は不確定な要素をもつものである。実験、実習で得られたデータから何かを得るには、確率の理論によって、意味のある結果を作り出す必要がある。このための基礎を学ぶことになる。</p> <p>●授業一般目標 確率の公理から定理へと発展的に確率論を展開し、その間に、用語の定義を明確にする。確率変数とその分布によって、特徴づけられる母集団の特性値を推定または検定することを学ぶ。具体的な例題によって実習する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 各回の出席、小テストの成績、レポートの評価、期末試験の成績の総合点による。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：概説 確率統計, 前園 宣彦 著, サイエンス社, 2003 年；販売店：大学前文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には統計計算ができる電卓を必ず用意すること。</p> <p>●教員連絡先 083-923-1471</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	糸原義人				
<p>●授業概要 自然科学ではただ単なるデータを如何に意味ある情報にするかが大切です。そしてそうした情報を作り、信頼性を与える一つの方法に統計学があります。本講では、統計学の意義と基本的考えを学ぶと共に、データの統計的処理や理論的検討を通じて、実際に利用できる統計学を目指します。そのために、演習・復習を課します。授業には、各自出題を解くことができるように、毎時間電卓、定規、レポート用紙の準備をお願いします。</p> <p>●授業一般目標 授業は基本的に次の3つのテーマからなります。1. データ処理と情報作成、2. 確率と確率分布、3. 統計的推定と検定 授業内容を暗記するのではなく、要は統計処理が必要になったとき、どこに何が書いてあって、それをどのように利用すればよいかを学んで頂きたいと思います。そのためには、統計とは何か、統計処理は何故必要か、といったところをよく理解することが大切です。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に毎週出す宿題(演習の続き)を中心とします。100点満点で、宿題のレポートを40%、定期試験を40%、授業内レポートを10%、出席を10%とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：宮川公男「基本統計学第3版」有斐閣 基本統計学と共に、毎週プリントを配布し、テキストとして利用します。／参考書：蓑谷千風彦「統計学のはなし」東京図書 石村貞夫「統計解析のはなし」東京図書 P.G. ホーエル著、浅井晃他訳「初等統計学」培風館</p> <p>●メッセージ 基本的に毎時間レポート提出を求めます。継続は力です。諦めることなく、最後まで頑張って下さい。</p> <p>●教員連絡先 gbb50@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：農学部2階 オフィスアワー：水曜日午後</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	野村厚志				
<p>●授業概要 計算機における情報の表現方法とそれを用いた情報処理について概説する。また、最近の話題となっているインターネットに代表されるような情報通信ネットワークの基礎やその周辺について紹介する。主な項目は以下のとおりである。(1) 計算機における情報の表現方法。(2) 計算機の仕組み(ハードウェア)。(3) 計算機における情報処理の方法。(4) 計算機ネットワークの基礎と利用法。</p> <p>●授業一般目標 計算機とそれを用いた情報処理及び情報通信ネットワークについて、一般的な新聞・雑誌等の記事を読み解くことができるレベルまで理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間・期末試験の結果と毎回の授業で課す課題を総合的に評価する。なお、情報処理技術者試験合格者は加点するので申し出ること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：新版 情報処理の基礎, 水上孝一, 朝倉書店, 1998 年</p> <p>●教員連絡先 教育学部 226 号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13 時~15 時</p>					

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員					

開設科目	社会福祉学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	横山正博				
<p>●授業概要 社会福祉の総論について講義する。特に、介護保険制度創設等を踏まえて、在宅生活者が疾病や障害をかかえながらその在宅生活を支援していく地域福祉・保健・医療の質が問われてきている。医療職として、これからの地域福祉・保健・医療をどのような視点からみていけばよいか、またそれらの連携の必要性あるいはそのあり方を学習する手がかりを学生が得られるような内容を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 学生は社会福祉の基礎理念を学ぶと同時に、その歴史・思想等について学びながら現在における社会福祉およびその関連分野の諸問題を自ら発掘していくことのできる力を身につける。またそれらの諸問題を医療職という立場からどのような視点で問題解決にあたる必要があるかについて学ぶ。特に福祉・医療・保健といった分野からのそれぞれのアプローチとそれらが統合された形での連携のありようについて学習する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 社会保障と生活者の健康 社会福祉, , 医学書院, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	科学史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	川崎勝				
<p>●授業概要 本講義では、われわれが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18 世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまではごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。</p> <p>●授業一般目標 高度科学技術社会（ハイテク社会）で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。</p> <p>●成績評価方法（総合） 学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：科学の社会史（増訂版）、古川安、南窓社、2000 年／参考書：ハイテク社会を生きる、調麻佐志・川崎勝他、北樹出版、2003 年</p> <p>●メッセージ 歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文理の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。なお、もし受講希望者が 100 名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。授業に関する情報を随時 Web 上の「kawasaki's room」(http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html)に掲載します。参照してください。</p> <p>●教員連絡先 mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp（上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください） 研究室 医学部（小串キャンパス）時間帯は相談に乗りますので、上記アドレスにメールをお送り下さい。</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工（昼・夜）4 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限（夜間）
担当教員	古川浩平, 田村洋一, 濱田純夫				
<p>●授業概要 本講義は、建設技術の基礎を習得するためのものである。土木工学の発達の歴史を国内および世界へと展望する。土木工学の歴史は科学技術の歴史に通ずるところもある。まず、土木構造物の代表とも言える橋について、その歴史を長大橋の建設に至るまでの講義を行う。その中には、落橋事故や人的、社会的背景などについても含まれる。次いで、道路交通が当面している諸課題を日本の道路交通の歴史的特徴と関連付けながら解説し、その上でバリアフリー、TDM、ITS の必要性と意義について説明する。さらにこれらに関わる施策・技術の内容と進展経過、今後の技術開発課題について紹介し、解説する。最後に、近代土木工学における材料について解説する。</p> <p>●授業一般目標 この講義は土木工学の概観ばかりでなく、社会・環境との連繋の有り方を学ぶことを目標とする。 (C) 実務への応用力と倫理観のある技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・C-1 実務上の問題点や課題を理解し、適切に対応する能力 ・C-2 土木技術者の関与するプロジェクトが社会や自然環境に及ぼす影響を理解する能力（技術者倫理・環境倫理） (D) 豊かな教養と多面的な視点を持つ技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・D-1 技術、人類、文明、地域、自然の相互の係わりを理解する能力 ・D-2 基礎的な国際コミュニケーション能力</p> <p>●成績評価方法（総合） 全回出席を条件とする。ただし、やむを得ない事情があった場合には、次回の講義までに必ず担当教官に届け出る。毎回レポートを課すので、必ず全て提出すること。評価は、最終的に課したレポートの内容により判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：プリント配布</p> <p>●メッセージ 履修上の注意 古川・田村・浜田の各担当者による試験またはレポートにより、理解度を判定する。それぞれが 60 点以上であることが要求される。病気などやむを得ない理由で欠席した場合には必ず次の授業時間までに担当教官に理由を申し出ること。</p> <p>●教員連絡先 古川浩平：E-mail furukaw@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9327, 研究室 構造設計工学 田村洋一：E-mail ytamura@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9308, 研究室 都市空間計画学 濱田純夫：E-mail shamada@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9347, 研究室 施設材料工学</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工・農除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	岡村吉永, 森岡弘, 古賀和利				
<p>●授業概要 技術とは何だろうか。よく聞く言葉ではあるが、その意味や内容は多様である。本授業では、はじめに「技術」という言葉およびその用法について考察し、この後さまざまな分野における技術の変遷や実例について概説する。主な分野および内容は、身近にある技術、伝統的な技術としての手加工（木材を中心とした加工）と最近の木材利用技術、現代西洋技術の先端であるコンピュータ、メカトロに代表される機械の制御技術などである。</p> <p>●授業一般目標 本授業は、人と技術、人間社会と技術、環境と技術など、総合的な関わりの中で技術をとりえる必要を知り、自分なりの技術をみる目すなわち技術論の形成ができるようになることを目的とする。</p> <p>●メッセージ 身近な技術に対する関心を高めてもらうため、受講者の興味・関心によって内容を変更する場合があります。</p> <p>●教員連絡先 岡村吉永 (okasun@yamaguchi-u.ac.jp)・金 12:40～14:00 森岡弘 (morioka@yamaguchi-u.ac.jp) 古賀和利 (koga@inf.edu.yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	技術史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	北川亮三				
<p>●授業概要 今から約 150 年の昔、長州藩の高杉晋作や薩摩藩の五代友厚は最貧の国の日本を欧州並みの富国にしようと「世界の五大洲一の富国にする」との夢を持って改革に向かった。富国の夢を実現するには工業力と交易の充実が不可欠であり、その基礎となる「日本における近代工業技術の始まり」を探索して行きたい。明治維新以降、工業技術の導入と発展に盡した長州藩派遣英国留学生や米国留学生の果たした役割はあまりにも大きい。彼らの業績から今日の繁栄を導いた近代工業技術の発展過程を考えていきたい。</p> <p>●授業一般目標 日本の主権と領土を守り、富国に導くため先人達は何を考え、実行してきたのだろうか？幕末、欧米列強海軍艦艇の来航とそれに対抗する洋式海軍の創設過程で、欧米社会における富国の源を探索する為、若者は長崎海軍伝習所でヨーロッパの科学技術を学び、数学・物理・化学・語学など、今日でも行われている基礎教育科目の重要性を認識した。これが明治以降の発展に貢献している。長州藩は 1863 年、藩士 5 名を留学生として、英国に派遣した。そして、当時の先端技術や制度を学び、明治維新後の国造りに生かし、今日の繁栄を導いた。過程、先見性と改革の精神を学びたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テストと期末試験で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義の時に資料を配付する。欠席者に対しては特別に配布しない。／参考書：第 1 回の講義で参考書の目録を配布する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	和田直己・山本芳実・森本将弘				
<p>●授業概要 3人の教官が分担してそれぞれの専門分野から生命科学全般について講義を行う。</p> <p>●授業一般目標 進化、DNA, Locomotion, 脊椎動物、ウイルスの講義を通して生命とは何かを考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席とレポートを評価する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	藤宮龍也				
<p>●授業概要 クローン人間や遺伝子工学など生命科学の知識はよく耳にするようになりました。21世紀は生命科学の時代といわれ、社会生活を行う上で必須の常識となりつつあります。そこで、生命の誕生から病気や死に至るまでの種々の生命現象を取り上げ、様々な角度から科学的に検討し、学生諸君の新しい視点の構築の助けとなることを目指します。</p> <p>●授業一般目標 複雑な生命現象や医学的問題のうちトピックスをとりあげ、科学的にどのようにして解析され、どこまで解明されているかについて理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席 40%、授業態度や授業への参加度 10~20%、小テスト 10~20%、課題レポート 20~40%程度で、総合評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じて資料の配付を行う。</p> <p>●メッセージ 授業中は携帯電話の電源を切る(又はマナーモード)。自分の頭で考えよう。関連ホームページ： http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/</p> <p>●教員連絡先 医学部法医学教室、藤宮龍也</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	井上愼一遠藤克彦				
<p>●授業概要 君も私も生命であり、周りのある多くのものも生命である。従って、その理解は我々の日常生活や、生活態度にとっても大きな意味を持っている。昔から人々はこの生命を理解するために多くの努力を払ってきた。その歴史をたどりながら、生命というものの特質を理解しようとしてきた生命科学の内容と独自の考え方について学んでゆきたい。</p> <p>●授業一般目標 生命の科学の概念と原則</p> <p>●成績評価方法(総合) レポートと試験の成績</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生命科学はこんなにおもしろい、柳田充弘、日本経済出版社、2000年／参考書：John A. Moore, Science as a way of knowing, Harvard 1993</p> <p>●教員連絡先 井上愼一：inouye@yamaguchi-u.ac.jp 遠藤克彦：endo@yamaguchi-u.ac.jp, Office hours: Monday 13:00-15:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 展開2

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	人間環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限
担当教員	中尾勝實				
<p>●授業概要 1972年の国連人間環境会議（ストックホルム会議）では、次のような人間環境宣言が採択されている。「環境衛生の考え方は、余りにも人間中心である。人間も地球上に生存する生物の一種であって、自然界は生物と無生物との複雑で、しかも精巧な調和によって成り立っている。人間もその調和の中においてのみ生存を続けることができる。したがって、人間が生存を続けてゆくためには、自然環境を保全してゆかなければならない。」身近な地域の大气汚染、水質汚濁、廃棄物処理から酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの地球環境問題に至るまで、様々な環境問題は、工業化、都市化及び人口増、換言すれば大量生産、大量消費、大量廃棄という現在の私達の生活のあり方に起因している。そのため、社会経済システムやライフスタイルのあり方を見直し、持続的発展が可能な環境への負荷の少ない循環型社会を築くことが、今日私達一人ひとりの責務となっている。本講義では、まず地域及び地球環境問題の概要について触れ、ついで持続可能な社会の発展を保障する一つの方策として、自然環境に調和した工業生産システム—すべての物質が大气圏、水圏及び地圏という環境中を、そこに存在するあらゆる生物に何ら影響を及ぼすことなく、太陽をエネルギー源として循環しているシステム—を構築していくことの必要性と可能性について述べる。</p> <p>●授業一般目標 私達の日常生活及び産業活動の基盤である自然環境を健全で恵み豊かなものとして保全し、創造することが、持続可能な社会の構築にとって不可欠であることを理解する。そのために、あらゆる人間活動が自然環境（生態系）における生命現象と調和することが極めて重要であることを理解する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期試験＝70％ 宿題／授業外レポート＝30％ 出席＝欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：平成16年版環境白書、環境省編、ぎょうせい、2004年；エコトピア—環境調和型社会の提案、内藤正明、日刊工業新聞社、1992年；地球温暖化を考える、宇沢弘文、岩波新書403、岩波書店、1995年</p> <p>●メッセージ 環境の保全と改善のために意識を高め自主的に実践できるようになってほしい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	上地 広昭				
<p>●授業概要 行動科学の視点から、運動行動と健康の関係について説明し、運動行動を決定する要因、および運動行動を説明する理論・モデルを紹介する。また、グループワークにおいて、運動行動を促進させるためのプログラム開発に取り組む。</p> <p>●授業一般目標 運動行動が健康に果たす役割、運動行動の決定因、および運動行動に関する理論・モデルの理解</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席率と定期試験の成績により評価する。</p> <p>●教員連絡先 教育学部 体育・スポーツ心理学研究室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	青木邦男				
<p>●授業概要 大学生を送る中で身近に起こる健康・体力についての問題や話題を中心にして、将来にわたって健康的で行動的な日常生活を送るために必要な健康・スポーツ関連諸科学の基本的で科学的な知見や実践的な身体活動（運動・スポーツ）の諸方法を解説する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 健康・体力の保持増進のために必要である基本的で科学的な健康・スポーツ諸科学の知見を説明できる。(2) 健康・体力の保持増進や生活習慣病の予防のための運動実践の方法を処方できる。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 毎回の授業において短いレポートを課す。(2) 中・期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布する。／参考書：田口貞善、山地啓司 編著、近代科学社「若いときに知っておきたい運動・健康とからだの秘密」</p> <p>●メッセージ 履修希望者が80名を越えた場合には、抽選を行うので初回には必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 aoki@yamaguchi-pu.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	河合洋祐				
<p>●授業概要 機械化、動力化、情報化による急速な生活環境の変化は我々のライフスタイルを変え、日常の身体活動量を大きく減少させた。これは体力を低下させるとともに、食生活の変化と相俟って生活習慣病の危険因子をも招来しやすくしている。一方、適切な運動習慣は体力を向上させ、ある種の病気を予防したり、免疫力を高める可能性も明らかになってきた。今後到来すると予想される高度情報化社会において身体運動の重要性は一層高まるものと考えられる。本講義では運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を概説する。</p> <p>●授業一般目標 生活習慣と健康の関わりについて学ぶとともに、運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を理解し、健康にとって望ましいライフスタイルの確立を促すことを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 期末試験を実施する。2. 授業の進度に応じて小テストあるいはレポートを課す。以上を下記の観点・割合で評価する。期末試験の受験資格は欠席回数4回以内で小テスト、レポート課題を終了した者とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：毎回配布するプリントを使用する。／参考書：講義の中で紹介する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	塩田正俊				
<p>●授業概要 テニスは技術（ラケット・ワーク）、体力（フット・ワーク）そして精神力（ヘッド・ワーク）を要求される、かなりタフなスポーツである。しかし、老若男女をとわず体力、年齢に応じて楽しめるスポーツである。生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。この授業では、基本技術をマスターし、ゲームおよびゲーム進行（審判法）を学習する。また、テニス特有のマナーなどについても学習する。</p> <p>●授業一般目標 テニスは生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。テニス技術は一見簡単にマスターできるように見えるが、実際コートにたつてプレーをしてみるとなかなか思いどおりにいかない。まずは基本的な技術をマスターすることから始め、最終的には楽しくゲームができるまでをねらいに行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 欠席4回以上は評価しない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 必要に応じてプリントを配付</p> <p>●メッセージ 天候や皆さんの習熟度に応じて授業内容を変更することがあります。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	高倉正樹				

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	矢野道代				
<p>●授業概要 エアロビクダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングの代わりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p>●授業一般目標 エアロビクダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムにあわせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席4回は欠格とする。</p> <p>●メッセージ 共に動くことの楽しさを発見して欲しい。心と身体を解放して、しなやかな表現のできる身体をつくりましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (フィットネス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	曾根涼子				
<p>●授業概要 フィットネスの概念は、アメリカで生まれ、ただ単に病気がない状態ばかりではなしに、日常の生活が活動的に行われることを想定して、その能力を表す言葉として用いられてきた。定期的に身体運動を繰り返していると、その運動刺激に対して身体が適応していく。本コースでは、この身体の適応性を利用してフィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学習する。</p> <p>●授業一般目標 フィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学び、実践能力を修得してもらうことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料および記録用紙を配付する。</p> <p>●メッセージ 授業開始時の出席確認時に不在の場合、欠席として扱う。形態・体力測定があります。</p> <p>●教員連絡先 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時～12 時</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	高倉正樹				

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	矢野道代				

●授業概要 エアロビクダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングの代わりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。

●授業一般目標 エアロビクダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムにあわせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。

●成績評価方法（総合） 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席4回は欠格とする。

●メッセージ 共に動くことの楽しさを発見して欲しい。心と身体を解放して、しなやかな表現のできる身体をつくりましょう。

開設科目	スポーツ運動実習 (ハンドボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	森田俊介				
<p>●授業概要 ヨーロッパで盛んに行われているハンドボールは、走・投・跳の運動基本動作を利用して、ボールをパス・キャッチ・ドリブルしながら相手ゴールに投げ込むチームスポーツである。比較的小さなボールを手で扱うため、誰でもが参加して気楽に楽しむことができる反面、個々のメンバーにはコンビネーションプレーに必要なスピード、スタミナが要求される。この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目的とする。</p> <p>●授業一般目標 この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 参加度 (50%)、習熟度 (30%)、意欲度 (20%) などから総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：必要に応じて授業中にプリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 各自はコンディショニングに最大の配慮をすること。</p> <p>●教員連絡先 電話 933-5385</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ターゲットバードゴルフ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	宮田浩文				
<p>●授業概要 ターゲットバードゴルフは、羽根つきのボールを普通のゴルフクラブで打つ、ミニゴルフの一種である。羽根が付いているために、強打しても 20~30m しか飛ばず、狭いコースでもフルスイングができる。そのため、初心者にも、爽快感があり、適度な技術的難度性も有しているレクリエーションスポーツである。ターゲットバードゴルフは運動量があまり多くないので、各時間の最初 20 分ぐらいは、ウォーミングアップを兼ねてランニング、補強運動等を行う。</p> <p>●授業一般目標 1) 基本的なルールの理解 2) 基本的なグリップ、スイングの習得 3) 簡易コースでのラウンドに必要な知識と技術の習得</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業中の態度と出席状況の総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 時間厳守</p> <p>●教員連絡先 月曜日午前中</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	田中富美子				
<p>●授業概要 「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により 1967 年初めて提唱された運動 処方理論から発し、1970 年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エアロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつながる実践を行う。</p> <p>●授業一般目標 音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 4 回以上の欠席は、欠格とする。出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (サッカー)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	皆川孝志				
<p>●授業概要 サッカーは、ゲームの状況を的確に判断し、プレー (行動) を決定することにこのスポーツの楽しさがある。したがって、サッカーの本質=ゴールを奪い、ゴールを守り、ボールを奪い合うこと=を通して、ゲームの状況判断と自己のなすべき行動を各自がチームの一員として決定していくことに他ならない。そのためには、ボールの操作能力、身体のバランス能力、全身持久力、パワーなどの運動技能や体力が必要になる。これらの能力を高めるとともに、ゲームの中でチームの一員としての役割、ゲームの状況の理解を促しボールゲームの楽しさを体験する</p> <p>●授業一般目標 (1) チームの一員として同僚と協力してボールを奪い、得点を取り、ゴールを守るために 瞬時に状況を的確に判断し、チーム内での役割を適切に演じ、チームの勝利に貢献する (2) ボールの操作能力、身体のバランス能力や全身持久力、パワーなどの有酸素、及び無酸素能力を高める (3) ボールゲームを楽しむために必要なルールを理解し、フェアプレーを通してサッカーの本質を体験する</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 授業への参加態度 (積極性、協調性など) を重点的に評価する この評価は教官観察とレポート (練習内容、ゲームにおけるチームの目標、達成度、チームへの寄与、反省点など) から行う 2. 期末試験 (テキスト内容についての設問、トップゲームのビデオ観戦からその内容についての設問)、及び出席率も評価対象とする 以上を下記の観点から評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 独自のテキストを使用する / 参考書: 基礎からのサッカー, 勝矢寿延, ナツメ社, 2002 年; サッカーの練習プログラム, 山口隆文, 齊藤 登, 大修館書店, 2000 年</p> <p>●メッセージ 楽しい授業構築のために受講生の協力をお願いします 体調を管理して授業に参加して下さい</p> <p>●教員連絡先 E メール: takmina@c-able.ne.jp TEL:083-922-6155</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	三好洋二				
<p>●授業概要 バドミントンというスポーツの楽しさは、その発生から考えてラリーを続けることにある。この授業では、このラリーを続けるという楽しみを味わいながら、ゲームに必要な技術を習得し、バドミントンというスポーツの実践能力を養います。</p> <p>●授業一般目標 本授業では、バドミンントンの基本的な個人的技能（ストローク、サービス）、ゲームでのフォーメーション、基本的ルールを学習・習得するとともに、生涯にわたってスポーツを実践する態度を養う。</p> <p>●成績評価方法（総合） 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●メッセージ 授業の性格からして、きちんと出席し実践することが大切です。それによって初めてスポーツの楽しさ、おもしろさを感じ取ることができます。</p> <p>●教員連絡先 ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部162番室 オフィスアワー金曜日15：00～18：00</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	丹信介				
<p>●授業概要 テニスは、生涯を通して楽しめるスポーツの一つである。このようなテニスのゲームを楽しむようになるためには、最低限の基礎技術の習得が必要となる。この授業では、初心者、初級者を対象の主体とし、テニスのゲームが楽しめるようになるための基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の目標のひとつとして、授業を進める。授業の後半では、習得した基礎技術実践の場であるゲームを中心に授業を展開する。</p> <p>●授業一般目標 テニスのゲームを楽しむために必要な基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の目標のひとつとする。また、ダブルス（シングルス）のゲームが楽しめるよう、ゲームの進め方、ルールを理解し、実際に行えることも目標のひとつとする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 小テスト/授業内レポート = 20～40 % 授業態度や授業への参加度 = 60～80 % 出席 = 欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p> <p>●メッセージ グランドストロークでのラリーの回数を随時テスト（小テスト）する予定です。テニスシューズを必ず用意して下さい。ラケットは、授業時に貸し出しますが、各自用意したものを使ってもかまいません。</p> <p>●教員連絡先 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12：50～14：20</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	田中富美子				
<p>●授業概要 「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により 1967 年初めて提唱された運動 処方理論から発し、1970 年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エ アロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。 本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつながる実践を行う。</p> <p>●授業一般目標 音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。 個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 4 回以上の欠席は、欠格とする。 出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	杉浦崇夫				
<p>●授業概要 バスケットボールは、冬期の体育の時間に、室内で楽しく克つ活発に行えることを目的にアメリカの J. A. Naismith によって、1891 年に創案されたスポーツである。その特色は、集団対集団のスポーツであること、ボールを持って自由に動けない中でボールを 投げたり捕ったりしなければならないこと、相手の身体には触れないこと、ゴールが小 さく高い所にあることなどにより、危険が少なくスリルに富みそのうえルールの枠内で プレーヤーの自由で創造的 活動の出来るゲームであることなどである。本授業では、ゲームを通してバスケットボールの基本的な個人的技能 (パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど) と集団的技能 (ディフェンス・オフENS など) を学習 する。</p> <p>●授業一般目標 本授業では、バスケットボールの基本的な個人的技能 (パス・キャッチ・ドリブル・ シュートなど)、 集団的技能 (ディフェンス・オフENS など)、基本的ルールを学 習・修得するとともに、バスケットボールに必要な体 力要素を向上させることを通し て、生涯スポーツにつながる実践を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への出席状況から評価する。 なお、 欠席が 4 回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●メッセージ 自分勝手な行動は、慎む。 雨天時には、場所の関係から他の種目を実施することもある。 実技のできる 服装ならびに体育館履きを各自用意する。</p> <p>●教員連絡先 E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5387 研究室 教育学部 H484-1 オフィスアワー 在室 時は、いつでも</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	田中恵美子				
<p>●授業概要 エアロビクダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ (準備運動)、ステップ・メインダンス (有酸素運動)、コンディショニング (筋力強化運動)、クーリング・ダウン (整理運動) を含む 60 分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p>●授業一般目標 エアロビクダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビクダンスの効果を考える。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席 4 回は欠格とする。</p> <p>●メッセージ 動くことの楽しさを実感し、心と身体を理解してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ニュースポーツ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	松本耕二				
<p>●授業概要 「いつでも・どこでも・だれに (と) でも」楽しめるニュースポーツを紹介する。ニュースポーツは、(1) 近年新しく開発された種目、(2) 既存種目のルール・用具を対象者に 応じて改変した種目、(3) これまでわが国において紹介されることが少なかった外国の種目等を総称している。実習では、「ニュースポーツ」と呼ばれる数種目を実践・体験し、基礎技術の習得と ルールの理解、そしてスポーツの持つ本来的楽しさを共有し、スポーツの多様性と本質的意味の理解、また各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を 養うことを目的としている。</p> <p>●授業一般目標 実習では、スポーツの持つ本来的楽しさを共有するために「ニュースポーツ」数種目を積極的に体験・実践する。その中で種目の基礎技術の習得と基本的ルールの把握、さらに種目特性を理解する。そしてスポーツの多様性と本質的意味、さらに各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を養うことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席 (60 %)、授業態度や授業への参加度 (20~40 %)、レポート (20 % 未満) 等にて総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ニュー・スポーツ百科, 水良隆 紺野晃, 大修館書店, 1997 生涯スポーツ実践生涯スポーツ論—生涯スポーツを学ぶ人たちに—川西正 志・野川春夫 編著, 市村出版, 2002</p> <p>●メッセージ これまでに体験したことのないいろいろなゲーム&スポーツを体験したい人、運動・スポーツがちょっと苦手な人、みんなと積極的に交流したい人にお 勧め。実施種目は、施設の状況、天候等により変更することがある。</p> <p>●教員連絡先 Email : kmatsu@yamaguchi-pu.ac.jp 研究室 : 山口県立大学 (本館 3 F)</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	渡壁 史子				
<p>●授業概要 スポーツは文化の一つとして捉えることができるが、中でもバレーボールは近代に入って意図的に作られたスポーツ種目である。本授業では、バレーボールの楽しさを追求していくとともにバレーボールの運営、技術、戦略について理解していく。さらにバレーボールを含めたスポーツを「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、「人間として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。また、今日ではスポーツは授業で行ったり、大学のクラブで行ったりするだけではなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。しかし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続けられないという状況もたくさん生まれている。この授業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関わるためにどのような知識や技能・技術が必要なのかということを考えながら実技を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1) スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につけるため、運営に必要なグループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決めていく。(2) ゲームを軸に、バレーボールの戦術・戦略・審判法を経験を通して学ぶ。(3) バレーボールをするために必要な場作りを実技を通して学ぶ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業時に資料を配布する。／参考書：授業時に紹介する。</p> <p>●メッセージ 話し合いながら授業を進めていくので、自分の意見が言え、人の意見が聞ける能力を身につけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	上田真寿美				
<p>●授業概要 健康を保持・増進するには、継続的な運動の実施は必要不可欠である。本授業では、社会体育でも積極的に活動が行われているバドミントンを実習し、生涯にわたってスポーツを楽しむ方法を学習する。バドミンントンのルールはもちろんのこと、バドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても学習する。</p> <p>●授業一般目標 バドミンントンの基礎的技術、具体的にはダブルスのゲームが可能な範囲までを習得する。そしてルールを学び、自主的にゲームの運営が実施できるようになることを目標とする。さらにバドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても確認しながら実施することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、出席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜、資料等を配布する。</p> <p>●メッセージ 履修者が50名を越えた場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。運動のできる服装と上履きを準備すること。グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座研究室)にいます。オフィスアワー：(前期)木曜日 10:00~15:00、金曜日 14:00~16:30 (後期)水曜日 8:30~10:30</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	田中恵美子				
<p>●授業概要 エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む 60 分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p>●授業一般目標 エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビックダンスの効果を考える。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席 4 回は欠格とする。</p> <p>●メッセージ 動くことの楽しさを実感し、心と身体を理解してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	牧野共明				
<p>●授業概要 スポーツは現代に生きる人間にとって教養の一つである。それは、「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、スポーツを「人間として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。そして、そのためにはスポーツの価値をトータルにとらえることが必要となってくる。また、スポーツは授業で行ったり、大学のクラブで行ったりするだけではなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。しかし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続けられないという状況もたくさん生まれている。この授業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関わるためにどのような知識や技能・技術が必要なのかということを考えながら、「バレーボールそのものの面白さ」も追求しつつバレーボールの実技を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1) スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につけるため、グループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決めていく。(2) 実技においては、ゲーム中心に行い、バレーボールの戦術・戦略を経験を通して学ぶ。(3) スポーツをするために必要な場作りを実技を通して実際的に学習する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業時に資料を配布する。／参考書：授業時に紹介する。</p> <p>●メッセージ 授業では討議をする場が設定されている。みんなの前で自分の意見を積極的 言ってほしい。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：makino@yamaguchi-jc.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習(ニュースポーツ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	松本耕二				
<p>●授業概要 「いつでも・どこでも・だれに(と)でも」楽しめるニュースポーツを紹介する。ニュースポーツは、(1)近年新しく開発された種目、(2)既存種目のルール・用具を対象者に 応じて改変した種目、(3)これまでわが国において紹介されることが少なかった外国の種目等を総称している。 実習では、「ニュースポーツ」と呼ばれる数種目を実践・体験し、基礎技術の習得と ルールの理解、そしてスポーツの持つ本来的楽しさを共有し、スポーツの多様性と本質 的意味の理解、また各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を 養うことを目的としている。</p> <p>●授業一般目標 実習では、スポーツの持つ本来的楽しさを共有するために「ニュースポーツ」数種目を 積極的に体験・実践する。その中で種目の基礎技術の習得と基本的ルールの把握、さら に種目特性を理解する。そしてスポーツの多様性と本質的意味、さらに各ライフス テージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を養うことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席(60%)、授業態度や授業への参加度(20~40%)、レポート(20%未満)等にて総合的に 評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ニュー・スポーツ百科,水良隆 紺野晃,大修館書店,1997 生涯スポーツ実践生涯スポーツ論ー 生涯スポーツを学ぶ人たちへ川西正 志・野川春夫 編著,市村出版,2002</p> <p>●メッセージ これまでに体験したことのないいろいろなゲーム&スポーツを体験したい人、運動・スポーツがちょっと 苦手な人、みんなと積極的に交流したい人にお 勧め。実施種目は、施設の状況、天候等により変更することがある。</p> <p>●教員連絡先 Email: kmatsu@yamaguchi-pu.ac.jp 研究室: 山口県立大学(本館3F)</p>					

開設科目	行動科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	上田真寿美				
<p>●授業概要 本授業では行動科学とはどのような学問かを概説する。そして医療、保健分野における 行動科学について基本事項を説明し、本分野における行動科学の必要性と課題を考える。</p> <p>●授業一般目標 1. 行動科学とはどのような学問かを理解する。 2. 医療、保健分野における行動科学について理解し、本分野における行動科学の必要性 と課題を説明できる。 3. 健康、疾病をめぐる人間の行動の理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 授業内レポートを数回行う。 2. グループディスカッションのまとめのレポートを提出 する。 3. 関心のある医療問題や行動科学についてレポートを提出する。 4. 最後に試験を 実施する。以上を以下の観点、割合で 評価する。出席が所定の回数に満たない者には単 位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：プリント資料を配布する</p> <p>●メッセージ グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁と する。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医 学部医学科医療環境学講座 研究室)にいます。 オフィスアワー:(前期)木 曜日 10:00~12:00、金曜日 14:00~16:00 (後期)水曜日 8:30~10:30</p>					

開設科目	生活科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(数理・自然除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	五島淑子・山本善積・星野裕之				
<p>●授業概要 衣食住のテーマを通して、身近な生活を科学的に捉える。(1)食生活 食生活を科学的に捉え、食品・調理について講義し、よりよい食生活について考える。(2)住生活 住生活環境の問題やその改善方法を説明し、これからの住生活を考える。(3)衣生活 衣生活が環境に及ぼす影響と環境から受ける影響を考える。</p> <p>●授業一般目標 身近な生活を科学の視点で捉えるとともに、食生活、住生活、衣生活など身近な問題を例にあげ、生活を科学的にみることに、よりよい行動を考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席状況と3回のレポートで評価する。なお、3回のレポートが提出されなければ単位を与えない。</p> <p>●メッセージ 衣食住の順番は変更されることがあります。教室の大きさに応じて、受講制限をします。</p> <p>●教員連絡先 五島研究室 教育学部C棟4階422号室 083-933-5410 goto@yamaguchi-u.ac.jp 金曜日 16:10~17:40</p>					

開設科目	生活科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(数理・自然除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	澤本章、山田次郎、入江和夫				
<p>●授業概要 この授業では、生活科学の因子の中から、日常生活に極めて関りの深いものとして、「食物」「水・空気」「リサイクル」「エネルギー」を取り上げる。具体的には、「食品の安全性」、「水の汚染と室内空気汚染」、「もののリサイクルの必要性」、「エネルギーの大切さ」について学習する。</p> <p>●授業一般目標 身近な生活科学を健康、環境、科学の視点から捉え、自分の生活様式の改善に向けた態度を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業は3人の教員が担当し、評価は小テスト+レポート提出、レポート提出のみの場合に分かれる。出席が70%未満の場合は単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 随時プリントを配布する。、 / 参考書： ・「水的环境戦略」、中西準子、(岩波新書)； ・随時プリントを配布する。、</p> <p>●メッセージ 授業に参加し、自らの意志で考え、自分の意見や考えを構築すること。</p> <p>●教員連絡先 ・澤本章：E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5395、研究室、教育学部、264号室、オフィスアワー 木曜日 10~12 時 ・山田次郎：E-mail: jyamada@yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5407、研究室、教育学部、412 号室 ・入江和夫：E-mail: kirie@edu.yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5412、研究室、教育学部、306号室、オフィスアワー 水曜日 10~12 時</p>					

前期—初期教育系列

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社A	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	奥津聖				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 学生の発表と討論 ●授業一般目標 プレゼンテーションの技術を身につける ●成績評価方法(総合) ゼミ中のプレゼンテーション レポート ●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：その都度指示する ●教員連絡先 okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html 					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社C	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	田中誠二				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 読む、考える、書く。この3つに少しでも慣れてもらうための授業である。1. 課題図書を3冊あげるの で、これを読んで、なにが書かれているかを正確に理解する。筆者が何を最もも伝えたがっているかを要約する力を養 う。2. 書かれていることを、考えて、自分に引きつけて(自分をおして)理解する。単に知るのではなくて、理解す る力、考える力を養う。3. 1. 2. をとおして理解したことを、自分の文章にする、書く。表現する力を養う。 ●授業一般目標 1. 書物を読んで、正確に理解する。2. 書かれているものを、自分の頭で考え、自分に引きつけて (自分をおして)理解する。3. 考えたことを、文章で表現する。 ●成績評価方法(総合) 小テストと定期試験によって成績評価を行います。 ●教科書・参考書 教科書：中原中也詩集(ハルキ文庫)、中原中也、角川春樹事務所、2004年；中世再考(講談社学術 文庫)、網野善彦、講談社、2004年；天皇の肖像(岩波現代文庫)、多木浩二、岩波書店、2003年 ●教員連絡先 オフィスアワー、月・木曜日昼休み。 					

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社B	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限
担当教員	柏木寧子				
<p>●授業概要 —レポート・論文の書き方入門— 大学の授業で課されるレポートや論文を書くにあたり、最低限身につけておかなければならない基本的な技術を学びます。来年度、皆さんはいずれかのコースに所属して専門研究にとりかかり、それぞれに卒業論文のテーマを考えていくことになります。コースが異なれば、論文執筆の具体的手順にも自ずから異なる点があるでしょう。けれども、どのコースに進むにしても、そもそもレポート・論文とはどのような文章か、よいレポート・論文の条件とは何か、という基本を知り、ある程度トレーニングをしておくことが必要です。マニュアル本を参照しながら、実際にレポートの作成に取り組みます。</p> <p>●授業一般目標 レポートや論文を書く上で最も基本的な技術を習得します。当面の目標として、(1)まずは1冊のマニュアル本を読み通し、要点を知ること、(2)知識を踏まえ、自らの問題関心に基づいて試みにレポートを作成すること、以上二点の達成を目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回の授業内レポート、および期末レポートをあわせて成績を評価します。欠席しないように心がけてください。やむを得ない事情で欠席する(した)場合には、その旨届け出てください。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『大学生と留学生のための論文ワークブック』,浜田麻里・平尾得子・由井紀久子,くろしお出版,1997年;文栄堂にて販売。定価¥2,600程度。/参考書:参考書は授業中、適宜紹介します。実際にレポート・論文を作成するにあたっては、複数のマニュアル本を読み比べてみるのが望ましいので、ぜひ自分の好みに合うものを見つけ、手に入れておくことをお勧めします。</p> <p>●メッセージ ・パソコンの基本的操作(ワープロ・ソフトの使用,インターネットによる情報検索)をなるべくこの半年間で身につけておいて下さい。・大学附属図書館につとめて足を運び、早めになじんでおいて下さい。・国語辞典を持っていない方は、少なくとも1冊は手に入れておいて下さい。・授業計画は2004年12月時点での予定です。実際の授業進行に伴い、修正・変更などの生じる可能性があります。</p> <p>●教員連絡先 kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp, 410 研究室</p>					

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語A	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限
担当教員	山本真弓				
<p>●授業概要 (1)「民族」概念について理論的考察をする。(2)19世紀から20世紀のユダヤ人問題とパレスチナ問題を扱いながら、「民族」問題への視点を考察する。(3)「民族」問題について、各自が具体的事例を選んで調べ、レポートを書く。</p> <p>●授業一般目標 1. 講義内容を理解し、それを整理して、文章にまとめる。2. 理論を具体的事例と結びつけて理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席とレポートによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書:民族という虚構,小坂井敏晶,東京大学出版会</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語B	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限
担当教員	添田建治郎				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 日本語学(音韻)に関する代表的な著作を小松英雄『日本語の世界7』(日本語の音韻)一冊精読する。 ●授業一般目標 日本語の音韻史の概略を知るとともに、それを明らかにする著者の筆致に触れる。 ●成績評価方法(総合) レポート、質問カード、出席点 ●教科書・参考書 教科書: 日本語の世界 7, 小松英雄, 中央公論社, 1981年 ●教員連絡先 添田建治郎研究室(933-5249) オフィスアワー(火曜日13:00~14:30) 					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語C	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限
担当教員	平野尊識				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 『「ことば」についてのエッセイ』というタイトルでゼミを進める。書き溜めておいたエッセイから幾つかを抜き出し、受講者に色々意見を聞き、受講者がそれについてレポートをまとめるという作業をする。そして、自分自身でも簡単な文章を書けるようにする。因みにエッセイの具体例を挙げると、「ふるさとの言葉」、「お日様と一日」などである。 ●授業一般目標 このゼミでは、学生の批評能力、話し言葉と書き言葉における表現能力、自分の意見を発表できる能力の養成を目指す。批評能力には、当然のことながら「思考力・判断力」が含まれる。 ●成績評価方法(総合) 提出されたレポートに基づいて、受講生の成績を評価する。 ●メッセージ 個人のエッセイを読んでもらうのは主観的になりがちなので、学生の忌憚りの無い意見を聞かせてもらいたい。ネガティブな意見でも一向に構わない。それは私自身の視野を広げることにもなる。 ●教員連絡先 e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun # 617 					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	フレッシュマンセミナー (新入生合宿)	区分	演習	開設期	通年 (前期, 後期)
対象学生	教	単位	0 単位	曜時限	
担当教員	学務厚生部、名島、各教室教員				
<p>●授業概要 山口大学教育学部で学生生活を始めるにあたっての心構え、知っておくべきこと、手続きや授業などについてのいろいろな情報の入手方法、各コースにおける授業履修の注意事項などを伝え、新入生がとまどうことなくスタートがきれるように支援する。学部全体に共通する点については学部担当者が、各選修・コースの詳細については各教室担当者が実施する。また、二日目に保健管理センター教員によるガイダンスを行う。</p> <p>●授業一般目標 山口大学および山口大学教育学部の教育システムについて、基本的なことを理解する。大学生活を始めるにあたって自分がなすべきことを理解する。教員や上級生、同級生など、大学生活を送るための支援を得られる人間関係を築く。</p> <p>●成績評価方法 (総合) プログラムへの出席・参加状況によって可否を評価する。</p> <p>●備考 集中授業</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教 (教科 (国))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	吉村誠 長崎伸仁 中野伸彦 藤原マリ子 南部英彦				
<p>●授業概要 国語教育教室に所属することになった新入生諸君を対象として、大学における知とは何かを、大学生活を始めるに当たって伝達することを目的とする授業である。同時に、学生と教官との相互理解、交流をも目的とする。</p> <p>●授業一般目標 それぞれの教官の専門分野における知の伝達を通して、国語教育教室において新入生諸君が自分に適応した知の世界を発見できれば幸いである。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 基本的には、レポートによる評価を行うが、出席度や授業態度も参考にする。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(社))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	貞方昇, 荒木一視, 岩崎好成, 岩本光悦, 外山英昭, 山本薫子, 森下徹, 吉川幸男, 松原幸恵				
<p>●授業概要 社会科教育教室教員全員が年度始めに新入生の要望を取り入れながら半期のセミナープログラムを作成し、それによって研修する。</p> <p>●授業一般目標 社会科諸分野の初歩的な学習を学生の活動を取り入れながら実施する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 本授業の諸活動の全体を総合的に判断して評価する。</p> <p>●教員連絡先 社会科教育教室主任：貞方 昇 (sadakata@yamaguchi-u.ac.jp) 他 8 名教員</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	河津清、関口靖広、佐藤好久、笠井伸一				
<p>●授業概要 新入生のためのガイダンスを行う。</p> <p>●授業一般目標 大学において数学等を学ぶためには どうしたらよいかについて学ぶ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 態度 出席状況</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(理))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(音))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(美))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	福田隆真、吉賀将夫、菊屋吉生、吉田貴富、河野令二、中野良寿				
<p>●授業概要 授業の概要 大学教育及び美術教育についての導入に関する授業を行う。授業の一般目 美術と美術教育に関して大学において学ぶべき内容を考える。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(保))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(技))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	澤本章、宮崎、岡村(吉)、森岡、古賀、糸長、野村、北本				
<p>●授業概要 技術教室では、「技術科教育法」、「木材加工」、「金属加工」、「機械」、「電気」、「栽培」及び「情報とコンピュータ」などを学びます。これらの各分野の概略を説明します。また、ホームページ作成のための演習を行います。</p> <p>●授業一般目標 自分の専門とする学問領域の概略を理解し、以後の就学や学生生活に必要な基本的事項を身に付けることを目標とする。また、ホームページを作成できる技術を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、授業中の態度、レポート、ホームページの作成状況をもとに総合評価します。レポートは必ず締め切り期日までに提出してください。また、作成したホームページも必ず締め切り期日までに提出し、担当教員の評価を受けてください。レポート及びホームページの提出が無い場合は、単位が与えられません。また、提出が遅れると減点されます。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布します。／参考書：なし、</p> <p>●メッセージ ホームページ作成には、ノートパソコンが必要です。レポートは必ず締め切り期日までに提出してください。また、作成したホームページも必ず締め切り期日までに提出し、担当教員の評価を受けてください。レポート及びホームページの提出が無い場合は、単位が与えられません。また、提出が遅れると減点されます。</p> <p>●教員連絡先 毎週木曜日 10:20～11:50、山口大学教育学部技術教育 澤本章、TEL/FAX 083-933-5395、E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(家))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(英))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	高橋俊章				
<p>●授業概要 英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項、心構え を、各分野の教官よりテーマごとに講義をする。</p> <p>●授業一般目標 英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項を確認し、心構えについてのオリエンテーションをおこなう。</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(幼児)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	荘司泰弘・白石敏行・桑原昭徳				
<p>●授業概要 幼児教育コースの概要を紹介し、履修指導を行う。</p> <p>●授業一般目標 幼児教育コースのスタッフと新入生の親睦を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、授業や合宿研修への参加、および授業内での保育参加レポートをもとに総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：履修の手引き、シラバス</p> <p>●メッセージ 学外研修ならびに保育参加は必ず参加すること。</p> <p>●教員連絡先 荘司泰弘：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5441 研究室 406 OH 火 12:00-15:00 白石敏行：t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5330 研究室 404 OH 随時 桑原昭徳：kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5441 研究室 402 OH 金 11:50-12:40</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(障害)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	吉田一成				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(国理)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	石井由理、中村幸士郎、小粥良				

●授業概要 国際理解教育コースの新入生セミナーは、(1)学部・講座・コース案内、(2)専門研究入門セミナーを中心として、教室教員3名がそれぞれのテーマで分担して実施する。

●授業一般目標 1)国際理解教育コースの学生たちが、当コースの位置づけ、目標、学習内容・研究方法・将来展望の概略を明確に理解し、当コースの学生としてふさわしい学究態度を早急に身につけ、意欲的な学生生活を歩みだせるように指導し、激励すること。(2)専門的な研究への基礎的な訓練(研究所の読み方、情報の収集や整理法、発表・レポート・討議の仕方等)を実施して、将来の学習や研究の効果を上げること。(3)少人数教育による教師と学生の人間的な触れ合い。

●成績評価方法(総合) 3人の担当者が与える課題に対する評価と、授業内でのプレゼンテーションに対する評価を総合して出す。欠席は欠格条件としてのみ扱い、3分の2以上の出席がなければ成績評価を出さないものとする。

●教員連絡先 石井研究室、中村研究室、小粥研究室

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	実践(人間)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	佐々木司				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	実践(心理)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	熊谷信順				

●授業概要 このセミナーの目的は、教育心理学コースの学生が、広い視野から心理学を学ぶことによって、心理学に対する関心の幅を広げることにある。さらに、大学生活を送る上で必要なことからについても学ぶことを目的としている。具体的には、(1) 教育心理学コースのカリキュラムや4年間の学生生活を送るために必要な事柄について説明する。(2) 将来、心理学に関連した職業につくことを希望する学生のために、認定心理士、学校心理士、臨床心理士などの資格取得および、心理学が生かせる職場についても、その概要を説明する。(3) 「心理学と自分」というタイトルの元に、教育心理学教室の各教官の専門領域や研究内容について講義する。(4) 夏季研修を実施する。

●授業一般目標 心理学についての理解の幅をひろげ、大学生活において必要な事項について学ぶことが、本セミナーの目標である。

●成績評価方法(総合) 出席を重視する。講義のうち7回はレポートを翌週までに提出する。さらに、夏季研修への参加により評価する。出席し講義へも積極的に参加すること。この夏季研修への出席が単位取得には必要である。

●教科書・参考書 教科書：指定しない。必要に応じてプリントを配布する。／参考書：適宜紹介する。

●メッセージ 積極的な講義への参加を期待します。

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(表現)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(数情)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	糸長雅弘, 渡邊正, 野村厚志, 飯寄信保, 北本卓也, 鷹岡亮				
<p>●授業概要 高校生と異なり, 大学生は一人前の大人として扱われる。校則のような細かな制約がない代わりに, 自己責任が問われる。履修の仕方も, 本人に任される。単なる情報の受け手ではなく, 発信者となることが求められる。本授業は, このような違いを認識させ, 高校生から大学生への円滑な移行を手助けする。</p> <p>●授業一般目標 大学生としての責任と, 自分が何を学び, 何を目指すかを自覚し, 何をするにも必要な自己表現力を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率, 授業外レポート, 公開したホームページの内容を総合的に評価する。出席率 80%未満の場合は, 不合格になる。</p> <p>●メッセージ 大学生活のルールを身に付けるということから, 正当な理由なしに欠席しないこと。後半のホームページ作成では, ノートパソコン必携。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20-11:50</p>					

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	健康(スポ健)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	森田俊介、塩田正俊、杉浦崇夫、丹信介、曾根涼子				
<p>●授業概要 この授業は以下の2部門から構成されている。第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法、などを教授する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成を行い、添削・指導を行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを解説する。</p> <p>●授業一般目標 この授業は以下の2部門から構成されている。第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法、などを学習する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成を行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを体験・学習する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 原則として全出席であること。レポート(70%)と学習意欲(30%)より総合的に判断する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：必要に応じて紹介する。</p> <p>●教員連絡先 オフィスアワーは教官によって異なるので各教官に問い合わせること。</p>					

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	健康(生活)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	山本善積				
<p>●授業概要 生活健康科学コースの履修プログラムや学生生活の注意事項等を説明するとともに、履修する各分野の入門について述べる。次いで受講生によるグループ演習とその成果のプレゼンを行う。</p> <p>●授業一般目標 本コースで履修する諸分野の入門講義のポイントを述べるができる。また、学習への関心を広げて、仲間と協力して調査を行い、結果をまとめることができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は、入門講義等に関するレポート、グループ学習の成果発表、出席状況を総合的にみて評価する。</p> <p>●メッセージ この授業は、健康科学入門として、受講生の皆さんと教員とでつくる授業です。積極的に参加して、健康科学を学ぶ意義や楽しさをつかんで下さい。</p> <p>●教員連絡先 授業に関する問い合わせは山本まで(2005年度の担当) E-mail:yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	総文(国文)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	来島浩, 岡村康夫, MIKHOVADIMTRINAJORDANOVA, 北西功一				
<p>●授業概要 大学生として必要な能力に、レポート作成能力とプレゼンテーション能力がある。この授業ではこの二つの能力の基礎的な部分を身につける。</p> <p>●授業一般目標 大学生として適切なレベルのレポートを書く能力を身につける。プレゼンテーションの初歩的な能力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各自の作成したレポートと、プレゼンテーションによって評価する。特別な理由なく2回以上欠席したものは失格とする。</p> <p>●教員連絡先 kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 随時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	総文(文芸)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 文芸・芸能教室新入生を対象に、当教室で学ぶそれぞれの学問領域についての概説的な講義を行います。</p> <p>●授業一般目標 文芸・芸能教室に所属する教官が順番に講義を行います。詳細なスケジュールは開講時に配布します。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席回数およびレポートなどで評価を行なう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	塚田広人				

●授業概要 内容は二つあります。 I 3冊ほどの新書版の本を読みます。(これまでの例) 1、『シンプル人生の経済設計』森永卓郎、中公新書、2002年 2、『パパラギ』立風書房、1981年 3、『社会認識の歩み』内田義彦、岩波新書、1971年 4、『豊かさとは何か』暉峻淑子、岩波新書、1989年 5、『豊かさの条件』暉峻淑子、岩波新書、2003年 読み方は順番に何ページかずつ読んできて、その内容をみなに説明するというものです。そのために、いくつかの班に分かれて、割り当てられたところを班で読み、感想などを出し合い、発表内容をまとめてきます。 II 時事問題を考えます。 時事問題とは毎日のニュースのことです。新聞が主な材料になります。ゼミナールの授業の中で、15分から20分ぐらいをこのための時間にあてます。毎回二人が新聞記事から紹介をし、それについての意見交換をします。

●授業一般目標 Iの目標 社会をどう考えたらいいかを考える 今の日本経済の状況について考えます。(「経済って何だろう?」) 現在の日本社会・現代社会について考えます。(「社会の進歩とは何だろう?」) どう関係する 社会を理解する方法について考えます。(「社会ってどうしたら理解できるんだろう?」) IIの目標 今の社会でどんな問題が起こっているかを知る。 大学入学までは、広い知識を身に付けました。こんどはその使い方を考えるときです。そのために、今私たちの周りでは何が問題なのかを知りましょう。15週で30のトピックに触れることができます。

●成績評価方法(総合) 出席、報告、議論参加を総合します。

●教科書・参考書 教科書: 授業開始時に購入方法を指示します。

●メッセージ 入学おめでとう! これからの大学生活の4年間、楽しみながら、じっくりと考えてください。人間を、社会を、人生を。

●教員連絡先 塚田研究室のHPアドレスは: <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm> です。ここに書かれていることも参考にしてください。

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	兵藤隆				

●授業概要 西暦2005年、世界をとりまく環境は大きく変化しようとしています。わが国でも政治・経済をはじめ多くのものが刻一刻と変化しつつあることはみなさんも周知のとおりです。この基礎セミナーでは、それらの中でも特に変化の激しい金融システムに焦点を当てて日本および世界各国の金融システムがどのように変化しつつあるのかをみていくことを目的としています。そのために、まず、日本経済に関する基礎的な知識を身につけてもらうようがんばってもらいます。例えば、「電子マネー」、「自己資本比率規制」、「ユニバーサルバンキング」などの言葉はご存じですか。ご存じでなければ是非この機会に当セミナーにて共に学習しましょう。

●授業一般目標 日本経済に関する基礎的な知識を身につける。

●成績評価方法(総合) 授業では、毎時間、テーマを設定し、そのテーマに関するプレゼンテーションの後、そのテーマに沿った討論を行いながら、お互いの知識の理解度をチェックするようにします。よって、受講生はしっかりと予習をするだけでなく、日頃から、ニュースや新聞などに目を通しておく必要があります。評価は各時間にどれだけ積極的に参加しようと努力したかという意欲を中心に行います。

●教科書・参考書 教科書: 「Q&A日本経済100の常識 2005年度版」, 日本経済新聞社, 日本経済新聞社, 2004年

●メッセージ なにごとも最初が肝心です。一緒にがんばりましょう。

●教員連絡先 thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	仲間瑞樹				
<p>●授業概要 皆さんが高校生活を送っていた3年間、日本は不況の真っ只中で、今も不況は好転していません。このような状態の中で日本の若者は、どのような問題に直面しているのでしょうか？そしてこれから大学生活を送り、4年後に社会へ旅立つ皆さんを取り巻く社会はどのようになっているのでしょうか？ このクラスでは山田昌弘著「パラサイト社会のゆくえ」ちくま新書(2004年発行)を利用し、各4から5名のグループを1グループとして、本の内容を発表してもらいます。そして本の内容に沿ったディベートを行います。</p> <p>●授業一般目標 誰が聞いても見てもわかるような説明、資料作成をすること。 パソコンを説明時に効果的に利用すること。 他者の意見を聞き、コメントや質問をする力を身につけること。 この基礎ゼミに参加している多くの人と知り合いになること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 発表、質問回数、ディベート参加度合い、期末レポートから評価する。 毎回出席はとらない。しかし出席しなければ発表、質問、ディベートに参加できず、高い評価は期待できない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：パラサイト社会のゆくえ, 山田昌弘, ちくま書店, 2004年</p> <p>●メッセージ とにかくみんなといろいろ話をしたい、議論したい、発表したい、調べたい、大学教師に挑戦したいといった元気でやる気ある1年生の受講を希望します。私も1年生に体当たりしながら基礎ゼミを進めます。</p> <p>●教員連絡先 経済学部C棟217 オフィスアワーは随時受けつけます。先にメールをいただければ幸いです。 mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	古賀大介				
<p>●授業概要 (1)このゼミでは、まず、これから4年間どのように過ごしたらいいのかを考えてみたいと思います。ぼーっと過ごす4年間はあるという間です。のんびり過ごす時期があってもいいのですが、ただ単にまるまる4年間ぼーっと過ごすにはもったいなさ過ぎます。もっとも、ゼミでは、堅苦しいお説教をするつもりはありません。私とゼミ生みんなが、社会に出る前の準備期間としての大学生生活について、語り合っていきたいと思います。(2)もう一つは、私たちが今現在暮らす社会が、どのような経緯を経て誕生し、発展してきたのかについて考えていきたいと思います。歴史を丹念にみていくと、常識や習慣というものが、実はある時点から生まれてきたものであったり、作られたりしていることがわかります。高校授業では味わえない、ひと味違った歴史の面白さに触れつつ、柔軟な思考や発想を養う訓練をしていきたいと思います。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席50% 報告30% 参加姿勢20%・今のところ、試験やレポートの予定はないのですが、ひょっとしてあるかもしれません・4回以上欠席すると、単位認定の対象からはずします</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「あなたが歴史と出会うとき」、堺憲一、名古屋大学出版会、1989年</p> <p>●メッセージ 大学生活では「仲間」が非常に重要になります。教員(古賀)としても、皆さんに多くの仲間ができるように、アットホームなゼミ運営を心がけたいと思います。歴史系のゼミなので、歴史が好きだという方の参加を歓迎します。逆に歴史が嫌いだという方の参加はお勧めしません。</p> <p>●教員連絡先 経済学部A208 古賀研究室 部屋の電気がついているときは、気軽にいつでもどうぞ。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	松浦良行				

●授業概要 自分が大学入学当時を振り返ってみても、新入生にとって、会社に入ったら具体的にどんなことをするのか全く分からないのが普通です。そんな所で経営の専門的な知識を得ても、消化不良を起こしてしまうことが多いでしょう。しかし、知れば知るほど企業活動はダイナミックで面白いし、そのために勉強も必要なことも確かです。このセミナーでは、みなさんが経営学を食わず嫌いにならないために、ビジネスシミュレーションソフトを利用した経営ゲームをグループで行いながら、企業活動全般を理解していこうと考えています。具体的な活動を理解したあとで、たとえば広告活動の流れとか、お金はどこから入ってくるのかなどを調べてもらい、皆さんの前で発表してもらいます。

●授業一般目標 上でも述べましたが、このセミナーの目的は、企業活動の全体像を知って、その面白さをバーチャルにはありませんが実感することにあります。また、それをグループ単位で競い合いながら、仲間を作って積極的にコミュニケーションを図ってもらいたいと思っています。それと同時に、発表準備のための調査の仕方を知り、かつ共同作業が円滑に行えるようになってもらいたいと思っています。

●成績評価方法(総合) 出席とディスカッションへの参加度、及び発表への取り組みで評価します。

●教科書・参考書 教科書：状況によって使用しますが、その場合追って指示します。／参考書：必要があればその都度指示します。

●メッセージ 現在の所、ジュニア・アチーブメント・プログラムの無償ソフトを利用できるように交渉中ですが、状況によっては皆さんに経営ゲームのソフトを購入してもらうことになるかも知れませんし、最悪の場合はペーパーベースでのビジネスゲームになってしまう可能性があることを了解しておいて下さい。また、こうした形式を取るためには少なくとも参加者の1/3程度の方がノートパソコンを持っている必要がありますので、パソコンを所有されている方を希望します。

●教員連絡先 質問等があれば、極力月・火に研究室に訊ねてきて下さい。連絡先；matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	柳田卓爾				

●授業概要 この基礎セミナーでは、テキストの輪読を通じて、価格戦略の初歩を学ぶ。1回の授業ごとに、担当箇所の報告担当者を決めて、発表してもらおう。報告担当者は、テキストの担当箇所の要約プリント(レジュメとよぶ)を作成・配布する。発表とレジュメをもとに、みんなで議論を行い、テキストの内容の理解を深めていく。担当教員は、適宜、議論のサポートを行う。

●授業一般目標 (1) 価格戦略の入門書を輪読し、マーケティング・ミックスの中の価格戦略について理解する。(2) ゼミ形式の授業を受けるための基本的ノウハウと心構えを習得する。

●成績評価方法(総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

●教科書・参考書 教科書：『ケースで学ぶ価格戦略・入門』, 上田隆穂編, 有斐閣, 2003年

●メッセージ 基礎セミナーを通じて、「ゼミ活動」の面白さ、有意義さに気付いて欲しいと思います。

●教員連絡先 研究室 C220

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	城下賢吾				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 新聞記事や株式ゲームなどを通じて株式市場や企業を理解しよう ●授業一般目標 新聞記事を読めるようになろう 多くのよい友達を作ろう ●教科書・参考書 教科書：未定 ●メッセージ 大学での仲間づくりの場になるので良い人間関係を築きあげてください。 ●教員連絡先 sirosita@yamaguchi-u.ac.jp 					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	吉水 佐知子				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 税理士・公認会計士の仕事について考えていく。例えば、税理士はどのような仕事をしているのか？公認会計士の仕事とはどのように違うのか？資格試験はどのようなものか？等の疑問があると思います。この授業では、そのような疑問に関して、グループに分かれて調査分析したり、議論をすることにより、それぞれの業務について理解をしていくことにあります。 ●授業一般目標 税理士と公認会計士が提供する業務の違いを理解すること。 ●成績評価方法(総合) 成績評価は、1) 出席及び授業参加への積極性と 2) 発表を総合的に勘案して行う。 ●教科書・参考書 教科書：未定。 ●メッセージ 職業会計人コースを希望する学生は、コース選択の際の参考になることを希望します。 ●教員連絡先 在室中はいつでも質問にお答えします。 					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	陳禮俊				
<p>●授業概要 今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。</p> <p>●授業一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる基礎文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、出席(40%)、課題レポート(30%)と報告(30%)で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書1997/98、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、1997年／参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。</p> <p>●メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生との関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。</p> <p>●教員連絡先 研究室：経済学部 C226 室 電話：083-933-5578 E-mail：lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	青柳 達朗				
<p>●授業概要 知識は覚えるだけではなく、使用されなければ無意味です。自分の言葉で、問題とその解決策を提示することが大切です。また、この社会は他人の存在が必要条件です。お互いに議論することで、良い知恵も出てきます。交代で、自分の意見をまとめたレポートを準備し、それを報告し、議論するスタイルをとります。</p> <p>●授業一般目標 これから法律を、学ぶ上で必要な基本動作の習得を目標としています。</p> <p>●成績評価方法(総合) 目の前にある事象にまず取り組むことから、全てはスタートします。授業への出席が大前提です。その他、授業への参加状況やレポートの内容を総合評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：法学入門30講、石川明、酒井書店、1996年</p> <p>●メッセージ 大学に入学して、希望に燃えていると思います。初心を忘れないで、一緒に勉強しましょう。</p> <p>●教員連絡先 aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	植村高久				
<p>●授業概要 この授業は大学で積極的に生活してゆけるための「知的基礎体力」づくりをめざします。最初は大学生活での要点と少し先の時期への展望を持てるような仕組みを用意しています。その後は、自発的・積極的な学生生活へ向けて、できるだけ自由にテーマを選べることを基本に授業を運営します。内容は、実習中心となります。大学では、自分で何かをやらないと、何も得られません。活動的に「テーマ」を持って生きる人には、大学生活は満足であるだけでなく、得るものも大きいはずで。そこで、この授業では、自分で自由にテーマを選び取ること、それを他人に表現し理解してもらおうという作業を中心に進めます。積極的な大学生活を送りたい人向けです。</p> <p>●授業一般目標 大学での生活に不可欠な技法を身につける。どこでも大きな声で自己主張ができるような積極性を身につける。大学生活の「テーマ」を自分で選び、関心を大きく広げることができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 表現(プレゼンやディベート)については、相互評価(学生と教員の全員による評価)です。評価では、とくに最終プレゼンを重視しており、得点の50%を当てています。</p> <p>●メッセージ 水曜の午後は、時間外の行事が入るので空けておいて下さい。積極的な人にはきっとおもしろいと思います。遅刻しないで出席して下さい。欠席するときは、必ず事前に連絡して下さい(連絡は下記のeメールで)。</p> <p>●教員連絡先 Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは研究室の扉に表示してありますが、在室する限り(多忙な時を除き)いつでも対応するので、遠慮なく来て下さい。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	濱島清史				
<p>●授業概要 (1) 充実した学生時代を謳歌してもらうためには、十分に学習することも大切である。大学において、とりわけ経済学においてどのような学問分野があり、どのように関連しているかレクチャーする。その際、将来、仕事生活を送る際にも有益な内容としたいし、またどのような内容が有益か共に考えていきたい。(2) 将来のキャリア・ビジョンを描けるようになり、就職にも資するように、主題は大卒ホワイトカラーの人材形成―大卒事務職・専門職・管理職などのキャリア・アップの仕方とする。経理・営業・人事部などの諸職能や、マスコミ・アパレル(衣服)・メーカー(家電等)・流通・商社など様々な産業ならびに国家公務員・地方公務員を事例に学んでいく。フリーターやニートなどの若年雇用問題も併せて考えていきたい。(3) 大学ではレポート課題が多く出されるが、レポート作成の基本とコツを身につけてもらう。高校時代の主観的な感想文から大学における客観的な論文への架橋をしたい。机上の研究も重要であるが、より実践的な取り組みも試みる。即ち、プレゼンテーション(研究発表)、ディスカッション(円卓の是々非々議論)、ディベート(肯定・反対の討論)などの練習も取り入れる。</p> <p>●授業一般目標 授業の一般目標 大学で学ぶことで社会に出てから有益なのは、自分で問題を発見して、その原因分析を行ない、そのために情報収集を行なえるようにし、提案して改善していける実力をつけることである。授業の到達目標 実は、レポート・論文作成とは上記のような改善提案力を養うことである。即ち、レポートや論文は、(1) 課題は何か、(2) どのように分析したか、(3) 何が明らかになったか、(4) 残された課題は何か、という構成になっているのである。この基本形式をマスターすることが最終目標である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レポート、発表、出席。成績評価方法(観点別) 定期試験(中間・期末試験) 期末レポート:50点。中間レポート:20点。小テスト・授業内レポート グループ発表形式になろう。宿題・授業外レポート 発表前に十分に調べる。情報収集能力の涵養も大学で学ぶ重要な事項である。授業態度・授業への参加度 活発な質疑応答を期待し、まずは質問者を決めておき、やがて自然に出るまでに持っていきたい。受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 グループごとに各自で発表する。20点程度。出席 出席は毎回取る。昨今では講義に出る習慣を身につけなければ、留年する可能性が高くなるからである。10点程度。合計 100点</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 小池和男編(1993)『大卒ホワイトカラーの人材開発』東洋経済新報社。その他、適宜指示する。</p> <p>●メッセージ 知識はどこまでも伸びやかで優しいものです。共に学ばん!</p> <p>●教員連絡先 : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	藤原貞雄				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 共通テキストを全員で読んで、その内容をまとめ、自分の意見を発表する。 ●授業一般目標 私たちの生きている現代社会がどのような社会なのかを正しく掴めるようにする。自分の意見を自分の言葉で発表する力を身につける。他人の意見をよく聞き、自分の考えを相手に伝える力を身につける。長い文章を書ける力を身につける。 ●成績評価方法(総合) 最後にレポート(A4用紙10枚程度)提出をする。このレポートで評価する。但し、グループでの報告のレベル、授業での態度を加味して加点する。 ●教科書・参考書 教科書: 第3の波, アルビン・トフラー, 中公新書, 1980年; 本書は絶版となっており入手が難しいので、複写して配布する。 ●メッセージ トフラーの1980年の予言は当たったのか、4半世紀経った現実はどうなのか、みんなで考えてみたい。 ●教員連絡先 fujiwara@yamaguchi-u.ac.jp に連絡して下さい。 					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	豊嘉哲				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 ヨーロッパ経済について学習する。ヨーロッパの経済統合は、経済的利益よりもむしろ平和を追求するという形で進められてきた。この点を念頭に置いて、ヨーロッパの経済統合について学習する。 ●授業一般目標 ヨーロッパの経済統合について、自分の意見を述べるができるようになること。 ●成績評価方法(総合) 出席が50%, 授業中の発表が50%。 ●教科書・参考書 教科書: 未定 第1回講義で指示する,, ●メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。 ●教員連絡先 yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp 					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	一ノ澤直人				
<p>●授業概要 社会科学、とりわけ法学において基礎となるものとして、自ら問題を見出し、論理的な思考によって探求できることがあげられる。この講義ではこの力を養うために、法学の観点から、法解釈に必要な基礎的な知識・技術を理解するため、法の主要分野をカバーするようにしながら、テーマを決めて討論形式で、進めていきたい。法学の入門であると同時に、社会科学一般における論理的な思考力を身につけるために、討論方法・レポートの作成についても重点をおきたい。</p> <p>●授業一般目標 同基礎セミナーの目的を法学への入門とし、法的思考のため必要不可欠な法の全体構造に対する概観を習得する。また自ら問題を見出し論理的探求ができるようになるための基礎的部分に重点をおいていきたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 講義の目標である、法への基礎的な体系的理解、問題への論理的探求への基礎が身に付いているかどうかを基準として評価する。授業への参加、報告、討論及びレポートによる総合的評価とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：六法必携、テキスト・参考文献などは講義の中で適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ 法分野に関心があり、積極的に参加できる者を対象とする。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	中村 美紀子				
<p>●授業概要 本セミナーでは、身近な題材を用いて法的な問題を扱います。提示された題材について、担当者による報告にもとづき討論を行います。具体的な題材としては、判例、時事問題等にとどまらず、視聴覚教材なども使い、ときには現場の臨場感にも触れることを考えています。プレゼンテーションやディベートの練習を行いつつ、法的な観点に慣れ親しんでもらうつもりです。</p> <p>●授業一般目標 本セミナーを法学入門のまたその入門と位置づけましょう。体系的・抽象的な学習ではなく、体験的・実習的に学ぶことを目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) セミナーへの貢献度を重視します。履修生のセミナー全体に対する評価を30%の評価割合とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教材等はその都度配布します。／参考書：参考資料等はその都度配布します。</p> <p>●メッセージ 1. 大学生活は最初が肝心。本セミナー半期分を残りの3年半にめいっぱい役立ててやる！という積極性を忘れずに。2. 欠席が避けられないときは事前に直接連絡することをルールとします。</p> <p>●教員連絡先 研究室:経済学部C棟227、オフィスアワー火曜日 10:20—11:50。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	李 海峰				
<p>●授業概要 21 世紀の初頭今日、不況の長期化、戦争や暴力の横行、腐敗や悪政治、失業の増大など、社会経済は混迷しつつある。国際社会は中国をはじめ、途上国の市場化による高度 経済発展、貧富格差の拡大、東アジア諸国の経済関係の変化、多国籍企業に代表される 巨大企業の存在、そしてアメリカ覇権体制の維持による戦争の勃発など、国際社会経済の構造はどのようになっているのか、考察します、</p> <p>●メッセージ 一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	安藤良文				
<p>●授業概要 5 名程度のグループに分けて、各グループが事前に配布されたテーマを理解して、学生にその内容をわかりやすく説明する形式のいわゆるセミナーで授業を進める。内容については講義時に配布する。</p> <p>●授業一般目標 数学の理解の仕方と勉強する態度がどのようなものを体得することを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、発表状況と協力、期末試験による総合評価。</p> <p>●教員連絡先 理学部 1 3 1 室</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー (理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	自然	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー (理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	自然	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	学科長				

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	自然	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	祐村恵彦, 岩尾康宏, 岩楯好昭, 松村澄子, 遠藤克彦, 渡辺雅夫, 藤島政博, 堀学, 宮川勇, 上野 秀一, 山中明, 室伏 擴				
<p>●授業概要 近年の自然科学の急速な進展により、これまで区分されていた複数の分野が融合する傾向にあり、自然科学を学ぶために必要な知識量も著しく増大している。常に自然科学の発展に伴う新しい知識の集積に注意を払いつつ自然科学を学ぶ必要があるが、大学の授業にその全てを盛り込むことは不可能である。言い換えれば、大学において自然科学の基礎を学ぶためには、自主的な選択による情報や資料の収集・解析能力、文章表現力や他の人と議論する能力が必要である。</p> <p>●授業一般目標 この授業は、最近の学際領域としての情報科学の先端的研究に触れると同時に、大学での自主的な学習の進め方について理解を深めることを目的としている。授業を通して、各自が科学する面白さを理解し、自主的に学習できるようになることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート= 80 100 %未満 出席= 20 %未満 出席回数 80 %以上を単位取得の必要条件とする。</p> <p>●メッセージ 教官の講義内容、担当日を変更することがある。</p> <p>●教員連絡先 祐村恵彦 yumura@yamaguchi-u.ac.jp 岩尾康宏 iwao@yamaguchi-u.ac.jp 松村澄子 batmatsu@yamaguchi-u.ac.jp 遠藤克彦 endo@yamaguchi-u.ac.jp 渡辺雅夫 masao.w@yamaguchi-u.ac.jp 藤島政博 fujishim@yamaguchi-u.ac.jp 堀学 mhori@yamaguchi-u.ac.jp 宮川 勇 miyakawa@yamaguchi-u.ac.jp 上野秀一 suenoscb@yamaguchi-u.ac.jp 山中 明 yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp 室伏 擴 murofusi@yamaguchi-u.ac.jp 岩楯好昭 iwadate@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	化地(奇数)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	佐々木義明、阿部憲孝、右田耕人、石黒勝也、村藤俊宏、君波和雄、三浦保範、阿部利弥、宮田雄一郎、永尾隆志、大和田正明、澤井長雄、田中和広				
<p>●授業概要 化学・地球科学(化学コース、地球科学コース)の教育内容と第一線の研究内容を分かり易く解説するとともに、高校での教育から大学での教育へ早期に転換できるように、幅広く、かつ多くの学生が興味のもてる内容のテーマを設定し、それについて詳しく解説し、問題提起や議論を活発に行う。</p> <p>●授業一般目標 (1)化学・地球科学(化学コース、地球科学コース)の教育内容と第一線での研究を理解する。(2)高校教育と大学での教育の違いを理解する。(3)自分で積極的に学問に取り組む姿勢を身に付ける。(4)自分の頭で考え、問題提起や議論ができるようにする。</p> <p>●メッセージ 高校教育から大学の教育に早く慣れ、自分で考え自分の判断で行動できるようになってください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	化地(偶数)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	君波和雄(代表)				
<p>●授業概要 化学・地球科学(化学コース、地球科学コース)の教育内容と第一線の研究内容をわかり易く解説するとともに、高校での教育から大学での教育へ早期に転換できるように、幅広く、かつ多くの学生が興味をもてる内容のテーマを設定し、それについて詳しく解説し、問題提起や議論を活発に行う。</p> <p>●授業一般目標 (1)化学・地球科学(化学コース、地球科学コース)の教育内容と第一線での研究を理解する。(2)高校教育と大学での教育の違いを理解する。(3)自分で積極的に学問に取り組む姿勢を見につける。(4)自分の頭で考え、問題提起や議論ができるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各教官から提示された課題による学習態度とレポートを対象として、以下の観点・割合で評価する。</p> <p>●メッセージ 高校教育から大学の教育に早く慣れ、自分で考え自分の判断で行動できるようになってください。</p> <p>●教員連絡先 kimik@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:理学部南棟4階445室 オフィスアワー:在室中にはいつでもOK</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	医学入門I	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	川崎勝 他 15 名				
<p>●授業概要 医学科全 85 名の入学生は担任教官が所属する基盤系講座に所属し、少人数(5, 6 名)で日本語論述を主体としたセミナーを行う。</p> <p>●授業一般目標 今後、医学とコミュニケーション技法を学ぶ上で必須のリテラシー能力を養うために、日本語論述と小グループでのディスカッションを中心に演習を行うことを通じて高度な日本語運用能力を修得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 真にやむを得ない事情がある場合を例外として、原則として全回出席していることを成績評価の前提とし、各自の演習への積極的な参加態度と小レポートの内容を中心に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書:日本語の作文技術,木下是雄,中央公論新社,1981年;実践・言語技術入門,言語技術の会,朝日新聞社,1990年</p> <p>●メッセージ 医学入門Iの内容は、前期毎週火曜夕方に設けられた「フレックスタイム」の時間帯に補足されます。</p> <p>●教員連絡先 各自、オリエンテーション時に担任教官に確認すること。</p>					

開設科目	基礎セミナー(保健)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	塚原正人				
<p>●授業概要 人間と医療との関わり、医療の現状、医療の質の変遷と展望、及び医療人としてのあり方を考える</p> <p>●授業一般目標 現代医療の抱えるさまざまな問題について、看護師を目指す者として、自ら問い、考える 基盤を築くことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) レポート、試験、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 標準看護学講座1 医療学総論-ケアを科学する-, 広井良典 他, 金原出版, 2000年/ 参考書: 講義の中で紹介</p> <p>●メッセージ 知識の習得ではなく、自分の問題として考えて欲しい。日常の中の医療問題に関心を向けて欲しい。</p>					

開設科目	基礎セミナー(保健)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	検査	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	山田治, 岩本美江子				
<p>●授業概要 21世紀になり、日本は今までにない長寿社会を迎えている。そのため現在の医学は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)、病名告知に始まり、遺伝子治療、脳死、臓器移植、終末期医療まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらのテーマを含めながら、医学の歴史、現代医学の構成、医学検査の役割、現代医学の問題点などを学び、臨床検査技師として他の医療従事者とのチーム医療を行うために必要となる、知識とモラルを学ぶことを目的とする。さらに、自分の考えを人に伝えるための文章表現法、発表方法を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 日本の医療システムの歴史と現状を知り、その問題点を指摘できる。人のライフスタイルや環境が健康におよぼす影響をの部、その予防・啓発を行うことができる。医療従事者の役割を知りチームワークに必要な事項と問題点を指摘できる。与えられた課題に対して、限られた時間内に正確な言葉で解説、論述および自分の考えを文章で表すことを修得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 【全体】毎回セミナーとタイトルを提示しグループディスカッションを行いますので、その時の参加態度を評価します。また、一部は期末試験で評価します。【観点別】知識の理解度および思考の判断力は発表内容と期末試験で評価します。関心・態度、表現力は発表内容から評価します。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 学生のための医療概論, 千代豪昭黒田研二, 医学書院, 1999年; 理科系の作文技術, 木下雄, 中公新書, 2000年</p> <p>●メッセージ 疑問に思ったら、自分の意見を述べながら質問して下さい。</p> <p>●教員連絡先 山田治: E-mail は osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp、電話は 0836-22-2803。 岩本美江子: E-mail は miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp、電話は 0836-22-2854</p>					

開設科目	基礎セミナー (工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	小河原加久治				
<p>●授業概要 授業の概要：本授業は機械工学の導入教育の一環として位置付けられているもので、機械工学における基礎、心構えなどを教える。学生のやる気を喚起し、工学を学ぶに際しての動機付けに主眼を置く。各個人及び、グループごとにテーマを選定させ、調査活動を行う。調査計画書を作成させ、文章力、表現力、まとめる能力を身につけさせる。パワーポイント等によるプレゼンテーション等の手法及び討論に積極的に参加する姿勢を身につける。機械工学を機械エネルギー、機械システム、設計生産の3大分野に分けて解説し、機械工学を構成する学問分野を理解する。</p> <p>●授業一般目標 機械工学の入門科目である「基礎セミナー」において、学問としての機械工学を認識させることを目的とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績は授業への取り組みの姿勢、課題レポート、報告会・発表会における発表及び質疑応答、調査報告書 (調査計画書含む) の合計で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する</p> <p>●メッセージ 自ら興味を持って積極的に取り組んでください</p> <p>●教員連絡先 ogawara@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：工学部機械社建棟3階 オフィスアワー 曜日</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー (工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	森田昌行, 上村明男, 江頭 港, 堤 宏守				
<p>●授業概要 さまざまな方式で大学における学習の意味と目的を理解するためのセミナーです。オリエンテーションとしては、どのように講義・演習を履修して卒業していくのか、あるいは、学科の目標目的さらには、技術者として社会にどのように貢献していくかなどについても学びます。与えられた課題について調査してレポートを作成し、プレゼンテーションをしますが、そのための外部施設見学も実施します。工学部の研究室や研究施設も見学します。また、少人数で工学基礎についての学習もします。</p> <p>●授業一般目標 工学部応用化学工学科の学習目的・目標を理解する。技術者として社会にどのように貢献していくかを理解する。与えられた課題について調査してプレゼンテーションとレポートを作成しますが、外部施設も見学します。工学部の研究室や研究施設も見学します。また、少人数で工学基礎についての学習もします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は、特に使用しないが、必要に応じてプリント配布などを行う。また、講義時間内に、指示する場合もある。</p> <p>●メッセージ 毎週、工学部へバスで来てもらいます。規則正しい生活を身につける良い機会と思います。遅刻しないように、欠席しないように頑張ってください。なお、遅れた場合は、事故などの無いように気をつけて工学部のキャンパスに来てください。また、授業に関する連絡などを、共通教育の掲示板などに掲示することもあるので、掲示板を必ず毎日確認するようにして下さい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	関根雅彦、榊原弘之、中田幸男				
<p>●授業概要 大学の学習において重要な、日本語による的確な表現力とは何かについて説明し、それを身につけるための実習を実施する。</p> <p>●授業一般目標 大学でさまざまな内容を学習していく上で重要な日本語による表現力を身につける。具体的には (1) レポート・レジュメ作成に必要な文章力, (2) 内容をわかりやすく口頭で説明するプレゼンテーション能力 を身につける。本科目は、本プログラムの学習・教育目標のうち、以下の目標に対応している。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける A-3 日本語による的確な表現力</p> <p>●成績評価方法(総合) 本講義は演習を重視しており、授業内外のレポート及びプレゼンテーションによって成績を評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 日本語表現のレッスン—文章技法からイベント・プレゼンの企画と実施まで, 長沼行太郎, 入部明子, 幸田国広, 青島康文, 向後千春, 教育出版, 2003 年</p> <p>●教員連絡先 関根:ms@env.civil.yamaguchi-u.ac.jp 榊原:sakaki@yamaguchi-u.ac.jp 中田:nakata@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	内藤裕志, 田中幹也, 他				
<p>●授業概要 ノート・パソコンを活用した文書作成やネットワークを利用した情報検索を基礎として、与えられた課題をまとめ、プレゼンテーションを行う。少人数グループに分かれ、倫理教育、最新技術の紹介、関連事項の調査、発表などを行う。</p> <p>●授業一般目標 このセミナーは、電気電子工学の分野を今から学ぼうとする学生を対象としたフレッシュマン・セミナーであって、この分野の学問を学ぶ上で必要となるインセンティブを育てることを目的としている。</p> <p>●成績評価方法(総合) 演習が基本なので、出席(約 40%)、授業への取り組みとプレゼンの内容と発表態度(約 30%)、レポートの提出・内容(約 30%)等が評価の対象となります。理由なく 20%以上の欠席がある場合、レポートの未提出がある場合は不合格となります(欠格条件)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書: 必要に応じて適宜指示する。ノート PC 利用のためのマニュアルは必要に応じて、各自購入すること。</p> <p>●メッセージ ・意欲的に授業に参加することを望む。・多くの授業時間外の作業を必要とする。・やむを得ず休む場合は、事前にメールにて担当教官に連絡をすること。</p> <p>●教員連絡先 内藤裕志: E-mail naitou1@plasma.eee.yamaguchi-u.ac.jp 田中幹也: E-mail ktanaka@eee.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	木戸尚治				
<p>●授業概要 本講義は当学科に関係のあるトピックスを通して、専門科目に対する興味を深めることを目的としている。少人数クラスに分かれて受講生と教師との密な接触を通して、当学科に入学した動機付けを確固たるものにすると共に今後の専門科目に対する積極的な取り組み方等を事例を通して習得する。</p> <p>●授業一般目標 与えられた課題について自ら調査・整理して、その結果を多くの人々の前で発表する訓練を行う。具体的には、当学科に関係する2, 3の話題に関する講義・実習・考察と発表を通して、上記の基礎的素養を身に付けることを目標とする。本科目は、知能情報システム工学科の学習・教育目標のうち、以下の項目に該当する：(A)の(1)種々の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などに関する知識を修得し、これらにより幸福・福祉や豊かさなどの概念が多岐にわたることを認識する。(E)の(2)論理的にコミュニケーションし、必要に応じて説明と討論が自由にできる能力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績の評価はレポート、授業態度、プレゼンテーションの内容を総合的に判断して決定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は特に指定しない。適宜プリント等を配る。／参考書：新版 聴覚と音声, 三浦種修, コロナ社, 1994年；音響・音声工学, 古井貞熙, 近代科学社, 1996年；画像診断 病気を目で見ると, 館野之男, 中央公論社, 2002年；画像でわかる私のからだ, 川上憲司, 講談社, 1996年；医学・生物学におけるフラクタル, 松下貢 編著, 朝倉書店, 1992年</p> <p>●メッセージ 専門科目に対するよう興味を深めて欲しい。また活発な討論をとおして、論理的思考法やプレゼンテーション能力を身につけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 木戸 kido@ai.csse.yamaguchi-u.ac.jp 火 17:00-19:00 山口 yamaguch@csse.yamaguchi-u.ac.jp 金 17:30-19:00 宮本 miyamoto@design.csse.yamaguchi-u.ac.jp 月 17:00-19:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	大島直樹、山本節夫、栗巣普揮、中山則昭				
<p>●授業概要 情報化社会において「ものづくり」にたずさわるエンジニアとして巣立つためには、自分の考えていることを誤りなく相手に伝えられること、および相手が伝えたいことを理解できること、が必要である。この授業では、このようなコミュニケーションの基礎的 事項（発表能力、日本語論述、数値的理解・表現）について学ぶことにより、高年次における勉学に対するモチベーションを高揚したい。</p> <p>●授業一般目標 (1)日本語による文章表現方法の基本を身に付ける。(2)自分の意見を口頭で発表する方法を体得する。(3)数値データを表現する方法を身に付ける。(4)与えられた課題について資料を収集しまとめる方法を知る。(5)パソコンを使用して口頭発表する方法を体得する。授業の到達目標</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポート = 約 25 % 宿題/授業外レポート = 約 25 % 授業態度や授業への参加度 = 約 25 % 受講者の発表(プレゼン) = 約 25 % 尚、出席が所定の回数(80%)に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜資料を配布する。、, / 参考書：適宜講義の中で紹介する。、,、</p> <p>●メッセージ 受け身の講義ではない。一人一人が積極的に発表や議論に参加することを望む。</p> <p>●教員連絡先 質問等は授業中に示す電子メールアドレスで対応する。急病等で欠席する場合は、機能材料工学科事務室(0836-85-9600)へ電話すること。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	河中正彦				
<p>●授業概要 前半と後半の2部に分かれる。1回目のオリエンテーション、2回目の文献検索のための図書館案内を序盤におき、前半の6回は主にクラスを3のグループに分けて、与えられたテーマをめぐって、グループ・ディスカッションを行う準備とその実践に割く。後半はレポートの書き方を全般篇と自然科学篇に分けて指導し、最後に進路の指導をする。</p> <p>●授業一般目標 高校生から大学生になるために必要なリテラシー(ネットの検索、レポートの書き方)を指導し、また自分の意見を持ち、それを発表する技術を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 5つのユニットごとにレポートを提出してもらい、それぞれ配点を20点ずつとして、$20 \times 5 = 100$点。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 論文の書き方, 澤田昭夫, 中公新書 624, 2002年; 理科系の作文技術, 木下是雄, 講談社文庫 153, 2001年; 教科書は文栄堂で購入。/ 参考書: なし。</p> <p>●メッセージ 必ず出席して単位を取ること。宇部では開港されないので、これを落とすと大変なことになる。</p> <p>●教員連絡先 933-5089 河中研究室 共通教育・研究1号館314号室 金曜4時半から6時</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	進藤晴夫, 山本晴彦, 執行正義, 宇佐見晃一				
<p>●授業概要 基礎セミナーでは、専門教育への自覚ならびに素材づくりを目指し、生命科学、環境科学等を含む、広い意味での農学に関連した諸問題について分かりやすく解説するとともに、最新のトピックスを紹介する。</p> <p>●授業一般目標 講義を通して、農学専門教育の一端に触れるとともに、農学にまつわる諸問題に対して、主体性を持って自分で考える習慣を体得することを目的とする。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機(1-25)	単位	2単位	曜時限	火曜日7・8時限
担当教員	山田守, 内海俊彦				
<p>●授業概要 専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について最新のトピックスを中心に討論する。特に、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。</p> <p>●授業一般目標 生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について理解を深めると同時に、この授業の過程で、資料作成、発表、討論によって、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせ、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身につけさせることを目指す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜紹介するとともに、一部プリントを使用する</p> <p>●教員連絡先 山田守：電話 933-5869, オフィスアワー 17時-18時 内海俊彦：電話 933-5856, オフィスアワー 17時-18時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機(26-)	単位	2単位	曜時限	火曜日7・8時限
担当教員	松下一信、横山和平、松富直利				
<p>●授業概要 専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について解りやすく解説するとともに、最新のトピックを紹介する。さらに、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。</p> <p>●授業一般目標 この授業の過程で、資料作成、発表、討論で議論を深めるとともに、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせるとともに、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身に付けさせることを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 発表の方法、内容、そして討論への参加状況から判断する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜紹介するとともに、一部プリントを使用する</p> <p>●教員連絡先 月～金 10～17時</p>					

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	獣医	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教員	岩田祐之・音井威重・利部聰				
<p>●授業概要 獣医学一般における基礎的な知識について学び、獣医学倫理を考える。授業形態としては、講義、意見発表、討論、レポート作成などを行い、自分の考えを論理的に発表あるいは論述する訓練も併せて行う。</p> <p>●授業一般目標 獣医学を学ぶものとしての自覚を持たせるとともに、論理的思考を習得させることを目的とし、獣医学で学ぶべきこと、獣医師の社会における活動分野、学際領域における獣医学、獣医学と自然・社会・文化・環境保全、人と動物の関係学などについて学ぶ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート 授業態度や授業への参加度 出席</p> <p>●教科書・参考書 教科書：一部プリント使用</p> <p>●メッセージ 意見発表・討論は積極的に行う。レポートは推敲した文章とする。</p> <p>●教員連絡先 岩田祐之 5899, vhg467@yamaguchi-u.ac.jp 音井威重 5904,otoi@yamaguchi-u.ac.jp 利部聰 5910,espero@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	橋本義則				
<p>●授業概要 この授業は、高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得ををめざす。授業形態は、4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>●授業一般目標 大学4年間あるはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート=40～60パーセント 出席=40パーセント</p> <p>●教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト2004年度版、</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	横田尚俊				
<p>●授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業は4～5名のグループごとにわかれて行う。</p> <p>●授業一般目標 大学4年間、あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作、および大学でネットワークにつながれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題・授業外レポート 50% 出席 50%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書(参考書欄に明記した資料)を使用するかどうかについては、皆さんと相談の上、最初の授業で指示します。／参考書：WEB 情報処理テキスト 2004 年度版、</p> <p>●メッセージ 受講生の熟練度などを見た上で、場合によっては、授業計画を変更する場合があります。基本的には初歩から基礎的な操作までを学んでいきますので、パソコンに習熟している人にとっては退屈かもしれませんが、そういう人は班のリーダーとなって、不慣れな人の指導をしてあげてください。</p> <p>●教員連絡先 メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室は人文棟3階307室です。来室する場合には、できれば事前にメール、電話等で連絡して下さい。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	森野正弘				
<p>●授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業形態は4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>●授業一般目標 大学4年間あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 宿題/授業外レポート = 40～60 % 出席 = 40～60 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト 2005 年度版</p> <p>●教員連絡先 morino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	尾崎千佳				
<p>●授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業形態は4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>●授業一般目標 大学4年間あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 宿題/授業外レポート = 40～60 % 出席 = 40～60 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト 2004 年度版</p> <p>●教員連絡先 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30-16:00</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	村田孝子				
<p>●授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業形態は4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>●授業一般目標 大学4年間あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート=40～60% 出席=40～60%</p> <p>●教科書・参考書 参考書：情報処理テキスト 2005年度版</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(国・社・音・美))・総文(文芸)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	吉村誠				
<p>●授業概要 情報機器の取り扱いに慣れる</p> <p>●授業一般目標 ワード、エクセルの基本を習得する</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報(数理)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	北本、林川				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。 ● 授業一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。 ● 成績評価方法(総合) 出席(30%)と期末試験(70%)により行う。 ● 教科書・参考書 教科書：WEB上のテキストを用いる。 ● メッセージ 毎週課題を出し、授業内に提出してもらいます。提出した課題の数が少ない人には単位を出しません。 					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(保・英)・国理)・実践	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	永久洋治				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 電子メール、情報検索などインターネットの基本的な利用方法と、ワープロおよび表計算について勉強する ● 授業一般目標 電子メール、情報検索、ワード、エクセルが利用できるようになること。 ● 教科書・参考書 教科書：未定 ● メッセージ 兎に角出席すること 					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(技))・健康(スポ健)・総文(国文)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	系長雅弘, 林川基治				
<p>●授業概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率 80 %未満を欠格条件とし、授業内レポート、授業外レポート、公開されたホームページ、グループ課題の発表内容を総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学「情報処理テキスト Web 版」</p> <p>●メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを持参すること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(家))・幼児・障害)・健康(生活)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	中田充				
<p>●授業概要 ワード、エクセル、メール、Web 等のコンピュータの基礎演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 コンピュータ操作に関する基礎知識を身につける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：追って指示する。 / 参考書：追って指示する。</p> <p>●メッセージ 欠席は原則として認めない。</p> <p>●教員連絡先 授業中に通知する。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(表現)	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限
担当教員	葛崎偉				
<p>●授業概要 コンピュータの基本ソフトウェアの一つであるUNIXの基本コマンド、エディタの使い方、メールやニュース等のインターネットの利用法、また種々のアプリケーション・ソフトウェアの使い方を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 本講義は高度情報化社会に必要なコンピュータの基本操作法とソフトウェアの利用法を身につけることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席状況、履修状況、レポートなどで総合評価する。 = 100%</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教員	陳建平				
<p>●授業概要 パソコン操作の基本から、日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのソフトの使い方を勉強し、そして電子メールやインターネットの利用の仕方にも慣れ親しんでもらう。</p> <p>●授業一般目標 パソコンを利用して、勉強や日常の生活に役立てることが目標。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、宿題、課題を総合して評価する。出席30% 宿題30% 課題40%</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	山根 悟				
<p>●授業概要 パソコンの操作を基礎から応用までを修得する。Windowsの基礎、タイプ練習日本語入力、表計算ソフト（Excel）をデータ入力し、関数の使用方法やデータの分析の方法などを基礎から応用まで学習する。また、プレゼンテーション用ソフトを利用し、インターネットからの情報を取り入れ、実際に発表する。検索キーワード パソコンの基礎から応用、タイプ練習、Windows、表計算</p> <p>●授業一般目標 表計算ソフト（Excel）を使用した検定試験の模擬試験を行い、受講者全員が情報処理検定2級程度の資格を取れるように演習を行う。学生生活でも社会に入ってから役立つパソコンの操作方法を修得する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 模擬検定試験を2回行い、この正確性と迅速性で評価する。プレゼンテーションの表現方法や独創性、積極性で評価点を付加する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：「情報処理入門」 浜本義彦監修 山口大学情報処理教育研究会編著，，</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	成富敬				
<p>●授業概要 講義や演習をとおして、コンピュータの概要やワープロソフト、表計算ソフトの使い方を体得するとともに、個人情報やネットワークを利用する際のエチケットについても学習する。また、コンピュータを使った手紙のやりとり（電子メール）、インターネットによる情報検索、プレゼンテーションソフトを用いた発表についても体験する。</p> <p>●授業一般目標 コンピュータを使って文書作成ができるようになるとともに、インターネットを利用した情報伝達、情報収集ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期試験（40%）、レポート（20%）、出席（40%）の割合で成績を評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料を配布する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	藤井大司郎				
<p>●授業概要 授業の概要を学ぶ対象について示すと、次の通りである。パーソナル・コンピュータの基本操作 日本語入力とワードプロセッサ 電子メールとインターネット 表計算ソフトとプログラミングの初歩 プレゼンテーション・ソフト 毎回、授業内容を電子ファイルで配布し、これに基づいて進める。授業毎回の出席状況と2～3つの課題報告提出とにより判断する。演習授業のため、出席しなければ意味がなく、欠席は3回を超えると単位を認めない。</p> <p>●授業一般目標 大学教育を受ける上で最低限必要となってきた情報リテラシーを身につけ、さらに、経済学部生の専門教育面や社会人になってからも役立つと思われる情報処理能力を習得することを目指している。大学生生活や授業で日常的に使える程度に、コミュニケーションや電子情報取得、論文やレポートの作成、簡易なビジネス用作表の能力を習得出来たと判断出来る者に単位を認める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 宿題/授業外レポート = 60～80 % 授業態度や授業への参加度 = 20 %未満 演習 = 20 %未満 出席 = 欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 毎回授業内容を電子ファイルで配布する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	藤田 智丈				
<p>●授業概要 最近は高校卒業までの間にパソコンの基本的な操作は一通り習っているはずですが、大学では単に文書を作成するだけではなく、表計算ソフトで統計処理をしたり、プレゼンテーションソフトでプレゼンをしたりするなど、パソコンの多様な使い方を身につける必要があります。この講義では、そのような利用の基礎となる使い方や考え方を身につけてもらうために、各生徒に体験してもらいながら授業を進めていきます。</p> <p>●授業一般目標 2年生以降のゼミで必要となるパソコン処理の基礎を身につける。具体的には、インターネットで必要な情報を収集したり、それを文書としてまとめること、さらに自分の考えをプレゼンテーション資料として形あるものにする、また表計算ソフトを用いて簡単な分析をできるようになること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業中に提出してもらった課題と、宿題となる課題、出席点を考慮して成績評価をします。定期試験は行いません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 指定無し / 参考書： ソフトの操作ガイドについては多くの書籍が出版されているので、必要であれば参考にしてください。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	宮澤康行				
<p>●授業概要 コンピュータに慣れさせ、コンピュータに触れる中で、高年次における情報処理教育や実社会で必要な基礎知識・技能を理解・修得させる。</p> <p>●授業一般目標 毎回コンピュータに触れ、コンピュータに慣れる。コンピュータを使う上での基本操作や概念を理解する。ソフトウェアを用い、様々な情報処理の技法を修得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、期末試験、レポートにより以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：情報処理入門, 山口大学情報処理研究会,</p> <p>●メッセージ 毎回出席してコンピュータに触れる機会を多くしましょう。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館1階134号室</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	自然(1-51)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	原田由美子				
<p>●授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows-NT 上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成、表計算の仕方、情報社会でのインターネットの利用法 などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>●授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、簡単な文書の作成や表作成、表計算やメールの送受信が行えることを目標にする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」山口大学情報処理教育研究会編</p> <p>●メッセージ 毎回必ず出席し、まじめに演習に取り組むこと。演習室での携帯電話の電源は必ず切ること。全授業回数のうち3分の2以上出席し、課題の提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。初回の授業には、ユーザーIDとパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>●教員連絡先 連絡先：e-mail harada@sci.yamaguchi-u.ac.jp、総合研究棟703(東)号室 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	自然 (52-)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	原田由美子				
<p>●授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows-NT 上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成、表計算の仕方、情報社会でのインターネットの利用法 などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>●授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、簡単な文書の作成や表作成、表計算やメールの送受信が行えることを目標にする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」山口大学情報処理教育研究会編</p> <p>●メッセージ 毎回必ず出席し、まじめに演習に取り組むこと。演習室での携帯電話の電源は必ず切ること。全授業回数のうち3分の2以上出席し、課題の提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。初回の授業には、ユーザー ID とパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>●教員連絡先 連絡先：e-mail harada@sci.yamaguchi-u.ac.jp、総合研究棟 703（東）号室 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	化地	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	宮田雄一郎				
<p>●授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows およびその上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成・表計算ソフトの利用方法・情報社会でのインターネットの利用法などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>●授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、データの管理、文書や表の作成や、メールの送受信、および簡単な表計算が行えることを目標にする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 毎回必ず出席し、全ての課題を達成し、提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。受講態度および提出された課題により成績を評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：山口大学情報処理教育研究会編「情報処理入門」</p> <p>●メッセージ 初回の授業には、ユーザー ID とパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>●教員連絡先 連絡先：e-mail you@yamaguchi-u.ac.jp、理学部本館 345 号室 オフィスアワー：随時</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	石田 博				
<p>●授業概要 高等教育や業務などにおいてパソコン、インターネットの活用が一般的に求められるようになってきている。さらにネットワーク上の情報交換は広く日常的になっており、パソコンの基本動作、基本的なソフトの活用は必須となっている。パソコンおよびその上で使われる基本的ソフトの使い方を修得し、情報ネットワークに対応できる知識、およびツールを学び、電子情報の活用の基本を身につける。</p> <p>●授業一般目標 パソコンの使用方法、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基本的な使い方、インターネット上で用いる基本ツールの利用方法、ネットワークの仕組みについて修得する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 演習中の積極性、態度および、レポート、発表により評価します。演習のため、遅刻するとそれまでの部分がわからなくなりますので注意して下さい。レポートにおいては、他者のコピーとわかるものはいずれも0点と評価します。、 演習 = 欠格条件 出席 = 欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 情報処理入門, 山口大学情報処理教育研究会, J.B. 企画, 2001 年; WEB 情報処理テキスト 2002 年度版, , 2002 年; 演習の内容により、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>●メッセージ 講義時間を有効に活用して、基本ソフトの使い方をマスターください。また、ネットワーク環境など大学であるからこそ使いやすい機能と危険性を理解してください。出席は必ずしてください。理解度、レポート、作成したものを評価対象とします。</p> <p>●教員連絡先 E-mail : hishida@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 : 医療情報部 2120, オフィスアワー : 火曜日 10:00~12:15 2120</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	唐澤肇				
<p>●授業概要 現代社会において、パソコンやインターネットを利用できるという能力はもはや特別なものではなくなり、むしろ全ての人間にとって必要不可欠なものとなってきている。この講義では、学生個人のパソコンをネットワークに接続させ、それを使った実習を通してパソコンやネットワークの基本的な仕組みと利用方法、また、ネットワーク上でのモラルについて説明する。講義と実習の難易度は初級～中級者レベルで行なう。</p> <p>●授業一般目標 ネットワークの仕組みを理解し、ネットワークの利用法を修得する。さらに、ネットワーク上のモラルを理解する。また、パソコンの初歩的使用法を修得する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 各回の課題・レポートにて実習内容の要素毎の理解度・達成度を判断、最終レポートにて総合的理解度を判断する。遅刻、早退および課題の提出期限遅れは減点する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 必要に応じて資料を配布する。 / 参考書： 情報処理入門, 山口大学情報処理教育研究会編, J.B. 企画; WEB 情報処理テキスト</p> <p>●メッセージ 授業の際は必ずノートパソコンを持参すること。課題およびレポートは必ず提出すること。期末試験は行なわない。</p> <p>●教員連絡先 E-mail:kara@yamaguchi-u.ac.jp URL:http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ kara/index.html</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護 (1-60)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	市原清志				
<p>●授業概要 大学生活はもちろんのこと、実社会、家庭においてもコンピュータを「電子文房具」として扱うことが当然のことのようにになっている。ワープロソフトを使った文書作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、メールや WWW を通じて情報のやりとり。本授業を通じてこのような能力「情報リテラシー」を身につけてもらいたい。ワードプロセッサ、表計算ソフト、メールソフトの使いかたを解説し、数多くの実践的課題をこなしてもらおう。</p> <p>●授業一般目標 1. メールやりとりが出来る 2. ワープロソフトを使って、文書が作成できる 3. 表計算ソフトを使ってデータの加工、グラフ化が出来る 4. インターネットから必要な情報を引出すことが出来る。またインターネットに自分の考えを発信することが出来る 5. セキュリティやネチケットに関する問題を指摘することができる</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 参考: web 版情報処理テキスト http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/ そのほか、市販のワード、エクセルのテキスト 資料は授業中適宜配布</p> <p>●教員連絡先 課題: 篠原紀幸 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino (提出先: soarer@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護 (61-), 検査	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	市原清志				
<p>●授業概要 大学生活はもちろんのこと、実社会、家庭においてもコンピュータを「電子文房具」として扱うことが当然のことのようにになっている。ワープロソフトを使った文書作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、メールや WWW を通じて情報のやりとり。本授業を通じてこのような能力「情報リテラシー」を身につけてもらいたい。ワードプロセッサ、表計算ソフト、メールソフトの使いかたを解説し、数多くの実践的課題をこなしてもらおう。</p> <p>●授業一般目標 1. メールやりとりが出来る 2. ワープロソフトを使って、文書が作成できる 3. 表計算ソフトを使ってデータの加工、グラフ化が出来る 4. インターネットから必要な情報を引出すことが出来る。またインターネットに自分の考えを発信することが出来る 5. セキュリティやネチケットに関する問題を指摘することができる</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 参考: web 版情報処理テキスト http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/ そのほか、市販のワード、エクセルのテキスト 資料は授業中適宜配布</p> <p>●教員連絡先 課題: 篠原紀幸 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino (提出先: soarer@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	齊藤俊				
<p>●授業概要 インターネットによって雑多な情報が広範囲かつ瞬時に伝わるようになり、必要な情報を探し出す技能や、得た情報を適切に加工し表現する技能を身につけることが求められており、工学分野では道具としてのコンピュータ利用が日常茶飯事である。この授業では、そこで問題となるセキュリティ、ネチケットの理解およびコンピュータ利用技術を身につけることを目的として、WEB ブラウザ、ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトの利用法について説明し、実際にその活用法について演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 はじめにコンピュータの基本操作、続いて日本語入力およびワープロ操作について学ぶ。さらに、パスワード管理の重要性を認識した上で、電子メールやインターネットの活用法を学び、ネチケット（ネットワーク・エチケット）を習得する。また、パワーポイントによる自己紹介を実施し、プレゼンテーション法の習得と、プレゼンテーション能力を養う。最後に、学習や研究に必要なソフトウェアの利用法を学ぶ。</p> <p>●成績評価方法（総合） 小テスト／授業内レポート = 20 %、宿題／授業外レポート = 20 %、授業態度や授業への参加度 = 20 %、受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 20 %、演習 = 20 %で評価する。出席は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：情報処理テキスト（web 版）を利用する。</p> <p>●メッセージ コンピューターは道具であり、その活用法の習得には自分で作業をしてみるしかないので、積極的な受講態度で臨むこと</p> <p>●教員連絡先 渡辺哲陽 E-mail: t-wata@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	小瀬茂寿				
<p>●授業概要 コンピュータを利用して情報を作成・取得し、編集（変換）して表現することを学習する。ここではコンピュータリテラシーとよばれる「文具としてのコンピュータ」の使用方法（ワードプロセッシング、表計算、グラフ表示、電子メールやブラウザ）、情報通信ネットワークやマルチメディアが普及した社会における情報の種類、検索、活用方法などメディアリテラシー（メディアを操る能力）、プレゼンテーションソフトによるわかりやすい発表方法について学ぶ。また、ネットワークの構造およびネットワーク社会における規範について考える。なお、演習の進行状況により内容・項目は変更になる場合もある。</p> <p>●授業一般目標 コンピュータを利用して情報を作成・取得し、編集（変換）して表現できるようにする。具体的にはワードプロセッシング、表計算、グラフ表示、電子メールやブラウザなどのアプリケーションを理解して使用できるようにする。特定のアプリケーションの使用法を覚えるのではなく、その動作原理を理解する。さらに、国際的な情報通信ネットワークやマルチメディア社会における情報の種類、検索、活用方法などメディアリテラシー（メディアを操る能力）を身につける。ネットワークの構造および国際ネットワーク社会における規範について理解する。プレゼンテーションソフトによるわかりやすい発表方法について理解する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 小テスト・授業内レポート、宿題・授業外レポートおよび受講者による発表（プレゼン）を総合的に評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 宇部で開講します。毎回の出席を基本としていますので、欠席しないように。</p> <p>●教員連絡先 授業の最初に説明いたします。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	今井剛, 榊原弘之				
<p>●授業概要 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の実習を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の修得し、道具としてのコンピュータを使いこなすことができるようになる。この科目は以下の学習・教育目標に対応する。社会建設工学コース（A）確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法（総合） 1. 演習講義には毎回出席し試験をすべて受けること。（出席は欠格条件です。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席した場合には必ず次の講義時に担当教員へ欠席届を提出し、指示（欠席分に相当する課題を課す）を受けること。） 2. レポート課題を 40 %、期末試験を 60 %として成績を評価し、60 点以上（100 点満点）を合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ホームページ上で公開されている情報処理テキストを使います。／参考書：適宜プリントを配布。</p> <p>●メッセージ ・この講義には、ノートパソコンが必要です。・いろいろな機能について、実際に試して、体得して下さい。</p> <p>●教員連絡先 今井：imait@yamaguchi-u.ac.jp 榊原：sakaki@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	若佐裕治				
<p>●授業概要 (1) パソコンの基本操作—コンピュータ初心者想定したパソコン入門編である。パソコンの立ち上げから始めて、メール、インターネットや、ワープロ (Word) と表計算ソフト (Excel) の演習を行う。(2) UNIX コマンドの体験— Windows と共に代表的なオペレーティングシステム (コンピュータの基本ソフト) である UNIX を利用する。telnet により UNIX システムにログインし、基本 コマンドを入力する。(3) C 言語プログラミング—標準的なプログラミング言語である C 言語を用いて、プログラムを作成・コンパイルして実行する。判断と分岐や繰り返しの処理など、ごく基本的な内容をプログラミングする。</p> <p>●授業一般目標 本演習の目標は、パソコンを携帯電話と同じように身近な道具として違和感なく利用できるようになることである。本演習を通して、情報処理技術 (ハード・ソフトの操作とプログラム作成) の基礎を身につける。「習うより慣れよ」を肝要とし、課題演習に重点を置いて授業を進める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テストあるいは授業外レポート (30 %)、中間試験 (30 %)、期末試験 (40 %) による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ザ・C、戸川隼人、サイエンス社、1997 年</p> <p>●メッセージ 現在、PC を使わないですむ仕事は殆どありません。これからの自分のために、授業で課されたレポートは、必ず自分で演習して、全部提出すること。ティーチングアシスタントもいるので、わからないところは聞いて、自分のパソコン力を向上させることが一番重要です。</p> <p>●教員連絡先 wakasa@eee.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部電気電子工学科棟 5 階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	村上ひとみ				
<p>●授業概要 コンピュータとインターネットは広く社会や家庭にも普及し、日々の仕事や生活に欠かせないものとなっている。この授業では工学部で共同購入を勧めているノートパソコンを中心に、学内ネットワークへの接続、電子メールの使い方、情報検索の方法等を実践的に学ぶ。また、図表を入れた効果的な文書作成やホームページの試作を通じて、自らの意見や学習成果を発信するツールとしてのコンピュータの活用法を体験する。また、本学科では2年目からLinuxによる実験演習が基本となるので、この授業ではイントロダクションとして、大演習室のLinuxシステムのコンピュータを利用して、ファイルシステムの基本とエディタの使い方を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 ノートパソコンを情報コンセントに接続してメールの送受信、ネットワークの検索ができる。パソコンによる文書作成、図表作成、ファイル管理がスムーズにできる。ネットワークの仕組みの基本を理解し、セキュリティと情報倫理に十分留意した行動がとれる。Linuxのファイルシステムを理解し、簡単なコマンドやエディタの操作ができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポート40%、授業外レポート60%により総合評価する。なお、80%以上の出席が必要条件である。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト 2004年度版, , 2004年</p> <p>●メッセージ コンピュータを使い慣れている学生は、WEBテキスト等を活用して、自学自習によりさらに高い知識技術を身につけてほしい。また、クラスには初心者もいるので、助け合って学びましょう。</p> <p>●教員連絡先 工学部総合研究棟515室 TEL: 0836-85-9537 e-mail: mrkm@yamaguchi-y.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	田中一宏・小松隆一				
<p>●授業概要 パーソナルコンピュータを用いて情報を読み・書き・処理できる能力を身につけるための演習を行います。Windows2000システムを用いて実習します。</p> <p>●授業一般目標 パソコンの操作法、文字入力、ワープロ文書作成、山口大学におけるコンピュータシステムおよびネットワークシステムの概略、個人情報の管理方法、電子メールによる情報交換、インターネット WWWによる情報収集、表計算ソフトによる・グラフ作成・数値処理、初歩的な数値処理プログラミング・表・グラフ作成などについて、習熟することを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 演習の実施内容の電子メールによるレポート、授業外レポート、などを総合的に評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト, 情報処理教育部会, , 2003年; http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetu/note_text_2003/index.html</p> <p>●メッセージ 情報処理技術は大学でも就職後も重要です。しっかり予習・復習して、実力をつけましょう。1年次開講「基礎セミナー」の後半に、ノートパソコンを用い、インターネットによる課題調査およびプレゼンテーションを行います。 「情報処理演習」の講義内容の理解と習熟を前提としています。</p> <p>●教員連絡先 田中一宏：E-mail tnkkzhr@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9662, 研究室 化学工学棟3階, オフィスアワー 随時、電子メールにて 小松隆一：e-mail, r-komats@yamaguchi-u.ac.jp, 0836-85-9631(tel & fax), 研究室 工学部本館334, オフィスアワー、随時、電子メール可</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	三池秀敏、一川誠、長篤志、山本正幸、宗近孝吉				
<p>●授業概要 この講義は、現代の科学技術を支える情報処理の入門として位置付けられています。感性デザイン工学を専門として勉学する皆さんには、建築デザイン、映像情報デザインあるいは感性工学いずれの分野に進んだとしても、コンピュータの基本的な知識や操作方法、種々のソフトウェアを使いこなす力が必要となります。</p> <p>●授業一般目標 CAD、CGあるいはプログラミングによる高度なコンピュータ利用への第一段階として、パソコンの構造、基本ソフト（OS）の概念、アプリケーションソフトとしてのワープロ（ワード）や表計算ソフト（エクセル）を学びます。また、世界中に広がったコンピュータネットワーク（WWW）を利用するマナー、電子メールの利用法、そして簡単なプログラミングの考え方について基本を学びます。大切なのは、自分の手で1つ1つ覚えていくことです。各人1台購入するノートパソコンを最大限活用し、皆さんの最大の武器となるよう努力して下さい</p> <p>●成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験により判定する。ただし、出席点を20%考慮する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：情報処理入門、浜本義彦監修，J．B．企画，2000年</p> <p>●メッセージ 授業中だけでなく、毎日コンピュータと仲良くして下さい。</p> <p>●教員連絡先 三池秀敏：E-mail miike@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 0836-85-9712, オフィスアワー 17:00-18:30 長篤志：E-mail osaa@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	鈴木賢士				
<p>●授業概要 現代の高度情報化社会においては、インターネット等のネットワークが急速に広まり、コンピュータの利用は必要不可欠のものになっている。また、高年次の専門課程においては実験、観測、調査によって取得したデータの解析、その解析結果の可視化が重要になってくる。このためにはコンピュータは必要不可欠なツールであり、この授業ではネットワークの利用ならびにコンピュータによる分析、解析や報告書の作成を念頭におき、ネットワーク環境下のパソコンを使用しながら授業を進める。</p> <p>●授業一般目標 情報処理に関する基礎知識、技術・手法の習得、またコンピュータネットワークの基礎的視知識とその利用方法を習得する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 項目ごとの課題提出、レポートおよび出席により評価を行う。</p> <p>●教員連絡先 E-mail：kenis@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	荊木康臣				
<p>●授業概要 情報処理に関する基礎知識および技術の修得、主にコンピュータとインターネットの利用に関する基礎的な技術の修得を目的とする。コンピュータおよびインターネットの利用は、高年次の専門課程での学習、研究における情報収集、データ解析、レポート作成等に不可欠である。本講義では、ワープロソフト、表計算ソフト、翻訳ソフト、プレゼンテーション用ソフトを実際に利用し課題をこなしていく過程で、学習、研究の場面でのコンピュータ利用に関する実践的な能力を身につけていく。</p> <p>●授業一般目標 情報処理に関する基礎知識および技術、主にコンピュータとインターネットの利用に関する基礎的な技術を修得する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料は授業時に配布します。</p> <p>●メッセージ 毎回ノートパソコンを使用します。</p> <p>●教員連絡先 ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：総合研究棟 2 階 206 号室または農学部 1 階 131 号室 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	山根 悟				
<p>●授業概要 パソコンの操作を基礎から応用までを修得する。Windowsの基礎、タイプ練習、日本語入力、表計算ソフト（Excel）をデータ入力し、関数の使用方法やデータの分析の方法などを基礎から応用まで学習する。また、プレゼンテーション用ソフトを利用し、インターネットからの情報を取り入れ、実際に発表する。キーワード パソコンの基礎から応用、タイプ練習、Windows、表計算</p> <p>●授業一般目標 表計算ソフト（Excel）を使用した検定試験の模擬試験を行い、受講者全員が情報処理検定2級程度の資格を取れるように演習を行う。学生生活でも社会に入ってから役立つパソコンの操作方法を修得する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 模擬検定試験を2回行い、この正確性と迅速性で評価する。プレゼンテーションの表現方法や独創性、積極性で評価点を付加する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」 浜本義彦監修 山口大学情報処理教育研究会編著、</p>					

開設科目	日本事情中級 A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	今井新悟				
<p>●授業概要 日本の社会・文化について理解し、異文化に対して、バランスの取れた感覚をもって対応できるように、情報を集め、資料を読み、理解し、自分の意見を述べ、参加者と意見交換します。</p> <p>●授業一般目標 現代の日本事情、現代日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。山口の地域固有の文化・社会についての情報を収集し、その理解を深め、収集した資料をまとめ報告する力を身につけます。日本や自国の文化学習を通して、地球社会の多様な文化を相対的に見なす能力を培い、グローバルなコミュニケーションができる能力を養います。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、定期試験、出席</p> <p>●教科書・参考書 教科書：日本事情入門、佐々木瑞枝、アルク、1995 年</p> <p>●教員連絡先 共通教育棟 325 号室、Tel. (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日午後 2:30～16:00</p>					

開設科目	日本事情上級 I A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	門脇薫				
<p>●授業概要 日本の文化や社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面を視聴し、日本語の文法・表現についても学びます。</p> <p>●授業一般目標 *日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較し、考察する。*様々なテーマについて、日本語で自分の考えが述べられる。*映画に出てくる自然な日本語を聞き、文法・表現・言葉についての知識を増やす。</p> <p>●成績評価方法(総合) *文化・社会について知識を問うもの、日本語能力に関するものについてはテストを行う。*テーマに関することについては、レポート提出。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：*授業で、毎回タスクシートを配布します。*『映画でジャパニーズ』南雲堂フェニックス/参考書：『日本事情ハンドブック』大修館書店</p> <p>●メッセージ 映画を見ながら、日本語・日本事情の勉強をしましょう！</p> <p>●教員連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟 3 階 329</p>					

開設科目	日本事情上級 II A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				

●授業概要 現代の日本社会の問題について教科書、新聞、テレビの報道番組などを教材に、日本社会の分析を行う。学習者間で意見交換を行い、各国と比較しながら、日本への理解を深めるのみならず、異文化理解を深めることを目的とする。ゲストスピーカーとの意見交換も行う。

●授業一般目標 1. 新聞記事を読むことができ、要旨をまとめ、各自の意見が述べられる。2. テレビニュースを聞き取ることができる。3. 各テーマについてディスカッションやディベートができる。

●成績評価方法(総合) 期末レポート、毎週のレポート(300字程度)、プレゼンテーションで評価する。

●教科書・参考書 教科書: 日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情, 日鉄ヒューマンデベロップメント・日本外国語専門学校, The Japan Times, 2001年 / 参考書: 日本事情入門, 佐々木瑞枝, アルク, 2001年; 日本を知る, 板坂元, スリーエーネットワーク, 1996年; 日本生活事情, 日本語ジャーナル, アルク, 1997年

●教員連絡先 木曜日午後 国際センター宇部室 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-85-9037

前期一外国語教育系列（英語）

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(国・社・数・理・音))	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室(経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(美・保・技・家・英)・幼児)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	岡紘一郎				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(障害・国理)・実践	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	情報	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	健康	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 個人的な質問がある場合は、授業終了直後に申し出てください。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	総文	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	堤千佳子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 未定</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・鴨川教員の授業と合併（80 名程度）で実施する。・初回から必ず教科書持参せよ。持参しない者は欠席扱い。</p> <p>●教員連絡先 初回の授業で通達する。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (71-)・看護 (1-20)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	嶋川 啓信				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・宮原教員の授業と合併 (80 名程度) で実施する。・初回から必ず教科書持参せよ。持参しない者は欠席扱い。</p> <p>●教員連絡先 初回の授業で通達する。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護 (21-55)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	増田 勉				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 電話 933-5425 火曜日 14:30-17:30</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護 (56-)・検査 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	田中晉				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	検査 (11-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	松谷緑				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(36-70)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	嶋川 啓信				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ 宮原教員の授業と合併 (80 名程度) で実施する。 ・ 初回から必ず教科書持参せよ。持参しない者は欠席扱い。</p> <p>●教員連絡先 初回の授業で通達する。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(71-105)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	高橋俊章・猫田和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット（ウォークマン等に付属のものでよい）を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと（コンピュータのログインに必要になります）</p> <p>●授業一般目標 (1) コンピューターを用いて、TOEIC テストの問題に取り組むことにより、TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、授業中にコンピュータ上で行う TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法（総合） ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・授業中行う演習の量と正解率を評価に算入致します。・自習課題および担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）Smart-HTML 形式の問題については、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginservlet 参照（URL は変更になる可能性があります）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「e-mail」を利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・コンピュータを用いて行う授業ですので授業前に教室に入り、ログインして授業の開始に備えて下さい。</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5421 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5417</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(106-140)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	伊豆大和				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という 2 つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法（総合） ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室（経済 A323）</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(141-175)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 未定</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(176-210)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(211-245)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	太田聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文 619</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(246-280)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 増田：933-5425 火曜日 16:00-17:30</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 I(281-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ 鴨川教員の授業と合併 (80 名程度) で実施する。・ 初回から必ず教科書持参せよ。持参しない者は欠席扱い。</p> <p>●教員連絡先 初回の授業で通達する。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 II(1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	渡辺朱実				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 II(36-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生資 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	高橋博美				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生資 (36-)・生機 (1-15)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生機 (16-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	岡紘一郎				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	獣医	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 個人的な質問がある場合は、授業の直後に申し出てください。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	太田聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文 619</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (71-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	島越郎				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (人文学部 6 1 1)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (− 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	松谷緑				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (− 0.25 回) に換算して評価する。・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (71-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	武井 暁子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	数理 (1-40)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 電話 933-5425 火曜日 16:00-17:30</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	数理 (41-)・自然 (1-25)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 石井研究室（教育 200 - (1)） オフィスアワーは初回授業時に指示</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	自然 (26-65)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	中村幸士郎				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 koshiro@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室（教育 200 - 2） 火曜日 16：10～17：40</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	自然 (66-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	化地 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	矢野紀子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	化地 (36-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 個人的な質問がある場合は、授業の直後に申し出てください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (1-40)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (41-80)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	島越郎				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (−0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (人文学部 6 1 1)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (81)・応化 (1-30)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	嶋川 啓信				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (−0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	応化 (31-70)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	矢野紀子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	応化 (71-)・社建 (1-15)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	武井 暁子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ T O E I C I P 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、T O E I C の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	社建 (16-55)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 増田: 933-5425 火曜日 16:00-17:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	社建 (56)・電気 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	松谷緑				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (-0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気 (11-50)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 石井研究室 (教育 200 - (1))</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気 (51-)・知能 (1-5)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	高橋俊章・猫田和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット (ウォークマン等に付属のものでよい) を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと (コンピュータのログインに必要になります)</p> <p>●授業一般目標 (1) コンピューターを用いて、TOEIC テストの問題に取り組むことにより、TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、授業中にコンピュータ上で行う TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・授業中行う演習の量と正解率を評価し算入致します。・自習課題および担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ) Smart-HTML 形式の問題については、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginervlet 参照 (URL は変更になる可能性があります)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「e-mail」を利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・コンピュータを用いて行う授業ですので授業前に教室に入り、ログインして授業の開始に備えて下さい。</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5421 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5417</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	知能 (6-45)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組(使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室(経済 A323)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	知能 (46-)・機材 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	伊豆大和				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組(使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室(経済 A323)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機材 (11-50)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機材 (51)・感性 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	高橋博美				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	感性 (11-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	太田聡				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 人文 619</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工 (昼・夜) 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 (夜間)
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	高橋俊章				
<p>●授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 及び 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：プリントで配布する教材以外に、Smart-HTML という e-learning ソフト（『英文法徹底トレーニング』など）で復習を行って下さい。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です。</p> <p>●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	猫田和明				
<p>●授業概要 TOEIC の PART1,2,5,6 を中心に、リスニング演習と基本的な語彙・文法演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC350 点以上をとれる力をつける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「TOEIC 準備」の教科書及びその他のプリント教材を用いる。</p> <p>●教員連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	中村幸士郎				
<p>●授業概要 この授業は TOEIC 500 点以上獲得を目指します。特にリスニングを中心に特訓しますが、語彙・文法問題等もプリントで訓練します。各パートに関する攻略方法を確認しながら実践力をつけていきます。各自先ず自己分析をし、何が不足かあるいは問題かを自覚し、適切に強化する必要があります。目標達成意欲と授業同様課外での訓練が絶対に必要です。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC 400 点獲得に向けて、特にリスニングの基礎力を養成すること、また語彙・文法に関する基礎知識を習得することが目標です。語学の集中的また習慣的な自己訓練方法を先ずは身につけて、着実に実行することが目標になります。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC テストで基準点(300、350、400)を獲得することが必須条件。出席率を重視。クォーターのため、3 回以上欠席は単位が出ない。平素の少テストや提出物も成績に加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Steps to Success in TOEIC Listening 500, D.Bramley, 河合忠仁, 松柏社, 2002 年 / 参考書: プリント配布</p> <p>●メッセージ 必ず出席する。予習・復習を確実にする。各自目標を設定する。</p> <p>●教員連絡先 金曜日 16:00~17:30 研究室(教育学部、200-2) 083-933-5424</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	武井 暁子				
<p>●授業概要 TOEIC 受験対策を行う</p> <p>●授業一般目標 TOEIC 目標スコアに到達する力をつける</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC スコア</p> <p>●教科書・参考書 教科書: TOEIC TEST Head Start, , 南雲堂</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	武井 暁子				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC 受験対策を行う ●授業一般目標 TOEIC 目標スコアに到達する力をつける ●成績評価方法(総合) TOEIC スコア ●教科書・参考書 教科書：TOEIC TEST Head Start, , 南雲堂 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	石井由理				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC300 点取得をめざして、TOEIC 試験の Reading (Part V-VII) を中心に指導する。また、語彙数を増やすために毎回単語を覚える宿題を出す。Listening は問題形式を忘れない程度に短時間取り入れる。 ●授業一般目標 PartV-VII の問題を解く力を身につける。語彙を増やし、文章の内容の理解をすることによって、内容把握の能力向上をめざす。 ●成績評価方法(総合) TOEIC のスコアおよび出席に基づき算出する ●教科書・参考書 教科書：プリントを使う ●教員連絡先 教育学部 2 回 200 - (1) 室 オフィスアワーは初回授業時に伝達 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	伊豆大和				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC のスコア 350 点以上を目指し、 Reading Section (part5,6,7) の練習問題を解く。 ●授業一般目標 Reading Section の強化を図り、TOEIC のスコア 350 をクリアする。 ●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき評価する。 ●教科書・参考書 教科書: TOEIC Short Exercises-Reading-, 三井敏正, 郁文堂, 2000 年; 教科書は文栄堂で販売予定。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	猫田和明				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC の PART1,2,5,6 を中心に、リスニング演習と基本的な語彙・文法演習を行う。 ●授業一般目標 TOEIC350 点以上をとれる力をつける。 ●成績評価方法 (総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。 ●教科書・参考書 教科書: 「TOEIC 準備」の教科書及びその他のプリント教材を用いる。 ●教員連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室 (教育 A354) ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	正宗聡				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 TOEIC SCORE 400 点を指すべく、英語と格闘してみる。 ● 授業一般目標 この授業を受ける前よりは、英語について興味や関心を増す。 ● 成績評価方法 (総合) 授業態度+最後の週に行う試験 ● 教科書・参考書 教科書： TOEIC Circuit Training (TOEIC 準備で使ったもの) / 参考書： なし ● メッセージ なし ● 教員連絡先 未定 ● 備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	岩部浩三				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 本学で利用可能なオンライン英語ソフトを利用して、TOEIC (350 点ではなく) 400 点以上を目指します。授業時には、個人的なカウンセリングを実施しますので、毎回必ず出席してください。 ノートパソコン必携です。LAN ケーブルとヘッドフォンも忘れずに。 ● 授業一般目標 TOEIC スコア 350 点を突破することが最低条件です。 e-learning を活用し、各自の能力に合わせた効率的な英語学習で 400 点以上を目指します。 弱点を発見してそこを補い、継続的な学習を維持するため、個別カウンセリングを実施します。 ● 成績評価方法 (総合) TOEIC テストの成績、e-learning の進み具合とその成績により評価します。 ● 教員連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp ● 備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 TOEIC 形式の演習問題を載せたテキストを使って TOEIC 受験のための英語の実力を養成する。英語特有の音声、速読、および文法項目について演習問題を解きながら解説してゆく。</p> <p>●授業一般目標 (1) 英語の音声に慣れ、リスニングの力をつけること。(2) 日本語に訳すことなく英文を出来るだけ速く読めるようにすること。(3) 英文法の知識を増やすこと。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC テスト総合対策演習, 森田彰 他, 成美堂, 2002 年</p> <p>●メッセージ 紙の辞書または電子辞書に係らず、自分にあった辞書を使いこなすことに心がけてください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工 (夜) 2 年, 医・工 (昼) 3 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 (夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることが目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC Test: Head Start. 山本成代, Jim Knudsen 著, 南雲堂, 2005 年 / 参考書：TOEIC Test 英文法出るところだけ, 小石裕子著, アルク, 2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 TOEIC350点取得をめざして、TOEIC 試験の Reading (Part V-VII) を中心に指導する。また、語彙数を増やすために毎回単語を覚える宿題を出す。Listening は問題形式を忘れない程度に短時間取り入れる。</p> <p>●授業一般目標 PartV-VII の問題を解く力を身につける。語彙を増やし、文章の内容の理解をすることによって、内容把握の能力向上をめざす。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアおよび出席に基づき算出する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを使う</p> <p>●教員連絡先 教育学部 2 回 200 - (1) 室 オフィスアワーは初回授業時に伝達</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部(昼間)・農学部(生物機能科学科・獣医学科)・理学部(化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 出席+課題+参加態度 (=100 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年；配布資料 / 参考書：Get 450 Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 450 点对策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	堤 千佳子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC のスコアを上げることが目標とし、TOEIC 準備を引き継ぎ、TOEIC 受験のノウハウを指導し、継続学習を確実なものとする。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応能力を高める。(2) 自習課題を通して、Listening Comprehension に慣れるよう自学自習に努める。(3)TOEIC のスコア 350 点以上を目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業回数の 1/3 以上の欠席は失格とする。TOEIC のスコアに基づき、算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Power-up Steps for the TOEIC test, 塚野壽一, 成美堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ この授業の目的をよく理解して授業に臨んでください。遅刻は厳禁です。1 回目の授業でスコアボードと自習用のアンサーシートの用紙を渡します。毎回提出することになるので、紛失したり、忘れてしないようにしてください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	岡 紘一郎				
<p>●授業概要 テキストは Reading をタイトルとしているが、内容は三分野にわたっている。テキストに沿った授業展開をすると同時に、適宜 TOEIC 準備で使用したテキストの復習をする。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC のスコアを 400 点以上に上げることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Reading Tactics for the TOEIC Test, V.Shibata et al, 南雲堂, 2005 年 / 参考書：授業中に紹介</p> <p>●メッセージ 授業前後の予、復習を十分にやること</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 TOEIC 準備の段階を終了した者に対して、難易度の最も低いテキストを使って、引き続き TOEIC スコアを上げるための特訓を行なう。</p> <p>●授業一般目標 この授業では、使用テキストがストーリー展開に沿ったテーマ別構成をとっており、文法・重要語彙や正解のコツも確認できる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出される。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Power-up Steps for the TOEIC Test, 塚野壽一他, 成美堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ 毎回の授業におけるトレーニングがすべてであるので、皆勤をめざしてほしい。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	岡 紘一郎				
<p>●授業概要 TOEIC 350 点以上の力をつけるよう学習する。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC 350 点を突破するべく、これまでの学習を点検し、補強すると共に、更に 各分野で力をつけていく。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア、授業への参加度、出席状況等総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Reading Tactics for the TOEIC Test, V.Shibata et al, Nannunndo, 2005 年／参考書：教室で紹介</p> <p>●メッセージ 自分が努力しなければ力はないことを銘記しておくこと。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 このクラスは TOEIC 準備を引き継いで、TOEIC 350 点未満の者のスコアを上げるための特訓クラスである。グローバルな時代である現代に生きていくためにぜひとも必要な異文化理解の観点から選んだテキストで、興味津津たる読み物を楽しみながら各種のエクササイズを通して総合的な実力を伸ばしていく。</p> <p>●授業一般目標 テキストの各レッスンはそれぞれ TOEIC の読解問題、文法・語彙問題、訳文訂正、リスニング問題のパートに分かれている。TOEIC の試験に頻出するさまざまな形式の問題に習熟してスコア・アップを確実なものにする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC 形式のテストのスコアによる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「異文化で学ぶ TOEIC テスト総合演習」、清水義和他、成美堂、2003 年／参考書：「Step - Up リスニング TOEIC TEST」、小菅淳吉、ケート・エルウッド共著、桐原書店、2002 年；「はじめて受ける TOEIC TEST パーフェクト攻略」、松野守峰、根岸進共著、桐原書店、2004 年；上にあげた参考書は書名どおりそれぞれリスニングと、TOEIC そのものに対する不安解消のための、また TOEIC 受験勉強のための自習用に最適と思われる。黒と赤の 2 色刷りになっているのも自習のための工夫といえる。</p> <p>●メッセージ TOEIC 関係の授業では遅刻、欠席は許されない。常に視聴覚機器を使用するので、いちいち遅刻者に対応できないのが実情なのである。</p> <p>●教員連絡先 個人的な質問がある場合は、授業終了直後に申し出てほしい。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部 (昼間)・農学部 (生物機能科学科・獣医学科)・理学部 (化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 出席+課題+参加態度 (=100 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年／参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 450 点対策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ&オリブカンパニー, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	高橋 博美				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEICのスコアを高めるための指導を行う。特に、パート1, 2, 5, 6に重点を置いた演習を行う。 ●授業一般目標 TOEICで350点以上の成績を取める。 ●成績評価方法(総合) TOEICのスコア(合格基準点350点)に基づき、算出する。 ●教科書・参考書 教科書: TOEIC準備のテキスト。その他プリント配布。 ●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	渡辺 朱実				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC350点未満の学部生を対象とする特訓クラスであり、受験のノウハウを指導する。特に、短い文章のリスニング力(TOEIC part 1, 2)及び語彙力、文法能力(TOEIC part 5, 6)の強化に重点を置く。 ●授業一般目標 TOEIC350点以上の獲得を目標とする。 ●成績評価方法(総合) TOEICのスコア、出席、参加態度、等を総合的に判断する。 ●教科書・参考書 教科書: 基本的に、TOEIC準備で用いたテキストを使用する。必要に応じ、プリントを配布する。／参考書: TOEIC関連の問題集 ●メッセージ 真の英語力取得を望む学生には、日々の積み重ねこそが大切であることを自覚していただきたい。(一夜漬けならぬ短期集中型の取り組みは一瞬のものでしかない。)TOEICは、英語力を計る一種の目安(手段)であり、取得点数に一喜一憂せず、授業終了後も継続して努力していただきたい。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	伊豆大和				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC のスコア 300 点以上を目指し、Reading Section(part 5,6) の練習問題を解く。 ●授業一般目標 Reading Section の強化を図り、 TOEIC のスコア 300 をクリアする。 ●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき評価する。 ●教科書・参考書 教科書： 毎回プリントを配布する。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	河野庸二				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 このクラスは TOEIC 350 点未満の者を対象に、スコアを上げるための特訓クラスである。TOEIC 準備を引き継ぎ、受験のノウハウを指導する。TOEIC の基本であるリスニング・スキルに的を絞って実践的な授業を展開する。 ●授業一般目標 視聴覚機器を使用し、常に実践的な授業を展開する。したがって受講者は全神経を授業に集中できる態勢である必要がある。ネイティブ・スピーカーの発音、イントネーションに耳を慣らすことが主目的である。 ●成績評価方法 (総合) TOEIC データにより判定する。 ●教科書・参考書 教科書：「Building Listening Skills for the TOEIC TEST」, Gina Richardson, Michele Peters, ピアソン・エデュケーション, 2005 年； 上記のテキストは Part1 写真描写問題、Part 2 応答問題、Part 3 会話問題、Part 4 説明文問題に分かれている。／ 参考書：「Step-up リスニング TOEIC TEST」, 小菅淳吉、ケイト・エルウッド 共著, 桐原書店, 2002 年； 「はじめて受ける TOEIC TEST 攻略法」, 松野守峰、根岸進共著, 桐原書店, 2004 年； 上記 2 種類の参考書は、それぞれリスニング、または TOEIC テスト自体に自信のない人の不安を取り除くための自習書として書かれており、2 色刷りになっていて赤の下敷きで答を隠せる仕掛けがしてある。 ●メッセージ テスト形式中心の授業になるので、途中で遅刻者に対応することはできない。 ●教員連絡先 個人的な質問がある場合には、授業終了直後に申し出ること。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	矢野 紀子				
<p>●授業概要 ・この授業は TOEIC のスコアを 350 以上引き上げるため、特にリスニングに力を入れる。 ・毎回 TOEIC テストと同じ形式のリスニングのプリントを配布し、問題を解いた後には、各自、復習できるように、ポイントを示す、英語の解答も配布する。</p> <p>●授業一般目標 ・授業の中で、テープを流し英語を聞きとる集中力を養ってゆく。 ・プリントで用いられている英単語、イディオムの意味を確認し、語い力を高めてゆく。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC スコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布</p> <p>●メッセージ 特に TOEIC のリスニング PartI、PartII、PartIII を中心に授業内でテープを流し、内容の確認を基本から押さえてゆきます。必ず、英和辞書（電子辞書も可）を持ってきて下さい。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 300 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力で何とかしようとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 300 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC テストで 300 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：固定したテキストを用いずに、プリント等の配布により授業を進める。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 TOEIC で 350 点を取れなかった学生のための補習的授業である。だが、試験対策だけの授業ほど大学にそぐわないものはない。よって、この授業では単なる TOEIC 形式の問題演習や、TOEIC 受験ノウハウ習熟に特定した訓練は行わない。地道な復習と訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ・高校 1 年生まで程度の文法項目を復習する。 ・英語の短文を聞き取る力を、TOEIC350 点に相応しいレベルにする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・TOEIC で 350 点を取ることが、この授業の合格の要件となる。(下の「その他」項目に該当) (ちなみに、2002 年度 TOEIC-IP の高校 2 年生の平均点は、358 点である。標準的な高 2 レベルに達すれば、TOEIC350 はクリアできるだろう。) ・TOEIC で 600 を超えれば秀、500 を超えれば優、400 を超えれば良、350 点以上で可。それ未満は不可。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：(1) 『TOEIC テスト 3 ヶ月トレーニング 350 点編』, 千田潤一・他, SS コミュニケーションズ, 2001 年；(2) 『スーパーシグマ これでわかる英語 I』, 文英堂編集部, 文英堂, 1994 年；教科書購入は二冊とも必須。／参考書：『TOEIC TEST 英単語・イディオム直前 350』, 安河内哲也, J リサーチ出版, 2002 年</p> <p>●メッセージ ・真剣に地道な反復練習をする気のない人、「今さら高校英語なんて」と考える人は、受講しないこと。 ・TOEIC 形式の問題演習で訓練したいという人も、別の教官による「TOEIC 指導 A」に乗り換えてください。</p> <p>●教員連絡先 初回の授業時に、受講生に知らせる。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	松谷緑				
<p>●授業概要 大意把握の読解練習をしながら、語彙の習得、基本的な文法事項の整理をおこなう。あわせて、英文に慣れるようリスニングの練習をする。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC のスコアアップを目指す。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなんとかしようとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：固定したテキストを用いずに、プリント等の配布により授業を進める。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	高橋 博美				
<p>●授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を取める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC 準備のテキスト。その他プリント配布。</p> <p>●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	矢野 紀子				
<p>●授業概要 ・この授業は TOEIC のスコアを 350 以上引き上げるため、特にリスニングに力を入れる。 ・毎回 TOEIC テストと同じ形式のリスニングのプリントを配布し、問題を解いた後には、各自、復習できるように、ポイントを示す、英語の解答も配布する。</p> <p>●授業一般目標 ・授業の中で、テープを流し英語を聞きとる集中力を養ってゆく。 ・プリントで用いられている英単語、イディオムの意味を確認し、語い力を高めてゆく。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC スコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布</p> <p>●メッセージ 特に TOEIC のリスニング PartI、PartII、PartIII を中心に授業内でテープを流し、内容の確認を基本から押さえてゆきます。必ず、英和辞書（電子辞書も可）を持ってきて下さい。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業では、共通教育主催の TOEIC テストで 300 点の目標に到達しなかった学習者に対して、各自に TOEIC での目標を設定してもらいながら、TOEIC のどのパートに力を入れたがその人にはよいのかを勘案しながら、TOEIC テストに取り組むための、コツとそこに用いられる英語をできるだけわかりやすく説明しながら練習をする。それぞれに違った苦手や不得意のところがあるので、できるだけ学習者ひとりひとりに対してカウンセリングを行う。これは、授業外の場合も多い。それを通して、“なるほどそうか”という言葉が一言出てくれば、その学習者は必ず登り階段を登り始めたことになる。やり方によっては、いきなり、500 点以上にもなりうるので、楽しみながら学習するように授業を進めたい。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC テストで、300 点以上のスコアを獲得することを目標とする。そのために、1. 単語を 500 語以上習得する 2. 基本的な文法を課題をやることによって学ぶ。そして、履修者全員で喜びを分かち合い、励みと弾みを得て、次の目標へ向かう意欲を持つようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 8 月に行われる、共通教育主催の TOEIC テストを受験して、スコア 300 点以上取れば、「認定」となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年；特に、毎週配布した“ハンドアウト”を使用する。／参考書：市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）</p> <p>●メッセージ 本気になってください。いちばん問題なのは、就学する意欲と動機です。それがない限り、この授業は意味がありません。単位に必要なから、などという低い志ではなく、英語を使ってコミュニケーションを実践しようという意欲を持ってください。</p> <p>●教員連絡先 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工 (昼) 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 TOEIC 形式の演習問題を載せたテキストを使って TOEIC 受験のための英語の実力を養成する。英語特有の音声、速読、および文法項目について演習問題を解きながら解説してゆく。</p> <p>●授業一般目標 (1) 英語の音声に慣れ、リスニングの力をつけること。(2) 日本語に訳すことなく英文を出来るだけ速く読めるようにすること。(3) 英文法の知識を増やすこと。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 英語の音声に慣れ、リスニングの力をつけること。(2) 日本語に訳すことなく英文を出来るだけ速く読めるようにすること。(3) 英文法の知識を増やすこと。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC テスト基礎演習, 石井隆之, マクミラン ランゲージハウス, 2001 年</p> <p>●メッセージ 紙の辞書または電子辞書に係らず、自分にあった辞書を使いこなすことに心がけてください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工 (昼) 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教員	唐下 笑美子				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満の学生を対象に、スコアを 350 点以上にすることを目的とする。7 週という短期間なのでこの授業では TOEIC PartI(写真描写問題),PartII(応答問題),PartIII(会話問題),PartIV(説明文問題) に的を絞ってリスニングと語彙の強化に努め、確実にスコアアップすることを目指します。</p> <p>●授業一般目標 毎回テストをする前にウォーミングアップとして、リスニングの基本的な注意点(音の連結、脱落、同化等々)を学び、聞き取りのヒントを読んだ後に”Warming-up Exercise”で簡単なディクテーションを行います。その後 TOEIC Listening Part に準じた練習問題を行ってトピックのリスニング・パートの問題形式に慣れることと語彙の強化を目標にします。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Essential Listening for the TOEIC Test, Hiroko Matsuura, 金星堂, 2005 年；Essential Listening for the TOEIC Test (金星堂)</p> <p>●メッセージ 予習、復習、出席が重要です。</p> <p>●教員連絡先 emikotg@nifty.com</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)1年, 医・工(昼)3年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(訳文訂正問題)に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞きとり、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Enjoy Learning the TOEIC Test. 石井隆之、中川 昭、Thomas Koch 著、三修社、2005 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英文法の基礎を身に付け、リーディングのスコアを向上させよう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中 90 分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2 回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出 1 回につき、1 回の欠席として扱われる(2 回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の (A) と (B) の総合計により評価を行う。(A) 授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B) WBT を利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	渡辺朱実				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日7・8時限
担当教員	CHRIST, Alan Robert				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	FARRAR, DAVID HANSON				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年生	単位	2単位	曜時限	金曜日 5・6時限
担当教員	武本ティモシー				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 7・8時限
担当教員	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日7・8時限
担当教員	GARDNER, Stephen				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教員	岡本 嶺男				
<p>●授業概要 TOEIC 400点以上の力をつける。そのため英語の基礎全般の能力の増強をはかる。</p> <p>●授業一般目標 TOEICで400点以上がとれる力をつける。やや高いレベルの現代の英文を読むことにより、ボキャブラリーの増強をはかり、文の内容を深く力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業中で小テスト3回 (2) 期末テスト1回 (3) 欠席4回以上の場合は単位を与えない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Knowledge is Power John Barton, Anthony Sellick, Norio Shimamura, Kumiko Hoshi 成美堂</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教員	前出泰司				
<p>●授業概要 TOEIC400点未満の学生を対象に、英語の長文読解力・表現力の養成に力を入れる授業にする。</p> <p>●授業一般目標 やや長い英文を既習の文法力・表現力を復習しながら読んでいく。学生は必ず毎回1時間程度の予習をすることを要求される。またリスニングの小テストも実施する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験90% 出席率10% 欠席は3回までとする</p> <p>●教科書・参考書 教科書：未来を読み解く, J.Barton, 他, 成美堂, 2005年 / 参考書：授業中に指示する。</p> <p>●メッセージ コツコツがんばってください。</p> <p>●教員連絡先 宇部フロンティア大学短期大学部英語学研究室 E-mail:maede@ube-c.ac.jp</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時限	火曜日7・8時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 英国文化を題材にしたテキストを用い、総合的な英語能力を向上させるとともに、英国社会の諸相について解説、紹介する。</p> <p>●授業一般目標 英国で日常的に用いられている英語表現を見たり聞き取ったりして、的確に情報を把握する力を習得すると同時に、英国の社会や文化に対する全般的な理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 試験は期末に一回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Photo Culture, James House、三好道子, マクミラン・ランゲージハウス, 1999年</p> <p>●メッセージ 辞書を持参すること。予習を怠らないこと。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工3年	単位	2単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 この授業では英語でコミュニケーションを図る際に必要とされる本格的なリスニング力や読解力を養う授業を行う。英語による写真説明、応答や会話を聞き、内容を正しく判断する力を身に付けさせる。また、英語の文法理解を深めると共に、語彙を拡大させる。さらに、英文の速読直解力を向上させる。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法を理解すると共に、ネイティブによる会話、応答、写真描写の説明を聞き、英語が使われている状況を正しく判断できる。英文の音読及び速読直解を通し、実践的コミュニケーション能力が高まる。この授業では、TOEIC テストの400点以上に相当する英語力を身に付けることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験は中間及び期末の2回実施する。授業の中で小テストを2回実施する。レポートを1回課す。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Power-up Steps for the ToEIC Test. 塚野壽一、山本厚子、大須賀直子、Robert Van Benthuysen 著、成美堂、2005年／参考書：TOEIC Test 英文法出るとこだけ、小石裕子著、アルク、2003年</p> <p>●メッセージ ・受講にあたり、自分の持つTOEICスコアを提示すること。・TOEICテストですでに400点以上をマークしている学生の受講は原則として認めない。・成績評価は「成績評価方法(総合)」欄で記したことの他、与えられた課題を学習し終え、かつ次の条件の一つを満足させた受講生を合格とする。 1. 期間中に受験したTOEICでスコア400点以上を取る。 2. 自己スコアの伸び50点以上を記録する。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工3年	単位	2単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 TOEIC受験に有益となるように英語のリスニングとリーディングの方法論を中心に授業を展開する。英語特有の音の法則を解説し、関連する音のディクテーションを行うことによって英語の音声に慣れてもらう。また、平易な文章を速読する指導を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1) 英語特有の音の連結や脱落の法則を理解すること。(2) 日本語に訳すことなく英文を理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率(20%)レポート・小テスト(20%)定期試験(60%)を点数化し総合評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Top of the Pops Listening「ポップソングで楽しく学ぶ実用リスニング」、熊井信弘 他、マクミランランゲージハウス、2005年</p> <p>●メッセージ 紙の辞書または電子辞書に係らず、自分にあった辞書を使いこなすことに心がけてください。なお、試験は辞書持込可とします。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教員	細木孝雄				
<p>●授業概要 世界各地の日常的な話題やトピックに関してすでにもっている背景の知識を活用し、異文化理解の基礎を学びながら、英文読解力を身につける。TOEICの関連問題も取り入れ、実践力の強化を図る。</p> <p>●授業一般目標 TOEICテストのための速読速解の基礎を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業への積極的参加状況(10%)、課題提出(30%)、試験(60%)により総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: When Cultures Collide (南雲堂) Tsuneo Takahashi / Toshihiro Shimizu</p> <p>●メッセージ 英語を「自分で学ぶ姿勢」を身につけるのに役立つ授業です。英和辞典必携。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 リーディング能力を養うとともに、21世紀の人類が抱える様々な問題について考える。</p> <p>●授業一般目標 英文を通して論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につけ、現代世界への問題意識を育む。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は出席率・授業発表・期末試験等を総合して行なう。(出席率を重視する。5回以上欠席したら単位は認定しない。遅刻3回を欠席1回とみなす。指名して予習不十分と判明した場合はマイナス評価する。授業中の自発発表はプラス評価する。期末試験を行なう。小テストを行なった場合はそれも成績評価に加味する。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Progress in Our World, Paul H. Allum 他, 成美堂, 2001年</p> <p>●メッセージ 予習を前提として授業を進める。辞書は必ず持参すること。</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 増田: 933-5425 火曜日 16:00-17:30</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日5・6時限
担当教員	谷國晶洋				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイを題材に、精密な英文講読を行う。 ●授業一般目標 英文講読を通して読解力を高め、さらに練習問題によって語彙力、聴解力を含む総合的な英語力の養成を図ると共に、多文化理解に関する論理的な思考力と鋭敏な感受性を身に付ける。 ●成績評価方法(総合) 授業への参加度(出席2/3以上、発表点)及び、定期試験による総合評価。 ●教科書・参考書 教科書: Comprehensive Readings for Culture., 安藤勝夫 他, 英宝社, 2005年 ●メッセージ 辞書をしっかり引いて、予習を十分にしておいて下さい。 ●教員連絡先 blakist@ezweb.ne.jp 					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日9・10時限
担当教員	堤 千佳子				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 この授業ではTOEIC 400点以上を取得した学生を対象に、リーディング能力を養成する。読解力を高めるための英文法の涵養も併せて目標とする。内容理解の確認、リスニング、ヴォキャブラリーに関するエクササイズをこなしていくことで、多角的なアプローチを取る。 ●授業一般目標 (1) 読解力の向上 (2) 企業を取り上げたテキストを用いることで、日本経済の状況などについての知識を得る。(3) TOEIC 関連の問題の学習 ●成績評価方法(総合) 1/3以上の欠席は失格。出席率、授業への参加度、適宜課する小テスト、定期試験の組み合わせにより総合的に評価を行なう。 ●教科書・参考書 教科書: Leading Companies in the 21st Century, Alan Cogen, 松柏社, 2005年 ●メッセージ 1/3以上の欠席は失格となります。遅刻は厳禁です。必ず予習をして、授業に臨んでください。 					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限
担当教員					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	谷國晶洋				

●授業概要 これまで習った文法的なルールをもう一度整理し、ルールを自在に使いこなして英語で表現できるように訓練していく。
 ●授業一般目標 英文を書く際に必要な文法的思考力を段階的に高め、単語・語法の知識を整理しながら、易しい英語で分を組み立てる枠組み (Matrix) を頭の中に構築し、センテンスレベルからまとまったパラグラフレベルへと、発信型の英作文を目指す。
 ●成績評価方法 (総合) 授業への参加度 (出席 2/3 以上、発表点) 及び、定期試験による総合評価。
 ●教科書・参考書 教科書: Matrix., 大矢 復, 金星堂, 2004 年
 ●メッセージ 必ず予習をして授業に望むこと。
 ●教員連絡先 blakist@ezweb.ne.jp

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日9・10時限
担当教員	JOHNSONJUDITHANN				
<p>●授業概要 This course is for students who want to learn and improve skills in writing for science and technology (lab reports, abstracts, summaries, and research papers)</p> <p>●授業一般目標 1) Students will perform fundamental tasks such as completing a job application, and writing correspondence, instructions, summaries and a short research paper in English. 2) Students will practice using, vocabulary, grammar patterns and diverse writing styles to enhance the readability of their written English. 3) Students will write about topics related to themselves, society, science and technology.</p> <p>●メッセージ Bring your dictionary to EVERY CLASS. Anyone who is absent more than 3 times CANNOT pass this course.</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日3・4時限
担当教員	松田理				
<p>●授業概要 適切な英語で自己表現ができるよう、文章作成能力を養成する。</p> <p>●授業一般目標 日常生活で実際に使用できる英語を用いた、現実的文章作成能力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。演習20%、期末試験80%の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Writing English through Current Topics, 木塚晴夫, 金星堂; 文栄堂書店で販売</p> <p>●メッセージ 私語は許さない。</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	木曜日3・4時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業では、日本の童話の英語への翻訳をします。高校までの和文英訳とは異なります。話全体の組み立てから考えて、日本語での物語りが英語での物語りへと変わるようにはどうしたらよいかを、翻訳を実践しながら考察します。その過程で文体、レトリックを学びながら表現行為とは何か、表現意図と効果はどのようにして生まれるのかを考えます。大切なことは想像力を働かせることです。想像力が創造を促します。翻訳は創造行為なのです。受講者は決められた範囲を毎週翻訳して、それをレポートにして提出してもらいます。提出された中から、1つを選び、それをもとに翻訳を進めます。翻訳は自分で必ず一度書いて見なければわからない、また、力が付かないものです。</p> <p>●授業一般目標 ・たえず、想像力を働かせる。・英語では、どのような考え方、捉え方をするかを学ぶ。・たとえ、知っている単語であっても、その場にふさわしいかどうか、吟味するために、英英辞典をていねいに引いて、単語情報を掴み、単語の適語適所の感覚を学ぶ。(徹底して辞書を引く習慣をつける。)・文の構造について少しは批評できる。・翻訳実践とはどういう営みであるかを掴み取る。(最終的には“創る喜び”であること。)</p> <p>●成績評価方法(総合) ・毎回のレポート ・出席——4回以上の欠席は不可</p> <p>●教科書・参考書 教科書：きつねの窓, 安房直子, ポプラ社, 1977年; 文栄堂大学前店で販売/ 参考書：英英辞典と類語辞典(thesaurus)を準備してください。</p> <p>●メッセージ 辞書を引いたり、ものを調べたりすることをおっくうがらないでください。</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	嶋川 啓信				
<p>●授業概要 情報に自分の意見・コメントを付けてweb上に提示するブログというメディアが大きく注目される昨今、英語についても、ただ情報を得るだけ、文書を読むだけで終わっては、画竜点睛を欠くと言えよう。この授業では、英語で物語、エッセイ、ニュース等を読み、その内容に関して自分なりの考えを示す演習を行う。最終的には、自分の意見を英語で発信できるようになることを目指す。</p> <p>●授業一般目標 様々な英語の文書を読解して、それに関する自分の意見を提示できるようになる。(内容を正確に、かつ批評的観点を持って読めるようになる。)</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業参加度+課題提出状況+学期末課題、で評価する。それぞれの点数配分の詳細は、授業内で提示する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教材はプリントで配布する。</p> <p>●教員連絡先 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限
担当教員	松田理				
<p>●授業概要 本授業では K. Mansfield の短編小説をとりあげ、やや難解な英文のおもしろさが十分わかるレベルの読解力を身につけるための訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 異文化を理解し、論理性を身につけつつ、やや高度な英文を読解できるようになること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。また、担当を割り当てられているにもかかわらず無断で当日欠席した場合も不可となる。演習20%、期末試験80%の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：The Garden-Party and Other Stories, 真田、関、成美堂；文栄堂書店で販売</p> <p>●メッセージ 私語は許さない。</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教員	Higgins, Michael Leo				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50% of total grade): Speaking: 40%; Listening: 20%; Writing: 20%; Content: 10%; Pronunciation (Sound Approach): 10%. Internal/External Criteria (50% of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35%; Class Participation: 20%; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35%; Attendance: 10%.</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	月曜日7・8時限		
担当教員							
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>							

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)		
担当教員	Maurice Kamel						
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>							

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限				
担当教員	GARDNER, Stephen								
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 7・8時限				
担当教員	GARDNER, Stephen								
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜日	水曜日	3・4時限			
担当教員	Higgins, Michael Leo								
<p>●授業概要 This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book A, by Johnson & Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	3年	単位	2単位	曜日	月曜日	3・4時限			
担当教員	Higgins Michael Leo								
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of between 300-395. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English New Book One, by Johnson & Higgins Sound Approach Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工3年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of between 300-395. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English New Book One, by Johnson & Higgins Sound Approach Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>					

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[2])	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	Johnson Judith Ann				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. It is recommended that students who have a TOEIC score of more than 500 take this class, but any student with more than 400 may take this class if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English New Volume One (revised edition), by Johnson & Higgins Sound Approach Pronunciation Book, by Higgins</p>					

開設科目	経済英語1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	塚田広人				
<p>●授業概要 社会の経済的基礎部分を対象に、その基本的分配ルールについて考える。読む本はジョン・ロールズの『正義論』である。1年間でこの本の Chapter 1. Justice as Fairness を読了することを目標とする。この部分を読むことによって、我々の社会においてなぜ分配ルールが必要なのか、それは何を対象とするのか、それはどのような内容となるか、に関する有益な理解の一つを得ることができるであろう。</p> <p>●授業一般目標 社会の経済的基礎部分を対象に、その基本的分配ルールについて考える。読む本はジョン・ロールズの『正義論』である。1年間でこの本の Chapter 1. Justice as Fairness を読了することを目標とする。この部分を読むことによって、我々の社会においてなぜ分配ルールが必要なのか、それは何を対象とするのか、それはどのような内容となるか、に関する有益な理解の一つを得ることができるであろう。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、毎回の翻訳の提出、授業時の理解、の三つによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テキスト及び参考書等 John Rawls, A Theory of Justice, Harvard University Press, 1971 (同著の一部をコピーして使う。)</p> <p>●教員連絡先 水曜日1:30-3:00 A棟4階424号室 (ただし、他の時間でもかまわない。毎日研究室に来ているので、都合のよいときに来室されたい。) If you would like to ask questions by e-mail, please send them to ht@yamaguchi-u.ac.jp. Homepage:http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm</p>					

開設科目	経済英語1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	澤喜司郎				
<p>●授業概要 国際関係をテーマにとりあげます。キーワードは文明、宗教、アメリカ、戦争、テロ、軍需産業などです。</p> <p>●授業一般目標 国際関係における諸問題に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は出席(20点)、授業態度(40点)、学期末試験(40点)によって行います。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Addicted to War: Why the U.S. Can't Kick Militarism, Joel Andreas, AK PRESS, 1993年</p>					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	尹春志				
<p>●授業概要 経済のグローバル化のなかで進行する産業構造の再編についての基礎知識と基本概念について修得する。</p> <p>●授業一般目標 学術英語の読解能力をみにつける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Peter Dicken, Global Shift: Reshaping the Global Economic Map in the 21st Century (4th edition), SAGE, 2003. からのコピーを配布する。</p>					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	石 龍潭				
<p>●授業概要 1. テーマ この授業は、主に読みやすい英語文献を通して、参加者の皆さんに英語力を養ってもらうことを目的とする。テーマは日本から世界までの政治、経済、法律関係の諸問題を広範囲に扱う。2. 授業計画 具体的には、上記諸関係の英語文献を活用して、共同学習・研究を行う。取り上げる文献は、基本的に教官が用意したものから、参加者が教官と相談の上、選定する。しかし、特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する。なお、授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明する。3. テキスト こちらで用意してその都度配布する。4. 関連授業科目 行政法 I、行政法 II、日本国憲法。5. 成績評価の方法 出席（15%）、勉学意欲（15%）、筆記試験（70%）。6. 履修上の注意 やる気のない方は、来なくても良い。7. オフィスアワー・その他 水曜日・金曜日の午後以外は研究室にいますので、質問等のある学生は、上記以外の時間にきてください。（研究室・A棟4階 408号室）</p>					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	山田正雄				
<p>●授業概要 英語で経済を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 英語で書かれた経済に関する記事、文献などを理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中の発表 70 %、レポート 30 %。出席は欠格条件であり、7割以上の出席がなければ単位を認めない。</p> <p>●メッセージ 必ず予習をしてきてください。</p>					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	有村貞則				
<p>●授業概要 英文テキストの翻訳作業および解説を通して、最近の経営学の世界で注目を集めているビジネス・モデル、すなわち「お金を稼ぐ仕組み」について理解を深めたいと思います。また、その応用として、各自もしくは各グループで、関心のある企業のビジネスモデルを調査してもらいたいと思います。</p> <p>●授業一般目標 1. ビジネスモデルについての理解 2. ビジネスモデルのケーススタディ 3. 基本的な英文を理解すること。 4. 経営学に関する英語専門用語の修得</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、発表、期末テスト</p> <p>●教科書・参考書 教科書： Business Models, Allan Afuah, Irwin McGraw Hill</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開2

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	藤田健				
<p>●授業概要 マーケティング, 企業経営に関する英文を精読する。</p> <p>●授業一般目標 授業の課題は、(1) 基礎的な教科書レベルの英文を読むこと、(2) マーケティングや企業経営に関する基本的な概念を学習することである。予習は必要としないが、授業時間中は集中して意欲的に学習し、しっかり復習する必要がある。毎回の授業の前半は、出席者に配布プリントの英文和訳をしてもらう。その際、辞書や文法書等を自由に利用してもよい。後半は担当教員が解答、解説を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト (1 回 30 % * 2 回 = 60 %) , 最終レポート (40 %) , 8 割以上の出席を必要とする。</p> <p>●メッセージ 全員、辞書 (電子辞書可) を毎回持参すること。必要であれば、英文法の参考書等を持ち込んでも良い。</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開2

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	一ノ澤直人				

●授業概要 法に関するテーマについて、あるいは、様々な社会経済問題について、英字論文や入門的なテキスト、新聞記事を読むことで、そこにある諸問題について、法的な思考によって一緒に考えていくこととしたい。

●授業一般目標 本講のねらいとしては、法に関わる基礎的な英文知識を身につけると同時に、法的思考になじむことを目標とする。

●成績評価方法 (総合) 講義の出席状況、参加度、ワークシート、レポート等により総合的に評価することを考えている。評価方法の詳細については、最初の講義時に説明する。

●教科書・参考書 教科書：講義時に配布予定。辞書・六法は各自の使いやすいものを用意のこと。

●メッセージ 法的問題について、いろいろ考えてみたいと思っている人が望ましい。積極的な参加を希望する。またこの講義への要望等を最初の講義までに整理しておいて下さい。

●教員連絡先 オフィスアワーその他、講義時に連絡。

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	濱島清史				

●授業概要 ・経済問題・経済学に関する基本的な専門用語を習得しつつ、それに関する英文読解能力を向上させつつ、経済諸問題の知識を広め、深めることを目的とする。 ・毎回C D付きの教材を用いるので、経済英語のヒアリング能力も高まることを期待する。 ・英文読解能力を向上させるには主に2通りの方法がある。精読 (intensive reading) と多読 (extensive reading) である。 ・精読とは、文法や単語の正確な意味を調べて、逐語訳することをいう。畢竟、時間内にやる文章量は限られる。(じっくり読みこなせ! 奥深い認識が得られよう。) ・多読とは、文法や単語で多少わからないところがあってもよいから、できるだけ多くの文章を読みこなしていくやり方である。(とにかく読め! どんどん読んでいけ!) ・本講義では、この2つのやり方を併用しつつ、下記のような内容の英文読解能力向上と経済問題に関する知識の発展を図る。

●授業一般目標 経済社会に関連する英文読解能力の向上を図る。より具体的には、英語の専門論文や英字新聞が辞書を用いながらも読みこなしていけるようにし、もって情報ソースの幅を拡大できるようにすることである。

●成績評価方法 (総合) 成績評価方法 (総合) 試験、翻訳課題、出席。成績評価方法 (観点別) 定期試験 (中間・期末試験) 定期試験を課す。50点程度。小テスト・授業内レポート 講義の前半に小テストを行ない、後半で解答するという実践的な方法も月に一回くらいのペースで取り上げたい。10点程度。宿題・授業外レポート 既に述べたように、特に精読の分に関してはグループ分けをして、宿題を課す。10点程度。授業態度・授業への参加度 授業への参加を高めるために、毎回、出席件質問・意見票を配布して、併せて学生の理解度をチェックする。また、メモを取ることを奨励したい。人間の記憶力は曖昧なものである。メモを取るということは人間の記憶力の限界を理解しえているということであり、はるかに多くの知識を定着化することができる。受講生の発表 (プレゼン) ・授業内での制作作品 精読の分の発表のほか、講読の分についても関連情報を収集させて議論を活性化したい。10点程度。出席 出席は毎回取る (20点程度)。独学で学習できるならばよいが、これまでの経験上残念ながらそのような学生は稀有である。講義に出ることによって実力が養える。ただし、真剣に取り組まないと、怠けて知力を低下させる練習をしているような学生もいるので要注意。合計 100点

●教科書・参考書 教科書：対訳：英語で話す日本経済Q & A, NHK 国際局経済プロジェクト他, 講談社, 2001年; 精読用のテキストは後日指示する。 / 参考書：参考書は適宜指示する。

●メッセージ 知識はどこまでも伸びやかで優しいものです。共に学ばん!

●教員連絡先 : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス: hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	古賀大介				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 本講義では、主に簡単な翻訳のテクニックについて勉強します。 ●授業一般目標 英文和訳の能力を向上させ、英文に対する理解力を高める ●教科書・参考書 教科書：必要に応じて、プリントするなどこちらで用意します／参考書：安西徹雄『翻訳 英文法』バベル・プレス、1982年。 ●メッセージ 演習（ゼミ）形式なので出欠を重視しますが、成績評価には、中間・期末試験の結果も大きく影響します。詳しくは、オリエンテーションの際に説明します。 ●教員連絡先 オフィスアワーは特に定めていません。研究室に電気がついていれば、いつでもどうぞ（内線 5516） 					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	橋本寛				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 テーマは次の通りである。 Matrices and Linear Systems of Equations ●授業一般目標 経済学や経営学の分野で用いられる行列（matrix）の初歩的事項や英語表現について学ぶ。 ●成績評価方法（総合） 出席および試験による。 ●教科書・参考書 教科書：資料を配布する。 ●メッセージ 理解するには出席することが早道です。 ●教員連絡先 オフィスアワーを設ける予定 					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	マルク・レール				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 テーマは米国テレビ・シリーズに見る経済英語である。 ● 授業一般目標 米国のテレビ・シリーズを見て分析することによって、英語のビジネス専門用語に強くなる。 ● 成績評価方法 (総合) 出席 (欠格条件)、グループ発表 (欠格条件)、レポート (100%)。 ● メッセージ 授業で主にビデオを教材として使うので、英語の読み取り能力のほかに、聞き取り能力も必要。 ● 教員連絡先 loehr@yamaguchi-u.ac.jp 					

開設科目	経済英語 1	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経3年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	武本ティモシー				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 テーマは、話題提供として次の三つのテーマについての英文を予習として読んでいただき、授業中これらの話題について英語で話し合うこととする。1) 山口大学での生活 2) 外国から見た法律と 3) 化心理学な観点から法律に関する心理学及び法の基盤となっている社会的感情 ● 授業一般目標 授業の目的は、上述した話題についての語彙・表現を学習しながら、これらの話題についての意見・知識 (身近なことでも) を発信できる能力を身に付けることである。 ● 成績評価方法 (総合) 成績評価の方法: テキストの理解をオンライン解読テストによって評価する 授業中の参加・コミュニケーション能力を特典カードによって評価する。筆記及び選択肢的学期末試験 ● 教科書・参考書 参考書: English Speaking, 武本ティモシー, 自費出版, 2004 年 ● メッセージ 日本の政治経済と日本文化について新しい単語・表現を身につくことも望ましいですが、前期では特に自分が既知っている単語や文法知識を活用するという恥ずかしくて辛い目標を持ちながら、参加者が持っている意見を聞きながら突っ込んで面白く話し合しましょう。 ● 教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 4 階玄関上 山口大学 HP の「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。 					

開設科目	医学英語 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学3年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	谷田憲俊				
<p>●授業概要 医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がり国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト・授業内レポート = 20~40 % 授業態度や授業への参加度 = 20~40 % 受講生の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 20~40 % 出席 = 20~40 % 観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: Words of Science, , ; 医学英和大辞典, ,</p> <p>●メッセージ 原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典を持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	検査2年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	服部幸夫				
<p>●授業概要 「英辞郎」を用いて、医療一般に関する英文(デジタル化)を速読します。その英文要旨を作成し、レポートとして e-mail で教官へ送ってもらいます。毎回、前回は読んだ文章に出た英単語をリスニング形式で小テストを行い、医療英単語の獲得を図ります。</p> <p>●授業一般目標 医療一般に関する知識を英文速読で得る。医療英単語の獲得を図る。読んだ文章の英文要旨の作り方を獲得する。理解した英文のリスニングにより、英語リスニング力を高める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 本試験(英単語)、小試験、レポート</p> <p>●メッセージ IT 授業なので、パソコン必携です。</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護(1-40)2年,看護(編入学者1-5)3年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限
担当教員	Toshio Sei				
<p>●授業概要 専門用語としての医学英語は、語根と接頭辞や接尾辞との組み合わせとして分析的にとらえたときによりよく理解できる。この授業では、基本となる101の語根・接尾辞・接頭辞を獲得し、その組み合わせとして医学用語を分析的に理解することを通して、新たな医学用語についても分析的に理解する力を形成する。あわせて、ネイティブ・スピーカーの発音する医学英語を聞き取るとともに、それに近い発話をする能力を形成する。</p> <p>●授業一般目標 医学英語の成り立ちを分析的に理解し、日常的に使用される英単語で表現できる。ネイティブ・スピーカーの発音する医学英語を聞き取れる。医療英語をネイティブ・スピーカーが聞き取れるように発話できる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 評価は、期末試験50%、小テスト40%、出席10%で行う。出席点は、3回以上欠席したのものには与えられない。遅刻は、-1点とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基本パーツ101語分解方式で学ぶ医学用語,津波古澄子マリオン・ゾボスキー,日本看護協会出版会,2003年</p> <p>●教員連絡先 e-mail: seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone: 0836-22-2802 office hours: 月曜日から金曜日、朝8時30分から夕方5時まで随時。ただし、授業や会議時を除く。</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護(41-)2年,看護(編入学者6-)3年	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教員	Toshio Sei				
<p>●授業概要 専門用語としての医学英語は、語根と接尾辞や接頭辞との組み合わせとして分析的にとらえた時に、よりよく理解できる。この授業では、基本となる101の語根・接尾辞・接頭辞を獲得し、その組み合わせとして、医学英語を分析的にとらえ、さらに、新たな医学英語も、その応用として分析的に理解する力を養う。併せて、ネイティブ・スピーカーの発音する医学用語を聞き取るとともに、それに近い発話をする発話能力をも形成する。</p> <p>●授業一般目標 医療英語の成り立ちを分析的に理解し、日常的に使用される英語で言い換えることが出来る。ネイティブ・スピーカーの発音する医療英語を聞き取れる。医療英語をネイティブ・スピーカーが聞き取れるように発話で切る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 評価は、期末試験50%、小テスト40%、出席10%で行う。出席点は、3回以上欠席したものには与えない。遅刻は-1点とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基本パーツ101語分解方式で学ぶ医学用語,津波古澄子マリオン・ゾボスキー,日本看護協会出版会,2003年</p> <p>●教員連絡先 e-mail: seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone: 0836-22-2802 office hours: 月曜日から金曜日、朝8時30分から夕方5時まで随時。ただし、授業や会議時を除く。</p>					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	前期
対象学生	検査3年	単位	2単位	曜時限	木曜日 1・2時限
担当教員					
<p>●教科書・参考書 教科書：クリスティーンのやさしい看護英会話, 知念クリスティーン、迫和子, 医学書院, 2001年</p>					

開設科目	教養英語(再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年(平成13年度以前入学者)	単位	2単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 アメリカの3人の作家による3篇の短編小説を読む。短編といえども非常に深いテーマを含み、人生や人間についてじっくり考えさせる作品ばかりである。国際社会の一員として異文化を理解し、かつ普遍的な人間性についてしばし立ち止まり考える一助としたい。講義形式でじっくり読んでいくが、作品を読み終わるごとに理解度チェックや、word studyを行っていく。</p> <p>●授業一般目標 短編小説を読み、テーマ、文体、時代背景などを含め、その面白さについて詳しく解説していきます。作品を読んでいく中で短編小説の読み方のポイントを掴んでもらいます。内容を議論して、現代にどう繋がっているか考えてもらいます。関連した映画を見て、作品の理解を深めます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率、授業への参加度、授業中の小テスト、レポートにより総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：A Study of the Short Story, T.Capote,A.Bierce,C.Aiken, 鶴見書店, 1997年</p> <p>●メッセージ 小説を読むことの楽しさを伝えたいと思います。</p> <p>●教員連絡先 emikotg@nifty.com</p>					

開設科目	基礎英語(再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年(平成13年度以前入学者)	単位	1単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教員	JOHNSONJUDITHANN				
<p>●授業一般目標 1) Students will use selected critical thinking skills that are essential to the study of science and technology. 2) Students will use selected learning strategies to enhance their understanding and use of academic course content. 3) Students will work both independently and collaboratively to complete course activities and assignments.</p> <p>●成績評価方法(総合) In-class participation; Individual and group assignments; Oral Presentation; and Final Written Evaluation</p> <p>●メッセージ Bring your dictionary to every class. Anyone with more than 3 absences will not pass this course.</p>					

開設科目	基礎英語(再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全3年(平成13年度以前入学者)	単位	1単位	曜時限	水曜日1・2時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 英語基礎文法で使った教科書も再度、少し使いながら、文法を身体で覚える作業をする。</p> <p>●授業一般目標 英語について最低限覚えていた方がよい事柄を習得する。たとえば、過去形の作り方や未来形の作り方など。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業参加度+定期試験</p> <p>●教科書・参考書 教科書：英語基礎文法で使った緑色の教科書をもってきてください。／参考書：なし</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	通年(後期, 前期)
対象学生	医学6年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	日野田裕治				
<p>●授業概要 実践的な医学英語を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 医学論文の読解などを通じて臨床および研究に関する医学英語を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、レポートによる。</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年(平成13年度以前入学者)	単位	1 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	JOHNSONJUDITHANN				
<p>●授業一般目標 1) Students will read and discuss articles concerning current global issues. 2) Students will identify the pros and cons of specific technology with regard to social welfare and economic development 3) Students will assess differences in global technological progress in terms of region, country, culture and economy 4) Students will express their ideas, feelings, opinions about topics related to themselves, Japan and other countries, science, and technology. 5) Working collaboratively, students will use the Internet to research topics related to technology and the global society. 6) Students will present their research findings orally, using visual aids</p> <p>●成績評価方法(総合) In-class activities; Computer assignments; Tests; Research Project; Oral Presentation; Written Evaluation</p> <p>●メッセージ Bring your dictionary to every class. Anyone who is absent more than 3 times, will not pass the course.</p>					

前期一外国語教育系列（初習外国語）

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	田野 武夫				
<p>●授業概要 教科書を用いた文法項目、副教材による初歩的会話・語彙の学習を行う。教科書では、文法項目の解説と本文の解説ならびに発音指導をする。また語学学習に並行して、歴史、文化、経済、政治、大学生活などドイツ全般に関する情報を提供する。ドイツ語は EU 公用語の中で最も多く使用されている言語である。(ドイツ語 24%、フランス語 16%、英語 16%) またドイツは、EU の GDP の約三分の一を占める欧州最大の経済大国であり、欧州における日本の最大の貿易相手国でもある。学問、芸術、産業などあらゆる分野で日本と歴史的につながりの深いドイツ語を学ぶことは、大変重要である。</p> <p>●授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。また前学期でドイツ語検定 4 級、後期でドイツ語検定 3 級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業毎の小テスト (50%)、期末試験 (50%)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Auf Deutsch! 新版 アクティブ・ドイツ語, 清水・中島, 同学社, 2004 年 / 参考書: アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000 年</p> <p>●メッセージ 楽しく且つ有益な授業です。大学生活を豊かなものにしたい人は、ドイツ語を 学びましょう。</p> <p>●教員連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	田野 武夫				
<p>●授業概要 教科書を用いた文法項目、副教材による初歩的会話・語彙の学習を行う。教科書では、文法項目の解説と本文の解説ならびに発音指導をする。また語学学習に並行して、歴史、文化、経済、政治、大学生活などドイツ全般に関する情報を提供する。ドイツ語は EU 公用語の中で最も多く使用されている言語である。(ドイツ語 24%、フランス語 16%、英語 16%) またドイツは、EU の GDP の約三分の一を占める欧州最大の経済大国であり、欧州における日本の最大の貿易相手国でもある。学問、芸術、産業などあらゆる分野で日本と歴史的につながりの深いドイツ語を学ぶことは、大変重要である。</p> <p>●授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。また前学期でドイツ語検定 4 級、後期でドイツ語検定 3 級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業毎の小テスト (50%)、期末試験 (50%)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Auf Deutsch! 新版 アクティブ・ドイツ語, 清水・中島, 同学社, 2004 年 / 参考書: アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000 年</p> <p>●メッセージ 楽しく且つ有益な授業です。大学生活を豊かなものにしたい人は、ドイツ語を 学びましょう。</p> <p>●教員連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	小粥良				
<p>●授業概要 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題)、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: アレス・クラール!, 関口一郎, 郁文堂, 2001年; 大学生協にて販売/ 参考書: トレーニングペーパー ドイツ語/教養課程文法中心, 布施 敬二郎, 田中 俊夫編, ニュートンプレス, 2003年; 独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。) 独和・和独の入った電子辞書でも可。上記のトレーニングペーパーは、できれば書店で購入して自分で勉強されることをお勧めしますが、授業では使いません。語学の苦手な人にはよい補助教材となると思います。</p> <p>●メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。) また、インターネットでも、「ドイツ語」という検索語を入れてみると、たくさんドイツ語学習に関連したサイトが見つかりますよ。</p> <p>●教員連絡先 教育学部2F小粥研究室(国際理解教育資料室向かい側) 木曜日 16:00 - 17:00</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	小粥良				
<p>●授業概要 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題)、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: フィール・シュパース, 橋本政義, 郁文堂, 2004年; 大学生協で販売/ 参考書: トレーニングペーパー ドイツ語/教養課程文法中心, 布施 敬二郎, 田中 俊夫編, ニュートンプレス, 2003年; 独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。) 独和・和独の入った電子辞書でも可。上記のトレーニングペーパーは、できれば書店で購入して自分で勉強されることをお勧めしますが、授業では使いません。語学の苦手な人にはよい補助教材となると思います。</p> <p>●メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。) また、インターネットでも、「ドイツ語」という検索語を入れてみると、たくさんドイツ語学習に関連したサイトが見つかりますよ。</p> <p>●教員連絡先 教育学部2F小粥研究室(国際理解教育資料室向かい側) 木曜日 16:00 - 17:00</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： Szenen neu 1, Shuko Sato/ Yukiko Ito, Sanshusha, 2003 年； Szenen neu 1. CD 付き シェネン 1 場面で学ぶドイツ語 佐藤修子/伊藤祐紀子 Tokyo: Sanshusha, 2003. / 参考書： 授業中に紹介します。</p> <p>●教員連絡先 授業のあといつでもいいです/ dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金(0836)22-2187 山口吉田研究室：水曜日12：30時～14：00時</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	能木敬次				
<p>●授業概要 ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読 することに力点を置く。同時に基本文型の作文を繰り返し練習することによって、簡単な ドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的 に授業展開をしてゆきたい。</p> <p>●授業一般目標 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術 や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本 の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『ドイツの街の物語 - 文法とテキスト』シュテファン・イエーガー他著、三修社/ 参考書：『新アポロン独和辞典』根本他著、周学社 (辞書は他のものでも構わないが必 携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	野口達人				
<p>●授業概要 本授業ではドイツ語を読み、書き、話し、聞く基礎的な運用能力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法事項を説明し、聞き取り練習、パートナー練習、作文練習などを課す。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞・冠詞類の性数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに基本単語・表現を習得して、簡単な日常会話ができ、簡単な文を作れるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)各課ごとに宿題の提出を課す。(3)授業の中で各課ごとの小テストを行う。(4)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!、西村佑子、Rudolf Petrik, 朝日出版社, 2004年; 販売店: 文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	能木敬次				
<p>●授業概要 ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読することに力点を置く。同時に基本文型の作文を繰り返し練習することによって、簡単なドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的に授業展開をしてゆきたい。</p> <p>●授業一般目標 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『ドイツ語の翼にのって』(改訂版)友田孝興著、白水社 三修社/ 参考書：『新アポロン独和辞典』根本道也他著、同学社(辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	野口達人				
<p>●授業概要 本授業ではドイツ語を読み、書き、話し、聞く基礎的な運用能力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法事項を説明し、聞き取り練習、パートナー練習、作文練習などを課す。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞・冠詞類の性数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに基本単語・表現を習得して、簡単な日常会話ができ、簡単な文を作れるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)各課ごとに宿題の提出を課す。(3)授業の中で各課ごとの小テストを行う。(4)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!, 西村佑子、Rudolf Petrik, 朝日出版社, 2004年; 販売店: 文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	岡光一浩				
<p>●授業概要 ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、中間試験、定期試験によって、評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!, 西村佑子、R.Petrik, 朝日出版社, 2004年/ 参考書：独和辞典(最初の講義の際に、指示する。)</p> <p>●メッセージ 一生懸命頑張らなければ、面白さも見えてこない。</p> <p>●教員連絡先 人文学部 岡光研究室</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教員	江波昌子				
<p>●授業概要 この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞、冠詞、人称代名詞、動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。2. 宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語インフォメーション, 秋田 静男他, 朝日出版社, 2005年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p>●メッセージ 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	岡光一浩				
<p>●授業概要 ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、中間試験、定期試験によって、評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!, 西村祐子, R.Petrik, 朝日出版社, 2004年 / 参考書：独和辞典(最初の講義の際に、指示する。)</p> <p>●メッセージ 一生懸命頑張らなければ、面白さも見えてこない。</p> <p>●教員連絡先 人文学部 岡光研究室</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日7・8時限
担当教員	江波 昌子				
<p>●授業概要 この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞、冠詞、人称代名詞、動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1.出席と小テストを含めた平常点を平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。2.宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語インフォメーション, 秋田 静男他, 朝日出版社, 2005年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p>●メッセージ 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参してください。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時間	金曜日1・2時限
担当教員	BERNER-WATANABE ANGELIKA				
<p>●授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを”体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税)1回目の授業のときに教室で販売します。 / 参考書：プリント等配布</p> <p>●メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	金曜日3・4時限
担当教員	WATANABEBERGERANGELIKA				
<p>●授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを”体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税)1回目の授業のときに教室で販売します。／参考書：プリント等配布</p> <p>●メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	フランス語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限
担当教員	Emde Angelika				
<p>●授業概要 このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。</p> <p>●授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験)50%、小テスト・授業内レポート 20%、宿題・授業外レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教材のプリントを授業で配付します。</p>					

開設科目	フランス語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	ボシィール ジャン・クロード				
<p>●授業概要 この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介します。授業は主に日本語で行います。</p> <p>●授業一般目標 簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：SALUT, YASUKO TANABE その他, SURUGADAI</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	齊藤匡史				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005年；辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	秋山淳				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績:70% 小テスト・授業内レポート:20% 授業態度・授業への参加度:10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書: スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年; 辞書については、授業中に紹介する。</p> <p>●メッセージ 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	ハンゲル入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 この授業では、韓国/朝鮮語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学びます。また、基礎語彙(約100程度)も習得します。</p> <p>●授業一般目標 この言語の文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法を習得し、簡単な会話ができるようにします。この目的のため、毎回授業の内外で課題を課します。また、基礎語彙を習得も課し、不定期に試験を行います。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題の未提出が所定の回数を超えた場合には単位を与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: コスモス朝和辞典, 菅野裕臣他, 白水社, 1988年; 聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002年</p> <p>●教員連絡先 連絡先: wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 人文棟2階、オフィスアワー: 木曜日 10:00-17:00</p>					

系列 外国語教育

分野 初習外国語入門

科目類型 総説

開設科目	ハンゲル入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員					

系列 外国語教育

分野 ドイツ語

科目類型 総説

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 5・6 時限
担当教員	本田義昭				
<p>●授業概要 本授業では、現代ドイツ語を読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。そのために、発音を身につけ、骨組みとなる文法を学びながら、語彙力をつけて、実際に運用できるよう様々な練習を行ないます。EU（ヨーロッパ連合）の牽引車の一つであるドイツの言語を学んで、国際的な視野を広げましょう。</p> <p>●授業一般目標 現代ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞の変化・動詞の現在形などの文法項目を学習することで、ドイツ語の基礎構造を認識する。さらに、平易な表現を憶えて、簡単な日常会話ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法（総合） 中間試験（30%）＋期末試験（40%）＋授業への積極的な参加度（30%）で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：CD付き 自己表現のためのドイツ語1、板山真由美、三修社、2004年／参考書：第1回目の授業で、初級用の独和辞典をいくつか紹介します。</p> <p>●メッセージ こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり！将来はドイツ留学も夢ではありません。</p> <p>●教員連絡先 honda@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限
担当教員	河中正彦				
<p>●授業概要 大学に入って英語以外の外国語にチャレンジしてみようという人には、オススメのクラスです。「丁寧に楽しく」をモットーに、ビデオを見たり、ドイツの歌を歌ったりしながら、ドイツ語を徹底的に学べます。週2回同じ先生が教えますから、進度と習熟度は抜群です。昨年度の受講者からも楽しかったという多くの声が寄せられました。受講者は必ず、火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限 の両方を受講してください。受講者は上限 40 名とします。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音から入って、まずドイツ語の発音がちゃんとできるようになること。さらに文法事項を習得して、簡単な文を辞書なしで読み書きできるようになること。また簡単な会話ができるようになることを目指します。これは後期のことになりますが、ドイツ語検定試験 4 級の全員合格を目指します。</p> <p>●成績評価方法（総合） 各課の終わりに練習問題・読章がついているからそれをレポートで提出してもらい、レポート点を 100 点のなかの 20 点に換算して評価します。試験は中間と期末の 2 回で、40 点ずつです。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語とのランデヴー、河中正彦、郁文堂、2001 年；一人歩きのドイツ語・自遊自在、黒澤明夫、JTB、2003 年；教科書は「文栄堂」で購入してください。辞書は最初の授業で紹介するから、まだ買わないように。／参考書：ゼロから始めるドイツ語、在間 進、三修社、1999 年；参考書は希望者のみが、文栄堂で購入してください。ただし持っておいたほうが良いことは、もちろんです。</p> <p>●メッセージ 受講者は必ず、火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限 の両方を受講してください。初習外国語は一度でも欠席するとダメージは大きいので、全出席のつもりで始めてください。発音が終わったら、週 2 回課題をレポートで出してもらいます。これはかなりきついで、覚悟しておいてください。</p> <p>●教員連絡先 E-mail kawanaka@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5089, 研究室 共通教育・研究 1 号館 314 室, オフィス アワー 水 pm4:30~6 時</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限 木曜日 5・6 時限
担当教員	Hintereder-Emde Franz				
<p>●授業概要 ドイツ語の基本的な構造を理解し、自力で日常的な会話や読書をこなし、そして簡単な文書を書けることがこのコースのねらいである。必要な語彙を自由自在に使えるように練習を重ねる。目標はおよそ375語のドイツ語の単語である。文法の基本パターンをよく理解した上に、直感的に利用できるために、パターンドリル、パートナー練習等をする。オーディオ教材で自宅でも常に練習し、発音や聞く力をさらに高めることができる。週2回コースですので以下の内容は週毎(2コマ)に記されている。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語意を習得する。さらに、ドイツ語を通じて、ドイツ文化圏の今日的な情報や歴史的な背景も把握できることが大事である。語学学習と合わせて、適宜インターネットを利用し、様々なテーマについて調べる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Szenen 1 スツェネン 1 場面で学ぶドイツ語, 佐藤修子/伊藤祐紀子, 三修社, 2003年/参考書：授業で紹介しします。</p> <p>●メッセージ 外国語は一言一言自分の身に付かないかぎり、成果はない。最初の授業に人数が多すぎると、人数を調整することがある。</p> <p>●教員連絡先 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel: 933-5287 office hour: 木曜日 3・4 (10:20~11:50)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 金曜日 5・6 時限
担当教員	坂本貴志				
<p>●授業概要 ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学んだ後、現代の様々なドイツに触れる。この授業ではとりわけ、新しいドイツの映画を紹介していきたい。この授業で養成されるドイツ語能力の重点は、読む、聴く、見るに置かれる。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、レポート、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業開始時にテキストを配布する。/参考書：辞書は必携。授業開始時に紹介する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Mayumi Itayama/ Ursula Shioji/Yuko Motokawa/ Takako Yoshimitsu, Farbkasten. Situationen. Informationen, Sanshusha, 2003 年；『自己表現のためのドイツ語2 (Farbkasten. Situationen. Information)』C D 付き 板山真由美、塩路ウルズラ、吉満たか子共著、三修社、2003 年、ISBN 4-384-13074-0 C1084, 2700 円</p>					

開設科目	ドイツ語中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を 活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験： 筆記テスト (L.6) と会話テスト (Lektion 1-5) (どちらも定期試験期間中に 実施)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Szenen neu 2, Shuko Sato/ Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, Sanshusha, 2004 年； シェネン2 Szenen neu 2. Shuko Sato/</p> <p>●教員連絡先 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金 (0 8 3 6) 2 2-2 1 8 7 山口吉田研究室：水曜日 1 2 : 3 0 時から 1 4 : 0 0 時まで</p>					

開設科目	フランス語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教員	武本雅嗣				
<p>●授業概要 最初に、フランスとはどのような国で、フランス語とはどのような言語であるかを概説します。前期は週2回、パリを舞台にしたビデオ教材を使って、フランス語の基本文法を学びます。そして後期は、同じく週2回、フランスの地方を舞台にしたビデオ教材を使って、「読み・書き・聴き・話す」能力を高めていきます。1年間勉強すれば、フランスの文化やフランス人の習慣がかなり把握できていくはず。フランス語と英語はいわばいとお互の間柄ですが、両言語の間には実に多くの共通点があります。ですから、英語の知識を活用して、英語との異同に注意しながらフランス語を勉強していくのが効率的です。英語以外の外国語を学ぶと、言語や文化の多様性と共通性が少しずつ見えてきます。様々な発見の喜びが得られるような授業を行いたいと思っています。</p> <p>●授業一般目標 フランス語の文法体系を習得し、基本的なフランス語運用能力を身につけることを目標とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験:60% 小テスト:20% 出席:20%</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『彼女は食いしん坊!』,藤田裕二,朝日出版;1年間履修する人は、後期(フランス語初級2)のテキスト『彼女は食いしん坊!2』も必要です。4月に学生会館の生協で、あらかじめ合わせて2冊購入しておいて下さい。/参考書:『クラウン仏和辞典』,天羽均,三省堂;『プチ・ロワイヤル仏和辞典』,田村毅,旺文社;『ディコ仏和辞典』,中條屋進,白水社;学生会館の生協にて販売。</p> <p>●メッセージ ほぼ毎回小テストを行うので、休まず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員	井上三朗				
<p>●授業概要 ビデオの付いた、比較的やさしい教科書を用いて、フランス語をできるだけ楽しく学習したい。ビデオの映像をとおして、フランス語とフランス文化をより身近に感じることができたらと願っている。基礎的なフランス語を学ぶことによって、読む、聞く、話す、書くという四つの能力を総合的に養成する。また、文法の教科書を併用する。この教科書を用いることにより、読解、会話などのために必要な、基本的な文法事項を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 文法の教科書を用いることによって、フランス語の基礎的な文法事項の理解を目標とすることはもちろんであるが、ビデオの付いた教科書の各課には、会話から成り立つ本文と練習問題が付けられているので、フランス語の初歩的な読解力、会話能力、運用能力の養成を目指したい。読む、聞く、話す、書くという四つの能力が総合的に養成されれば幸いである。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験は定期試験をふくめて、2度おこないたいと思っているが、その試験の点数と、平常点との総合で、成績評価をおこなう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:『彼女は食いしん坊』,藤田裕二,朝日出版社,2003年;『初級フランス語文法』,天羽均他,朝日出版社,2004年/参考書:『クラウン仏和辞典』,三省堂,2001年;『プチ・ロワイヤル仏和辞典』,旺文社,2003年</p> <p>●メッセージ 授業への積極的な参加を望む。</p> <p>●教員連絡先 月曜日 14:30-16:00. 人文学部 613 研究室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教員	平山豊				
<p>●授業概要 本授業では現代フランス語を読み、書き、話すことができるようになるための基礎的な能力を養う。そのために文法の諸規則を説明し、発音やイントネーションを身につけ、基本単語の語彙や語形変化を憶えて実際に運用できるよう様々な練習を課す。</p> <p>●授業一般目標 現代フランス語の発音、イントネーションの基本を習得する。また名詞、形容詞、動詞、疑問詞等の品詞や文型の理解を通じてフランス語文法の基礎構造を認識する。更に平易な表現を憶えて簡単な日常会話が交わせるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 頻繁に練習問題を授業中に課し、下記の観点、割合で評価する。2. レポート課題を与え、自ら問題を探求する態度をそれなりに評価する。3. 出席が所定の回数に満たないものは単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Escargot 1 [エスカルゴ 1], 藤田裕二, 朝日出版社(紀), 2004年 / 参考書: 授業中に指示</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	Emde Angelika				
<p>●授業概要 この授業では会話が中心です。日常的な場面を簡単な言い方や文法のパターンで訓練します。授業に定期的に参加することが望ましい。学期末試験に加えて、学期ごとに2、3小テスト(筆記と口頭テスト)を行います。フランスの音楽、映画や生活文化も紹介します。</p> <p>●授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験) 50%、小テスト・授業内レポート 20%、宿題・授業外レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教材のプリントを授業で配付します。</p>					

開設科目	フランス語中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時間	水曜日5・6時限
担当教員	田尻文代				
<p>●授業概要 本授業では、初級フランス語文法を復習しながら、オーラルコミュニケーション（会話）を実践していく。毎回、前回の内容のテストを行う。毎回簡単なフランス語を読む。</p> <p>●授業一般目標 「話しながら学ぶ。学びながら話す」自分自身のことや、思ったこと、考えたことをそのままフランス語で表現する。簡単なフランス語を読み解く。</p> <p>●成績評価方法（総合） 毎回のテスト（80%）および定期試験（20%）として評価。なお、出席が80%に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Conversation dans la classe, Jean-Luc Azra, アルマ合資会社, 2004年；学生会館の紀伊国屋書店にて販売。</p> <p>●メッセージ 積極的な参加、発表、意見、質問を期待します。</p>					

開設科目	中国語初級1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2単位	曜時間	月曜日5・6時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 20年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO加入により世界に窓を開いた中国、GDP世界第6位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21世紀中葉、世界第3位GDPを有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）や、小テスト／授業内レポート、宿題／授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード（文型・表現編）、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003年／参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	富平美波				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	富平美波				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	齊藤匡史				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	更科慎一				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	根ヶ山徹				
<p>●授業概要 現代中国語の発音、基本的な文系や文法を習得するための授業。</p> <p>●授業一般目標 中国語 1a・2a・1b・2b と合わせて履修することにより、入門期に必要な中国語の理解・運用能力を養成する。また、中国語との出会いと交流を通じて、異文化を受け入れるこころを養い、国際社会への責任感を培う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績を 100 %として成績評価を行う。出席は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：北京の風(改訂版)、木村英樹・小野秀樹・陳蓉、白帝社、2002 年</p> <p>●メッセージ 「中国語は同じ漢字表記なので楽だ」と考えがちであるが、それなりの努力をしなければ習熟することは難しいので、真剣に取り組んで欲しい。なお、上記の授業計画は予定であり、進捗ならびに授業日程により、変更されることがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	秋山淳				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	更科慎一				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	秋山淳				
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、W T O 加入により世界に窓を開いた中国、G D P 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 G D P を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>●授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年/ 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>●メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編)、齊藤匡史 ほか、白帝社、2005 年/ 参考書：クラウン中日辞典(小型版)、三省堂、2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	呉 靱				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	呉 靱				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード（コミュニケーション編）、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005 年／参考書：クラウン中日辞典（小型版）、三省堂、2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	李海英				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード（コミュニケーション編）、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005 年／参考書：クラウン中日辞典（小型版）、三省堂、2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	田梅				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード（コミュニケーション編）、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005 年／参考書：クラウン中日辞典（小型版）、三省堂、2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	李海英				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード（コミュニケーション編）、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005 年／参考書：クラウン中日辞典（小型版）、三省堂、2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	田梅				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	何曉毅				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>●授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 齋藤匡史 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：クラウン中日辞典 (小型版), , 三省堂, 2004 年</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して 進度を調整することがある</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究一号館 311</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級会話 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 8 時限 木曜日 7 時限
担当教員	宇 芳				
<p>●授業概要 本授業では 中国語の発音とアクセント、基本的な文型パターンを勉強して、簡単な日常会話できるのを図る。</p> <p>●授業一般目標 本授業は発音、基礎的な文型及び基本文法の習得を目指す。やさしい挨拶言葉から日常における様々な会話の場面を通して、中国語による話す、聞く能力を養成できるようになることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験 (中間試験と期末試験) = 60~80 % 小テスト / 授業内レポート = 20 % 未満 宿題 / 授業外レポート = 20 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 20 % 未満 出席 = 20~40 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語はじめの一步, 竹島 金吾等著, 白水社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 中級レベルの中国語を学習する。</p> <p>●授業一般目標 中級レベルの中国語を総合的な習得を目指す、特に読解力を身につけることに重点を置いて習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績を80%、小テストの成績を20%として成績評価を行う。小テストによる評価は、教員の裁量により、宿題や授業への参加度(与えられた課題に対する解答など)による評価によって替えることができる。出席は欠格事項とする</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 中国人のくらしー生涯好日ー, 池上貞子・張国路, 朝日出版社, 2005年/ 参考書: 中日辞典</p> <p>●メッセージ この授業を受講するためには、中日辞典を準備する必要があります。</p> <p>●教員連絡先 yimu@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	中国語中級会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	水曜日7・8時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 異文化間のコミュニケーションの手段として中国語を学ぶ。中級会話の完成を目指す。実際に中国で日常に用いられる会話を自然な速度で話せるようになるまで指導する。併せて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 主に話す能力と聞く能力をマスターさせる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 新版 中国語さらなる一歩, 尹景春など, 白水社, 2002年</p> <p>●メッセージ 予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習してください。</p> <p>●教員連絡先 zhangling414@ybb.ne.jp</p>					

開設科目	中国語閲読 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	高木智見				
<p>●授業概要 20世紀の中国を代表する古代文明研究者、李学勤氏、李零氏、呂思勉氏などの著作から、受講生と相談してテキストを決める。いずれも、極めて明確な現代中国語の書き手であるが、中には様々な原史料が引用されており、この授業を受けることにより、現代中国語は言うまでもなく、中国の考古学、歴史学、思想、文学、要するに古代文明に関する全体的な知識を身につけることができる。</p> <p>●授業一般目標 一年間の中国語学習を前提にして、より高度な文章を、正確にかつ迅速に読むことが出来るようになるのが、第一の目標である。それに加えて、中国古代文化、さらには中国 そのものについての総合的な知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 日常的な受講態度、分担したときの出来具合、授業外レポートの出来具合などを総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／参考書：授業の中でお知らせします。</p> <p>●メッセージ 中国に関する興味を持ち、ちょっと専門的なものをのぞいてみたいという人を歓迎します。重要なことは、現在の能力ではなく、中国語、中国文化を理解したいという意欲だけです。</p> <p>●教員連絡先 人文学部五階 510 研究室 金曜日十五時から十六時</p>					

開設科目	ハングル初級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 1・2 時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週 2 回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>●授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 定期試験と (2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語、河村光雅・田星姫、白水社、2002 年</p> <p>●教員連絡先 wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ハンゲル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教員	桂林春				
<p>●授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>●授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ハンゲル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限 木曜日 1・2 時限
担当教員	山田 寛人				
<p>●授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>●授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ハングル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員	山田寛人				
<p>●授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>●授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験と (2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語、河村光雅・田星姫、白水社、2002年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ハングル初級会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	桂林春				
<p>●授業概要 現代韓国語を用いた入門レベルでの基礎会話を、覚えやすい短い文章で「正確な発音」を重点的に学習していきます</p> <p>●授業一般目標 'ハングル'の学習とその基礎会話の能力を身に付けること、そして、それらを通じて近隣国、韓国に関する知識を修得することである。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：第一回目の授業で紹介。／参考書：授業中紹介。</p> <p>●教員連絡先 lim-gye0926@n.vodafone.ne.jp</p>					

開設科目	ハンゲル中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 この授業では1年次の初級の授業で学んだことを更に定着させると共に、更に多様な表現を学びます。同時に、語彙についてもより高度な語彙を身に付けます。この目的のために、毎回、授業の内外での課題を課します。</p> <p>●授業一般目標 基本となる文法事項を確実にし、更に、多様な構文を学びます。また、語彙力をつけることにより、簡単な文章なら辞書の助けがほとんどなくとも、読めるようにします。また、様々な場面での会話ができるようになります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2000年</p> <p>●教員連絡先 連絡先:wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：人文棟2階、オフィスアワー：木曜日10:00-17:00</p>					

開設科目	日本語上級I A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1単位	曜時限	月曜日3・4時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 中級レベルの日本語運用能力を既に備えている受講生を対象に、上級レベルの漢字と表現文型を学びます。</p> <p>●授業一般目標 1. 中級レベルの漢字1,000字を身につけていることを前提に、上級レベルの漢字の書き方、読み方、それらの漢字を使った漢字熟語の意味とその使い方を学びます。2. 中級レベルの文法・文型表現を身につけていることを前提に、中上級及び上級レベルの文型表現を学びます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験、予習、出席等を総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『どんな時どう使う日本語表現文型500』, 友松悦子他, アルク, 1996年; 『漢字1000 Plus』 Vol.1, 加納千恵子他, 凡人社, 1993年</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス:junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号:933-5984 オフィスアワー:金曜日2:00~</p>					

開設科目	日本語中級 I A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 この授業は「漢字」と「文章の書き方」の二つの部分からできています。「漢字」では、日本語中級レベルの漢字の書き方と読み方を学び、その漢字を使った熟語とその意味と使い方を学びます。「文章の書き方」では、レポートの書き方の基本的なルールを学び、実際に書かれた文章例を読み、レポートの書き方を練習します。</p> <p>●授業一般目標 ◆「漢字」では、中級レベルの基礎漢字 500 字の書き方、読み方を身につけ、漢字熟語の意味・使い方を理解します。◆「文章の書き方」では、様々な文体の違い、句読点・各種記号の使い方、段落や起承転結などの文章作成のルールについて学び、具体的な文章例を読みそのルールの検証を行い、自分でレポートを書き、提出します。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験、漢字クイズ、提出作文評価、出席等を総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『基礎漢字 5 0 0』, 加納千恵子他, 凡人社, 1989 年；『留学生のための論理的な文章の書き方』, 二通信子・佐藤不二子, 悄悄筆楯, 2000 年</p> <p>●教員連絡先 E-辦憂宗 junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線番号：5984 オフィスアワー：月曜日 1 4：0 0～</p>					

開設科目	日本語上級 IV A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 本授業では、大学で求められるレポートや論文に必要な論理的な文章の書き方養成する。課題文を読みながら、文体、句読点の打ち方、引用のしかた、論述のしかたについて講義する。実際に書く課題を課し、フィードバックをする。</p> <p>●授業一般目標 課題文を読み、文章の内容・文章の展開のしかたを理解する。文章構成に気をつけ、各自がレポート・論文が書けるようにする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験と最終レポートで評価する。毎回「書く課題」を評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：留学生のための論理的な文章の書き方, 二通信子、佐藤不二子, スリーエーネットワーク, 2001 年 / 参考書：大学生・留学生のための論文ワークブック, 浜田麻里 平尾得子 由井紀久子, くろしお出版, 1998 年；大学・大学院留学生の日本語 (4) 論文作成編, アカデミック・ジャパニーズ研究会, 株式会社 アルク, 2002 年；大学・大学院留学生の日本語 (2) 作文編, アカデミック・ジャパニーズ研究会, 株式会社 アルク, 2001 年；上記以外の参考書は適宜授業中紹介する。</p> <p>●教員連絡先 E-mail：michikos@yamaguchi-u.ac.jp 電話 0836-85-9037 木曜日午後 国際センター宇部室</p>					

開設科目	日本語上級 II A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	今井新悟				
<p>●授業概要 論理的な文章の分析を通して、論理的な文章とそうでない文章の区別について理解し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解する。例文の分析と練習問題を解くことにより、論理的な文章を書くテクニックを身につける。課題文と課題レポートの作成と添削・推敲を繰り返すことによって、論理的かつ正しい日本語を書く能力、日本語のテクニカルライティングの能力を高める。</p> <p>●授業一般目標 論理的な思考に基づく論理的な日本語表現能力を高める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、練習問題、課題文、課題レポートを総合して判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：島倉保美 2003年『論理的な文章が自動的に書ける!』(日本実業出版社)から必要な箇所をプリントにして配布する。</p> <p>●メッセージ 授業では、電子辞書必携。</p> <p>●教員連絡先 研究室:共通教育棟 325 号室、電話番号 (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日午後 2:30~4:00</p>					

開設科目	日本語中級 II A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 日本語を 300 時間ぐらい勉強し、初級の勉強が終わった留学生のためのクラスです。中級 IIA のクラスでは、簡単な説明文や論説文が読めるようになるために、書き言葉の文法、語彙、漢字や文章の構成を説明します。また、日本人の生活や文化、現代の社会や科学について考えたり、意見を言ったり、討論をしたりします。</p> <p>●授業一般目標 1. 日本の大学で、辞書を使いながらも勉強できるようになること。2. 日本語の新聞や放送がだいたい分かるようになること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験、宿題、プレゼンテーション</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中級日本語、東京外国語大学 留学生日本語教育センター、凡人社、1994年；資料配布/参考書：適宜授業中に参考文献のプリントを配布する。</p> <p>●教員連絡先 水曜日 12:50~14:20、16:00~17:30 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級 III A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	門脇薫				
<p>●授業概要 本授業では、日本語の中級後半レベルの総合的な能力を養う。特に読解練習を中心にを行い、中級後半レベルの語彙・文法事項を習得し、運用できるような様々な4技能の練習も行う。</p> <p>●授業一般目標 日本語の中級後半レベルの語彙・文法事項を習得し、日常生活・大学生活において運用できる。様々なテーマの文章を読み、内容や書き言葉について理解ができる。それぞれのテーマについて考え、自分の考えを日本語で表現できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、定期テストで習ったことを習得しているかを評価する。「書く」タスクは宿題として提出する。4技能に関する様々な練習やタスクを課し、演習として評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：日本語中級, ; 『テーマ別 中級から学ぶ日本語 改訂版』研究社</p> <p>●教員連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟3階 329</p>					

開設科目	日本語上級 III A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読むなどの「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、発表やディスカッションを通して「発信型スキル」を獲得する。</p> <p>●授業一般目標 1. 課題文の語彙や表現を理解する。2. テーマに関する資料を収集し、問題点を指摘できる。3. 自ら選択したテーマに関してプレゼンテーションができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験、授業外レポート、プレゼンテーション</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中・上級日本語教科書 日本への招待, 近藤安月子 丸山千歌, 東京大学出版会, 2003年; 新聞教材 / 参考書：新聞教材</p> <p>●教員連絡先 水曜日 12:50~14:00, 16:00~17:30 e-mail: michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:083-933-5985</p>					

前期一一般系列

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	変容する日本社会と文化	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教員	小谷典子				
<p>●授業概要 近代化によって変化してきた日本の社会や文化を多面的に学び、現代社会の特徴や現代社会がかかえる諸問題について考える</p> <p>●授業一般目標 日本の社会や日本の文化の特徴とその変化について理解し、現代社会や文化の持つ問題点について関心を持つ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回、感想を小レポートで提出し、最終試験とで総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ 毎回テーマが異なるので、全体を受講すること</p> <p>●教員連絡先 otani@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	パソコンSOS1	区分	その他	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理3年	単位	2単位	曜時限	月曜日11・12時限
担当教員	糸長雅弘, 西口毅				
<p>●授業概要 大学教育の問題点の一つは、学生自らが「発見し、はぐくみ、かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは、問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では、学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組み、その活動を通して、「発見し、はぐくみ、かたちにする」ことを実体験する。</p> <p>●授業一般目標 パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して、パソコンのスキルを向上させ、問題解決能力、文書作成能力、自己表現力を身に付ける。また、「パソコンSOS2」の既修得者はSA(ステューデントアシスタント)として、履修者の指導を行い、指導能力を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率80%未満を欠格条件とし、毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ パソコン相談員として活動するので、誰でも受講できるというわけではありません。受講希望者に対して、初回に能力診断テストを行い、パソコンに関するスキルが一定の水準以上の学生に履修を認めます。「パソコンSOS2」の既修得者については、無条件に履修を認めます。パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお、授業の性格から、パソコン相談を行うことが授業への出席となります(曜日は希望に応じて決定)。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部224号室, オフィスアワー: 水曜10:20 - 11:50</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	言語と文化	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	平野尊識、山本真弓、和田学、富平美波、John D. Phillips、末松壽、本田義昭				
<p>●授業概要 世界の様々な地域における言語と文化との関わりについて、7名の講師がオムニバス形式で講義をします。</p> <p>●授業一般目標 1. 言語と文化が密接に結びついていることを認識する。 2. 世界の地域の多様性を知る。 3. 異文化に対する関心を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各講義の最後に指示された課題について調べ、次週の月曜日17時まで共通教育係に提出する。それらを総合して評価するので、レポートは必ず提出すること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 適宜プリントなどを配布する。/ 参考書: 適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ この授業は世界の多様性に触れるよい機会です。あなたも参加して、視野を広げてみませんか?</p> <p>●教員連絡先 本田義昭 honda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	現代企業の諸問題	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	古川澄明				
<p>●授業概要 現代企業が見せる色々な問題(ビジネスモデル、経営戦略、経営組織、経営管理、生産管理、生産システム、人事問題、労使関係、会計、マーケティング、経営環境、環境問題への取り組みなど)について、入門的な話しをします。</p> <p>●授業一般目標 現代企業の経営とは、何か。これについて、広く理解できることを目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) その都度、出席と、後期試験、あるいはレポート提出等で行います。授業の開始時に、説明します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: リレー方式の授業なので、必要に応じて、参考書を指示します。</p> <p>●メッセージ 企業経営とは、何か。自分の将来の職場をイメージしながら、知識を習得しよう。</p> <p>●教員連絡先 アポイントを取り、随時に。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	環境と生物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	早川誠而外				
<p>●授業概要 私たちが限りない豊かさ、利便さを追い求めた結果として、社会システムは大量生産、大量消費、大量廃棄型となり、地球自身の環境許容能力を上回り、地球環境に大きな負荷を与えるようになった。今世紀は、この限りある地球環境を守るために、与えられた自然条件（土、水、大気）に対し、生物と地球生態系との最適な組み合わせによる循環型の持続的発展を目指した知識、理論に加え、新たなテーマや今日的なテーマも含めて解説する。</p> <p>●授業一般目標 地球環境問題は、問題の特殊性、関係裾野の広さから、どのように対処すべきかはっきりと決められているわけではなく、それぞれに判断をゆだねなければならない面もある。この様に複雑で多様化する環境問題に対処するため、多岐にわたる専門分野から講義を行い、環境問題に関する多くの幅広い知識を取得することに目標を置く。</p> <p>●成績評価方法(総合) 講義の終わりの小テストあるいは課せられたレポートをもとに成績評価を行う。</p> <p>●メッセージ 概要、目的を読んで、本当に興味を持つ熱意のある学生を望む。</p> <p>●教員連絡先 早川誠而、オフィスアワー、随時 OK, 総合研究棟205、</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	食糧生産の理論と実践	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・理3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	藤間充 ほか9名				
<p>●授業概要 21世紀において地球規模で解決すべき課題は、人口、食料、環境であると言われている。わずか50年前には食べることでままならぬ時代があったことを忘れ去り、飽食に なれきった日本人にとって21世紀ではどのような試練が待ち受けているのか?その21世紀を担う学生諸君に食料生産の科学と重要性を学習し、理解を深めてもらうと同時に、食料生産に関わる作業行程の一部を体験してもらう。</p> <p>●授業一般目標 授業では、日本の最も重要かつ特徴的な作物である水稲を中心に、食料生産の理論と技術およびそれを取り巻く環境について講義を行う。体験実習では、手植えによる田植えのほか、野菜の収穫、果樹の管理を予定しており、実際に食料生産の一部を体験する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト、レポートなどによる理解度の評価と、出席を総合して判定する。</p> <p>●メッセージ 体験実習を行うために、受講者数を40名に制限する。受講希望者が多数の場合は、初回に抽選を行うので、必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 連絡先: 農学部附属農場 オフィスアワー: 火、木曜日 12:00-12:50 メールアドレス: < a href="mailto:mtoma@yamaguchi-u.ac.jp"> mtoma@yamaguchi-u.ac.jp </p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	大学で学ぶこと、論文の書き方	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日3・4時限
担当教員	松井範惇				
<p>●授業概要 大学では何を学ぶのか、如何に学ぶのか、これらを一緒に考えてみよう。自分の身の回り、社会の動き、世界の出来事などに興味を持ち、なぜだろうか、どうして、誰が、何をして、こんなことが起きるのか、論理的な説明は出来るのか。納得するまで考えてみませんか。そうすると、大学では何を学ぶのかが見えてくるかもしれない。如何に学ぶと面白いのかが見えてくるかもしれない。アメリカの大学を例にします。その発見を文章にまとめるにはどうしたらよいのか。レポート、論文にするにはどんな書き方があるのだろうか。こんなことを勉強します。</p> <p>●授業一般目標 自分で考えること、何でも疑ってみること、論理的な説明が出来るかどうか考える習慣を養います。文章を書く訓練をします。筋道のたった文章、論文を書くのに、億劫がらずに取り組めるようになりたい人は、頑張ってみてください。きっと役に立ちますよ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席と討論: 15% 研究企画提案書作成: 25% (アメリカの大学について研究します) ミニ論文(1): 30% ミニ論文(2): 30%</p> <p>●教科書・参考書 教科書: これから論文を書く若者のために、酒井 聡樹, 共立出版, 2002年; リベラル教育とアメリカの大学, 松井 範惇, 西日本法規出版, 2004年</p> <p>●教員連絡先 内線5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	就職	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日3・4時限
担当教員	平尾元彦				
<p>●授業概要 就職活動に必要なとなる基礎知識として、経済・社会の理論および現実を学ぶ。とくに「仕事とは」「会社とは」という問いに対する根本原理を学習しつつ、実際の就職活動に役立つ知識の習得をめざす。社会科学を学ぶ者以外の学生が理解できる内容を、山口大学教員および外部講師によるリレー講義で構成する。なお、本講義は就職活動のノウハウを提供するものではなく、就職活動の前に知っておくべきことを学ぶ講義である。学んだことは各自の就職活動に活かしてほしい。</p> <p>●授業一般目標 就職活動の前に知っておくべき知識の習得をめざす。職業意識を高め、就職活動への意欲を増す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期間中3回のレポート「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリア宣言」およびミニテストを実施し、評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 講義中に資料を配布する/ 参考書: 講義中に紹介する</p> <p>●メッセージ 総合科目「就職」は前期火曜日3・4限および水曜日5・6限の2コマ開講する。まったく同じ内容というわけではないが趣旨は同じであり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	就職	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日5・6時限
担当教員	平尾元彦				
<p>●授業概要 就職活動に必要な基礎知識として、経済・社会の理論および現実を学ぶ。とくに「仕事とは」「会社とは」という問いに対する根本原理を学習しつつ、実際の就職活動に役立つ知識の習得をめざす。社会科学を学ぶ者以外の学生が理解できる内容を、山口大学教員および外部講師によるリレー講義で構成する。なお、本講義は就職活動のノウハウを提供するものではなく、就職活動の前に知っておくべきことを学ぶ講義である。学んだことは各自の就職活動に活かしてほしい。</p> <p>●授業一般目標 就職活動の前に知っておくべき知識の習得をめざす。職業意識を高め、就職活動への意欲を増す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期間中3回のレポート「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリア宣言」およびミニテストを実施し、評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義中に資料を配布する／参考書：講義中に紹介する</p> <p>●メッセージ 総合科目「就職」は前期火曜日3・4限および水曜日5・6限の2コマ開講する。まったく同じ内容というわけではないが趣旨は同じであり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	山と谷	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日3・4時限
担当教員	加納 隆, 武田賢治, 金折裕司, 田畑直彦, 田中和広, 君波和雄, 大和田正明, 山本真弓, 丸本卓哉, 岩田修二, 上田 豊, 目崎茂和				
<p>●授業概要 郷土の山や谷は日本人と日本文化のふるさとである。そうした山や谷はどうしてできたのか、どのように利用され、またどのような文化が生まれてきたか。本講義では、地質学や地形学をベースとして、山と谷をめぐる人と自然に関わる問題を様々な視点から紹介する。</p> <p>●授業一般目標 1. 山や谷はどうしてできたのか、自然科学の立場を学ぶ。 2. 山や谷を人はどのように利用するか、その功罪を考える。 3. 山や谷に人はどのように住み、文化を育んできたか学ぶ。 4. ちがった自然環境の下にどのような文化が生まれるか学ぶ</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回のレポートあるいは授業中の課題についての提出物により総合判定。無断欠席1/3以上は不可。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：授業中、随時紹介される。</p> <p>●メッセージ 山や谷は、人それぞれの好みと年齢や体力・能力に応じて楽しみを与えてくれる。知識が深まると、それに依りてよりいっそうアウトドアの楽しみが増える。講師にはその分野のエキスパートが多い。どうか楽しんで聞いてもらいたい。</p> <p>●教員連絡先 コンビナー：加納 隆（理学部4 4 7号室, 内線5 7 4 5）kano@yamaguchi-u.ac.jp, 随時対応します。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	国際交流論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教員	何暁毅 ほか				
<p>●授業概要 日本の歴史はまさに国際交流史ともいえる。昔は中国や東アジアの国々、近代ではヨーロッパやアメリカなど西洋諸国との交流によって、今日の日本の基礎ができたといっても過言ではない。現在では、ボーダーレス社会の基本として地域にも根づいてきた。この科目ではその意義・考え方や人権問題等を折り込み、国際理解・開発教育の観点から実践中心型のカリキュラムを行い、国際交流についての理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 国際交流の意義・考え方や人権問題等を理解し、地域社会でも十分実践できる国際交流の技術を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 受講態度(出席、グループ討議の参加など)、レポートなどによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 草の根の国際交流と国際協力, 明石書店, 2003年</p> <p>●メッセージ 項目などはあくまで予定である。ゲストなどの都合により時間など変更することがある。</p> <p>●教員連絡先 何暁毅研究室 研究一号館310 中野メール: 383630@pnet.energia.co.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	中国・四国地区国立大学間共同授業－ 中国・四国地方から環境問題を考える	区分	講義	開設期	
対象学生	人・教・工2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	
担当教員	植村高久				
<p>●授業概要 夏休み中に行う、SCS(衛星通信システム)を利用した遠隔授業(集中講義)であり、詳細は別途掲示する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 評価は提出レポートに基づいて行う。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	総合科目 (医療環境論 I)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護2年, 医学・検査3年	単位	4 単位	曜時限	月曜日 1・2・3・4 時 限
担当教員					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	医療環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護2年, 医学・検査3年	単位	4 単位	曜時限	月曜日 1・2・3・4 時 限
担当教員					

後期一主題系列

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	哲学的討論の現場	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教員	林文孝、豊澤一、脇條靖弘、古荘真敬、岩本光悦、岡村康夫				
<p>●授業概要 毎回、哲学分科会所属の教員が一人づつ一つのテーマのもとに報告をし、それを基に授業に参加した全員で討論を進める。</p> <p>●授業一般目標 哲学分科会所属の教員の討論を中心に、学生の主体的参加を求めて、「哲学すること」の面白さを学ぶ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回提出のレポートと議論への参加などを総合して評価する。議論への参加については、授業期間中に最低1回は討論参加することを求める。レポート提出数が5本以上不足する場合、欠格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。／参考書：必要に応じて紹介する。</p> <p>●メッセージ 全く新しい形の授業である。学生諸君はできるだけ主体的に討論に参加するように。</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	外の世界を聞く・知る・見る	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 5名の授業担当者の海外における生活体験や仕事上の体験を通して見た国々の事情を聞き、そこに住む人たちがどのような生き方をしているかを知り、その国・その人たちの現在の姿を見、山口大学の若い学生達が日本の外の世界に目を向ける機会を提供します。</p> <p>●授業一般目標 担当者がそれぞれに長期生活経験・留学経験・勤務経験を持つイスラム文化圏の国々(パキスタン、エジプト、マレーシア)、ヒンズー教文化圏の国(インド)、仏教・儒教文化圏の国々(中国、韓国)、キリスト教文化圏の国々(アメリカ合衆国、カナダ)の(1)文化・宗教・社会習慣、(2)歴史的概要、(3)社会・政治・教育制度、(4)日本との関わり等について、担当者が交代で授業を行なう。</p> <p>●成績評価方法(総合) それぞれの講義毎に課されるレポートの成績と、クラスでの貢献度、出席等を総合的に判断して学期の成績とします。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：授業の中で担当者が紹介します。</p> <p>●教員連絡先 渡辺淳一：w_junichi@hotmail.com 学内内線：5984 今井新悟：shingoimai@hotmail.com 学内内線：5088 杉原道子：michikos@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線：9037 赤木彌生：yaoia@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線：5986 門脇薫：kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線：5987</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	性をめぐる今日の状況	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	山本真弓				
<p>●授業概要 「性」は誰もが自分の問題として考えることのできるテーマであり、また、時代により、文化によりその捉えかたが異なるものでもあります。この講義は、「性」をテーマに同じ題材の映画を鑑賞し、議論を通じて互いの考え方の違いを認識・理解するとともに、学生相互を一定の基準のもとで互いに評価するという授業です。人間社会には数字による評価が馴染まないものがあります。人文社会科学系の学問の多くはそのような分野です。「性」にまつわる価値観は地域、時代によって実に多様であり、そこに「正しさ」を見出すことはできません。</p> <p>●授業一般目標 この授業はいわゆる講義を中心とするものではありません。性に関連する分野で扱われている諸概念については、最低限紹介するにとどめ、むしろ、学生たちが性について等身大に考えること、そしてそれを文章にすること、さらに、他の学生の文章を読んで異なる意見を理解すること、そのうえで、自らの意見を再考すること、を目標としています。さらに、学生たちが相互評価をするために「評価とは、なにか」について考え、その経験を通して、多様な価値や文化に基づく事象をどのように捉え、自らと異なる他者（例えば、性的他者）を自分のなかでどう位置づけるかを学ぶことも目指しています。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席、学生同士の相互評価と期末試験の結果の総合</p> <p>●メッセージ 相互評価方式を取り入れた学生相互の討論を行なうため、受講生を30名未満に制限する。2回欠席で受講資格を失う。</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	気持ちを伝えるコミュニケーション	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	林伸一				
<p>●授業概要 グループ体験の基礎を学び、日常生活への応用力と実践力を身につけることに主眼をおく。気持ちを伝えるコミュニケーションのとり方をグループ活動形式で検討し、グループごとのシェアリング（分かち合い）を通して、自己理解と他者理解を促進する。育てるカウンセリングの方法論である構成的グループ・エンカウンターショートエクササイズを人間関係づくりとコミュニケーション論の立場から検討したい。</p> <p>●授業一般目標 1、言葉とコミュニケーションの関係を実習を通して体験的に理解する。2、グループ体験を通して、人間関係（リレーション）づくりに関して学ぶ。3、カウンセリングの方法論としての構成的グループ・エンカウンターについて学ぶ。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席とレポートを重視し、テストは行なわない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ピアヘルパーハンドブック、日本教育カウンセラー協会、図書文化、2001年／参考書：エンカウンターとは何か、国分康孝他、図書文化、2000年；エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集、林伸一ほか、図書文化、1999年</p> <p>●メッセージ 教員、看護師、カウンセラー、介護士など援助職を希望する人の参加を歓迎する。留学生の参加を歓迎する。</p> <p>●教員連絡先 人文学部2階210-2号室（研究室）、オフィスアワー：木曜11時～12時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	神仏習合の歴史的展開	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	真木隆行				
<p>●授業概要 神と仏との関係は、日本の中世社会においてどのようなものとして理解されていたか。またその理解はいつどのようにして形成されてきたのか。それらの話を通じて、古代から中世への時代変化の様相を明らかにする。</p> <p>●授業一般目標 平安時代を通じて、神と仏との関係がどのように理解されるようになっていったか。それが中世日本の王権正当化の論理とどのような関係を有していたかについて認識を深める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業内レポートと期末レポートによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：神仏習合, 義江彰夫, 岩波書店, 1996 年</p> <p>●教員連絡先 真木研究室 (人文学部棟 4 階, 4 1 5 室) へのご来訪ご質問、歓迎します。ご希望があれば、講義終了後につかまえて話しかけてみてください。</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	プレゼンテーション技術－相互理解のための自己表現術－	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	沖裕貴				
<p>●授業概要 この授業では、様々なプレゼンテーション・プラクティスを通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの重要性を認識し、それを改善するための技術・方法を理解して、人前で発表したり、議論したりする力を養うことを目指している。就職活動や卒業論文の発表など、実際に応用できることはもちろん、積極的に自らの意見を述べ、他人の意見を聴く態度を養うことによりこれからの生活や学習の質の向上を目指したい。なお、最終プレゼンテーションにはパワーポイントを用いるので、メールやインターネット、ワード等は使えることが望ましい。</p> <p>●授業一般目標 プレゼンテーション、コミュニケーションが社会生活の中で果たしている役割を認識し、その影響を理解するとともに、自分および他人のプレゼンテーションを客観的に評価あるいは批評する態度を身につける。また、状況に応じて常に適切なプレゼンテーション、コミュニケーションを心がけると同時に、自らの主張や提案を効果的に織り込むためには何が必要かを判断し、論理性を重視するとともに適切な技術とメディアを選択し、適用する能力を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 毎回、その日に行われたプラクティスについてグループ内で議論し (議論への参加態度 20 点)、個人ごとに問題点、改善点、反省等のレポートをまとめて提出する (各 5 点×7 回)。また、最後は各自 10 分程度のマイクロプレゼンテーションを行い、全員で評価し合う。一人の発表者に対し、観点別に全員が評価用紙に記入し、発表者にフィードバックする。発表者は評価をとりまとめ、すべての観点別平均点と総合点を計算して、自分の発表を観点別に再度振り返ると同時に、聴衆からの指摘 (コメントも書き写す) に対する反省も踏まえて、A4、3 枚程度のレポートを提出する (観点別評価の平均点の合計 = 30 点、総括レポート 20 点)。従って、プレゼンテーションをしただけでは評価にならず、その反省レポートの提出をもって評価を行うことになる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術, 林徳治, ぎょうせい, 2000 年; 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術を必ず購入し、毎回持参すること。その他、必要な資料は適宜配布する。</p> <p>●メッセージ 授業は座学ではなく、実際に頭と身体を動かし、楽しく行う予定。知らない人同士が、毎回異なるグループを組み、プラクティスを行う。恥ずかしがったり、尻込みすることをまずなくして欲しい。出席に関しては欠格条件であり、3 回以上理由なく欠席した場合は単位を認定しない。また、プラクティスが始めると途中からは参加できないので、遅刻も厳禁。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: oki@yamaguchi-u.ac.jp、TEL: 083-933-5085 研究室：共通教育棟 2 F、沖研究室 オフィス・アワー随時</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	イメージの解釈学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	奥津聖				
<p>●授業概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。</p> <p>●授業一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考書 参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>●教員連絡先 okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	初等教育入門—幼稚園から小学校へ	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	くわ原昭徳				
<p>●授業概要 わが国の学校教育制度の入り口である初等教育に関する法令や規則などを概観し、近代日本の初等教育の歩みと実態を紹介する。さらに、学校の役割、教師の仕事、子どもの遊びや授業などの活動の意味や構成の仕方について、実践をもとに論述する。受講者には、これまでの自分自身の被教育者の立場と、これからなるかも知れない教育者の立場を比較しながら参加すると有意義な学修となるであろう。</p> <p>●授業一般目標 わが国の初等学校教育の制度や現在の姿を正しく知る。教育に関する基本的な法令や規則や文書の内容を理解できる。教師の仕事を理解するとともに、自分なりの理想の教師象をもつことができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) ○出席回数、受講態度、毎回のミニレポートの内容を総合して評価する。○授業での発言内容やレポートも加算する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：子どもの学習力, 桑原昭徳, 桑原研究室刊, 2004年; わかる授業をつくる先生, 桑原昭徳, 図書文化, 1999年 / 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●メッセージ 教職に感心のある学生は受講してみてください。とくに、これまでの被教育者としての体験の中で、教育に失望している人も、まじめな気持ちでうけて欲しいと思っています。きっと教職に希望が持てるはずす。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	世界経済と日本経済	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	尹春志				
<p>●授業概要 世界経済は、ヒト、カネ、モノ、情報が世界的規模で活発に動き回るグローバル化の時代を迎えたといわれている。このグローバル経済とそのなかの日本経済の位置を理解するためのいくつかのトピックスを検討する</p> <p>●授業一般目標 今日の世界経済のなかの日本経済の現状を理解するのに必要な基本的な考え方と基礎的な知識をみにつける</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績評価は、中間/期末の二回の試験で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特に指定せず、必要に応じてプリント類を配布/ 参考書：講義中に必要に応じて支持する。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	経営の話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (経除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	長谷川光圀				
<p>●授業一般目標 経営についてのトピックスな話を通じて、企業経営に関する興味を持たせる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 受講学生が多い場合は、定期試験を、少ない場合はレポートにする。 定期試験またはレポート試験は 85 点、出席は 15 点とする。</p> <p>●メッセージ 板書するので、ノートをとること。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	アメリカ経済社会と大統領	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	河野眞治				
<p>●授業概要 戦後アメリカの大統領を追いながら、その時期のアメリカ経済社会の特徴と大統領の政策を紹介する。政治システムや大統領制の特徴なども検討していく。</p> <p>●授業一般目標 アメリカ社会を政治経済社会面から理解すること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 毎回の小レポート (60%)、最終レポート (40%) で評価する。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	大学論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	吉田香奈				
<p>●授業概要 現代の日本では、大学を取り巻く政治的、社会的、経済的、国際的な状況がかつてないほど大きく変動している。大学はもはや「知の聖域」として存続することが難しく、社会の変化とともに大きく変わらざるを得ない状況にある。本授業では、日々私たちが学習活動や課外活動を行っている「大学」という社会組織について概説するとともに、各領域の課題についてディスカッションを行う。なお、授業で取り上げる内容は次のとおりである。一年次教育、教養教育とカリキュラム、授業内容・方法、授業評価、大学教員のFD、学生支援 (修学支援、就職支援)、学生支援 (経済的支援)、課外活動、大学の管理運営と財政、大学と研究、大学と社会貢献。</p> <p>●授業一般目標 「大学」という組織に関する基本的な事項について理解するとともに、大学そのものを様々な角度から検討し、問題点や改善策を述べる力を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業内レポートを毎回提出する、(2) グループディスカッションのまとめをメールで提出する、(3) 関心あるテーマについてグループ発表を行う、(4) 最後にレポートを提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：参考資料は授業内で配布する。資料は必ず読んでから授業に参加すること。／参考書：参考図書は授業内で紹介する。</p> <p>●メッセージ 履修希望者が40名を超えた場合には抽選を行うので初回には必ず出席すること</p> <p>●教員連絡先 ykana@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟2階 オフィスアワー火曜日 13:00-16:00</p>					

開設科目	ミュージアムの現在と未来	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	長 畑 実				
<p>●授業概要 全国には7000近い博物館が存在し、利用者総数は年間3億人近くに達するなど、日本は世界有数の「ミュージアム大国」へと発展してきた。市民の間でも文化的価値を大切にし、心の豊かさを求める志向が強まる中、地域の生涯学習拠点としての博物館への期待が高まっている。しかし、その一方で来館者の低落傾向、財政難、市町村合併等を理由とした国立博物館の独立行政法人化、職員の削減、博物館の閉館など、博物館は存亡に関わる厳しい状況に置かれている。この講義では、自然と人類の知の宝庫である博物館の歴史を概観するとともに、歴史博物館、科学館、美術館、動物園、水族館など多様な博物館の目的、社会的機能等について基本的理解を図るとともに、博物館の置かれた現状分析を通してミュージアムの未来を考察、議論する。</p> <p>●授業一般目標 人間社会におけるミュージアムの意義と役割を理解し、主体的な博物館利用の態度を確立する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席状況、講義への参加態度、レポート提出(毎講義時及び最終レポート)を総合して行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。／参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●メッセージ (1) 講義を中心とするが随時ビデオなどを利用するとともに、受講生との討議を通して講義内容の理解を深める。また、毎回講義内容についての感想・意見・質問を自由に記入するコミュニケーション・カードの提出(メール利用)を求める。(2) 博物館と積極的に関わろうとする意欲と姿勢を求める。履修を希望する学生は前期期間中の週末、夏休み等を利用してできるだけ多くの博物館を見学し、展示、普及活動の現状や来館者の様子、博物館活動の問題点・改善点などをよく観察しておくこと。講義内で各自テーマを決め、発表させる。(3) 私語をするものは退場させる。</p> <p>●教員連絡先 研究室：共通教育1号館3階 電話：933-5082 E-mail：nagahata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	キャリアデザイン	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	平尾元彦				
<p>●授業概要 キャリアデザインとは、人生設計。とくに「職」にかかわる自分の未来への道を描くこと。本講義では、自分を知り、仕事を知り、そして、なるための道を知るために必要となる、(1) 自己分析の方法、(2) 企業研究の方法、(3) 就職活動の方法を解説する。また、この講義では山口大学の卒業生数名をゲストとして招く予定である。先輩方の大学生から社会人への道筋をケーススタディとしながら、キャリアデザインを考えていきたい。</p> <p>●授業一般目標 先輩の学業から就業への接続過程の話を参考にしつつ、自分自身のキャリアデザインを考えて、大学での目標を明確にすることを、この授業目標とする</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜資料を配布する／参考書：授業内で紹介する</p> <p>●メッセージ 山口大学の卒業生を中心に会社で活躍する先輩方をゲスト講師にお招きする。大学に居ながらにしてOBOGの話をきくことができるチャンスである。社会人の先輩方の経験談のなかから自分に必要なものを学びとってほしい。なお、本年度は公務員として働く先輩もお招きする予定である</p> <p>●教員連絡先 hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	宇宙環境と人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	糸長雅弘				
<p>●授業概要 地球には生命を育む大気と水がある。地球誕生から 45 億年にわたる歴史が作った環境である。太陽から放射される光のエネルギーは、地球の大気や水を循環させ、全ての生命の源となっている。一方、太陽から放射される強烈な紫外線は、上空のオゾン層で吸収され地上に届かない。地上は過酷な宇宙の環境から守られ、宇宙空間は遠い存在であった。しかし、現在では、宇宙空間が実利用の場となり、宇宙環境が人口衛星に搭載した機器や人体に与える影響が大きな問題となっている。本授業では、太陽から地球の超高層大気に至る宇宙環境とその利用について解説する。</p> <p>●授業一般目標 宇宙環境の基礎的な知識を習得し、宇宙環境と人間の関わりを理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率 80 %未満を欠格条件とし、毎回の授業内レポートと 3 回の授業外レポート、期末試験を総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：オーロラ 太陽からのメッセージ、上出洋介、山と溪谷社、1999 年</p> <p>●メッセージ 物理的な内容に触れることもあるが、文系の人にも分かるようにコンセプトを説明するので、毛嫌いせずに学び、それらの知識に基づいて、宇宙環境と人間の関わりを考えることができるようになって欲しい。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	香り人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	渡辺雅夫				
<p>●授業概要 この講義では、毎回 2~3 種類の香りサンプルを提示しながら、「香り」と人間のかかわりを歴史的、生理学的、心理学的な面から考えていく。嗅覚生理学を中心に講義が組み立てられているが、文系理系を問わず受講できるように解説していくつもりである。</p> <p>●授業一般目標 我々の生活環境にある香りへの認識を深め、香りの作用について科学的な知識を持ち、香りとの上手なつきあい方を考えてもらうことを目的とする。また地域環境（文化を含めた）の保全を目指した、環境省の「かおり風景 100 選」事業（2001 年秋選定）への理解を深めることを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内に設問に答えてもらう小テスト、宿題/授業外レポート、期末試験 1 回を行う。下記の割合で総合的に評価する。授業の出席状況について、75 %以上であること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料プリントを配付する予定。/ 参考書：毎回の授業で紹介する。</p> <p>●メッセージ 教室の都合により人数制限することがある。多人数講義となることが予想されるが、遅刻をせず、私語を慎み、携帯電話の電源を切るなど受講マナーを守ること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: masao.w@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 理学部 3 号館 113 号室 (内線 5767) オフィスアワー 月曜日 14:30~16:00</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	人間と植物	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	高橋肇, 山内直樹				
<p>●授業概要 人間は、植物を作物として栽培することで食料の安定供給を実現し、人口の急速な増加とともに現在の繁栄の礎を作ってきた。食料に関する科学は、高度な文明を身につけた人間にとって、もはや生産量の増加のみにとどまらず、品質、流通、貯蔵といった商品としての経済性にまで及んでいる。一方、植物は食料として利用されるだけでなく、人間の生活に溶け込み、人間の心に働きかけている。農業においても、従来の食料生産という枠を飛び出し、アグロビジネスという新分野が生まれている。本講義では、このような人間と植物との関係を、農業を中心に両当事者がそれぞれの見方で論じる。</p> <p>●授業一般目標 本講義では食料の生産とその後の流通・貯蔵に関して講義することにより、人間と植物、特に農作物との係わりについて理解することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は山内50、高橋50で評価し、その合計で示す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない</p> <p>●教員連絡先 yamauchi@yamaguchi-u.ac.jp, tadashi@agr.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：農学部3階330号室，農学部1階128号室 オフィスアワー：山内 金曜日 午後1時～5時 高橋 月～金曜日 午前7時～8時 月・火・木・金曜日 12時～12時30分</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	暮らしの中の動物	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	猪熊壽, 中市統三, 木曾康郎, 那須哲之				
<p>●授業概要 農学部獣医学科の各教官の専門分野の立場から、われわれの暮らしに係る動物について、さまざまな角度から平易に解説・考察し、動物に対する興味と理解を深めると共に、命の不思議さ、尊さ、人と動物の共存の重要性等を考える。</p> <p>●授業一般目標 家畜から提供される肉、卵、乳は私たちの食生活の必需品です。伴侶動物は私たちの心を豊かにしてくれます。また、野山には野生動物が暮らしています。この授業を通じて動物と人間の共存についての考えを深めてもらいたい。</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	教育, 人間, 環境及び科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	澤本章				
<p>●授業概要 日本が今後発展するには教育の力が必要とされています。そこで、日本の教育の実状について考え、今後どのようにすべきかを探ってみます。また、英国の教育の実状についても概説し、日本の教育の場合と比較します。さらに、世界の環境問題や日本の科学技術についても考えてみます。</p> <p>●授業一般目標 日本の教育の実状、環境問題、技術的問題を把握し、これからの日本を発展させるためには、いかにすべきであるかを考える態度を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席:35%、授業中の態度:5%、授業外レポート:50%、授業内レポート:10%で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:教育の力で日本を変えよう,大谷 南海男,文芸社,2002年</p> <p>●メッセージ 日本がこれからますます発展するためには、若い人の力が必要です。日本の教育を改善して、優れた人材を育成することが課題となってきます。日本の教育、英国の教育、環境問題、世界的に見た日本の技術力について説明し、総じて、今後、日本が繁栄するためには以下にすべきであるかについて考えます。</p> <p>●教員連絡先 連絡先:山口大学 教育学部 技術教育 金属加工研究室 264号室、TEL / FAX:083-933-5395、E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:毎週木曜日、10:20~11:50</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	生命を科学する	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	篠田晃				
<p>●授業概要 生命現象と医学・医療が自然現象の1現象とその制御であることを科学的に捉えられるよう、細胞や人体の構造・機能および病気のメカニズムや治療現場について、スライドや講義を通しリアルな概説を行う。</p> <p>●授業一般目標 細胞や人体の構造・機能および病気のメカニズムや治療現場について概略を理解し、生命現象と医学・医療が自然の1現象とその制御であることを科学的に捉え、自分の意見を理論的に述べるができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各回の授業の終わりの20分くらいで、その日の授業に関するレポート(テーマは授業担当教員の指示に従う)の作成を各自が行い、いわゆる筆記試験は行わず、毎回のレポート評価と授業態度らを総合して全体の成績評価をする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:特になし/参考書:特になし</p> <p>●メッセージ 筆記試験はいたしませんので、毎回のレポートをしっかりと書けるようによく授業を聞いて下さい。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	宇宙と人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	藤澤健太				
<p>●授業概要 「宇宙」は極めて大きなスケールであり、その大きさゆえに我々「人間」の生活や感覚とはなんら関係がないようにも思える。しかし我々が使う時間は天体の運行に由来するものであるし、天気予報、テレビ放送やカーナビにも人工衛星技術が使われている。我々の身体を作っている物質は恒星内部の原子核反応によって作られたものであり、そもそも我々は宇宙の中に存在している。このように考えると、「宇宙」と「人間」にはいろいろな接点があると思えてくる。両者にはどのような関係があるのか自分で追求してみる、これが講義の概要であり、同時に目標である。</p> <p>●授業一般目標 講義を通じて自分で調べ、考え、発表し、それが他者の考えと相互作用をする、ことを目標としている。簡単に言えば、宇宙と人間について知る、そして考えることが目標である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席とレポート(随時)、および講義中の参加状況によって総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特になし。／参考書：特になし。</p> <p>●メッセージ 単に聞くだけではない、ちょっと変わった講義です。</p> <p>●教員連絡先 藤澤健太(理・231) 083-933-5673</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	人間とバイオテクノロジー	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	滝本晃一 他 2 名				
<p>●授業概要 生命の基礎は遺伝子です。遺伝子組み換えや遺伝子治療、遺伝子による個人の識別など遺伝子 DNA は私達の生活の中に深く関わっています。本授業では、遺伝子について概説し、遺伝子を傷つける環境要因としての紫外線について述べ、さらに遺伝子技術について概説する。我々の廻りには多種多様な食品が存在するが、それらの機能的性質や化学的特性、バイオサイエンス利用について述べる。全ての食物の基礎である植物を機能的に付加価値の高いものにするために従来から変化が加えられてきたが、それらについて紹介するとともに、植物遺伝子組み換えについて現状とその方法について開設する [注意] レポート提出など 3 名の教官全ての課題を満たすことが評価の条件。</p> <p>●授業一般目標 バイオテクノロジーの背景となる生物学的知識を得、生命現象の基礎である遺伝子について理解を深め、さらに、バイオがどのように役立っているか、どのような可能性があるか、どのような問題があるかを考える素養を身につける。また、それらをもとにして我々の生活にどのように利用応用されているかを知る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 3 名の教員がそれぞれ筆記試験をするか講義の内容についてレポートを課す。3 名の教員全ての試験受験あるいはレポート提出をした者のみにについて成績評価を行う。</p> <p>●メッセージ 3 名の教員が担当します。順序は変更することがあります、授業で注意事項やレポート・試験のことを伝えますので、出席すること。3 名の教員の試験やレポートを総合評価します。</p> <p>●教員連絡先 電話 5868 (滝本)、5853 (松富)、5850 (松井) オフィスアワー 随時</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	スポーツの医学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	内藤克輔				
<p>●授業概要 スポーツが健康に与える効果と、逆に健康に害を与える効果とを、各分野より考察する。</p> <p>●授業一般目標 各講義毎にテーマを絞って講義し、学生とディスカッションすることにより、スポーツの健康に与える功罪についての理解を深める。</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	ライフスタイルと健康	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	細井栄嗣				
<p>●授業概要 人の健康状態が生活様式に左右されることは、今や広く知られている事実である。人々の意識は高齢化社会の到来に伴い、いかに長生きできるかではなく、いかに死ぬまで健康でいられるかに向けられるようになった。本講義では健康な生活を送るために欠かせないいくつかの要因について取り扱う。</p> <p>●授業一般目標 栄養学の基礎、すなわちそれぞれの栄養素の働きについて理解する。運動やその他の活動と活性酸素の害との関係について正しい知識を身につける。また生活習慣病の予防法について理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、レポート、期末試験で評価。出席が70%に満たない者は不可。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：五訂食品成分表2005、香川芳子監修、女子栄養大学出版社、2005年／参考書：プリントを配布</p> <p>●メッセージ 教科書は講義中にも頻繁に使用するので必ず購入すること</p> <p>●教員連絡先 E-mail hosoi@yamaguchi-u.ac.jp Tell 933-5826 研究室 農学部 126、オフィスアワー：水曜日の昼休み＋随時</p>					

後期一人文学系列

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	岩本光悦				
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	柏木寧子				
<p>●授業概要 一現代倫理学入門一 現代を生きていく上で直面する倫理的な問いについて考えます。そもそも倫理的な問いにはどのようなものがあるのでしょうか。また、その問いをめぐってどのような考え方が提出されてきたのでしょうか。問いが単に専門的学者のものだけでなく、私たちにも関わりのあるものだとすれば、私たちは何に拠り、どこを出発点として問いに近づいていったらよいのでしょうか。毎回の授業では、おそらく簡単明瞭な解答は得られないだろうと思います。いったん何かしらの考えに行き着いたように思っても、何日かのちに別の考えが生ずるということもあるでしょう。解答を急ぐのではなく、問いを問うということそれ自体を学んでみたいと考えます。</p> <p>●授業一般目標 倫理学の素養を深めることで、豊かな人間性を発見するところを育み、自らが考え・判断・表現・行動・発信する能力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 受講者には、毎授業の終了時、小レポートを作成・提出することが課せられます。授業内に扱った問いをめぐり、自らの関心・疑問等を論理的に表現する訓練を重ねるとともに、授業に対する主体的な取り組みの姿勢を見るねらいがあります。また、期末試験によって、理解の到達度、関心の深まりを見ます。平常の小レポートと期末試験との総合により、成績評価を行います。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『現代倫理学入門』、加藤尚武、講談社学術文庫、1997年；販売店は文栄堂。定価¥950程度。／参考書：必要に応じてプリントを配付します。</p> <p>●教員連絡先 kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 410 研究室</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	谷田憲俊				
<p>●授業概要 医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では生命倫理・医療倫理に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p>●授業一般目標 生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席点 40%、レポート点 40%、試験結果 20%</p> <p>●教科書・参考書 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPoint ファイルとして予め学生に e メールで送付することができる。</p> <p>●メッセージ PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので、大学のアドレス以外には送れない。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので、試験前になってから得ることはできないので留意すること。</p> <p>●教員連絡先 tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	森下徹				
<p>●授業概要 都市の歴史を通して日本史の展開を学ぶ。そのさい伝統都市を都城と城下町からなるものとし、うち後者の継承・それとの相克のなかで現代都市が成立するという見通しに立つ</p> <p>●授業一般目標 都市の歴史的な展開過程から日本史の特質を理解すること</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回行う小テスト、および中間・期末テストの合計点</p> <p>●メッセージ 受講制限を行うので、初回の授業には必ず出席のこと。</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	村田裕一				
<p>●授業概要 本講義では、主に日本の弥生・古墳時代以前の技術発達史を取り扱う。石器・金属器・ガラス等の考古遺物を対象として、それらの製作技術を解説することで考古学的な手法による歴史学へのアプローチについて紹介する。技術の歴史自体は、必ずしも歴史学の主要な研究テーマではないが、考古学的な歴史研究では最も基本となる部分である。なぜならば、遺物の個別研究は考古学的研究法の基礎であり、遺物をよく観察することでその本質を見極め、これを論理的に意味づけることは、研究の出発点となるからである。そして個々の遺物の重要な観察項目の一つが、「それがどのようにして作られたのか」という技術的な側面なのである。その意味で本講義は考古学入門的な内容となる。いわば「もの作りの考古学」が本講義の主要なテーマである。</p> <p>●授業一般目標 1. 考古遺物の研究方法についての知識を習得する。 2. 考古学の基本知識を獲得する。 3. 考古学の方法論への理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験100%。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 図解技術の考古学, 潮見浩, 有斐閣, 1988年 / 参考書： 講義の中で文献を紹介する。</p> <p>●メッセージ 毎回の授業の終わりに感想カードを書いてもらいますが成績評価の材料とはしません。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー: 水曜日 7・8 時限</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	中村友博				
<p>●授業概要 山口県には、いったいどのような遺跡があるのだろうか。この授業は、山口県内にある代表的な遺跡を具体的に紹介しながら、併せて日本の先史・原始時代に関する考古学的な基礎知識を説明する。</p> <p>●授業一般目標 1 考古学の特徴について、理解する。 2 日本の原始文化を理解する。 3 郷土の遺跡に関心をもつ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末の試験で判定するが、毎回行うミニ・テストも評価の参考にする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 指定せず / 参考書： 山口県の遺跡散歩, 山本一朗, 周陽考古学研究所, 2004年; 必要に応じてプリントを配布することがある。</p> <p>●メッセージ 履修希望者が100名を越えた場合には、抽選ないし試験を行うので初回に必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部3階 オフィスアワー 金曜日 16:10~17:40</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 中国近・現代史(19世紀半ばから20世紀末まで)に限定して講義する。中国の半植民地化の進行と、それからの脱却をめざした中国民衆の苦闘をあつづける。</p> <p>●授業一般目標 事実の羅列(「…があった」「…がおこった」)ではなく、「なぜ、そうなったのか」「それは何をもちらしたか」、つまり原因と結果を考える。とくに、日本との関係を重視して考察・理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(小論文)を行なう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 使用しない/参考書: 世界史年表(簡単なものでもよい)を用意してほしい</p> <p>●メッセージ 講義中、講義後の質問歓迎。ノートを取ることで、大林の話聞いて、そのロジックを理解し、疑問をもつようしてほしい</p> <p>●教員連絡先 083-924-9638(自宅)ファックスによる質問歓迎</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	高木尚子				
<p>●授業概要 古代邑制国家の成立から、春秋戦国時代の大変化を経て、領域国家が成立するまでの中国は、我々にとって異文化世界であり、我々とは異なる秩序や観念によって支えられていた。しかし同時に、古代中国世界は、我々にとって身近であったはずの中華文明の原型がかたちづくられた時代でもある。そのような古代中国世界を概観するとともに、中華文明世界における「史」の到達点でもあり出発点でもある司馬遷『史記』を通して、古代中国における「史」の歴史について考える。</p> <p>●授業一般目標 「歴史」とは何だろうか。現在、我々が普通に考える「歴史」とは、Historyの訳語であり、我々が普通に学ぶ「歴史学」は近代ヨーロッパにおいて成立した学問である。しかし、かつての中華文明世界には、Historyとは別の「史」の伝統があった。司馬遷は、なぜ『史記』を書いたのだろうか。『史記』が描く時代の歴史とあわせて、中国の「史」の伝統における『史記』の位置づけを考え、「歴史とは何か」について考えるきっかけとしたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: なし。適宜、プリントを配布する。/参考書: 参考書『中国文明の成立』松丸道雄・永田英正著、講談社『中国考古の重要発見』黄石林・朱乃誠著、日本エディタースクール</p> <p>●メッセージ 自ら学ぶ姿勢を求める</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	尼川創二				
<p>●授業概要 【「大航海時代」を考える】「大航海時代」とは、ヨーロッパ人の航海・探検・征服の大規模な活動によってヨーロッパ主導の世界の一体化の過程の発端が現出した時代、すなわち 15 世紀末から 17 世紀中頃までの時期をさす。まず、この時期のヨーロッパの膨張の理由をヨーロッパ中世にまでさかのぼって考察する。次にポルトガル、スペイン、蘭・英・仏の海外進出の実態を、非ヨーロッパ諸地域との接触・交流・衝突の問題に留意しながら、概観する。</p> <p>●授業一般目標 15 世紀末から 17 世紀中頃までのヨーロッパの膨張の理由、海外進出の担い手の交代の理由についての理解を深めるとともに、膨張するヨーロッパと非ヨーロッパ地域との接触・交流・衝突の諸相を概観して、ヨーロッパ近代資本主義社会形成期の光と闇について考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(論述式、持ち込み不可) 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	岩崎好成				
<p>●授業概要 直接的には、なぜアウシュヴィッツの悲劇は生じたのか、との問いを軸に、「ユダヤ人」差別の歴史、特に近現代ドイツ史上のそれを分析する。が、その際に力点が置かれるのは、歴史を語る際のルールや歴史を学ぶ意義を吟味すること、更には、現代の日本に生きる「普通の人々」としての我々にも通ずる問題群を析出し、一種の教訓としてこれを考えることである。</p> <p>●授業一般目標 1. 歴史学を構成する基本(=歴史を見、語る際の方法やルール、歴史を学ぶ意味や価値など)を習得する。2. 我々の行動や考え方を分析する際に有用な概念・視角を(ホロコースト分析から)取り出し吟味することを通じて、人間・社会についての理解を深める。3. 以上から、<他人事・余所事の歴史学・西洋史>からの脱却をめざす。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内の小テスト・小レポート(計5回程)と、期末レポートで評価する。なお、遅刻者は大幅に減点されるので注意。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中に指示する。</p> <p>●メッセージ 授業開始後の入室を禁ずる。受講生数の制限あり(=教室に収容可能な数か 200 名以内)。第3講以降の受講開始は認めない。</p> <p>●教員連絡先 iwasaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	宗教学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	ジュマリ・アラム				
<p>●授業概要 宗教とは何か、その位置づけ、構図、研究方法について、各宗教の具体的な事例を見ながら考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教のみならず、民間信仰や自然集団としての宗教の存在と役割にも注目し、全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>●授業一般目標 宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を人間にとって普遍的な宗教心を中心に据えた一つのプロセスとして位置づけ、ダイナミックなものとして体系的・包括的に捉える、宗教学的な枠組みと視点に親しむことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. レポートを一回課す(12月中)。2. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：必要となった場合に適宜案内する。</p> <p>●メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学や宗教研究に関する一定の内容や枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p> <p>●教員連絡先 ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	名島潤慈				
<p>●授業概要 心理学の基本的な事柄について講義します。</p> <p>●授業一般目標 心理学のなかでも人格心理学・発達心理学・臨床心理学に関する講義を通して、人の心の仕組みや不応の機制を理解できるようにします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：学校教育相談心理学, 中山巖編著, 北大路書房, 2001 年</p> <p>●教員連絡先 E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	木谷秀勝				
<p>●授業概要 心理学の講義では、日常の人間行動への心理学的理解を通して、人間行動の背景にある 心の世界について、科学的に解明することを目的とする。</p> <p>●授業一般目標 心理学を通して、自分自身や他者、あるいはさまざまな社会現象に対する多面的な視点 や発想の柔軟性を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 評価は、出席点、レポート、さらに平素の講義態度で行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生活にいかす心理学 Ver.2, 古城和子編著, ナカニシヤ出版, 1999 年／参考書：必要な資料は適宜紹介する</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学(心のとらえ方)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	田邊敏明				
<p>●授業概要 本講義は、心理学の概念がどのような見方から生まれたかを比喩からさぐって解説する。授業では、知覚、認知、学習などの領域ごとに概念を説明していくが、その都度各概念がどのような比喩から成り立っているかにも触れる。心理学の比喩には、機械論や有機体論が代表的であり、最近では状況主義もある。心理学の概念は仮説構成体と呼ばれ、他の学問から借りてきたものも多い。さらにそれらの概念はその時代に流行した見方を反映している。理論をただ暗記するのではなく、その理論が導かれた背景までたどりたい。</p> <p>●授業一般目標 心理学の概念を、ただ理解するだけでなく、それが導かれてきた背景までたどってみたい。その一つの方法が心理学概念がどのような見方(比喩)から成り立っているかを明らかにすることである。受講生には、心の見方にはいろいろな背景があることに気づいてもらいたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 基本的には期末試験を重視するが、途中で行う課題の提出も重要な評価対象となる。さらに、心理学の理論や概念を理解するのはもちろんのこと、それらがどのような基本的見方から成り立っているかについての興味関心があり、自分なりに理解していくような姿勢が見られるかどうかを評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：比喩から学ぶ心理学 ―心理学理論の新しい見方― (北大路書房)</p> <p>●メッセージ 心理学の基本概念を教えていきますが、さらにそれが導かれた背景まで探っていきます。自ら考える姿勢を求めます。</p> <p>●教員連絡先 ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 火曜日 18:00～19:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学(人間はいつも論理的に思考するか)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	熊谷信順				
<p>●授業概要 人は自分の五感を通して得た情報に依存して生きている。その情報によって組み立てた心的世界は必ずしも「客観的」ではない。いわば、自分にとって都合のよい心的世界を形成している。なぜか。その方が都合がよいからだ。</p> <p>●授業一般目標 1 人間行動をにみられる心理学的現象と、これに関する心理学の基礎的概念を理解する。 2 心理学は人間をどのように理解しようとするのかを理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末定期試験 知識・理解の観点 50パーセント 思考・判断の観点 50パーセント</p> <p>●メッセージ 受講者数の制限を行う(100名程度まで) 授業中の私語等によって授業の妨げを行うものの受講を認めない。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本文学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	尾崎千佳				
<p>●授業概要 【御伽草子の作品世界】一寸法師や浦島太郎の物語を知らない人はいないでしょう。御伽草子と総称されるこれらの作品群は、その多くが室町時代に成立し、江戸時代の半ば以降、女子供向けの読み物として、広く長らく親しまれてきました。御伽草子の主人公たちは、みな、異常な存在として出生しながらも、人にすぐれた能力を発揮し、偉大な事業を成し遂げることによって、たぐいまれなる幸福を手に入れます。このような主人公の異常性こそ、御伽草子全体を貫く主題です。誰もが知っているあらすじの背景に広がっている、御伽草子の作品世界をかいま見てゆきたいと思います。</p> <p>●授業一般目標 古典文学の作品世界の奥深さを感じ得るための、読解の基礎力を養うことを目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間小試験(20%)および期末試験(80%)により評価します。4回の無断欠席で期末試験の受験資格を失うので注意してください。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：御伽草子(上), 市古貞次校注, 岩波書店, 1985年; 文栄堂山大前店で販売していますので、必ず購入してください。</p> <p>●メッセージ 受講希望者多数の場合は初回授業時に抽選を行う可能性があります。</p> <p>●教員連絡先 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30-16:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	漢文	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	南部英彦				
<p>●授業概要 本年は、南宋・朱熹の『中庸章句』を取り上げ、受講者全員で読解を試み、彼の説く理気性情の考えについて、一般的理解を得る。</p> <p>●授業一般目標 漢文を、訓読法により読むことを通して、中国(日本)の歴史、思想、文化に対する関心を深め、更にそれを自分なりに評価・批判する態度を養おうとする。より具体的には、(1) 各自の漢文訓読の力量をいささかなりとも上げる。(2) 中国古典の文章や考え方、あるいは歴史に対する関心を深める。(3) 漢文資料に示された内容を自分なりに批判しうる力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 基本的には、授業中における発表と他の発表者に対する討議の姿勢を勘案することにより行う。場合によっては、学期末にレポートを課すことがある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テキストは、授業中に配布する。／参考書：参考書は、授業中に指示する。</p> <p>●メッセージ 漢和辞典を一冊用意して下さい。</p> <p>●教員連絡先 hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp 1 1:50 から 12:50 まで、及び課外の時間。教育学部(4階)漢文学研究室に訪ねてきて下さい。</p>					

開設科目	外国文学(フランス文学)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	平山豊				
<p>●授業概要 フランス文学の淵源となった中世の物語から説き起こし、近世の人間探求の文学、近現代の青春小説の素描を経て、現代小説のいくつかを拾い読みする。出来るだけ訳書で読めるものを選び、さわりの箇所はプリントで例示する。取り上げる作品は、たとえば『トリスタンとイゾー』、モンテーニュ『エセ-』、ネルヴァル『シルヴィー』等。</p> <p>●授業一般目標 古典文学によって時代を超えた恋愛心理や人間性などの普遍的な心の動きを、そして現代文学によって日本の若者と共通する状況や心理を読み解く。</p> <p>●成績評価方法(総合) レポート評価80% 小テスト20%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：適宜授業中に翻訳書等を紹介</p>					

開設科目	外国文学(ドイツ文学)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日7・8時限
担当教員	江波 昌子				
<p>●授業概要 古典の名作から最近の作品まで、ドイツ文学をできるだけ多く鑑賞し、その問題点や意味、表現方法などを考察する。また、その作品を手がかりに、自らの考えや主張を文章にまとめる訓練をする。現代に生きる若い皆さんが共感できる作品をとりあげていく予定。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ文学に親しみ、作品が問いかける問題を読みとって理解を深め、その芸術性を味わう。同時に、作品についての自らの考えや主張を、正確な日本語と表現方法によって文章にまとめ、他者に訴えかける力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席と授業内レポートを含めた平常点を50%とし、定期試験50%と合わせて評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜、プリントを配布します。</p> <p>●メッセージ 「自分の書いたものに責任を持つ」とはどういうことでしょうか？ 社会に出れば今以上に、自分の書いたものが「自分の顔になる」ということを痛感するはずです。人に読まれても恥ずかしくない文章が書けるようになりたいものですね。</p>					

開設科目	言語学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時間	木曜日7・8時限
担当教員	平野尊識				
<p>●授業概要 「言語の普遍性と個性」というタイトルで、フィリピンのタガログ語、インドネシア語の文法的特徴を紹介し、日本語と比較する。その後、英語等の言語を参照しながら、人間の「脳」の中に内在する「言語」について考察する。</p> <p>●授業一般目標 世界には多くの言語があるが、人間に関わる以上、そこには共通する特徴が存在する。人間の言語を構成するこれらの特徴について考察するが、同時に「日本語」、「中国語」、「英語」、「ロシア語」のように各言語に個別の名称が与えられている限り、当然相違点も存在するはずである。この講義では、言語に関して私たちが持っている視野を更に広げること、言語を科学的に捉える視点を持つことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 授業外でのレポートを課す。2. 試験をする。この二つを合計100%として評価する。</p> <p>●メッセージ 受講者を50人前後に制限する。講義の前に、必ずハンドアウトを読んでくる。分からないことがあれば講義中に質問すること。講義が終わって、内容を理解できればそれでOKです。</p> <p>●教員連絡先 e-mail: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617</p>					

開設科目	芸術史(日本近代美術史)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	菊屋吉生				
<p>●授業概要 日本明治以降の近代日本美術史の諸問題について論じる。近年この分野では、若い研究者による観点に立った意欲的な論文、著書の発表や、あるいは各地の美術館などで、それまであまり知られなかった近代の美術動向や作品に焦点が当てられた展覧会が次々と行なわれ、飛躍的にその研究の厚みが増しつつある。この講義では、そうした近年の新しい研究成果もふまえつつ、とくに重要と思われるいくつかのテーマを設定しながら、日本の近代美術が抱えてきたさまざまな問題について考察してみたい。</p> <p>●授業一般目標 (1) 近代日本美術に関する近年の問題点を理解する。(2) 明治以降の日本の美術の発達にまつわる近代の状況を、世界の動きと対比しながら考察する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業のなかでレポートを書いてもらうことも考えている。試験はノートの持ち込みは認めたい。そのためノート記述はしっかりやってもらいたい。その際、授業中にその内容をふまえた上で自ら考えたことをメモしておいてもらうと役立つと思う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テキストはとくにないが、授業のなかでレジュメを配りたい。／参考書：参考書に関しては、授業のなかでその都度明示する。</p> <p>●メッセージ 授業の内容および使用教室のキャパシティの関係で、履修者を90名までとしたい。人数を越えた場合は初回に抽選を行なうので、必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術概論(音楽の歴史)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	池上敏				
<p>●授業概要 西洋音楽を基本にした基礎的な音楽史を講じます。当然ですが、音楽はヨーロッパのみにあるのではないのですが、なぜ西ヨーロッパの音楽が世界の音楽の主流たり得たのか、その秘密を受講生の皆さんと共に考えて行きたい。</p> <p>●授業一般目標 西洋の古典音楽を中心にした音楽史の基礎の理解。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席状況、講義内容の理解度、授業期間内、または時間外に科す簡単なレポートなどを総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：未定、決定次第揭示等で通知します。／参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 担当教員研究室(教育学部音楽棟109研究室)、オフィスアワーは未定。</p>					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術概論(美術)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	福田隆真				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 西洋美術の近代の表現の変遷と日本美について解説する。 ●授業一般目標 西洋の近代絵画の表現様式を知る。日本美の特性について知る。 ●メッセージ 出席して鑑賞して感じることを重視する。 					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	西村順子				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 授業概要 ピアノ、弦楽器、声楽の演奏実践をそれぞれ同時進行で行っている授業である。それぞれ受講希望する分野のところで個々の力量に応じて、それぞれの専門の教員が指導を行う。(1分野8名まで) ●授業一般目標 各自、期末に向けて目標を立て、その目標に向けて取り組んでいく。クラシックに限らず、ポピュラーミュージックや連弾等、様々な希望もOK。 ●成績評価方法(総合) (1)受講者全員での試演会により、形成評価を行う。(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 ●教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備 ●教員連絡先 jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 研究室(内線5363) ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践 (音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (教・生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	成川ひとみ				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 ピアノ曲の演奏に取り組む。 ● 授業一般目標 各自の能力と目的に適したピアノ曲を選曲し、個別の実技指導を行う。 ● 成績評価方法 (総合) 1. 公開による実技試験を行う。 2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 ● 教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備 ● メッセージ 個別指導となる為、受講人数を8人程度までとする。 ● 教員連絡先 nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364 ● 備考 工学部 JABEE 対応科目 					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践 (音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (教・生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	野波健彦				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 本授業では、初心者を中心に櫃粒擺鋸箏靴討瞭団Γ砲弔い胴峙舛掘ハ唇厨奮擦覆 頼佞任 訥 戮歎黝, 僚虔發砲弔い道愼海鮮圓A ● 備考 工学部 JABEE 対応科目 					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	某				
<p>●授業概要 授業の概要その他は、開講時に説明する。 ●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

後期一社会科学系列

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	法学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	三間地				
<p>●授業概要 「法とは何か」「わが国の法制度の概要はどうなっているか」といったことを学習したのち、契約・婚姻・離婚・相続など身近な法律問題についての初歩を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 (1) わが国の法制度の概要を理解する。(2) 市民生活を送る上で知っていると有益だと思われるような法律に関する基礎知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は期末試験の結果による。ただし4回以上欠席した者には期末試験の受験を認めない(なお、課題をやってこなかった場合、授業中に居眠りした場合、授業中にメールの送受信をした場合及び授業中に他の授業の準備をした場合には欠席扱いとする。)。また、授業中に以下の行為を行った者も受験資格を失う。(1) 私語(2) 飲食(3) 大学祭等のチケットを売り買いしようとする行為(4) その他ほかの受講者の受講を妨げる行為</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現時点では未定。第1回目の授業の際に指示する。／参考書：新民事の訴訟, 福永有利・井上治典, 悠々社, 2000年 新版・家族法, 泉久雄, 放送大学教育振興会, 1998年 スタートライン債権法 [第3版], 池田真朗, 日本評論社, 2002年 民法I総則・物権総論 [第2版] 補訂版, 内田貴, 東京大学出版会, 2000年</p> <p>●メッセージ 受講の際には必ず六法(有斐閣・三省堂・岩波書店から刊行されているものが良い)を持参すること。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレスは授業の際に配布するプリントに記載する。現時点ではオフィスアワーは未定。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	立山紘毅				

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	経・医学	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	永山茂樹				
<p>●授業概要 日本国憲法の基本事項を、立憲主義の歴史をふまえて講義する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 基本的人権の意義を知る。(2) 主権者に必要な素養を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを2～3回実施する。(2) 人権に関するレポートを1回作成提出する。(3) 期末試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『現代憲法入門講義』(北樹出版)</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	永山茂樹				
<p>●授業概要 日本国憲法の基本事項を、立憲主義の歴史をふまえて講義する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 基本的人権の意義を知る。(2) 主権者に必要な素養を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを2～3回実施する。(2) 人権に関するレポートを1回作成提出する。(3) 期末試験を実施する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『現代憲法入門講義』(北樹出版)</p>					

開設科目	政治学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	瀬瀬厚				
<p>●授業概要 政治とは何か、政治学とはどのような学問なのか、について最初解説する。そこでは現代社会が政治という手段なくしては成立しないことの理解を求めていきたい。現代を生きる私たちは、すべて「政治的人間」であることを自覚して欲しい。</p> <p>●授業一般目標 他者同調型ではなく、自立した一個の人間として、「市民」として主体的な判断ができる人間としての教養を身につける</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現代政治の課題, 瀬瀬厚, 北樹出版, 1994 年 / 参考書：現代の戦争, 瀬瀬厚, 岩波書店, 2003 年; 文民統制, 瀬瀬厚, 岩波書店, 2005 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	経済学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	藤田健				
<p>●授業概要 現代の経済は、企業・家計・政府の三つの主体によって動いています。そのなかでも企業は財・サービスを生産し、家計や政府の需要を満たす活動を積極的におこなっています。本講義は、抽象的な経済学を扱うのではなく、現実的な経済活動を見るために、企業の「マーケティング」という視点から経済活動を分析します。</p> <p>●授業一般目標 企業の戦略・対市場行動を分析する考え方を学ぶとともに、実際の事例をもとに分析力を養うことを目的とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(70%), レポート(30%), 出席は欠格条件となる(8割以上の出席を単位要件とする)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：1からのマーケティング(第2版), 広田章光・石井淳蔵編著, 中央経済社, 2004年 / 参考書：ゼミナール マーケティング入門, 石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎, 日本経済新聞社, 2004年</p> <p>●教員連絡先 研究室：経済学部 A306 研究室 E-mail:fujitat@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	横田尚俊				
<p>●授業概要 社会学という学問の概略を説明しながら、私たちが否応なく巻き込まれつつ当事者としてその動向を左右している現代社会の諸相にアプローチしていきます。具体的には、近代化、都市化と現代の高度産業社会における変化の趨勢(情報化、グローバル化、少子高齢化)、さらには恋愛・結婚と家族の変容などについて、多くの資料を参照しながら講義します。</p> <p>●授業一般目標 (1) 現代社会のしくみや変化の趨勢について理解するとともに、現代社会に対する関心の幅を広げる。(2) 社会学の分析視角に触れることによって、受講生各自が、それまで自明だと考えていた社会現象に対する見方を相対化したり、それらを眺める視点を深められるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小テスト 10%(4・5回程度、簡単な小テストを実施します。詳細は、授業の中で説明します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 転換期日本社会の諸相—おもしろ社会学—, 坂田正顕, 学文社, 1999年 / 参考書: 資料として、授業内容にかかわるプリントを配付します。また、参考文献に関しては、授業のなかで適宜紹介します。</p> <p>●メッセージ (1) 授業の形式にかかわる相談は、直接口頭でしてください。内容にかかわる質問は、毎回配付する所定の用紙に記入しても構いません。コミュニケーションの基本は対面的接触だという方針で、授業を進めたいと思います。(2) 定期試験は、基本的に、括弧内に用語や人名、数字などを記入してもらう方式で行います(教科書、ノート等すべて持ち込み不可) (3) 受講希望者が200名を越える場合には、抽選とする場合があります。初回の授業に必ず出席して下さい。</p> <p>●教員連絡先 メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室は人文棟3階307室です。来室する場合は、できれば事前にメール、電話等で連絡して下さい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	辰己佳寿子				
<p>●授業概要 「人は一人では生きていけない」と言われますが、どのように生きているのでしょうか?人は、家族や親族、学校、会社、地域社会、国家、国際社会の中で、直接的にせよ、間接的にせよ、社会と関わりながら生活しています。また、このような社会は刻々と変わりつつあります。社会変容の中で我々はどう生きていけばいいのでしょうか?この講義では、それら社会と個人の関係について考えるために、身近な社会の問題から海外の問題まで様々な事例を社会的視点から分析していきます。</p> <p>●授業一般目標 社会学とは何かを理解し、社会的な概念を用いて社会現象を理解・説明できるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポートを数回、授業外レポートを1回行い、最後に試験を実施する。授業態度も重視する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 特に定めない。必要に応じて随時資料などを配布する。 / 参考書: 講義中に適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ 自分を取り囲む社会へのアンテナを尖らせて、この講義に参加してください。</p> <p>●教員連絡先 Tel:933-5083 E-mail:tatsumi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	山本薫子				
<p>●授業概要 社会学の代表的な理論の基礎を学ぶとともに、受講者にとって身近なテーマを事例として取り上げ、現代社会が直面しているさまざまな問題について理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 私たちが生きる現代社会が抱える問題・矛盾を改めてとらえなおし、そのうえで私たち一人一人が「社会」とどのようにつながっているのか、理解を深めることを目標とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料等を配布する。／参考書：『社会学と過ごす一週間』, ソシオロジスト編集委員会, 学文社, 2003 年; 新睦人他『社会学のあゆみ』有斐閣、新睦人他『社会学のあゆみ パート II』有斐閣</p> <p>●メッセージ 普段の生活を通じて見えてくる社会問題に敏感な目を養ってください。新聞や本を読み、TV ニュースを見て、考えることを生活のなかに取り入れましょう。講義中の私語、携帯電話使用(含メール)は厳禁、遅刻も同様。期末試験のほかにレポート課題、出席状況などを総計して評価する。なお、レポート課題未提出者、講義への未出席者は期末試験受験の資格を持たない。</p> <p>●教員連絡先 研究室：教育学部棟 4 階 476</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	川村 博忠				
<p>●授業概要 わが国近世の鎖国時代に日本人が、限られた情報のなかで世界をどのように認識し、どの程度の世界知識をもっていたかを、当時著述された世界地誌書や作成された世界地図を通して追ってみる。</p> <p>●授業一般目標 近世の日本人が西洋の知識を吸収して科学的な世界知識を確立していく過程を理解させる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席状況と定期試験をもって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：近世日本の世界像, 川村博忠, ぺりかん社, 2003 年／参考書：地図の歴史—日本篇—, 織田武雄, 講談社(現代新書); 世界地図コレクション, 三好唯義, 河出書房新社, 1999 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	荒木一視				
<p>●授業概要 インドヒマラヤに関する理解を増やすとともに、そこに展開する自然環境と人間の関わり、経済的事象、宗教や言語などの文化的事象、さらには共存する諸民族など、現代世界をみる上で共有できる視点を涵養する。</p> <p>●授業一般目標 本講義ではインドヒマラヤ地域、具体的にはシッキム・ダーズリン地方に焦点を当てて、現代世界の諸問題とも共有できるに地理学的なアプローチを展開する。その際、特に留意したい点は環境問題、経済格差、異なる価値観の共存である。受講生諸君には講義を通じて、インドヒマラヤを通じた世界認識と個々の問題を理解するためのフレームワークを獲得してもらいたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験あるいはレポートに加えて、授業時間中の質疑、討論の内容も評価に加える。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：東ヒマラヤ山麓を訪ねて、山下幸一・雨宮智子、朱鷺書房、2004年；初回授業時に販売予定(2500円)</p> <p>●教員連絡先 教育学部 4 F arakih@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	民俗学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	坪郷英彦				
<p>●授業概要 民俗学は第二次大戦後の高度成長期が始まる前までの日本国内での暮らしを考える学問です。民俗学の分野は大きく有形の文化と無形の文化に分けられますが、授業では有形の分野を主に取り上げます。具体的には衣食住・生業・芸能の内容で構成します。受講するほとんどの人は高度成長期以後の環境で育った人でしょうから、できるだけ身近な話題から説き起こしたいと思います。何でもない日常的な出来事やものに庶民の考えや永い伝統を発見することができるでしょう。</p> <p>●授業一般目標 江戸時代から昭和の高度成長期までの一般庶民の暮らしやその背後にある考えを知り、現代社会を生きる上での一つの視点を示すことを目標としています。最近には特に生活環境への関心が高まる中で、工業化社会以前の暮らしに学ぼうとする動きがあり、民俗学の成果が現代に活かされつつあります。その事例も取り上げながら現在の環境やコミュニティを考える上でのヒントを示すことができればと思っています。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末の定期試験成績(60%)と出席率(40%)によって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、毎回資料を配付する。／参考書：改訂生活文化論、中村・植田・坪郷、源流社、2002年</p> <p>●メッセージ モノを取り巻く民俗(物質文化)を多く取り上げるので、モノに関心のある人はぜひ受講してほしい。</p> <p>●教員連絡先 E-mail <hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp> 電話 5239、研究室人文棟 213、オフィスアワー木曜日 10 時～12 時</p>					

系列 社会科学

分野 文化人類学

科目類型 総説

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	星野 晋				
<p>●授業概要 文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在にあって、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とどのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とは いかなるものを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p> <p>●授業一般目標 人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出欠をかねた小レポート、定期試験</p> <p>●教員連絡先 hoshino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：授業後(小串では水曜日午後)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 教育学

科目類型 総説

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	西村正登				
<p>●授業概要 日本の教育の現状と諸問題について学び、その解決策について考察する。また、明治以降のわが国の教育の変遷について学び、歴史的に考察する。さらに、イギリス、アメリカ、ドイツの学校制度と教育について学び、日本の教育と比較しながら今後の教育改革の方向性を探っていく。</p> <p>●授業一般目標 1. 日本の教育の現状と諸問題について学び、その解決策について考察する。 2. 明治以降の日本の教育の変遷について学び、歴史的に考察する。 3. 諸外国(イギリス、アメリカ、ドイツ)の学校制度と教育について学び、日本の教育と比較しながら今後の教育改革の方向性を探っていく。</p> <p>●成績評価方法(総合) 筆記試験と授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 子どもと学校, 村山英雄編著, ぎょうせい, 1997 年</p> <p>●メッセージ 日本と諸外国の教育を比較しながら、今後の教育改革の方向性について考察を深めていきましょう。</p> <p>●教員連絡先 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室 メール: masaton @ yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報メディア論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経・医学除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	マルク・レール				
<p>●授業概要 従来のプリント・放送メディアとマルチメディア・インターネットの歴史的発展、現在の特徴と可能性について解説する。</p> <p>●授業一般目標 受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テストを講義期間中に 6 回実施(計 60%)。期末試験を最後の授業内に実施(30 分程度、40%)</p> <p>●メッセージ e-learning を積極的に導入する予定である。</p> <p>●教員連絡先 loehr@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	宮本政英				
<p>●授業概要 技術者のプロフェッショナルとしての行動規範と責任を理解すること、そして技術者が直面する倫理的なジレンマとその解決方法を疑似体験する。また倫理的な想像力および分析力の必要性を認識し、このような活動を通じて道徳的な自律性を高める。</p> <p>●授業一般目標 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解を深める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 観点別成績評価法において、授業内レポートと授業外レポートの評価割合は、各 40 %になっているが、両者を併せて 80 %とする。この時、口頭で発表させることもあるが、授業内レポートの形で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：第二版 大学講義 技術者の倫理入門, 杉本泰治・高城重厚, 丸善株式会社, 2002 年</p> <p>●メッセージ 授業前に、その週に行う内容に関する教科書の部分を読んでおくこと。ほぼ、毎授業において検討課題を与えて、授業内レポートを書かせる。筆記具、ノート、教科書を必ず持参すること。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (医学・工・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	永崎研宣				
<p>●授業概要 リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な理由もまた含んだものであり、しばしばそうしたものが複雑にからみあっている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p> <p>●授業一般目標 講義における様々な事例の検討を通じて、倫理的問題に対して用意されている様々な基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：齋藤了文 編『はじめての工学倫理』昭和堂</p> <p>●メッセージ 混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p> <p>●教員連絡先 nagasaki@yup.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ベンチャービジネス論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経・医学・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	稲葉和也				
<p>●授業概要 ベンチャー企業とは「リスクを恐れず新しい領域に挑戦する若い企業」のことを指します。従来の新規開業企業と異なるのは、高い志や目標を持ち、起業家自身が高度な専門能力と困難に耐え抜く忍耐力を持ち、創造的かつ才能のある人を集める事業を創業し、高収益で高成長する企業を作り出すという点にあります。バブルが崩壊した後、グローバル化が進展し、情報ネットワーク化の本格的な展開によって産業構造が変わり、新しい競争の段階を迎えています。このようなベンチャー企業に対する存立条件をどのように活用して、新しいビジネスチャンスを創出していけばよいのでしょうか。日本経済が元気を取り戻すためには、国内・国外を問わず通用する高付加価値商品を生み出し、グローバルに新市場の開拓を図ることが必要とされます。独創性・多様性・柔軟性・即応性に富んだ、旺盛な起業家精神を持つ人材を生み出す、多くのベンチャー企業が生まれることが期待されます。</p> <p>●授業一般目標 日本企業では経営者的能力を持った人材が不足しています。企業が多角化、リストラをはかり、これまで経験したことのない新分野に出て行く時に求められるのはリーダーとしての経営能力です。この講義では経営者的人材の育成を目標としています。</p> <p>●成績評価方法(総合) 受講生の理解度、意欲を高めるために事業計画の提出、レポートを課すことがあります。試験の結果、及び出席状況、レポートを加味して評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『ベンチャー企業』日経文庫 843, 松田修一, 日本経済新聞社, 2001 年</p> <p>●メッセージ 何か分からないことがありましたら遠慮なく聞きに来てください。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: inaba@tokuyama-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会科学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	山下 訓				
<p>●授業概要 現代社会の仕組みと現状・問題点を、環境問題、経済活動、政治などについて、資料集の多くの材料をもとに考えます。入門的な講義であり、一つ一つを深く掘り下げることはできません。多くの問題を知ること重点を置きます。</p> <p>●授業一般目標 社会科学に関連する諸問題に広範囲にふれ、今後皆さんが社会の問題を考えていくための基礎知識を得ることがねらいです。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『(テーマ学習) 資料集 現代社会 2005』<一橋出版> 『(豊富な資料と詳しい解説) 倫理資料集 改訂版』<数研出版> 上記2冊とも最新版</p> <p>●教員連絡先 yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5518</p>					

後期一自然科学系列

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械 (1-50)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	久田見 守				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の偏微分と重積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法、累次積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験・演習で評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題をとく時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 研究室：理学部本館南棟 1 階 1 2 9 室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械 (51-)・電気 (1-15)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	笠井伸一				
<p>●授業概要 前期の「数学 I」の理解を前提に、後期の微分積分学においては、2 変数関数の偏微分と重積分を学習させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 2 変数関数の微分積分学の基礎的な概念を理解し、基本的な計算方法を習得する。合成関数の微分、累次積分など、微分積分学における基礎的な概念や基本的な計算方法を学習する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として、総授業数の 80 %以上の出席をしている受講者を評価の対象とする。成績評価は定期試験と出席状況をもとに決定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：前期の「数学 I」の教科書を使用。</p> <p>●メッセージ 受講に際しての準備事項 1) 前期に開講されている数学 I の内容を理解していること。2) 微分積分の計算は授業をただ聞いているだけでは上達しないので、計算練習をするために各自で自分の読みやすい演習書を選んで学習すること。受講者への注意 I) 第 1 回の授業の際にシラバスについて説明するので、受講者は必ず出席すること。II) 通常、講義は 1 時間の授業に対して、2 時間の授業外の予習・復習を前提にしています。準備事項で述べたように演習書を用意する等して、各自で工夫して試験のための学習を行うこと。</p> <p>●教員連絡先 水曜日の午後 1 時から 5 時まで。研究室で先着順に受付。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気 (16-65)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	木内功				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の偏微分と重積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法、累次積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。この科目は以下の電気工学科の学習・教育目標に対応します。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として中間試験と期末試験だけで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社,, 2003 年; 前期の教科書を用いるので、あえて購入する必要はありません。ただし、後期から初めて受講する学生は、必ず教科書を購入してください。/ 参考書：特にありませんので、各自が図書館など出向いて、自分に合う参考書を選んでください。</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題をとく時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail kiuchi@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5758, 研究室 139, オフィスアワー 月 9, 10 時限</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気 (66-)・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	柏木 孝夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。偏微分法・二重積分法、合成関数の偏微分法、変数変換による二重積分法など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 原則として定期試験だけで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年; 取扱店 (文栄堂山口大学前店) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>●メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。適宜演習の時間をもつ。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	加藤崇雄				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 理学部数理科学科の学生を対象に解析学を学ぶための基礎になる多変数の微分法をその計算法を中心にして講義する。 ●授業一般目標 多変数の連続関数, 多変数の微分法などを理解し, それらの計算法に習熟することを目標とする。 ●教科書・参考書 教科書: 工学・理学を学ぶための 微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版 ●教員連絡先 理学部 1 3 2 号室 					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教員	岩本 徳郎				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 2 変数の微分、積分法の講義、演習。 ●授業一般目標 2 変数の微積分について、基本的な概念を理解し、計算が確実にできること。将来専門科目で使うことを考えて、簡単な応用問題が解けること。 ●成績評価方法(総合) 定期試験、授業時間内の小テスト(そのテストを行う前に範囲を指示)の総合評価。出席は欠格条件です。(所定の回数に達しないと、自動的に不合格) ●教科書・参考書 教科書: 入門 微分積分, 水田 義弘, サイエンス社, 2000 年 ●メッセージ 1 変数の微積分をしっかりと復習しないと 2 変数の微積分はできません。 ●教員連絡先 E-mail:iwa00039@sea.plala.or.jp ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教員	北本卓也・飯寄信保				
<p>●授業概要 高等学校で学んだ微積分学の内容を確実に理解させる。また、応用する能力を確実に定着させる為に、演習をレポート形式で行う。</p> <p>●授業一般目標 微積分学の演習が主な内容であり、演習問題が解ける様になるのが目標であるので、レポート問題を毎回出題するので、必ず次週に提出すること。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分と積分、岡本和夫、実教出版、1998 年</p> <p>●メッセージ 基礎的な内容であるから、時間をかけて問題を解けば必ず解けるので、あきらめずに挑戦すること</p> <p>●教員連絡先 E-mail kitamoto@yamaguchi-u.ac.jp 及び iiyori@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	自然 (1-80)	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教員	三好 哲彦				
<p>●授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>●授業一般目標 一変数、多変数の関数の積分について学ぶ。初等関数の積分、置換積分、部分積分のテクニックに習熟する。多変数関数の積分を学び、積分の変数変換の公式が自在に利用できることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学、三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲、共立出版</p> <p>●メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	自然 (81-)・化地	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	内藤博夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学, 特に二変数と三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 二, 三変数微分積分学の基本的概念を理解し, その計算法を習得する。偏微分法・重積分法, 合成関数の微分公式, 累次積分の公式など, 多変数微分積分学における様々な概念や手法を理解し, 習熟する。さらに, それらの理解と習熟のもとに, 様々な問題への数学的解決能力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 2 回の筆記試験 (60%) と 1 回のレポート及び宿題 (40%) により, 判定する。なお, 出席が所定の回数 (初回時に注意) に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦, 加藤崇雄, 菊政勲, 共立出版, 2000 年</p> <p>●メッセージ 十分復習を行うこと。宿題は原則毎回提示する。</p> <p>●教員連絡先 理学部本館 1 階 137 号 内線 5 6 5 6 E-mail:naitoh@yamaguchi-u.ac.jp (差出人が明確でないメールは受理しない)</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	柏木 孝夫				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において, 二変数関数の微分と積分を理解させ, 計 算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し, 計算法を習得する。偏微分法・二重積分法, 合成関数の偏微分法, 変数変換による二重積分法など, 微分積分学における 様々な概念や, 手法を理解し, 習熟する。さらに, それらの概念の理解のもとに, 理系 分野における様々な分野の分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験と講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により, 以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年; 取扱店 (文栄堂山口大学前店) / 参考書: 微分積分学についての各種演習書</p> <p>●メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	三好 哲彦				
<p>●授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>●授業一般目標 一変数、多変数の関数の積分について学ぶ。初等関数の積分、置換積分、部分積分のテクニックに習熟する。多変数関数の積分を学び、積分の変数変換の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>●メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能 (1-50)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	寿恵村 泰生				
<p>●授業概要 自然科学の基礎である微分積分学を講義する。特に工学系の学生は微分積分の知識は必修である。高校である程度、微分積分について学習していると思うが、復習をかねて進める。もちろん 1 変数の微分積分から始めるが大学の微分積分の本命は 2 変数関数の微分積分にある。そのためには 1 変数についての微積分が身につけていなければならない。</p> <p>●授業一般目標 とかく。学生は数学と言えば、すぐ問題を解くことが、主題のように考えているが、これも今までの受験数学の勉強方法が身に付いて数学の本来の理解の仕方にもどってほしい。即ち、定義・定理の意味をしっかりと理解してほしい。問題を解くことは二の次である。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 基本は定期試験、小テスト (1 回) レポート、出席状況も考慮する (無断欠席を 5 回以上すると不可)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：独自のプリントで進める。(今まで使用していたが、ぴったりしたものが無く、結局プリントになる) / 参考書：参考書を見るのも悪いことではないが、本により進め方が異なり混乱することもある。</p> <p>●メッセージ あくまでも授業を理解することに専念してほしい。分からないときは質問する。</p> <p>●教員連絡先 非常勤控え室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能 (51-)・機材 (1-30)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	吉村浩				
<p>●授業概要 自然科学の基礎である微分・積分（多変変数）を講義する。前期の数学 I(担当：吉村浩) で学ぶ 1 変数の微分・積分の基本事項を前提に講義を進めていく。</p> <p>●授業一般目標 微分・積分の厳密な理論の理解より、具体的な計算を通して基本的な概念や計算方法を 習得することに重点をおく。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト、中間試験、期末試験の得点の合計で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者は欠格となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年</p> <p>●メッセージ 数学は、「講義の受けっぱなし」ではなかなか身につかない学問です。ともかく手を動かして数多くの計算問題を繰り返し解くことが肝要です。</p> <p>●教員連絡先 研究室：理学部 1 階 1 4 3 号室 内線 (5 6 6 2)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材 (31-)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	小宮克弘				
<p>●授業概要 前期の数学 I (1 変数関数の微分積分) に引き続いて、2 変数関数の微分積分およびこれに関連した事項について講義する。</p> <p>●授業一般目標 工学部の学生にとって数学は工学を学ぶための道具である。2 変数関数の微分、積分に関して、その道具としての使い方に習熟することを目指す。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 3 回行う試験の合計点が 60 点以上の者を合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分通論, 内田・仲田, 裳華房, 1996 年；前期の数学 I の教科書を引き続き使用する。</p> <p>●教員連絡先 理学部 1 3 3 室</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	佐藤好久				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 数学 I に引き続き、微分積分やそれに関わる数学的内容を学習する。 ●教科書・参考書 教科書：数学 I と同じ教科書を使用する。 ●教員連絡先 sato@yamaguchi-u.ac.jp ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化 (1-57)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	大城 紀代市				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 微分積分学は線形代数学とともにすべてのサイエンスの基礎数学であり、特に理工系での必須の数学である。この講義では一変数の積分の定義、基本性質、更には様々な応用について講義する。 ●授業一般目標 1. 積分の基本的概念に精通し、通常関数の積分計算法を習得する。積分の様々な応用に接し、応用力を養う。 2. 最終的目標は、与えられた関数の積分を自分で工夫して求めることができる 解決能力を養うこと。 ●メッセージ 十分時間をかけて復習すること ●教員連絡先 理学部本館 1 階 1 4 1 号室 E-mail: oshiro@yamaguchi-u.ac.jp ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化 (58-)・社建 (1-25)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	西山 高弘				
<p>●授業概要 数学 I で学んだ 1 変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に 2 変数関数の微分（偏微分）と積分（重積分）について考える。練習問題をなるべく多く解き、理解を深めるとともに応用力を養う。</p> <p>●授業一般目標 第一の目標は、偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになることである。第二の目標は、2 変数関数のグラフをコンピュータを使って描けるようになることである。</p> <p>●成績評価方法（総合）宿題レポート：20%、中間テスト：30%、期末テスト：50% 欠席が多い場合は「不可」となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：数学 I と同じものを使用する。</p> <p>●メッセージ 授業中の演習では、問題を自ら考えて解き、できなかった箇所は後日に再度解いてみるなど、積極的に授業に参加することが望ましい。</p> <p>●教員連絡先 研究室：宇部キャンパス・西研究棟 1 階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建 (26-)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	柳 研二郎				
<p>●授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の偏微分と重積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法、累次積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。（A）確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法（総合）原則として定期試験だけで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋 泰嗣・加藤 幹雄, サイエンス社, 2003 年</p> <p>●メッセージ 毎回授業の終わり 15～20 分かけて演習問題をとく時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: yanagi@yamaguchi-u.ac.jp 電話：0836-85-9802 研究室：工学部機械社建棟 1 階 オフィスアワー：水木 13:00 - 14:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『物理学入門1』及び『物理学入門2』単位修得者(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	原 哲彦				
<p>●授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。(1)位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。(2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。(3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。</p> <p>●授業一般目標 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：物理の基礎,長岡洋介,東京教学社,2000年</p> <p>●メッセージ 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します。</p> <p>●教員連絡先 tetuhara@c-able.ne.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『物理学入門1』及び『物理学入門2』単位修得者(工)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	中田幸男				
<p>●授業概要 物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述、運動の法則などについて、微分積分やベクトルなどの数学的手段を活用して、論理的に見通し良く理解する。また、日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から捉え直す態度を養う。</p> <p>●授業一般目標 1)運動の三法則、およびその使い方を理解する。2)等速円運動、放物運動、単振動等の基本的な運動を理解する。3)運動量保存則、角運動量保存則、エネルギー保存則、及びその使い方を理解する。4)剛体運動の基礎を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 基本的には、中間試験(30%)及び期末試験(70%)から評価する。ただし、期末試験が上記の評価点を上回る場合には、期末試験のみの評価点で最終評価を与える。中間試験の範囲は、1-6週目の内容に対する基本問題である。期末試験の範囲は、8-14週目の内容に対する基本問題と、全体に関連する発展問題である。教科書の例題や問が基本問題に相当する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版 基礎物理学,原 康夫,学術図書</p> <p>●教員連絡先 e-mail:nakata@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836(85)9341</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	松野好雅				
<p>●授業概要 電磁気学の基本法則、及びその応用について学ぶ。講義では各法則を身近な具体例をあげながら説明し、種々の電磁現象に対する理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 1. 電気、磁気に関するガウスの法則、並びにその使い方を理解する。 2. アンペールの法則（電流のつくる磁場）、及びその使い方を理解する。 3. 電磁誘導を理解する。 4. 直流、及び交流回路の基礎を理解する、5. 交際単位系を理解し、自在に使えるようになる。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。 (A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に着ける。 A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法（総合） 中間試験、及び学期末試験の2回の試験で総合的に評価する。配点は各50%とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版 基礎物理学, 原 康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>●メッセージ 予習、復習をきちんとやること。講義ノートをとること。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	原純一郎				
<p>●授業概要 力学、熱力学と並んで古典的な物理学の基礎を形成する電磁気学の講義を行なう。数学的な準備を多少した後、静的な電場の記述から始まり、定常電流、電流と磁場、さらに進んで動的な電磁場について入門的解説をする。電磁気学は目に見えない「場」を扱う学問なので、初めて習う者には取り付きにくい面がある。この講義では、具体的な例題を数多く取り上げ、それを基本法則から理解する過程を丁寧に説明する。</p> <p>●授業一般目標 実験事実を支えられた積分形の電磁気学の法則について学ぶ。簡単な電荷分布が作る電場や電流分布が作る磁場の様子を考察し、様々な電磁現象を基本法則にもとづき解析する力を養う。</p> <p>●成績評価方法（総合） 宿題・授業外レポートを課す。定期試験を実施する。以上と出席の状況とを、およそ下記の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。／参考書：授業のはじめにいくつか紹介する。</p> <p>●メッセージ 電磁気学では、微分・積分に加え、ベクトル代数やベクトル解析など数学の基礎知識が必要です。数学 II を履修すると良いでしょう。</p> <p>●教員連絡先 理学部 206 室。</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・看護・検査・生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	白石清				
<p>●授業概要 物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を講義する。これを理解するために必要な数学 知識も適宜講義する。また、出来る限り多くの演習もやりたい。</p> <p>●授業一般目標 電磁気学の基礎的な概念(電場, 磁場, ポテンシャル)を理解し, さらに専門的な学習につなげる。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年 物理学 I の教科書と同じ</p> <p>●教員連絡先 理 2 0 5</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・看護・検査・生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	増山 和子				
<p>●授業概要 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであり、将来の専攻分野を学ぶ場合に基礎となる物理学を十分に理解しておくことが必要である。前期に「力学」を履修したことを受け、後期ではもう一つの重要な内容である「電磁気学」について、高校で物理を学ばなかった初学者向けに、初等的な事項から出発して具体的な現象と結びつけて説明し、電磁気学の基礎を講義する。</p> <p>●授業一般目標 電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数回の課題レポートと試験結果をもとに、以下の割合で総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年</p> <p>●メッセージ 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 11・12 時限
担当教員	星野勝之				
<p>●授業概要 物理学は現在の物質文明を支える自然科学の基礎となる大変重要な学問である。その中でも「力学」と並び様々な科学技術の基礎となる「電磁気学」について、具体的な現象と結びつけながら基礎知識を修得する。</p> <p>●授業一般目標 1. 電磁気学の基本法則 (クーロンの法則、ガウスの法則) について説明できる。2. コンデンサの原理を理解し、電気容量を求める事が出来る。3. 電流と磁場の関係を理解し、電流の作る磁場の強さ、および電流が磁場から受ける力の強さを求めることが出来る。4. 電磁誘導の基本原理について説明することが出来る。5. 交流回路における抵抗 (インピーダンス) の概念を理解する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席状況、演習および期末試験の結果をもとに、総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版 基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1997 年</p> <p>●メッセージ 予習・復習を十分に行い、講義内容の理解を深めて下さい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	西岡道夫				
<p>●授業概要 電磁気学は力学と並んで物理学の中でも最も基礎的な学問である。日常生活で経験する現象には、電磁気学の基礎知識を身につけていれば定性的・定量的に理解できるものも多い。講義では電磁気学の重要な概念・法則を丁寧に説明し、例を多く使って法則および使い方の理解を助ける。式の計算は丁寧に言い、法則・現象に適切なイメージがえがけるようにする。</p> <p>●授業一般目標 1) 電場・電気力線を理解し、イメージが描けるようにする。2) 導体と誘電体の違いを理解する。3) 電流についてのオームの法則が使えるようにする。4) 電流と磁場の重要な関係を深く理科いする。5) 電磁誘導を学び、コイルの役割を理解する。6) 簡単な交流回路の計算ができるようにする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	甲斐綾子				
<p>●授業一般目標 電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 課題レポートと試験結果をもとに、総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1997年; 適宜プリント配付</p> <p>●メッセージ 教科書をよく読み、理解を深めるために演習問題を確実に解いて下さい。</p> <p>●教員連絡先 kai@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	真田篤志				
<p>●授業概要 物理学の基礎としての「波動」「光」「熱」について解説する。我々に身近な波動、光、熱に関係した現象の物理学におけるとらえ方を理解するための考え方に重点をおく。また、波動、光、熱に関連したマクロな現象が、原子分子などのミクロな世界にどのようにつながっているかを学ばせる。</p> <p>●授業一般目標 波動、光、熱についてのさまざまな現象を理解でき、またマクロな現象とそのもととなるミクロな原子分子の振る舞いとの繋がりを理解できるようなる。確かな基礎力を有する技術者を目指して数学、自然科学、情報処理の基礎力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 無断での欠席、遅刻、早退が3回以上の者は、定期試験の受験を認めない。授業中に授業に無関係なことをしていた場合も無断欠席として記録する。演習、宿題、定期試験を総合的に評価し、採点する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎物理学—波動、光、熱, 嶋村修二、荻原千聡, 朝倉書店, 2002年</p> <p>●教員連絡先 as@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 工学部応化・知情・機能・共通実験研究棟 2階</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	庄野逸				
<p>●授業概要 力学に続いて電磁気学の講義を行う。古典的なクーロン力から出発し電場、磁場などの場に関する講義を中心に行う。</p> <p>●授業一般目標 電場や磁場などは目に見えないが、どのような相互作用を持つかを定性的に説明し、定量的な式を理解できるようにすることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験による評価(90%)、授業内小テスト(10%)とする。出席は欠格条件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特に指定はしない(講義内容は事前にプリント配布) / 参考書：電磁気学演習[新訂版]、山村泰道, 北川盈雄, サイエンス社, 2004年; 電磁気学の考え方, 砂川重信, 岩波書店, 2001年; ファインマン物理学 III, ファインマン, レイトン, サンズ著, 宮島龍興訳, 岩波書店, 1986年</p> <p>●メッセージ 力学と異なり電磁気学は、直感的にわかりにくいといわれる学問である。頭の中にあるイメージを明確に記述できるように練習してほしい。</p> <p>●教員連絡先 E-Mail: shouno@ai.csse.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	諸橋信一				
<p>●授業概要 前期の「力学」と同じく、物理学の基礎であるとともに、将来の専門分野を学ぶ際に重要となる電磁気学について説明する。</p> <p>●授業一般目標 (D1) 様々な材料を作製・評価するために必要な、物理学の基礎学力を育成する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験80%、課題レポート20%で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1998年; 補完のためにプリントも適宜配布する。内容にあわせて、理解に必要な数学(ベクトル等)は補講という形で講義する。 / 参考書：科学者と技術者のための物理学 III 電磁気学, Raymond A. Serway, 学術図書出版社, 1995年; マグロウヒル大学演習電磁気学, Joseph A. Edminister, オーム社, 2003年</p> <p>●メッセージ 予習、復習をきっちりやっていることを前提に講義します。</p> <p>●教員連絡先 E-MAIL smoro@yamaguchi-u.ac.jp TEL 9610 不在および先約ないかぎり可。但し、研究室は宇部のほうです。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	三池秀敏				
<p>●授業概要 自然科学を理解する上で物理学は基礎学問として位置付けられる。前期の物理学 I (力学) に引き続き身の回りの自然現象を科学的に理解する物の考え方を学ぶ。ここでは、熱物理学 (統計物理学) の考え方をベースに、孤立系、閉じた系、および開放系という概念を理解し、その中で生じるさまざまな現象、物理状態、観測できる物理量などを議論する。</p> <p>●授業一般目標 二つの状態を持つ単純な系としてモデルスピン系を取り上げ、状態数の具体的な計算、状態和、自由エネルギー、比熱、エントロピーなどの概念を学ぶ。また、熱的に平衡な系と非平衡な系を取り上げ支配する統計原理の違いを例示する。この事から、地球が宇宙という環境の中でどのような物理状態にあるかを理解させる。さらに、入力と出力の関係が線形であるか、非線形であるかによって系の振る舞いが非常に異なる事を示し、非線形な系が自発的な振動や空間パターンの形成に重要である事 (自己組織化) を理解させる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間試験と期末試験を基本とする。演習問題等の課題は出席点として 20% 評価する</p> <p>●教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 熱物理学, キッテル, 丸善, 1971 年; 非線形科学, 吉川研一, 学会出版センター, 1992 年; 現代熱力学, プリゴジン, コンデプディ, 朝倉書店, 2001 年</p> <p>●メッセージ 毎回必ず出席すること。出席調査の目的で毎回小テストを行います。</p> <p>●教員連絡先 E-mail miike@kde.yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 0836 85 9712, オフィスアワー 17:00-18:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『化学入門 1』及び『化学入門 2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	松 浩司				
<p>●授業概要 モルの概念、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元など物理化学の初歩の内容である。高校での化学や化学入門 1 とのつながりに注意を払い、専門科目に必要な基本的事項について講述する。配布演習問題や小テストなどを通じて、自学を促しながら進める。</p> <p>●授業一般目標 無機化学や物理化学の基礎を習熟し、実際の身の回りの現象を化学的 (科学的) に説明できることを目標とする。また専門科目への橋渡しとしての必要な概念も習得させる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験と出席状況で総合評価する。毎回小テストを行うが、これは講義内容の理解度を把握するとともに、学生への自学を促すものである。よって評価の対象とはしないが、出席状況の判断に用いる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 大学生の化学, 大野惇吉, 三共出版, 2001 年; (文栄堂大学前店で販売) / 参考書: 物質化学の基礎, 多賀光彦他, 三共出版, 1993 年; 化学の基礎, 竹内敬人, 岩波書店, 1996 年; 演習問題を配布する。</p> <p>●メッセージ 化学は理科系のの学生にとっては専門科目の基礎として重要な科目であり、高校での履修から専門科目への橋渡しの役割をしています。よって、単なる暗記ではなく、内容をよく理解し物の本質が見抜けるような態度で取り組んでもらいたい。</p> <p>●教員連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	田中経彦				
<p>●授業概要 保健学科検査技術専攻学生を対象に、医療検査、基礎研究で骨格となる分析化学の原理、技術を学習する。レポート提出の形で演習する。以後の化学系教科書を読解できる基盤知識（教科書の記述に疑問が見出せるレベル）と専門での分析系実習に必要な基礎知識を与える。数学、物理の公式原理についても確認しながら説明していく。また金曜日に行われる化学実習（検査は必修）の到達度を高めるため適宜解説する。原則的にパソコンスライドで説明し、プリントを配布する。</p> <p>●授業一般目標 検査技術専攻学生に必要な基礎化学知識の理解。基本的な大学の化学（有機化学を除く）は下に挙げた参考書を読めば、カバーできる。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期試験と小テストの点数による</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書 参考資料 教科書：分析化学新訂版 綿抜邦彦著 サイエンス社 1500 円</p> <p>●メッセージ 検査を対象にします。</p> <p>●教員連絡先 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 0 8 3 6 - 2 2 - 2 8 5 7</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『化学入門 1』及び『化学入門 2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	村上清文				
<p>●授業概要 化学入門の履修者を対象に、化学および種々の化学現象をより深く理解するための、基礎的な内容を講義する。内容としては、物質の構造と性質、物質の状態、エネルギーと平衡を中心とする。特に、あらゆる発展領域にとって重要な化学平衡概念を具体的事例を交えて講義する。</p> <p>●授業一般目標 物質の性質やその変化を物理化学的な観点から理解すること、および、より発展的な学習への導入を図ることを目標とする。基本的概念の把握に力点をおく。</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席、中間テストおよび期末試験の結果、および、1 回または 2 回のレポートを総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎化学熱力学, E.B.Smith(小林他訳), 化学同人, 1992 年 / 参考書：適宜、プリント等を配布する。</p> <p>●メッセージ 段階的な理解が必要な内容なので、普段からの勉強が重要です。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	梶原忠彦				
<p>●授業概要 有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとづいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。</p> <p>●授業一般目標 有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) ショートテスト(毎回実施)およびレポート。(2) 中間テストの実施および演習。(3) 期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教科書 教科書 テキストは、使用しない。講義、演習は、プリントおよびプロジェクターで行う。/ 参考書: 適当な参考書は 講義の中で、適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 連絡先・オフィスアワー 研究室: 農学部4階 422号室木曜日 15:00-17:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	伊原 靖二				
<p>●授業概要 (1) 有機化学の基礎: 有機化学の歴史及び有機化合物の特徴を学び、有機化学の基礎概念を理解する。(2) 有機化合物の性質: 有機化合物を炭素、酸素、窒素系列に分類し、その分子の性質、合成方法、反応について学ぶ。(3) 有機化合物の応用: 天然有機化合物、合成高分子化合物、最近の環境化学について 学び、身近で利用されている有機化合物の理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 この化学 II においては有機化学を中心に学ぶ。有機化合物は生体をはじめとして地球上に広く分布している。有機化合物を概念的に把握した上で、その分子構造及び性質にふれ、その後さらに分子レベルでの考察を行う。有機化学を通して物質の多様性と理論のすばらしさ、物質科学のおもしろさを学んでほしい。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の終わりに、10回程度講義の理解度の判定のため、小テストを行う。(2) 期末試験の実施、(3) 出席点の重視、以上を下記の観点・割合で成績を総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: ニューテック◎化学シリーズ 有機化学 竹中克彦 他 朝倉書店(生協)</p> <p>●メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p> <p>●教員連絡先 ihara@yamaguchi-pu.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	小崎 紳一				
<p>●授業概要 有機化学を理解するために必要な基本的な知識と考え方を有機化合物の構造・性質・反応性の観点から解説する。</p> <p>●授業一般目標 有機系化学（有機化学・生化学・高分子化学・薬理学などに関する分野）の基礎を理解する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：有機化学の基礎づくり 反応の見方・考え方, G.M.Hornby, J.M. Peach, 化学同人, 1995 年</p> <p>●教員連絡先 月曜 午後</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教員	鬼村謙二郎				
<p>●授業概要 有機化学の基礎を体系づけて学ぶコースです。この授業ではアルカンから始まり、コンホメーション・光学異性・立体異性・求核置換反応・脱離反応などの有機化学のもっとも基礎的な範囲について学習します。また、3次元的な分子構造の理解を助けるために、分子模型を積極的な利用も行います。</p> <p>●授業一般目標 コース終了時には、修了者は 1. アルカンやシクロアルカンのコンホメーションに対する正しい理解と評価が得られ、 2. 光学異性体や立体異性体について、その存在と命名および3次元的な構造把握ができ 3. 求核置換反応と脱離反応について反応様式とその特性を理解していることを目標とします。さらに、 4. これらの知識を利用して初歩的な有機反応に関する議論ができることで、この後の専門科目である有機化学 I に対してスムーズに橋渡しできる、ことも期待されます</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「現代有機化学（上）第4版」, ボルハルト・ショアー, 化学同人, 2004年；教科書のほかに HGS 分子構造模型 ・ C：有機化学学生実習用セット, 丸善 も必須です。また授業用のプリントも配布します</p> <p>●メッセージ 有機化学はそれほど難しいものではありませんが、英語などの語学の勉強とよくにしています。毎日少しずつ継続的に勉強してください。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(理))・情報・数理・自然・生資	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教員	石黒勝也				
<p>●授業概要 有機系化学（有機化学、生化学、高分子化学、薬理学等に関する分野）の基礎を理解する。近年、多様な分野で「ナノ」が重要なキーワードとなっているように、大学で自然科学を学ぶ学生は、たとえ化学を専門としない立場であっても、近い将来、分子スケールで機能する素子について理解できる能力が必ず必要とされる。この講義では、有機化学の基礎となる分子の性質や化学反応性について、原理的な面を主に学習する。</p> <p>●授業一般目標 基本的な原理を理解することにより、分子の構造や化学反応について、暗記するのではなく、考えて判断できる力を養ってほしい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験, 期末試験, レポート, 出席, 小テストなどにより総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義・演習等は全てプロジェクトを用いて行い、また、プリントを配布する。資料等は Web 上で公開する。化学式の作成及び分子構造の描写等にコンピュータを使用するため、ノート型 PC を持参すること。／参考書：はじめて学ぶ大学の有機化学, 深澤義正・笛吹修治, 化学同人, 1997年</p> <p>●メッセージ 積極的な取り組みを期待します。</p> <p>●教員連絡先 E-mail kagaku2@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5727, 研究室 総合研究棟 208 室, オフィスアワー 月曜日 17:00~18:30</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	中野 昭夫				
<p>●授業概要 有機分子の構造、有機化学反応の基礎を最初に講義する。次に生命体を構成する生体物質や、環境に影響を及ぼす有機分子等について学んで行く。</p> <p>●授業一般目標 学問の進歩に伴い、科学の全ての分野で分子レベルでの解明が進みつつある。本講義は、有機化合物の分子構造及び有機化学反応の基礎を学ぶことにより、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴くことを第一の目標とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「生活の基礎化学」飯田 真・加藤陽一 他, 東京教学社 / 参考書：「図表で学ぶ化学」大城芳樹・平嶋恒亮 著 化学同人</p> <p>●メッセージ 出席を重視します。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。</p> <p>●教員連絡先 Email:a-nakano@toua-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	右田耕人				
<p>●授業概要 有機化合物を立体化学と酸塩基の2つの面から解説し、主要な有機化学反応を立体化学的な説明を行う。</p> <p>●授業一般目標 有機立体化学における基礎概念を理解し、有機分子の構造の多様性について理解を深める。次に、有機化合物の酸・塩基の強さを有機電子論によって理解する。更に、典型的な有機化学反応の機構について学ぶ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験により知識・理解目標などの到達度を評価するが、講義の中で行う小テストで段階での到達度を確認し、宿題によって内容の理解を補強する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：有機化学のしくみ, 加藤明良, 鍋島達弥, 三共出版, 2001 年</p> <p>●メッセージ 有機化学の楽しさを味わい、有機化学の能力をつけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 総合研究棟 208 号室(電話 083-933-5733) migita@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 17:00～18:30</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	谷口仁				
<p>●授業概要 多種多様な有機化合物の構造、性質や反応が、どのような考え方に基づいて体系的に理解されているのかを、構造論と反応論を中心に、なるべく身近な有機化合物を例にして説明する。各回の講義内容は、教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。また、一方通行になりがちな講義を補い、受講者の理解を深めるため、毎回演習問題を課し、次の週の火曜日午後5時までに解答の提出を求める。質問や感想、希望なども、この解答用紙に記入しておけば、できるだけ個別に回答する。次回の最初に、提出された答案を返却し、演習問題の略解を配布して必要な説明を加える。</p> <p>●授業一般目標 有機化合物の構造・性質・変化について、基本的な理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験(30点満点)、期末試験(50点満点)、平常点(毎回の演習問題への取り組みと出席状況)を総合して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 有機化学(改訂版), 小林啓二, 裳華房, 1997年; 山口大学生協ブックセンターにて販売</p> <p>●メッセージ わかりにくいところは放置せずに、研究室へ質問に来てください。</p> <p>●教員連絡先 E-mail, tanigu@yamaguchi-u.ac.jp; 電話, 933-5908; 研究室, 農学部北棟 210 室; オフィスアワー, 随時</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	梶原忠彦				
<p>●授業概要 有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとづいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。</p> <p>●授業一般目標 有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) ショートテスト(毎回実施)およびレポート。(2) 中間テストの実施および演習。(3) 期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教科書 テキストは、使用しない。講義、演習は、プリントおよびプロジェクターで行う。参考書 講義の中で、適宜紹介する。/ 参考書: 適当な参考書は 講義の中で、適宜紹介する。</p> <p>●教員連絡先 研究室: 農学部4階 422号室木曜日 15:00-17:00</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(理))・情報・理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	祐村恵彦				
<p>●授業概要 現代生物学では、分子から生物を理解しようとしている。そのため生物を構成する分子を理解することは生物学を学ぶ上で必須であるといえる。社会問題となっている、エイズ、SARS、狂牛病、鳥インフルエンザについても分子レベルの知識が必要になる。この授業では生物を構成する分子をその構造から理解する。</p> <p>●授業一般目標 生物を分子の高次な集合体としてとらえ、生物を構成する分子を構造から理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、レポートを重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生化学入門, 相原英孝, 東京教学社；生もののからくり, 中村和行, 培風館</p> <p>●メッセージ 分からないままにしないで、ぜひ質問してください。</p> <p>●教員連絡先 総合研究棟 401</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	山本芳実				
<p>●授業概要 本講義は、連続して開講される生物学 II とともに基礎的生物学を提供するものである。生物学 I では特に、生命の基本原則、生物進化のしくみ、生物の多様性を中心に学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境における生物の重要性を認識する。生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物進化の過程、現存する生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各自最低 1 回の発表が義務付けられる。発表者は、同時に担当分野のレポートを提出する事。定期試験は行わないが、出席、および討論への参加は必須条件である。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：生きもののからくり, 中村, 高橋共編, 培風館, 1998 年</p> <p>●メッセージ 本講義は、知識の吸収とともに、プレゼンテーション能力を高めることを目的としている。</p> <p>●教員連絡先 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室) 農学部 209 号室 Tel & Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: いつでも</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	高橋肇				
<p>●授業概要 本講義では、生物が「生き物」としてもつ基本的特性を学び、生命現象や生物に関する理解や知識を深めることで、生命の本質を探る基礎を身につけることを目的とする。生物は、細胞を単位とし、代謝によって必要な物質やエネルギーを得て生きている。生物は、生殖によってふえ、親の形質が遺伝子によって子に伝えられる。さらに生物は、刺激に反応してからだの状態や働きを調節し、集団をつくって生活している。このような生物のもつ共通の特性を柱として生物学を学んでいく。</p> <p>●授業一般目標 高校で学習する生物学から始めて、専門教育へスムーズに移行できるだけの学力をつける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 前週までの講義内容を習得したかどうかを確認しながら、講義をすすめていく。このため、毎週、講義開始から15分間の小テスト(7点満点)を行い、これらと期末テストとの総合計点(100点満点)により成績を評価する。欠席・0点以外の答案には再提出により修正箇所に対して配点の1/2の得点を与える。なお、小テストですべてを誤答して0点となった場合、あるいは欠席または遅刻により受験せずに0点となった場合は、レポートを提出することで小テストの満点7点の1/2の3.5点を与える。</p> <p>●メッセージ 小テストは、前週の講義内容から出題する。講義時間中にヒントを与える。再提出の解答方法・0点(欠席)に対するレポート作成方法 間違った設問についても、正しく修正されれば各回のテストが完全に修正された段階で減点された分の半分の得点を与える。解答は答案の裏面に行うこととし、記述問題では自身で横20文字のマス目を作成して、穴埋め問題では単語を書き込む枠と番号を作成して、その中に正解を書き込むこと。なお、再々提出は、別紙に正解・不正解に関わらずその回の小テストの問題文、解答文を含めたすべてをまるごと記述して提出する。小テストで0点となった場合、あるいは授業に欠席または遅刻して小テストを受験できなかった場合、レポートを作成して提出することで満点の1/2の得点を与える。レポートはその小テストの対象となる授業で配布されたプリントに書かれてあることすべて(図表等も含めて)をA4の用紙に手書きにて書き写したものとする。すべてが正しく記載されていることを確認した後、得点を与える。</p> <p>●教員連絡先 連絡先: tadashit@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月～金曜日 7:00～8:00 月・火・木・金曜日 12:00～12:30</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	滝本晃一				
<p>●授業概要 生命を形作っている物質、細胞の構造、タンパク、脂質、糖などの生体成分の基本的事項、細胞増殖、遺伝現象、DNAの構成成分、構造、遺伝における役割、遺伝子の複製、遺伝情報の取り出し、遺伝子操作技術などの基礎的事柄について概説する。予習や復習に役立つ本として特に特定のもの是指定しませんが、図書館にある本はどれも役に立つと思います。</p> <p>●授業一般目標 生物全般にわたっての基礎的理解をめざす。そのために、生命の構造やそれを構成している成分を知り、さらに生命の継続として遺伝及び遺伝物質を十分理解する。その上でそれらの知識や理解が生物機能科学の専門科目を学ぶ上での基礎となることを目指す。遺伝現象は生命の基本であるので、DNAや遺伝子について比較的多くの時間を割く予定である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業の範囲内で重要なところについて期末試験(筆記)をします。理解の期間中に小テストをして断片的に覚えるのではなく、それぞれを関連づけて有機的に理解するようにつとめて下さい。記述を求める問題も出題します。</p> <p>●メッセージ スクリーンに文章や絵を投射して講義を進めるので、特に視力に問題がある人は前の方に座ること。教科書については別途掲示等で伝達する。掲示板も毎日みること。マナーを守ること。携帯電話の電源は切っておく。授業中飲み食いしない。授業中出入りしない。遅刻しない。適宜プリントを配付するが、口頭での説明や映写図の要点をメモするよう。</p> <p>●教員連絡先 研究室 農 404, オフィスアワー 随時</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教員	梅田昭子				
<p>●授業概要 細胞、特に動物細胞の構造と機能を理解し、細胞はどのように生命を維持し増殖していくのかを解説する。また、動物は個々の細胞が分化して組織・臓器を形成すること、その過程は卵の分割からどの時期に行われるのか等について解説する。さらに各細胞に存在する染色体と遺伝子について理解し、遺伝の原理をメンデルの法則からヒトの遺伝子病までを理解できるよう講義するつもりである。</p> <p>●授業一般目標 各組織や臓器を形成している細胞の構造と機能を学び、発生時の細胞の分化について理解する。また、染色体と遺伝子、遺伝、遺伝子型と表現型、遺伝子発現の機構、ヒトにおける遺伝子病および遺伝子診断について理解を深めることを目的とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業中に行う理解度を判定するための小テストおよび期末テスト、また適宜こちらから出した課題に対するレポートにより総合評価を行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ただいま検索中です。もう少しして掲載します。</p> <p>●メッセージ 予習と復習をよくおこなってください。</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時間	水曜日 5・6 時限
担当教員	村瀬ひろみ				
<p>●授業概要 この講義では、生物学の基本を学ぶ。生物の体の仕組みや、生態系、進化について幅広くフォローする予定である。生物学は現代社会との関わりも深く、ニュースなどの話題となっている技術（クローンなど）についてもとりあげる。</p> <p>●授業一般目標 生物学の基礎がわかり、生物学に関連した先端技術についても、新聞、ニュースなどを見て理解できることを目標とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布。授業中に指示。／参考書：新しい生物学の教科書、池田清彦、新潮社、2001年；サル学の現在（上）（下）、立花隆、文春文庫、1996年；進化論という考え方、佐倉統、講談社現代新書、2002年；授業中に、他の参考文献について指示します。</p> <p>●メッセージ 積極的な参加を期待します。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時間	水曜日 7・8 時限
担当教員	中村和行・坂田義行・山縣芳明				
<p>●授業概要 ヒトの生命現象を個体・細胞・分子レベルで具体的に学び、他の生物に共通する仕組みや生物界の普遍的な原理がどのように活用されているかを理解する。</p> <p>●授業一般目標 ○ヒトの生物としての特徴である 1) 複雑な構造、2) 複製、3) 代謝を理解する。○ヒトの個体が器官や組織から成り、様々な器官や組織が機能連携することを知る。○ヒトの器官や組織が生命の単位である細胞から成り、多様な細胞が機能連携することを知る。○ヒトの細胞が生命の無い化学物質(分子)から成り、多様な分子が反応し機能連携することを知る。○ヒトの細胞の複雑な構造と細胞膜を介した外界との情報伝達機構を分子レベルで理解する。○ヒトの遺伝情報の保持や発現について理解する。○ヒトのエネルギー代謝に関わる酵素タンパク質などの機能と調節機構を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 最終試験= 60-80 % 宿題・授業外レポート= 40-60 % 授業態度の極めて不良の場合は、減点対象とすることがある。出席が 2/3 に満たない場合には、最終試験の受験資格を失うことがある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Essential 細胞生物学, 中村佳子・藤山秋佐夫・松原謙一 監訳, 南江堂, 1998 年; ハインズ 神経解剖学アトラス, 山内昭雄 訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2000 年; 指定された教科書は、専門科目においても教科書として使用される予定である。/ 参考書: フィッツジェラルド 人体発生学, 平野茂樹 他訳, 西村書店, 1999 年</p> <p>●教員連絡先 電子メール: 中村和行: nakamura@yamaguchi-u.ac.jp 坂田義行: y.sakata@yamaguchi-u.ac.jp 山縣芳明: yymgt@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	検査	単位	2 単位	曜時間	金曜日 1・2 時限
担当教員	渡部省二				
<p>●授業概要 本講義では生物の基本単位である細胞に焦点をあてて、その構造と機能について解説する。同時に開講されている「生化学」と密接に関連させて講義を進めるが、「生物学 I」では分子レベルのことはあまり深くは立ち入らないで、「細胞レベル」に重きを置く。基本的には生化学、分子生物学の十分な知識がなくても、理解できるような内容にするように努めるつもりである。教科書は分子細胞生物学をひろく解説した本であるが、本講義では主に、その第 11 章以降を説明する。真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p> <p>●授業一般目標 *生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。*生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。*真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 2 回の中間試験および期末試験を行う。3 回の試験の比重は等しい。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Essential 細胞生物学, B. Alberts 他, 南江堂, 1999 年</p> <p>●メッセージ 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/lecture2.htm わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p>●教員連絡先 shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	渡辺雅夫				
<p>●授業概要 生理学、行動学分野のさまざまなレベルで見られる生物現象を解説する。種々の調節が行われる場での情報のあり方を考えていく。</p> <p>●授業一般目標 生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境のける生物の重要性を認識する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業内小テストを 2 回行い、宿題レポート課題を提示する。中間、期末の 2 回試験を行う。これらを下記の割合で、総合評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：資料プリントを配付する予定である。／参考書：授業中に提示する。</p> <p>●教員連絡先 研究室：理学部 3 号館 113 号室 (内線 5767) オフィスアワー：月曜日 14:30～16:00</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	安溪貴子				
<p>●授業概要 私たちが出会う生き物を、測定機器や電子顕微鏡ごしではなく、自分の五感をつかって 直接観察し、研究する。そんなマクロの生物学がもつ魅力を伝えたい。ア) 研究方法 の特色、イ) 生物の多様な生活の面白さと不思議、ウ) 個体群、群落・群集、社会、生態系、生物多様性など、地球生命系全体に共通するとらえ方。エ) 地球の生命がかくも 多様である事実の意味を問い、いのちあるものの一員としての「わたし」の果たすべき 役割を考える。</p> <p>●授業一般目標 いのちあふれる奇跡の星＝地球に展開する生命とその死の不思議について学ぶ。そして、その現状をふまえ、生命の歴史、ヒトと自然とのかかわりの歴史にも視野をひろげ、未来についてもともに考える。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 毎回の小レポートと最後にするテストで採点</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。講義中にプリントを配布します。参考書などもその時 紹介します。</p> <p>●メッセージ 戸外に出たり、生き物そのものに触れたりする時間を持ちます。その機会を できるだけ楽しみながら、「いのち」への感性を育ててください。</p> <p>●教員連絡先 ankei@fis.ypu.jp</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期																												
対象学生	学教(教科(理))・情報・理	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限																												
担当教員	松村澄子																																
<p>●授業概要 生物はこの地球上で 20 億年以上をかけ、多くの種類に進化した。多様な生物の進化の道筋(系統)や、からだの作りの特徴、分類の基本について学ぶ。また後半では多様な生物が共に生きるしくみについて学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 1. 学名や分類の基本を理解する。2. 多様な動物を体制を元にして比較する力を身につける。3. 脊椎動物からヒトまでの進化の筋道を理解する。3. ヒトの自然界における位置について考察する。4. 生物多様性の意義を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業中に小テストを 10 回程度行なう。(2) 2~3 回重要な課題について宿題レポートを課す。字数や様式はそのつど指示する。(3) 中間、期末と 2 回の試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお小テストは、各時間内に設問を課し提出させるので、出席状況の確認も兼ねる。またテスト範囲は前半、後半に分割して行なうので、それぞれにおいて出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。成績評価方法</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">知識・理解</td> <td style="text-align: center;">思考・判断</td> <td style="text-align: center;">関心・意欲</td> <td style="text-align: center;">態度</td> <td style="text-align: center;">技能・表現</td> <td style="text-align: center;">評価割合</td> <td style="text-align: center;">定期試験</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">30%</td> <td style="text-align: center;">30%</td> <td style="text-align: center;">70%</td> <td style="text-align: center;">小テスト/レポート</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table> <p>●教科書・参考書 参考書：教養の生物学, 越田豊, 培風館, 1988 年</p> <p>●メッセージ 遅刻者への寛容な対応は行なわない。生物学の基礎知識が十分でない人も講義は内容を反復復習しながら進めるので、まじめな履修を心がけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 E-Mail: batmatsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話：9 3 3-5 7 2 3 オフィスアワー：金曜日 3・4 時限</p>						知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合	定期試験	○	○	○	○	○	○	○	30%	30%	70%	小テスト/レポート	○	○	○	合計						100%
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合	定期試験																											
○	○	○	○	○	○	○																											
30%	30%	70%	小テスト/レポート	○	○	○																											
合計						100%																											

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	山本芳実				
<p>●授業概要 本講義は、生物学 I に連続して開講される。本講義では、現代生物学の基本的考え方一分子のレベルで生命現象をみる一を様々な生命現象の理解をとおして学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。生命活動におけるエネルギー代謝の意義を考察する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験をおこなう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：生きものからくり, 中村, 高橋共編, 培風館, 1998 年</p> <p>●教員連絡先 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室) 農学部 209 号室 Tel & Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：いつでも</p>					

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	化地	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教員	金折裕司				
<p>●授業概要 日本列島とそこで生活している我々との関わり合いを地球科学の観点から理解するため、日本列島に起きている多様な変動現象の概観を学び、地震・活断層、火山などの活動で起きる自然災害を予知・防災の観点から捉え、地球環境と未来、新しいエネルギー資源などについて講義する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 日本列島の生い立ちとそこで起きている変動現象を理解する。(2) 地震や火山活動、斜面崩壊などによって誘発される自然災害のメカニズムを理解する。(3) 自然災害や天然資源、地球環境に関わる諸問題と社会の関わり方を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 冬休み終了後に、自然災害などに関するレポート1回提出する。(2) 授業中に小テストや授業内レポートを作成する。(3) 最後に試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎ほか, 朝倉書店, 2002年</p> <p>●メッセージ 講義内容に関して、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。</p> <p>●教員連絡先 kanaori@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部南棟3階344室 オフィスアワー火曜日 15:00～16:00</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	今岡 照喜				
<p>●授業概要 本授業では、地球科学をほとんど学習したことのない学生を対象に、幅広い地球科学全般の基礎知識に最新の成果を織りまぜながら分かりやすく解説する。</p> <p>●授業一般目標 地球科学の基礎的事項について理解し、現代の地球観を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) レポート提出、小テスト、期末テストを下記の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎地球科学(西村祐二郎ほか著)、朝倉書店、2002年出版</p> <p>●メッセージ 教科書は必ず購入し、毎回の授業に持参すること。</p> <p>●教員連絡先 imaoka@yamaguchi-u.ac.jp 総合研究棟 701号室 オフィスアワー 金曜日 15:00～17:00</p>					

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	数理・自然・看護・検査・工	単位	2 単位	曜時間	金曜日 5・6 時限
担当教員	千々和一豊				
<p>●授業概要 地球科学の諸分野（地質、地球物理、海洋、気象、天文）の基礎的内容を取り扱う。高等学校でも地学を受講していない学生にも理解できるように平易な解説を試みる。</p> <p>●授業一般目標 人類を含む地球生命体を育む地球の特徴、その地球に見られる様々な自然現象とその背景、天体の動きや宇宙の広がりなど、自然の姿を理解し、われわれの生活が自然界と密接に関係していることを認識するのが目標である。</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教(情報除く)・経	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教員	柏木芳美				
<p>●授業概要 高等学校と大学の数学の橋渡しを目的に 1 変数関数の微分について概説する。微分というのは関数の性質を調べるための強力な道具である。また、最大や最小を求める際に重要な凹関数、凸関数についても説明する。</p> <p>●授業一般目標 微分は関数を調べる強力な道具である。その基本をしっかりと身につけて、ある程度の計算ができることがこの授業の目標である。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題には詳しい解説を付けてあるので毎回出す宿題をしっかりと解いておくように。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。尚、テキストの誤植指摘に最大 20 点の点数を与える。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：数学概論改訂版、柏木芳美、2004 年；生協で販売する。</p> <p>●メッセージ 演習問題を解くことが一番重要。分からないところは遠慮なく質問すること。その為にオフィスアワーもある。</p> <p>●教員連絡先 E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:経済学部 C213。オフィスアワーは授業開始時点で伝える。</p>					

開設科目	現代化学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	西口 毅				
<p>●授業概要 本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。すべての授業はパソコンからスクリーンに出力しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ (http://www2.to/chemistry) からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。学生諸君の質問(日頃の疑問など)にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p> <p>●授業一般目標 多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に 適応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識+豊かな行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かにすることである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生諸君に納得してもらうことが必要である。授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次回の授業開始時にそれについての解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連することからについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は 1 : 1 である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996 年; プリントを数種類配布する。</p> <p>●メッセージ 学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えることであろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代についての私見を話すこともある。</p>					

開設科目	現代生物学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	祐村稔子				
<p>●授業概要 ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位からできている。一方、「細胞」を構成する「部品」は生体分子の集合体であり、生きていない。すなわち「細胞」は生命と物質の境界をなす「生命の最小単位」である。本講義では「細胞」の構造と機能について、分子レベルで解説を行う。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に解説を進めていく。</p> <p>●授業一般目標 「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識であるのみならず、今日、医療、農業、工業とさまざまな分野にわたり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連新技術および氾濫する関連情報を、正しく理解し評価するのにも必須なものである。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのか、自ら判断し未来を見通す力を身につける事を目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験(テキスト、ノート、プリント参照可) 80% 宿題レポート 20%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：いきものからくり, 中村和行・高橋進, 培風館</p> <p>●メッセージ 古典的生物学にとどまらず、物理学、化学を含む自然科学全般の知識をもって、生命を理解することに興味のある学生の受講を希望します。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス: discoideum@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	武田賢治				
<p>●授業概要 地震や火山の噴火に遭遇するたびに、地球がダイナミックな生き物であることを実感する。現代地球科学は、こうした地球表層の変動メカニズム、さらには地球深部のダイナミクスについても明らかにしつつある。また、137億年の宇宙の壮大なドラマの中で誕生し、46億年という長大な歴史を刻んできた地球の発展過程や生命史についての知見を飛躍的に増大させてきている。本講義では、現代地球科学が明らかにしてきた地球についての知識・理論を、地球解明の手段などを交えながら、平易に解説する。</p> <p>●授業一般目標 私たちのすみかである地球について理解を深める。とくに、地学的位置よりわが国の宿命である地震や火山噴火について、その仕組みを理解するとともに、関心を持ち、防災対策等に積極的に立ち向かう態度を養う。</p> <p>●教員連絡先 takeda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	飯石一明				
<p>●授業概要 地球科学は実に幅広く面白い学問である。この講義では、地球の生い立ち、地球の内部構造、変動する大地、プレートの離合集散、日本列島の生い立ち、天変地異と環境破壊について講義し、生きている地球を実感し、そしてダイナミックな地球科学の醍醐味を味わってもらいたいと思っている。</p> <p>●授業一般目標 地球が奇跡の惑星であり、人間がいかにすばらしい生き物であるかを理解する。地球を大切にすることを持ち抱く。テレビや新聞・雑誌の地球に関するニュースに関心を持つ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績は中間試験、期末試験およびコメント票の内容で判定します。出席は授業はじめに点呼し、授業の終わりにコメント票を提出してもらって確認します。3回以上無届で欠席した場合は単位はありません。遅刻を3回以上した場合は1回欠席とみなします。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●メッセージ 私語は厳重に注意する。毎回のコメント票に書いてある授業に対する要望にはできるだけ応えるように、また質問にもできるだけ答えるようにする。</p> <p>●教員連絡先 iishi@yamaguchi-u.ac.jp、内 5742、理学部南棟 341 号室、オフィスアワー：木曜日 3・4 時限</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学の考え方

科目類型 総説

開設科目	数学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	北本卓也				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 数学の基礎を演習を交えながら学ぶ. ●授業一般目標 命題論理の否定を作れるようになること. ●成績評価方法 (総合) 出席 (30 %)、授業内課題 (20 %)、試験 (50 %) により行う. ●教科書・参考書 教科書：適宜、指定する. / 参考書：離散数学, Lipschutz, S., オーム社, 1995 年 ●メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。 					

系列 自然科学

分野 自然科学の考え方

科目類型 総説

開設科目	物理学の考え方	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員					

開設科目	化学の考え方	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	田頭昭二				
<p>●授業概要 化学は人間の生活や環境等あらゆる領域に深く関わりをもっています。特に日常生活の営みをどうして化学を深く学びます。</p> <p>●授業一般目標 日常生活にかかわりのある物質の性質や構造について基礎的な事を理解するために分子、原子の観点から化学反応について理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、演習、レポート、期末テストにより総合的に判断する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：プリントを配布</p>					

開設科目	生物学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	宮川勇				
<p>●授業概要 21世紀は生命科学の時代と呼ばれており、ヒトゲノムの解読をはじめとして分子生物学の進歩は、単に学問上の問題に留まらず、社会全体のしくみにも影響を及ぼしている。このような時代になると、様々な社会現象を理解するためにも、理系文系を問わず、一定の生物学の知識が必要になる。この授業では、細胞という生命の最小単位をキーワードとして、生物学の発展の歴史において各時代の研究者が何を考え、どのような研究を進めてきたかについて、文系の人にも興味をもってもらえるように講義したい。</p> <p>●授業一般目標 この講義を通して、生命の基本最小単位である細胞に興味をもってもらい、さらには細胞のしくみの解明が、究極的には病気、老化、生殖、遺伝、クローンや多様な生物社会の理解につながるということを認識してもらいたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) レポート、出席を総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ 積極的に質問してほしい。</p> <p>●教員連絡先 宮川 勇 (総合研究棟703号室、電話：933-5716, E-mail: miyakawa@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学の考え方

科目類型 総説

開設科目	地球科学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	永尾隆志				
<p>●授業概要 地球で起きているいくつかの現象を例に、地球科学の考え方を学び、さらに地球の将来について考える。</p> <p>●授業一般目標 地球で起こっている現象について、興味をもち、説明できるような基礎的な力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の内容に関するレポートの提出を求め、それを評価する。(2) 試験。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特に指定しない。必要におうじてプリントを配布する。／参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>●教員連絡先 理学部 340 号室, e-mail: tngao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時限
担当教員	宮田浩文、右田たい子、横山和平、松井健二、真野純一、阿座上弘行、外山英明、滝本晃一、内海俊彦				
<p>●授業概要 生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に用い、それを通じて地球上の生命 全体に関わる学問の進展に寄与している。諸君がこれから教育をうけていく学問分野の多くは、実験をして確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学である。これから生物学・農学教育を受けていくにあたって、基礎となる事項について、農学部生物機能科学科の教官が解説・指導する。</p> <p>●授業一般目標 本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理及び分子遺伝の教育を受けるのに必要な基本的実験手法および結果のまとめ方を修得し、この実験を通じて生命現象の科学的アプローチの仕方を会得することを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 実験中の態度とレポートの総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テーマ毎にテキストを配布する。</p> <p>●メッセージ 時間厳守</p> <p>●教員連絡先 代表 宮田(農学部 4 1 9) 月曜日午前中</p>					

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	利部聰, 音井威重, 宇根智, 森本将弘, 佐藤晃一, 加藤大智, 奥田優				
<p>●授業概要 獣医師を目指すものとして、動物の取り扱い法をはじめとして、基礎的な事項を実際の動物で学ぶ。最初の5回は全員を対象として実験を行い、以後班に別れ実験計画を立案するところから主体的に取り組む。さらに、成果を学会形式で発表する。</p> <p>●授業一般目標 生きている動物を用いて、麻酔・剖検・観察ができるようになること。適切な研究テーマを探し出し、実験計画を立て、結果を出し、それから導き出される結論を考察する態度を培う。</p> <p>●メッセージ 生きている実験動物を扱うので、命を粗末にするようなことのないように。</p> <p>●教員連絡先 利部 聰(かがぶ さとし) 電話：083-933-5910 居室：農学部北ウイング 211 号室 オフィスアワー：金曜日 11 時から 12 時。在室時は随時</p>					

開設科目	地球科学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	化地	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教員	今岡照喜・福地龍郎				
<p>●授業概要 地球科学研究の基礎となる、地形図や航空写真の読み方を習得するとともに、野外において実践的にそれらを活用できる能力を養う。また、実験室で天然の鉱物や岩石を観察し、その成果をレポートとしてまとめる。また、巡検においては、地質について現地で詳しい説明を聞くと共に、露頭を観察したり化石を採集したりし、地質観察力を養成する。</p> <p>●授業一般目標 地形図や航空写真が正しく読めること、諸岩石・鉱物を識別する力、野外で岩石のいろいろな産状を正しく把握し、それを正確に記述する力、偏光顕微鏡下で鉱物識別する力を涵養する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 秋吉台・秋芳洞巡検(土曜日に実施)は実験2回分にカウントします。レポートにより判定します。2回以上欠席した場合は、単位を認めません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>●教員連絡先 今岡(imaoka@yamaguchi-u.ac.jp) 福地(fukuchi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp), オフィスアワー：時間のあるときはいつでも</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

後期一応用科学系列

開設科目	社会科学のためのやさしい統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	朝日幸代				
<p>●授業概要 数値情報（データ）とそれが示す意味について統計学的考え方をいながら、統計学がどのような学問であるかを平易に解説する。特に、社会の中で利用されている統計学の事例を数多く示し、統計的な考え方や統計学を用いた判断を行えるように努める。社会科学に関するデータとして経済データをはじめ、実際生活の場面で行われている調査データなどさまざまな身近な数値情報を電卓によって計算する他、コンピュータ実習（アプリケーションは Excel を使用）も含めて、実践的な講義を行う。</p> <p>●授業一般目標 統計学の基礎的な理論を学ぶことによって、統計的な考え方や統計的判断を理解する。特に、統計的手法を用いて、数値情報のもつ意味を理解する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験と講義中（1 部宿題）に提出するレポート、講義毎の質問書によって評価する。評価割合は期末試験 70%、質問書とレポート 30%。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：使用しない。必要資料はすべてプリントを配布する。／参考書：適宜紹介する。</p> <p>●メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。講義内容を理解するためには連続して出席することが必要である。</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	北村 寿之				
<p>●授業概要 確率論は数学的には完成された理論である。一方統計学は不確定な要素をもつものである。実験、実習で得られたデータから何かを得るには、確率の理論によって、意味のある結果を作り出す必要がある。このため基礎を学ぶことになる。</p> <p>●授業一般目標 確率の公理から定理へと発展的に確率論を展開し、その間に、用語の定義を明確にする。確率変数とその分布によって、特徴づけられる母集団の特性値を推定または検定することを学ぶ。具体的な例題によって実習する。</p> <p>●成績評価方法（総合） 各回の出席、小テストの成績、レポートの評価、期末試験の成績の総合点による。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：概説 確率統計、前園 宣彦 著、サイエンス社、2003 年；販売店：大学前文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には統計計算ができる電卓を用意すること。</p> <p>●教員連絡先 083-923-1471</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	医学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	市原清志				
<p>●授業概要 バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法（有意差検定法）を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p> <p>●授業一般目標 ・医学研究における統計学の役割が分かる ・仮説（有意差）検定の原理が分かる ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる ・クロス集計結果の検定とその解釈をできる ・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。 ・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる ・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</p> <p>●教科書・参考書 教科書：バイオサイエンスの統計学, 市原清志, 南江堂, 1990 年／参考書：解説・実験・演習プリントを適時配布、講師が開発した汎用統計ソフト StatFlex を利用</p> <p>●メッセージ 1 2 月に希望者には補講を一度行います。再試験は行いませんが、定期試験前の小テスト（1 回を予定）で成績不良の場合には補講を行います。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884（大学）9:00～18:30</p>					

開設科目	医学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	市原清志				
<p>●授業概要 バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法（有意差検定法）を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p> <p>●授業一般目標 ・医学研究における統計学の役割が分かる ・仮説（有意差）検定の原理が分かる ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる ・クロス集計結果の検定とその解釈をできる ・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。 ・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる ・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</p> <p>●教科書・参考書 教科書：バイオサイエンスの統計学, 市原清志, 南江堂, 1990 年／参考書：解説・実験・演習プリントを適時配布、講師が開発した汎用統計ソフト StatFlex を利用</p> <p>●メッセージ 1 2 月に希望者には補講を一度行います。再試験は行いませんが、定期試験前の小テスト（1 回を予定）で成績不良の場合には補講を行います。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884（大学）8:30～18:30</p>					

系列 応用科学

分野 情報処理概論

科目類型 総説

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員					

系列 応用科学

分野 医療福祉

科目類型 総説

開設科目	介護論	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	教・経・医・工・獣医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	西村 洋子				
<p>●授業概要 「介護」は比較的新しい用語である。昭和 62 年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定され、介護（福祉）の専門職が誕生、更に高齢者人口の増加に伴い、平成 12 年 4 月より介護保険制度が実施され、介護サービスの社会化、在宅介護サービスのためのサービス提供機関等の整備、ケアマネジメント等が推進されている。介護サービスにかかわるシステムを理解するために必要な 1. 介護の概念 2. 介護の方法 3. 各分野における介護サービスの実態等について学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 (1) 介護の概念について関連領域との関係で理解する。(2) 介護サービスに関する制度・施策を理解し、その諸問題を把握する。(3) 高齢者・障害者（児）の介護ニーズに関心をもつ。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業開始前に使用教科書を掲示する。／参考書：財団法人厚生統計協会「国民の福祉の動向」2003 年</p> <p>●メッセージ (1) 教科書を必ず購入すること。(2) 履修希望者が初回に 150 名を超えた場合、抽選を行う。</p> <p>●教員連絡先 yokoni@f7.dion.ne.jp</p>					

開設科目	発達心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・経・医・工・獣医	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	清 俊夫				
<p>●授業概要 年齢の変化に伴う心や行動の変化を発達というが、従来は、出生から青年期が終わるまでの上昇方向への変化を、主として発達とみなしてきた。しかしながら、高齢化社会の到来と、急激な社会変動に伴い、人間の一生涯の変化を発達として捉える生涯発達心理学の考え方が優勢となってきた。この生涯発達の段階を、この授業では 10 段階に区別し、それぞれの発達現象を記述するとともに、発達の危機とその克服をもあわせて理解することを目指す。</p> <p>●授業一般目標 乳児期から幼児期、児童期、青年期、成人期を経て、老年期に至りまでの発達現象を理解するとともに、各段階での危機とその克服に関する基本的考え方を理解し、援助を必要とする人の理解と援助のための基礎を作る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10% (3 回以上欠席したものは 0 点、遅刻 1 回につき 1 点)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：パーソナリティ発達論－生涯発達と心の危機管理－、岡堂哲雄、金子書房、2000 年 / 参考書：Life-Span Development, 6th ed., J. W. Santrock, McGraw-Hill, 1997 年</p> <p>●メッセージ 発達心理学が必修の者を除き、前期に心理学の単位を修得済みの者以外は、この授業を履修できない。必修のものも、前期に心理学を履修し、期末試験を受けていなければ、この授業を履修できない。</p> <p>●教員連絡先 seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone:0836-22-2802 office hours:月曜日から金曜日まで随時(授業、会議等の時間を除く)</p>					

開設科目	医療心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査 3 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	山田治, 清俊夫				
<p>●授業概要 現在の医療は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)に始まり、臓器移植、遺伝子治療、リハビリテーション、終末期医療、脳死、まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらの基盤となる患者に生じる心理的問題を考察し、患者理解・支援に必要なコミュニケーションの取り方を明らかにする。具体的には、傾聴技法を A.E.Ivey らのマイクロカウンセリング技法を講義で説明しながら演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 医療従事者として患者との関わりを持つためには、まず、自分の性格を知る必要がある。自分の性格を理解した上で、患者とのコミュニケーション上のような関わり方が有効であるかを考察する。とくに病気で苦しむ患者の気持ちや患者を取りまく環境を知るためには、傾聴技法がとくに有効であることを理解する。傾聴技法を中心とした「基本的な関わり技法」をビデオや演習を通じて理解・体得することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業中に小テストを 2 回行う。(2) 「行動変容をおこすためにはどうすればよいか?」について用紙 5 枚以上で作成し、提出する。(3) 試験を期末の 1 回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：マイクロカウンセリング, Allen E. Ivey, 福原真知子、梶山喜代子他訳, 川島書店, 1985 年; 演習に関しては教科書を事前に必ず読んでおくこと。</p> <p>●メッセージ 質問は積極的に発言して下さい。</p> <p>●教員連絡先 居るときはいつでもどうぞ、入室時には専攻と氏名を名乗って下さい。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	科学史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	川崎勝				
<p>●授業概要 本講義では、われわれが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18 世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまでのごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。</p> <p>●授業一般目標 高度科学技術社会（ハイテク社会）で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。</p> <p>●成績評価方法（総合） 学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：科学の社会史（増訂版）、古川安、南窓社、2000 年／参考書：ハイテク社会を生きる、調麻佐志・川崎勝他、北樹出版、2003 年</p> <p>●メッセージ 歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文理の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。なお、もし受講希望者が 100 名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。授業に関する情報を随時 Web 上の「kawasaki's room」（http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html）に掲載します。参照してください。</p> <p>●教員連絡先 mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp（上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください） 研究室 医学部（小串キャンパス）時間帯は相談に乗りますので、上記アドレスにメールをお送り下さい。</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工・生資	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員					
<p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	山本芳実, 和田直己				
<p>●授業概要 本授業は、農学部2人の講師により、現代生命科学をそれぞれの側面から論じる。受講者は、いきもの好きであることを希望する。なお、昨年度は、受講制限(文系の人優先)を行った。</p> <p>●授業一般目標 新聞やテレビ等で目にし、耳にする生命科学の様々なニュースに対して、自分なりの判断が出来るようになることが目標である。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：山本は下記の参考書を用いる。「生きものからくりー分子から生命まで」中村/高橋共編, 培風館 1998</p> <p>●教員連絡先 山本芳実 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室)農学部209号室 Tel & Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：いつでも</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(数理・自然・工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	宇都宮宏				
<p>●授業概要 ~食料科学~ 生物環境の中で、人類の生命や生活に潤いを与える食料を対象にして、食糧生産と環境について解説する。 検索キーワード 環境、食料科学、食糧生産、農業領域におけるバイオテクノロジー</p> <p>●授業一般目標 本授業は、食糧生産に関する農耕の歴史的発達過程・食糧生産過程とその方法・環境条件・優良品種の育成と開発・安全な肥料と農薬・分子生物学及びバイオテクノロジー技術の利用等を理解する。また食と農の安全・安心に関わる環境問題を認識する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験により、知識・理解目標の到達度を評価するが、小テストやレポートにより基礎知識等を加味して評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 授業中は携帯電話をオフにすること。</p> <p>●教員連絡先 uh@yamaguchi-u.ac.jp 研究室農学部1階 オフィスアワー木曜日 13:00~15:00</p>					

開設科目	社会と医療(心とその座)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・農除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	渡邊義文				
<p>●授業概要 新書版程度の教科書を用い、医学部を主とした各学部教官による専門領域を反映した講義で構成する。</p> <p>●授業一般目標 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続くそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・レポート内容 40～60%、出席・参加状況 40～60%の重みで評価する。・各講義分担教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5～0点)で評価する。・評語 優：総合評価80点以上 良：総合評価70点以上 可：総合評価60点以上 不可：総合評価60点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：検討中</p>					

開設科目	社会と医療(日本の医療)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・農除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	原田規章				
<p>●授業概要 新書版程度の教科書を用い、医学部を主とした各学部教官による専門領域を反映した講義で構成する。</p> <p>●授業一般目標 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続くそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・レポート内容 40～60%、出席・参加状況 40～60%の重みで評価する。・各講義分担教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5～0点)で評価する。・評語 優：総合評価80点以上 良：総合評価70点以上 可：総合評価60点以上 不可：総合評価60点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：池上直己他、日本の医療、中公新書(予定)</p>					

開設科目	社会と医療 (いのちと発達)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (理・農除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	山勢博彰				
<p>●授業概要 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p>●授業一般目標 日本の医学・医療の現状あるいは問題を実際に医学・医療の現場に従事している医師あるいは医学・医療の従事者の話から明らかにしてもらい、それを通して、医学・医療の問題に今後いかに接していくのかとか、「いのち」と生後の発達の問題などについて考える機会になれば目標を達成できたと考えたい。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ”授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・各講義分担教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5~0点)で評価する・評語 優 : 総合評価 80 点以上 良 : 総合評価 70 点以上 可 : 総合評価 60 点以上 不可: 総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。”</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 医の現在, 高久史磨 編, 岩波新書, 2001 年</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	森田俊介				
<p>●授業概要 中高年者に多く発症する心臓病・糖尿病・脳卒中などの成人病は、別名生活習慣病とも言われ、青年期から中年期にかけての運動不足・偏った食事・過度のストレスなどの生活習慣がその原因の1つとして考えられている。したがって学生諸君が生涯にわたって健康を保持・増進していくためには、適度な運動・バランスのとれた食事・十分な休養に配慮した生活習慣を学生時代から身につけておかなければならない。この授業では、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を中心に教授する。</p> <p>●授業一般目標 この授業では、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を学習し、在学中及び卒業後もそれらを活用できるようになることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験 (50%)、レポート成績 (50%)、出席状況によって総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 運動処方 理論と実際, 池上晴夫, 朝倉書店, 1997 年; 必要に応じて授業中にプリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 例年通り、授業開始後の入室を認めない。</p> <p>●教員連絡先 電話 933-5385</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	丹信介				
<p>●授業概要 この授業では、生活習慣病（成人病）に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動（運動）不足を取り上げ、生活習慣病と身体活動（運動）との関わりや生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動（運動）の具体的実践方法、留意点について解説する。また、食生活のあり方も生活習慣病を引き起こす一因となるので、この点についても授業の中で取り上げる。</p> <p>●授業一般目標 生活習慣病予防のための身体活動（運動）、食生活の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動（運動）が具体的に実践できるよう、その方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）＝ 60～80 % 小テスト／授業内レポート＝ 欠格条件 宿題／授業外レポート＝ 20～40 % 授業態度や授業への参加度＝ 欠格条件 出席＝ 欠格条件</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 授業では、講義形式だけでなく、適宜、演習や実習も行います。その中には、運動を行うこともあります。</p> <p>●教員連絡先 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12 : 50～14 : 20</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	杉浦崇夫				
<p>●授業概要 労働や日常生活が機械化されたことにより、我々の生活は便利かつ快適になった。その反面、身体活動の減少により、さまざまな運動不足の弊害が見られるようになった。このような現状において、その対策として日常生活において積極的に運動することの重要性が認識されている。しかしながら、運動はそのやり方によっては事故（最悪の場合、死）を引き起こす可能性もあることを忘れてはいけない。本講義では、身体運動時の生理・生化学的変化を概説し、健康の保持増進のためのプログラムについて紹介する。</p> <p>●授業一般目標 本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を生理・生化学的に理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） (1) 毎回の授業においてレポートを課す。(2) 期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、欠席が 5 回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント等を配布／参考書：講義中に指示する。</p> <p>●メッセージ 授業中は、他人に迷惑になる行為は絶対に行わない。</p> <p>●教員連絡先 E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0839335387, 研究室 教育学部 484-1, オフィスアワー 在室時は、いつでも</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	皆川孝志				
<p>●授業概要 身体運動時にはその運動を可能にするために、また、運動によって起こる内部環境の 変化を最小限にとどめるために、生体各器官の機能は巧みな適応を示す。長期にわたり 運動を継続していくと運動に 関与するこれらの器官はその機能を高めさせる。その適 応現象をトレーニング効果という。逆に、運動不足になれば、その機能は低下していき、運動不足病と呼ばれる病態を引き起こす。この授業では生体各器官の運動に対する 適応現象の科学的知識に基づき、運動におよぼす運動の意義などに言及し、健康づくり のための運動の備えるべき条件などについて理解する</p> <p>●授業一般目標 1. 運動に対する生体各器官の適応現象の科学について 2. 運動各器官の機能の向上を促すトレーニング効果のメカニズムについて 3. 運動不足による健康への弊害を生活習慣病との関連について 4. 健康づくりのための運動の種類、運動強度、時間、頻度など備えるべき条件について 以上 4 項目について理解し、生活習慣として運動の実践方法を修得する</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 前週の授業範囲から小テストをほぼ毎週実施する。この小テストは平均 50 %以上を クリアすることを目標とする 小テストの成績の評価割合は 30 %とする 2. 試験は期末試験を実施する 期末テストの評価割合は 70 %とする 3. 出席回数が所定の回数に満たない者には単位を与えない</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 独自のテキストを配布する / 参考書： 最新運動生理学, 宮村実晴編, 真興交易出版, 1999 年; 生活習慣病を防ぐ, 香川靖雄, 岩波書店, 2000 年; 運動処方の実際, 池上晴夫, 大修館書店, 1987 年</p> <p>●メッセージ 毎週小テストを実施します。復習と予習を忘れずに!!</p> <p>●教員連絡先 E メール: takmina@c-able.ne.jp TEL:083-922-6155</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教・商教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	曾根涼子				
<p>●授業概要 現代社会では省力化、機械化や自動化によって、日常生活の中で十分なエネルギーの 消費、体力を維持するだけの運動量を得ることが難しくなっています。日常的な運 動不足がもたらす弊害には、体力の低下や肥満症、心筋梗塞、高血圧症、ノイローゼなどの運動不足病があげられます。これらを予防するためには、適度な運動を生活習慣の中にとり入れて定期的 に実施することが必要ですが、このような運動の実施に当たっては、正しい理論に基づいた運動の実践が必要です。そこで、この授業では、健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動 を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得することを目的としています。また、実生活における運動と食事の調査を行い、それをもとに健康にとっ てより望ましいライフスタイルのあり方を考えるとともに、その確立を促します。</p> <p>●授業一般目標 健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考 え方とその具体的実践方法および実践能力を習得する。また、実生活における運動と食 事の調査の結果を踏まえて、健康にとってより望ましいライフスタイルの確立を目指 す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 授業開始後 20 分以上して入室した場合は、欠席扱いとします。授業時 には、携帯電話の電源は切って下さい。電卓を使用することがあります。 単位認定の最低必要条件: 2/3 以上出席</p> <p>●教員連絡先 連絡先: 教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 9 時～12 時</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	実践・総文	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	塩田正俊				
<p>●授業概要 健康の保持増進を計るためには、日常生活においてくり返される生活習慣を見直す必要があります。まず、健康がどのような要因で成り立っているのかを概説し、運動習慣、食習慣および休息の重要性について考えてみたいと思います。そして、健康保持増進のための運動や栄養摂取のあり方について、実際に実習・調査を行い、自分に適した身体運動、栄養摂取のあり方を考えます。</p> <p>●授業一般目標 自分に適した運動強度の設定の仕方を実習し、また、日常生活における生活活動強度（運動量）や栄養摂取のバランスを調査し、自分に適した運動習慣や食習慣のあり方について考えます。そして、これらの講義や実習を通じて現在及び将来における自分の健康保持増進を実践するための正しい生活習慣を実践する資質を養います</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 必要に応じてプリントを配付</p> <p>●メッセージ 皆さんの習熟度によっては授業内容を変更することもあります。</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	情報・健康	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	宮田浩文				
<p>●授業概要 近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。</p> <p>●授業一般目標 体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする</p> <p>●成績評価方法（総合） 学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 複数のテキストから抜粋した資料を毎時間配布する。／参考書： 運動生理学 20 講義（朝倉書店）等のテキストが図書館にある。参考にすること。</p> <p>●メッセージ 遅刻、私語、飲食は厳禁。</p> <p>●教員連絡先 月曜日午前中</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ショートテニス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	池田恵子				
<p>●授業概要 本授業では、ニュースポーツのひとつであるショートテニスの実習を行う。ショート テニスとは、グリップの短い硬式用テニスラケット、室内テニス用スポンジボール、軽 量かつ固定性に優れたネットポストを用いて行うものである。また本スポーツは、屋内 コートで行うスポーツの安全性に留意して開発され、かつバドミントン・コートなどの 既存の施設を利用して行うことを特徴としている。また手のひら感覚で打球・返球が容 易に行えるので、テニスの初心者に適している。なお、ショートテニスと同様にバドミントン・コートを利用して行うニュースポーツにインディアカがあり、本授業では、受 講人数が用具定員数を上回る場合、インディアカの併設コートを準備し、スポーツ運動 実習として受講者全員に適度な運動量が保証され、効率的に授業に参加できるよう配慮 する。</p> <p>●授業一般目標 本授業では、軽スポーツの理念とニュースポーツについて、およびニュースポーツが 生まれた歴史的背景を理解し、安全かつ創造的にスポーツに取り組む能力を修得する。 同時に将来にわたって、スポーツを楽しみ、硬式テニスなどのより高度なスポーツ実践 にも率先して取り組める基礎技術の修得に努める。具体的には、設備の準備・収 納、ゲ ームの実践、審判、観客の役割を実習することにより、基礎技術・戦略の習熟に加えて、本スポーツの文化規範を包括的に理解する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 毎時、実習記録表を提出。(2) 軽スポーツの理念に関するレポートの提出。(3) 本授業で とりあげたゲームのルールに関する小テストの実施。</p> <p>●教科書・参考書 参考書： やわらかいスポーツへの招待―軽スポーツを科学する, 奈良女子大学文学部スポーツ科学教室編, 道和書院, 1998 年； ニュースポーツ事典, , 遊戯社</p> <p>●メッセージ 硬式テニスを始めてみたいけれど、テニスに苦手意識のある人、室内テニスに挑戦したい人に最適の授業内容です。</p> <p>●教員連絡先 池田恵子： E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	海野勇三				
<p>●授業概要 ここでは、バレーボールを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲーム を分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。また、スポーツとしてのバレーボールの発生と発展の歴史についても学習する。</p> <p>●授業一般目標 チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、 練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	上田真寿美				
<p>●授業概要 健康を保持・増進するには、継続的な運動の実施は必要不可欠である。本授業では、社会体育でも積極的に活動が行われているバドミントンを実習し、生涯にわたってスポーツを楽しむ方法を学習する。バドミントンのルールはもちろんのこと、バドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても学習する。</p> <p>●授業一般目標 バドミントンの基礎的技術、具体的にはダブルスのゲームが可能な範囲までを習得する。そしてルールを学び、自主的にゲームの運営が実施できるようになることを目標とする。さらにバドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても確認しながら実施することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、出席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜、資料等を配布する。</p> <p>●メッセージ 履修者が50名を越えた場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。運動のできる服装と上履きを準備すること。グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス（医学部医学科医療環境学講座研究室）にいます。オフィスアワー：(前期) 木曜日 10:00～15:00、金曜日 14:00～16:30 (後期) 水曜日 8:30～10:30</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (フィットネス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	河合洋祐				
<p>●授業概要 フィットネスとは健康で活動的に行動できる能力を表す言葉である。適切な身体運動を継続していると運動に対して身体が適応し、フィットネスが向上する。フィットネスを高めるための適切な身体運動は個人の身体的条件によって異なる。本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方と個人の身体的条件に適した運動の実施方法を実技を通して習得する。また、トレーニング機器を安全かつ効果的に使用方法を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方を理解し、個人の身体的条件に適したトレーニングの実施方法を実技を通して習得するとともに、トレーニング機器の安全かつ効果的な使用方法を学ぶ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 欠席3回以内で、トレーニングの記録とレポートを提出することが単位認定の条件である。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：授業の中で紹介する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	三好洋二				
<p>●授業概要 バドミントンというスポーツの楽しさは、その発生から考えてラリーを続けることにある。この授業では、このラリーを続けるという楽しみを味わいながら、ゲームに必要な技術を習得し、バドミントンというスポーツの実践能力を養います。</p> <p>●授業一般目標 本授業では、バドミントンの基本的な個人的技能（ストローク、サービス）、ゲームでのフォーメーション、基本的ルールを学習・習得するとともに、生涯にわたってスポーツを实践する態度を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 技能の習熟度、授業態度及び授業への出席状況から評価する。なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p>●メッセージ 授業の性格からして、きちんと出席し実践することが大切です。それによって初めてスポーツの楽しさ、おもしろさを感じ取ることができます。</p> <p>●教員連絡先 ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部162番室 オフィスアワー金曜日15:00～18:00</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (空手)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	上地 広昭				
<p>●授業概要 本講では、沖縄空手道（上地流）の稽古を行う。講義内容は、礼儀作法、基本動作、型、ミットトレーニング、および護身術を中心に行う。本講は、初心者向けに構成されているため、受講生の性別、運動経験、および空手歴は一切問わない。</p> <p>●授業一般目標 沖縄空手道を通して、礼儀作法、基本動作、および護身術を習得することを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席率および実技試験（基本動作・型）</p> <p>●メッセージ 服装は、動きやすい服装ならば、空手衣でなくても構わない。ただし、安全面から、金具の付いている服装（金属のファスナーは可）や、ピアス・指輪を付けての練習は禁ずる。爪は各自切っておく。</p> <p>●教員連絡先 教育学部 体育・スポーツ心理学研究室</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (タッチ・フットボール)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	友定保博				
<p>●授業概要 「フラッグ・フットボール」は、アメリカの国民的スポーツ「アメリカン・フットボール」の簡易版です。基本ルールは同じで、タックルの代わりに相手の腰につけたフラッグをとることで、身体的接触を取り除き安全化をはかった、男女を問わず誰でも楽しめるスポーツです。ほとんどの人が未経験のスポーツだと思いますが、4回の攻撃で相手の陣地にボールを持って入れれば得点になるというシンプルなゲームです。チームメンバーの体力や技能に合わせて、それぞれがどう動くかを打ち合わせたフォーメーションプレーをもとに攻防を繰り返します。したがって、ボールゲームが苦手な人や女性でも楽しめることが特徴です。</p> <p>●授業一般目標 将来、スポーツをいろいろな場で実施し、みんなで楽しめるようにすることが目標です。具体的な目標は、1. グループメンバーの知性を結集して有効なフォーメーションプレーをつくる、2. 作戦の成功のため協力して創意工夫をする、3. ルールの理解を図りみんなでゲームを楽しめるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 評価は、グループごとの戦術づくりや練習計画・実施の状況などを中心に、以下の観点・方法で評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：「アメリカンタッチ&フラッグフットボール入門」後藤完夫、タッチダウン K. K、1998年</p> <p>●メッセージ ほとんどの人が未経験です。接触プレーは禁止ですからスポーツが苦手な人も、女性も、きっと楽しさを味わえます！</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員	海野勇三				
<p>●授業概要 ここでは、バレーボールを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲームを分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。また、スポーツとしてのバレーボールの発生と発展の歴史についても学習する。</p> <p>●授業一般目標 チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	気象学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(数理・自然・医学除く)	単位	2単位	曜時間	水曜日3・4時限
担当教員	早川誠而, 鈴木賢士				
<p>●授業概要 私たちの生活は日々の天気変化のみならず, 気象災害, 凶作, 大気環境, 気候変動などに大きく左右される。気象と気象現象に関わる基礎的な知識, 理論に加え, 新たな見地や今 日的なテーマを含めて解説し, 気象予報士試験レベルの演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 私たちの生活に関わる気象現象を身近なものとして感じ, さらには, それらをさまざまな 時間・空間スケールの現象として捉え, 物理法則の数式表現という手段を用いて理解する ことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験を行う。(2) レポートを提出する。(3) 授業内外で演習を行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお, 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: 一般気象学, 小倉義光, 東京大学出版会, 1999 年</p> <p>●メッセージ 履修希望者が 100 名を超えた場合には抽選を行うので初回に必ず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 kenjis@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 農学部 3 階 325 号室, オフィスアワー: 在室中 随時</p>					

開設科目	デザイン工学入門	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・医学・農除く)	単位	2単位	曜時間	水曜日3・4時限
担当教員	木下武志				
<p>●授業概要 現在, 様々な分野で曖昧なまま使われている「デザイン=モダン・デザイン」という語句について, 産業革命に端を発する問題解決手法としての形象化行為やその結果であり, 「芸術(アート)」とは異なる産業技術であることを理解する。実技課題(色彩・平面構成)表現実践を軸に展開し, 課題制作の上で必要となる関連分野(構成理論, 色彩学, デザイン論)の解説と連携させていくので, 体験的に内容を理解してもらいたい。</p> <p>●授業一般目標 (1) デザイン行為に求められる色彩の基礎について理解する。(2) 色彩構成・平面構成課題作成の表現技術の基礎を知る。(3) 錯視図形についての基本を理解する。(4) 平面における図学について基本を理解する。本科目は, 確かな基礎力を有するデザイン関連の職能者を目指して, 構成学およびベーシックデザインの基盤となる専門知識・技術の能力を身につける</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 授業の中で錯視図形と図学の作図を各7回行う。(2) ホームワークで平面構成と色彩構成の表現実践課題を5回作成し, 提出する。(3) 教科書の内容に関するレポートを1600字程度で作成し, 提出する。(4) 期末テストを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 美の構成学, 三井秀樹, 中公新書, 1996年 / 参考書: JAGDA 教科書 VISUAL DESIGN volume1 平面・色彩・立体構成, (社)日本グラフィックデザイナー協会教育委員会編纂, 六耀社, 1997年</p> <p>●メッセージ 設定されたレベル以上の制作物を期限内に仕上げることが肝要である。授業時間の制約から, 課題作品の制作やレポート等はホームワークとなり, 授業内では課題内容の説明や中間チェック, 講評のみとする。表現実践にポスターカラー用の彩色画材・用具一式が必要となる。</p> <p>●教員連絡先 kino1020@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

後期—初期教育系列

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	教(ノートPC未購入者)	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	鷹岡亮				
<p>●授業概要 情報活用能力を身につけるために演習や発表を行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業内で教科書を指示する。／参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。</p> <p>●メッセージ 皆さんには演習を中心に、積極的に手と頭を動かしてもらいます。連絡には授業HPを利用します。 http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/04IT</p> <p>●教員連絡先 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	山根 悟				
<p>●授業概要 パソコンの操作を基礎から応用までを修得する。Windowsの基礎、タイプ練習日本語入力、表計算ソフト(Excel)をデータ入力し、関数の使用方法やデータの分析の方法などを基礎から応用まで学習する。また、プレゼンテーション用ソフトを利用し、インターネットからの情報を取り入れ、実際に発表する。検索キーワード パソコンの基礎から応用、タイプ練習、Windows、表計算</p> <p>●授業一般目標 表計算ソフト(Excel)を使用した検定試験の模擬試験を行い、受講者全員が情報処理検定2級程度の資格を取れるように演習を行う。学生生活でも社会に入ってから役立つパソコンの操作方法を修得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 模擬検定試験を2回行い、この正確性と迅速性で評価する。プレゼンテーションの表現方法や独創性、積極性で評価点を付加する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」、浜本義彦監修、山口大学情報処理教育研究会編著</p>					

開設科目	日本事情中級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	今井新悟				
<p>●授業概要 日本の社会・文化について理解し、異文化に対して、バランスの取れた感覚をもって対応できるように、情報を集め、資料を読み、理解し、自分の意見を述べ、参加者と意見交換します。</p> <p>●授業一般目標 現代の日本事情、現代日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。山口の地域固有の文化・社会についての情報を収集し、その理解を深め、収集した資料をまとめ報告する力を身につけます。日本や自国の文化学習を通して、地球社会の多様な文化を相対的に見なす能力を培い、グローバルなコミュニケーションができる能力を養います。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、中間・期末試験、出席</p> <p>●教科書・参考書 教科書：日本事情入門、佐々木瑞枝、アルク、1995年</p> <p>●教員連絡先 共通教育棟 325号室、Tel. (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日午後 2:30～16:00</p>					

開設科目	日本事情上級I B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	門脇薫				
<p>●授業概要 日本の文化や社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面を視聴し、日本語の文法・表現についても学びます。</p> <p>●授業一般目標 *日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較し、考察する。*様々なテーマについて、日本語で自分の考えが述べられる。*映画に出てくる自然な日本語を聞き、文法・表現・言葉についての知識を増やす。</p> <p>●成績評価方法(総合) *文化・社会について知識を問うもの、日本語能力に関するものについてはテストを行う。*テーマに関することについては、レポート提出。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：*授業で、毎回タスクシートを配布します。*『映画でジャパニーズ』南雲堂フェニックス/参考書：『日本事情ハンドブック』大修館書店</p> <p>●メッセージ 映画を見ながら、日本語・日本事情の勉強をしましょう！</p> <p>●教員連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟3階 329</p>					

開設科目	日本事情上級 II B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 現代の日本社会の問題について、教科書、新聞、テレビの報道番組などを教材に日本社会の分析を行う。学習者間で意見交換を行い、各国と比較しながら、日本への理解を深めるのみならず、異文化理解を深めることを目的とする。</p> <p>●授業一般目標 1. 新聞記事を読むことができ、要旨をまとめ、各自の意見が述べられる。 2. テレビニュースを聞き取ることができる。 3. 各テーマについてディスカッションやディベートができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末のレポート、毎週のレポート (300 字程度)、プレゼンテーションで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 中・上級日本語教科書 日本への招待, 近藤安月子 丸山千歌, 東京大学出版会, 2003 年 / 参考書: 日本を話そう, 日鉄ヒューマンデベロップメント・日本外国語専門学校, The Japan Times, 2001 年; 日本事情入門, 佐々木瑞枝, アルク, 2001 年</p> <p>●教員連絡先 木曜日午後 国際センター宇部室 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-85-9037</p>					

後期一外国語教育系列（英語）

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業では、共通教育主催の TOEIC テストで 350 点の目標に到達しなかった学習者に対して、各自に TOEIC での目標を設定してもらいながら、TOEIC のどのパートに力を入れたがその人にはよいのかを勘案しながら、TOEIC テストに取り組むための、コツとそこに用いられる英語をできるだけわかりやすく説明しながら練習をする。それぞれに違った苦手や不得意のところがあるので、できるだけ学習者ひとりひとりに対してカウンセリングを行う。これは、授業外の場合も多い。それを通して、“なるほどそうか”という言葉が一言出てくれば、その学習者は必ず登り階段を登り始めたことになる。やり方によっては、いきなり、500 点以上にもなりうるので、楽しみながら学習するように授業を進めたい。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC テストで、350 点以上のスコアを獲得することを目標とする。そのために、1. 単語を 500 語以上習得する 2. 基本的な文法を課題をやることによって学ぶ。そして、履修者全員で喜びを分かち合い、励みと弾みを得て、次の目標へ向かう意欲を持つようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 8 月に行われる、共通教育主催の TOEIC テストを受験して、スコア 350 点以上取れば、「認定」となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年；特に、毎週配布した“ハンドアウト”を使用する。／参考書：市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ 本気になってください。いちばん問題なのは、就学する意欲と動機です。それが無い限り、この授業は意味がありません。単位に必要なから、などという低い志ではなく、英語を使ってコミュニケーションを実践しようという意欲を持ってください。</p> <p>●教員連絡先 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部 (昼間)・農学部 (生物機能科学科・獣医学科)・理学部 (化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 出席+課題+参加態度 (=100 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年／参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 4 5 0 点对策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 6 0 0 問, アンドレア・マイヤーズ&オリーブカンパニー, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	高橋博美				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 に重点を置いた演習を行う。 ● 授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。 ● 成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。 ● 教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。その他プリント配布。 ● メッセージ 予習と課題を必ずしてください。 ● 備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	堤 千佳子				
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業概要 この授業では、TOEIC テストのスコアを上げることが目標とし、TOEIC 準備を引き継ぎ、TOEIC 受験のノウハウを指導し、継続学習を確実なものとする。 ● 授業一般目標 (1)TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応能力を高める。(2) 自習課題を通して、Listening Comprehension に慣れるよう自学自習に努める。(3)TOEIC のスコア 350 点以上を目指す。 ● 成績評価方法 (総合) 授業回数の 1/3 以上の欠席は失格とする。TOEIC のスコアに基づき、算出する。 ● 教科書・参考書 教科書: Starting out on the TOEIC Test Listening, David A. Trevil, 成美堂, 2005 年; Score Goals in TOEIC Test 400, David E. Bramley, 松柏社, 2005 年 ● メッセージ この授業の目的をよく理解して授業に臨んでください。毎回、授業の始めにリスニングを行なうので、遅刻は厳禁です。 ● 備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	池園宏				
<p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	中村幸士郎				
<p>●授業概要 基礎文法の知識の養成とリスニングの基礎訓練を行う。学生の実力に応じた説明の仕方や授業の進め方を心がける。個人的な質問にもできる限る対応する。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得。各パートの攻略方法を確認し、ふさわしい技術を磨く。各自の弱点を知りいかに補強するかを確認しながら授業を進める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得が必須。出席率、提出物、授業への参加度を加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からよくわかる問題集－英文法、綿貫 陽、旺文社、2003 年；Steps to Success in TOEIC Listening 400, D. Bramley, 河合、松柏社、2002 年</p> <p>●メッセージ 必ず出席する。予習・復習を確実にする。各自目標を設定する。</p> <p>●教員連絡先 金曜日 16:00～17:30 研究室 (教育学部 200-2) 083-933-5424</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなんとかしようとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：固定したテキストを用いずに、プリント等の配布により授業を進める。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部 (昼間)・農学部 (生物機能科学科・獣医学科)・理学部 (化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 1. 出席+課題+参加態度 (=90 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) + その他 (10 %) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年 / 参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 450 点対策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ&オリーブカンパニー, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	高橋博美				
<p>●授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC 準備のテキスト。その他プリント配布。</p> <p>●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	渡辺 朱実				
<p>●授業概要 TOEIC 350 点未満の学部生を対象とする特訓クラスであり、受験のノウハウを指導する。特に、短い文章のリスニング力 (TOEIC part 1, 2) 及び語彙力、文法能力 (TOEIC part 5, 6) の強化に重点を置く。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC 350 点以上の獲得を目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア、出席、参加態度、等を総合的に判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基本的に、TOEIC 準備で用いたテキストを使用する。必要に応じ、プリントを配布する。／参考書：TOEIC 関連の問題集</p> <p>●メッセージ 真の英語力取得を望む学生には、日々の積み重ねこそが大切であることを自覚していただきたい。(一夜漬けならぬ短期集中型の取り組みは一瞬のものでしかない。) TOEIC は、英語力を計る一種の目安 (手段) であり、取得点数に一喜一憂せず、授業終了後も継続して努力していただきたい。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	松谷緑				
<p>●授業概要 大意把握の読解練習をしながら、語彙の習得、基本的な文法事項の整理をおこなう。あわせて、英文に慣れるようリスニングの練習をする。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC のスコアアップを目指す。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	応化	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 300 点未満ということは、ずばり真面目にやらなかった!ということに尽きるので、いかにやる気にさせるかに焦点を合わせる。出席は厳しくする。最短距離、最高速、省エネで 400 点をとれるように指導する。このクラスは毎回受講希望者が多いので、300 点とったらもう出席しないという志しの低い学生は受講しないように。第 1 回目の授業で確約をとるのでそのつもりで。27 名しか受講できない規則なので早めに申し込むこと。</p> <p>●授業一般目標 各パート毎に、自作のプリントを中心に分かりやすく攻略法を教えるので、自宅での宿題を必ずやってくる。自宅では渡すテープを主体に常に耳からの英語に慣れるよう各自工夫すること。目標:全員が 400 以上をとれるように指導する。具体的には: パート 1→70%、パート 2→50%、パート 3、4→30%、パート 5、6→30%、パート 7→40% この具体的目標を各自常に念頭におき学習すれば 400 アップが可能だ。300 とれば授業にはもう出ない!という人は受講しないように。400 とらなければ'卒業'させないぞ。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC テストで基準点(300,350,400)をとれることが最低条件。あとは、出席率を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 手作りプリント、テープ主体。ファイル形式/ 参考書: 文法に弱い人は拙著:「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」という、声による CD 講座問題集をやるのがベスト。書店、学校、生協にある。</p> <p>●メッセージ やる気になればだれでもできる。一気に 100 点、200 点上がった人は枚挙に暇がない。君だってできる! 目的の港を持たぬ船に追い風は吹かぬ!</p> <p>●教員連絡先 aki@yeswithyou.com</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満の学生を対象に、スコアを 350 点以上にすることを目的とする。7 週という短期間なのでこの授業ではリスニングパートに的を絞って、PartI(写真描写問題),PartII(応答問題),PartIII(会話問題),PartIV(説明文問題)の模擬試験を繰り返すこと、TOEIC 受験に慣れ、語彙を強化し確実にスコアアップを目指します。</p> <p>●授業一般目標 毎回実際の TOEIC と同じ形式の問題をしますが、その前にその章で使われるキーワードを学び、単語、語句の意味を確認します。語彙を強化するため確実にそれらのキーワードは覚えるようにします。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Starting Out on the TOEIC Test Listening, David A.Trevil, 成美堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ 予習、復習、出席が重要です。</p> <p>●教員連絡先 emikotg@nifty.com</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	工(夜)1年, 医・工(昼)3年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(誤文訂正問題)に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC スコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Vocabulary Building for the TOEIC Test. 古家聡、藤岡美香子著、三修社、2004 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業では、共通教育主催の TOEIC テストで 350 点の目標に到達しなかった学習者に対して、各自に TOEIC での目標を設定してもらいながら、TOEIC のどのパートに力を入れたがその人にはよいのかを勘案しながら、TOEIC テストに取り組むための、コツとそこに用いられる英語をできるだけわかりやすく説明しながら練習をする。それぞれに違った苦手や不得意のところがあるので、できるだけ学習者ひとりひとりに対してカウンセリングを行う。これは、授業外の場合も多い。それを通して、“なるほどそうか”という言葉が一言出てくれば、その学習者は必ず登り階段を登り始めたことになる。やり方によっては、いきなり、500 点以上にもなりうるので、楽しみながら学習するように授業を進めたい。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC テストで、350 点以上のスコアを獲得することを目標とする。そのために、1. 単語を 500 語以上習得する 2. 基本的な文法を課題をやることによって学ぶ。そして、履修者全員で喜びを分かち合い、励みと弾みを得て、次の目標へ向かう意欲を持つようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 10 月以降に行われる、経済学部主催の TOEIC テストを受験して、スコア 350 点以上取れば、「認定」となる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年; 特に、毎週配布した“ハンドアウト”を使用する。 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ 本気になってください。いちばん問題なのは、就学する意欲と動機です。それがない限り、この授業は意味がありません。単位に必要なから、などという低い志ではなく、英語を使ってコミュニケーションを実践しようという意欲を持ってください。</p> <p>●教員連絡先 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部(昼間)・農学部(生物機能科学科・獣医学科)・理学部(化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 出席+課題+参加態度(=90 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ)+その他(10 %) 2. TOEIC 点数(最終的にはこちらが優先します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年/ 参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 4 5 0 点对策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 6 0 0 問, アンドレア・マイヤーズ&オリーブカンパニー, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	高橋博美				
<p>●授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC のスコア(合格基準点 350 点)に基づき、算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：TOEIC 準備のテキスト。その他プリント配布。</p> <p>●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	堤 千佳子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストのスコアを上げることを目標とし、TOEIC 準備を引き継ぎ、TOEIC 受験のノウハウを指導し、継続学習を確実なものとする。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応能力を高める。(2) 自習課題を通して、Listening Comprehension に慣れるよう自学自習に努める。(3)TOEIC のスコア 350 点以上を目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業回数の 1/3 以上の欠席は失格とする。TOEIC のスコアに基づき、算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Starting out on the TOEIC Test Listening, David A. Trevli, 成美堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ この授業の目的をよく理解して授業に臨んでください。毎回、授業の始めにリスニングを行なうので、遅刻は厳禁です。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	中村幸士郎				
<p>●授業概要 授業の前半リスニングの訓練、後半基礎英文法の基礎力の養成を行う。英文法に関しては課外での予習を元に授業を進める。学生の実力に合わせて説明や進め方の工夫をする。正しい聞き取りのためには、自らの正しい音読練習も基本となるため、できる限りの音読指導も取り入れる。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得が目標であり、必須。リスニング力の向上。基礎文法力の養成。正しい音読の訓練。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得が必須。出席率、予習の度合いを加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：基礎からよくわかる問題集—英文法, 綿貫 陽, 旺文社, 2003 年; Steps to Success in TOEIC Listening 400, D. Bramley, 河合, 松柏社, 2002 年</p> <p>●教員連絡先 金曜日 16:00~17:30 研究室 (教育 200-2) 083-933-5424</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなんとかしようとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>●授業一般目標 (1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：固定したテキストを用いずに、プリント等の配布により授業を進める。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	尊田 望				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部(昼間)・農学部(生物機能科学科・獣医学科)・理学部(化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>●授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 出席+課題+参加態度(=90 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ)+その他(10 %) 2. TOEIC 点数(最終的にはこちらが優先します)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年／参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 4 5 0 点対策攻略本, Park Deuk-Woo & Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 6 0 0 問, アンドレア・マイヤーズ&オリーブカンパニー, ナガセ, 2000 年</p> <p>●メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>●教員連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	高橋博美				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEICのスコアを高めるための指導を行う。特に、パート1, 2, 5, 6に重点を置いた演習を行う。 ●授業一般目標 TOEICで350点以上の成績を取める。 ●成績評価方法(総合) TOEICのスコア(合格基準点350点)に基づき、算出する。 ●教科書・参考書 教科書: TOEIC準備のテキスト。その他プリント配布。 ●メッセージ 予習と課題を必ずしてください。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	渡辺 朱実				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 TOEIC350点未満の学部生を対象とする特訓クラスであり、受験のノウハウを指導する。特に、短い文章のリスニング力(TOEIC part 1, 2)及び語彙力、文法能力(TOEIC part 5, 6)の強化に重点を置く。 ●授業一般目標 TOEIC350点以上の獲得を目標とする。 ●成績評価方法(総合) TOEICのスコア、出席、参加態度、等を総合的に判断する。 ●教科書・参考書 教科書: 基本的に、TOEIC準備で用いたテキストを使用する。必要に応じ、プリントを配布する。／参考書: TOEIC関連の問題集 ●メッセージ 真の英語力取得を望む学生には、日々の積み重ねこそが大切であることを自覚していただきたい。(一夜漬けならぬ短期集中型の取り組みは一瞬のものでしかない。) TOEICは、英語力を計る一種の目安(手段)であり、取得点数に一喜一憂せず、授業終了後も継続して努力していただきたい。 ●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 TOEIC SCORE 400 を目指して、少しでも英語について、関心を抱くようにするための演習型授業。</p> <p>●授業一般目標 この授業を受ける前よりは、ほんのわずかでも英語というものについて自信が増すようにする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 授業態度+最終回に行うまとめのテスト</p> <p>●教科書・参考書 教科書: TOEIC Circuit Training (TOEIC 準備で用いたテキスト) を持参してください。/ 参考書: なし。</p> <p>●メッセージ どうか、辞書を忘れないでもってきてください。辞書はこの授業に乗るための「乗車券」です。</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	応化	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	山根和明				
<p>●授業概要 300 点未満ということは、ずばり真面目にやらなかった!ということに尽きるので、いかにやる気にさせるかに焦点を合わせる。出席は厳しくする。最短距離、最高速、省エネで 400 点をとれるように指導する。このクラスは毎回受講希望者が多いので、300 点とったらもう出席しないという志しの低い学生は受講しないように。第 1 回目の授業で確約をとるのでそのつもりで。27 名しか受講できない規則なので早めに申し込むこと。</p> <p>●授業一般目標 各パート毎に、自作のプリントを中心に分かりやすく攻略法を教えるので、自宅での宿題を必ずやってくる。自宅では渡すテープを主体に常に耳からの英語に慣れるよう各自工夫すること。目標:全員が 400 以上をとれるように指導する。具体的には: パート 1→70%、パート 2→50%、パート 3、4→30%、パート 5、6→30%、パート 7→40% この具体的な目標を各自常に念頭におき学習すれば 400 アップが可能だ。300 とれば授業にはもう出ない!という人は受講しないように。400 とらなければ'卒業'させないぞ。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC テストで基準点 (300,350,400) をとれることが最低条件。あとは、出席率を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 手作りプリント、テープ主体。ファイル形式/ 参考書: 文法に弱い人は拙著:「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」という、声による CD 講座問題集をやるのがベスト。書店、学校、生協にある。</p> <p>●メッセージ やる気になればだれでもできる。一気に 100 点、200 点上がった人は枚挙に暇がない。君だってできる! 目的の港を持たぬ船に追い風は吹かぬ!</p> <p>●教員連絡先 aki@yeswithyou.com</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 TOEIC350 点未満の学生を対象に、スコアを 350 点以上にすることを目的とする。この授業では TOEIC の PartI,PartII,PartV,PartVI に重点を置き、後半慣れた所で PartIII,PartVII も多少やっておく。TOEIC 形式の問題をやっていくだけでなく、語彙の強化をはかり、文法の注意点を指摘しながら基礎的な英語力を高めることも狙いとする。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC 形式のリスニングや文法・語法、リーディング問題のミニテストを行いながら、毎回「重要語彙チェック」や文法の再確認をしていくことで TOEIC テストに慣れるとともに、英語の基礎的な知識の強化を図る。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Word Master Approach for the TOEIC Test, Chizuko Tsumatori, 成美堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ 予習、復習、出席が重要です。</p> <p>●教員連絡先 emikotg@nifty.com</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	工 (夜) 1 年, 医・工 (昼) 3 年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限 (夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Word Master Approach for the TOEIC Test. 松井こずえ、戸辺紀子著、成美堂、2005 年 参考書：TOEIC Test 英文法出るとこだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英文法の基礎を身に付け、リーディングのスコアを向上させよう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	岩部浩三				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	伊豆大和				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	島越郎				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 人文学部 6 1 1 eshima@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	高橋俊章				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回) 単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	鴨川 啓信				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回) 単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	太田聡				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回) 単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文 619</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回) 単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	猫田和明				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合） 文法テストが 1400 点（14 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	中村幸士郎				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合） 文法テストが 1400 点（14 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●メッセージ 何事も時々原点に立ち返り基礎から見直すことが肝要です。各自目標を立て頑張りましょう。この授業は文法中心ですが常に発声練習を心がけてください。</p> <p>●教員連絡先 火曜日 16:00~17:30 研究室：教育 200-2、電話 933-5424</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●メッセージ 予習を前提として授業を進める。辞書は必ず持参すること。</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 電話：933-5425 火曜日 16:00-17:30</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	武井 暁子				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合） 文法テストが 1400 点（14 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教員	矢野紀子				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法（総合） 文法テストが 1400 点（14 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	2年生	単位	1単位	曜時間	火曜日 5・6時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	2年生	単位	1単位	曜時間	火曜日 5・6時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	2年	単位	1単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 教育学部 200 - (1) 石井研究室 オフィスアワーは初回授業時に指示。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	2年	単位	1単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 教育学部 200 - (1) 石井研究室 オフィスアワーは初回授業に指示。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工(昼・夜) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工(昼・夜) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	2年生	単位	1単位	曜時間	火曜日5・6時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	2年生	単位	1単位	曜時間	火曜日5・6時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	2年	単位	1単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 教育学部 200 - (1) 石井研究室 オフィスアワーは初回授業時に指示。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	2年	単位	1単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教員	石井由理				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7回) 単語テストが 200 点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 教育学部 200 - (1) 石井研究室 オフィスアワーは初回授業に指示。</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工3年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工3年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です（シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します）。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 700 点(7 回) 単語テストが 200 点(5 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員					
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	FARRAR, DAVID HANSON				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	HICKS, CRAIG ROBERT				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	金曜日 7・8 時限
担当教員	FARRAR, DAVID HANSON				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)1年, 医・工(昼)2年	単位	2 単位	曜時間	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	KAMAR, Katherine				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	渡辺朱実				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	HICKS, CRAIG ROBERT				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	Jim, Rebstock				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	尊田望				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	渡辺朱実				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	CHRIST, Alan Robert				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	HICKS, CRAIG ROBERT				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	KAMEL, MAURICE				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	Jim, Rebstock				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	KAMEL, MAURICE				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	CHRIST, Alan Robert				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	Jim, Rebstock				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	KAMEL, MAURICE				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	GARDNER, Stephen				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.comでのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	池園宏				
<p>●授業概要 TOEIC400点未満の学生を対象に、英語の長文読解力・表現力の養成に力を入れる授業にする。</p> <p>●授業一般目標 やや長い英文を既習の文法力・表現力を復習しながら読んでいく。学生は必ず毎回1時間程度の予習をすることを要求される。またリスニングの小テストも実施する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験 90% 出席率 10% 欠席は3回までとする</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 21世紀の健康・福祉・環境, B.Allen, 他, 成美堂, 2005年 / 参考書: 授業中に指示する。</p> <p>●メッセージ コツコツがんばってください。</p> <p>●教員連絡先 宇部フロンティア大学短期大学部英語学研究室 E-mail:maede@ube-c.ac.jp</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時間	火曜日7・8時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 この授業は、TOEICテストで400点を超えなかった人を対象に行います。したがって、400点以上をスコアすることを目標にします。TOEICテストは、本当のところは、学習者の英語力を測るツールですから、テスト自体が目標にはなりません。その誤解がないようにしてください。さまざまな観点から英語を浴びることが、TOEICテストスコアを伸ばす秘訣です。TOEICテストはコミュニケーションのためのテストですから、コミュニケーションを真剣に考えない限り成り立ちません。コミュニケーションをすることがどんなに楽しいことかを考えてください。しかし、授業では、そうしたことをも含めてTOEICテストの問題を主として扱います。それにじっくりと取り組みます。英語の映画も見ることあると思います。コミュニケーションの道具として用いる英語の力を付けてしまえばあとはずんずん英語は上手になるはず。その上達ぶりをTOEICテストで測るのです。</p> <p>●授業一般目標 ・勉強の目標を立てる（ここでは、TOEICテストで何点スコアするか、各パートごとに目標を設定する）。・ネイティブの発話する1分間約150語から、トピックは何かを聞き取れるようになる。また、トピックにまつわる情報は何かを少しでも多く収集できるようになる。全部聞き取れなくても構わない。・実用文を読んで、情報がどこにあるのか、情報をどう推察するのか、がわかるようになる。まだ、読んで全部読み取れなくても構わない。・単語を教科書に基づいて1000語覚える。・文法の基本的なところを課題とともに学習する。そして、英文法の基本をマスターする。・TOEICテスト（模擬）問題以外でも英語に触れる機会を日常的に増す。</p> <p>●成績評価方法（総合） 1. 出席——課題ノート・その他の課題提出で数える。4回以上の未提出は不可とする。2. 自分のいちばん新しい持ち点より最低50点上昇すること、それがなければ評価しない。（50～、100～、150～の上昇で、可、良、優とするが、1.の条件が満たされたときに限る。）</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test, M. Miyazaki, Seibido, 2005年；文栄堂で販売</p> <p>●メッセージ 授業の第1回目に、最新のTOEICテストスコアを申請してください。</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時間	火曜日7・8時限
担当教員	河野庸二				
<p>●授業概要 この授業ではTOEIC400点未満の人で400点以上を狙うレベルの者を受講の対象とする。したがって、リスニングおよびリーディング阿稜塾呂鮎 个垢海箸鮫奥楯 箸垢襪膳 好箸鮎藩僕垢襪 ▲卍蒞^レ 欧防戮鵠昔 寰蠅鮪未靴討修谿奮阿竜伺宗福瓮券▲螢鴉巫▲好圈璽 鴉巫砲鬚眇 个靴討い 当然授業は演習形式中心であり、講義は主として一般教養、異文化理解を深めるため適宜取り入れる程度である。積極的な授業への参加、特に発表、質問が奨励される。</p> <p>●授業一般目標 シェイクスピアやビートルズ、さらにはハリー・ポッターを生み出した国でありながら、アメリカに比べると、意外なほど知られていないイギリスに焦点を当てて、さまざまな角度から、その文化面、社会事情面を探る。各レッスンを構成するエッセイはいずれも興味津々たる内容である。エッセイ欧料宛案防依気譴仁 寰蠅鮪未靴同儻譴了裕伺修魄猶討い 燭あH 修鮑能纏襪垢襪里如△秦任陵十 冒肝呂鮪躑い任矇靴あ</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験はいわば平素の学習の成果をフルに発揮すべきときであるから、成績評価において最も重視されて当然であろう。しかし、私の評価方法は、あくまでも、それに併せて出欠、発表、授業中の態度等を加味した総合評価である。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Spotlight on Britain (イギリスを探る), テリー・オブライエン他, 南雲堂, 2004年 / 参考書：外国語学習に関する古典中の古典というべき本（または文章）がいくつかある。杉田玄白著『蘭学事始』（岩波文庫）と福澤諭吉著『福翁自伝』（旺文社文庫その他）のなかの「塾生の勉強ぶり」の章がそれである。ぜひ一読してほしい。</p> <p>●メッセージ 学生が遅刻することなく皆勤することは基本的な生活習慣のなかでも最も基本的なことといえます。まずそのことを実行してほしい。</p> <p>●教員連絡先 個人的に質問があれば、授業終了後にでも申し出てほしい。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工3年	単位	2単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	内海 俊祐				
<p>●授業概要 TOEIC受験に有益となるように英語のリスニングとリーディングの方法論を中心に授業を展開する。英語特有の音の法則を解説し、関連する音のディクテーションを行うことによって英語の音声に慣れてもらう。また、平易な文章を速読する指導を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1) 英語特有の音の連結や脱落の法則を理解すること。(2) 日本語に訳すことなく英文を理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率(20%)レポート・小テスト(20%)定期試験(60%)を点数化し総合評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Hot Beat Listening Book 2, 熊井信弘 他, マクミラン ランゲージハウス, 2003年</p> <p>●メッセージ 紙の辞書または電子辞書に係らず、自分にあった辞書を使いこなすことに心がけてください。なお、試験は辞書持込可とします。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 この授業では英語でコミュニケーションを図る際に必要とされる本格的なリスニング力や読解力を養う授業を行う。英語による写真説明、応答や会話を聞き、内容を正しく判断する力を身に付けさせる。また、英語の文法理解を深めると共に、語彙を拡大させる。さらに、英文の速読直解力を向上させる。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法を理解すると共に、ネイティブによる会話、応答、写真描写の説明を聞き、英語が使われている状況を正しく判断できる。英文の音読及び速読直解を通し、実践的コミュニケーション能力が高まる。この授業では、TOEICテストの400点以上に相当する英語力を身に付けることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験は中間及び期末の2回実施する。授業の中で小テストを2回実施する。レポートを1回課す。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Get Ready for the TOEIC Test. 松岡 昇著、金星堂、2005年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003年</p> <p>●メッセージ ・受講にあたり、自分の持つTOEICスコアを提示すること。・TOEICテストですでに400点以上をマークしている学生の受講は原則として認めない。・成績評価は「成績評価方法(総合)」欄で記したことの他、与えられた課題を学習し終え、かつ次の条件の一つを満足させた受講生を合格とする。 1. 期間中に受験したTOEICでスコア400点以上を取る。 2. 自己スコアの伸び50点以上を記録する。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	猫田和明				
<p>●授業概要 リーディングの授業ではあるが、Pre-Reading 活動として、その日に読む内容に関連したスピーキング活動を行う。Reading で内容を理解した後、その内容についての質問に答えたり、逆に問題を作ったりする。最後に、簡単な文法練習や和文英訳を行う。</p> <p>●授業一般目標 テンポよく英文を読んで理解できるような読解力を養うとともに、関連する内容について自分意見を話す力や正しい文を書くための基礎的な文法力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 普段の授業への参加の様子、課題の状況、定期試験によって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Reading Cool, 中林恵一ほか, 三修社, 2004 年</p> <p>●教員連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 リーディング能力を養うとともに、21世紀の人類が抱える様々な問題について考える。</p> <p>●授業一般目標 英文を通して論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につけ、現代世界への問題意識を育む。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は出席率・授業発表・期末試験等を総合して行なう。(出席率を重視する。5回以上欠席したら単位は認定しない。遅刻3回を欠席1回とみなす。指名して予習不十分と判明した場合はマイナス評価する。授業中の自発発表はプラス評価する。期末試験を行なう。小テストを行なった場合はそれをも成績評価に加味する。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Frontiers in Science, Yvonne Stapp, 成美堂, 2001 年</p> <p>●メッセージ 予習を前提として授業を進める。辞書は必ず持参すること。</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 増田: 933-5425 火曜日 16:00-17:30</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教員	鴨川 啓信				
<p>●授業概要 Daniel Keyes の "Flowers for Algernon" の中篇版を読む。有名な(少なくともタイトルは聞いたことがあると思う)この物語は、ストーリーの面白さだけでなく、文章表現の面からも興味深いものである。翻訳版ではどうしても異なってしまう部分に注意しながら、原文でその物語を読んでいく。</p> <p>●授業一般目標 一つのまとまった物語を英語で読むことにより、語学力の向上と同時に、自分の英語力に自信を持つことを目指す。また何より、物語を楽しむことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業参加度+小テスト+定期試験、で評価する。それぞれの点数配分の詳細は、授業内で提示する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Flowers for Algernon (『<原書で愉しむ>アルジャーノンに花束を』), Keyes, Daniel, 研究社出版, 1993 年 / 参考書: 心の鏡, ダニエル・キイス, 早川書房, 1999 年</p> <p>●教員連絡先 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教員	岡 紘一郎				
<p>●授業概要 ミステリーの短編を読み、筋の展開を楽しみながら、精読、大意の要約等読解力を養成する。テープを聴いて、耳からも理解する。</p> <p>●授業一般目標 精読、大意要約、行間を読む等、読解力を高める。文法の力をつける。リスニング力を高める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、出席率、授業への参加度、適宜行うミニテスト等で総合的に評価する。出席日数が所定に達しなければ、受験できない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Short Detective Stories from Agatha Christie (III), K.Koga ed., 太陽社, 2003 年 / 参考書: 授業中に紹介</p> <p>●メッセージ できるだけ大きい辞書を使って十分に予習をして授業に臨むこと</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	前出泰司				
<p>●授業概要 リーディング能力を養成することを目的とする。特にできるだけ速く英文を読み、その意味が理解できるようになることに重点を置く。また英文法の知識の復習も行う。</p> <p>●授業一般目標 やや長い英文を既習の文法力・表現力を復習しながら読んでいく。学生は必ず毎回1時間程度の予習をすることを要求される。宿題は毎回課す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験90% 出席率10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：リーディングスキルの実践演習, Neil J. Anderson, 成美堂, 2005年 / 参考書：授業中に指示する</p> <p>●メッセージ コツコツ頑張りましょう。</p> <p>●教員連絡先 宇部フロンティア大学短期大学部英語学研究室 E-mail:maede@ube-c.ac.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	田中晉				
<p>●授業概要 現代イギリス演劇を代表するテレンス・ラティガンの傑作『ブラウニング版』を読む。パブリック・スクールに一生を勤めた立派な古典学者の哀愁に満ちた生涯を、生徒との触れ合いに おいて如実に描き出した作品である。英国パブリック・スクールの生活なども学ぶことができ 興味深い。せりふは俗語の少ない平易明快な英語で書かれているので、口語表現を学ぼうえでも 役立つであろう。</p> <p>●授業一般目標 戯曲においては、すべてが登場人物の会話によって進行するのであるから、立体的な読み方が読者に要求されることになる。英語の学習と共に、行間にひそむ人間関係、最も日常的な表現の奥に 登場人物の心理を見る目を養うことを目指す。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。全授業を通じ出席が2/3を下回るものは受験資格なし。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：The Browning Version, 荒井・五島注解, 成美堂, 1995年</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	武井暁子				
<p>●授業概要 イギリス社会、文化について書かれた文章を読む</p> <p>●授業一般目標 1. パラグラフリーディングのスキル習得 2. 文法、語彙習得 3. リスニング・ライティング力習得 4. 英英辞典使用に慣れる</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験+小テスト</p> <p>●教科書・参考書 教科書: UK Made Easy, , 三修社/ 参考書: 英英辞典を持参のこと</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	宮崎充保				
<p>●授業概要 読むこともコミュニケーションです。この授業ではそのつもりで、英語を読むということがどういうコミュニケーションであるか、そのためには、英語をどのように読んだらよいか、読めるようになるためにはどのようにしたらよいかを扱います。読むことは、決して暗い孤独な行為ではないこと、読めば自分の外的世界、内面の世界が広がる楽しみがあることを体験する授業を考えます。そして、その楽しみを、プレゼンテーションという形式を取って参加者に知らせます。プレゼンテーションは読む人の世界の広がりを示してくれます。そして、グループで議論をして、学生中心の授業形態を取ります。</p> <p>●授業一般目標 ・読むための語彙力をつける。 ・読むための文構造の理解を深める。 ・和訳を通さずに読む習慣を付ける。 ・プレゼンテーションの仕方を知る。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・プレゼンテーション・ハンドアウトの評価 ・授業への参加度 ・出席——4回以上欠席したら不可とする ・学期試験</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Chicken Soup for the Soul, Canfield, J. & Hansen, M.V., Health Communications, Inc., 1993 年</p> <p>●メッセージ ・英英辞典を多用してください。 ・中途半端に受講する人はこの授業は遠慮してください。</p> <p>●教員連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	岡 紘一郎				
<p>●授業概要 ミステリーの短編を読み、筋の展開を楽しみながら、精読、大意の要約等読解力を養成する。テープを聴いて、耳からも理解する。</p> <p>●授業一般目標 精読、大意要約、行間を読む等、読解力を高める。文法の力をつける。リスニング力を高める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、出席率、授業への参加度、適宜行うミニテスト等で総合的に判断する。出席日数が所定に達しなければ、受験できない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： Short Detective Stories from Agatha Christie (III), K.Koga ed., Taiyosha, 2003 年／参考書： 授業中に紹介</p> <p>●メッセージ できるだけ大きい辞書を使って十分に予習をして授業に臨むこと。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	矢野 紀子				
<p>●授業概要 授業では、テキスト「10-Minute Speed Reading」を取り上げ、会話文からエッセイ、論説文とさまざまなタイプの英文を読んでゆく。</p> <p>●授業一般目標 TOEIC のリーディングパートにも対応できるよう、英文の段落の要旨をつかみ、答えを導くために必要な情報を、できるだけ早く正確にとらえる読みのスキルを習得してゆく。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・毎回の小テスト、中間試験、期末試験の点数を総計し、割り出した全体評価。 ・全講義回数の三分の一以上、欠席した学生の成績は不可。 ・欠席回数は、一回につき 0.1 の減点対象とし、後期試験の点数にかけあわせる。(例えば、一回欠席した場合は後期試験の点数×0.9、二回欠席した場合は後期試験の点数×0.8)</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 10-Minute Speed Reading Level 2, 石井 正仁, 桐原 書店 (文), 2004 年</p> <p>●メッセージ 英語の読みの基礎から応用へと、段階的に上がってゆけるよう構成されたテキストを中心にとりあげ、随時、TOEIC のリーディング対策の問題も扱ってゆきます。リーディングの基礎力を強化したい学生に対応する授業です。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	谷國 晶洋				
<p>●授業概要 イギリスの社会のしくみや生活・文化について書かれたエッセイを題材に、精密な英文読解を行う。</p> <p>●授業一般目標 英文講読を通して読解力を高めるとともに、イギリス社会に対する認識を深めながら日本との比較を通しての異文化理解を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業への参加度(出席 2/3 以上・発表点)及び、定期試験による総合評価。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: The Unchanging Face of Great Britain., Christopher Belton 他, 金星堂, 2005 年</p> <p>●メッセージ 辞書をしっかり引いて、予習を十分にしておいて下さい。</p> <p>●教員連絡先 blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	谷國 晶洋				
<p>●授業概要 自然環境と人間との関係について、身近な問題から地球規模の問題について書かれた エッセイを題材に、精密な英文読解を行う。</p> <p>●授業一般目標 英文講読を通して読解力を高めるとともに、環境問題についての論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につける。また、ネイチャーライティングへの入門としたい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業への参加度(出席 2 / 3 以上・発表点)及び、定期試験による総合評価。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Voices of the Earth.: Stories of People, Place and Nature., Bruce Allen, 松柏社, 1998 年</p> <p>●メッセージ 辞書をしっかり引いて、予習を十分にしておいて下さい。</p> <p>●教員連絡先 blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	細木孝雄				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 日常生活やビジネスで使用される文法や語彙を学習し、それらをリーディングに生かして英語運用力を高める。 ●授業一般目標 TOEIC 形式の問題に触れながら速読速解を行う。 ●成績評価方法(総合) 授業への積極的参加(10%)、課題提出(30%)、試験(60%)により総合的に評価する。 ●教科書・参考書 教科書: TOEIC のためのリーディング演習(金星堂)北尾謙治 S. Kathleen Kitao ●メッセージ 英語を「自分で学ぶ姿勢」を身につけるのに役立つ授業です。英和辞典必携。 					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教員	松田 理				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 本授業では A.Huxley の短編小説をとりあげ、英文解釈を通して論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につけるための訓練を行う。 ●授業一般目標 人間理解や異文化理解のための読解力と論理性を身につけ、感受性を鋭くする。 ●成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。また担当を割り当てられているにもかかわらず無断で当日欠席した場合も不可となる。演習20%、期末試験80%の割合で評価する。 ●教科書・参考書 教科書: Modern British and American Short Stories, 岩本、横山, 成美堂; 文栄堂で販売 ●メッセージ 毎回出席をとる。私語は許さない。 					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	岡本嶺男				
<p>●授業概要 TOEIC500点をめざす 適切な自己表現ができるよう英語による文章作成能力を養成する</p> <p>●授業一般目標 ・パラグラフの構造を理解する ・トピックセンテンスとサポーティングセンテンスを理解させる ・内容的に一貫性のある英文を書く演習をする</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 授業中での小テスト (2) 期末テスト (3) 宿題の作文 (4) 欠席4回以上は単位を与えない</p> <p>●教科書・参考書 教科書: On Your Way to Paragraph Writing, Mitsuo Hashimoto, 朝日出版</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	増田勉				
<p>●授業概要 できるだけ自然な英語で文を書く力を養う。私たちの書く英語が日本語に干渉されないためのコツを学ぶ。英文を書く場合、ことばの規則である文法をまずよく理解することが必須条件である、と同時に、ことばの背後にある概念または発想や、ことばの持つ実的な機能を知らなければならない。その辺の知識とノウハウを培う。教科書は、例文と説明のあとに練習問題が多数付いている。例文と説明は自宅で予習してきて、授業では練習問題を解くことに重点を置きたい。また、練習問題の一部を自宅用宿題として課すことも考えている。</p> <p>●授業一般目標 自然な英語での表現力を養うことに尽きる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績評価は出席率・授業発表・宿題評価・期末試験等を総合して行なう。(出席率を重視する。4回以上欠席したら単位は認定しない。遅刻・早退3回を欠席1回とみなす。宿題を1回未提出であれば2/3回欠席とし欠席回数に加算する。指名して予習不十分と判明した場合はマイナス評価する。授業中の自発発表はプラス評価する。期末試験を行なう。小テストを行なった場合はそれをも成績評価に加味する。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Focus on Modern English Writing, J. B. Jones, T. J. Wright, 長谷川潔, 成美堂, 1986年</p> <p>●メッセージ 予習を前提として授業を進める。辞書は必ず持参すること。</p> <p>●教員連絡先 教育学部増田研究室 増田: 933-5425 火曜日 16:00-17:30</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	高橋俊章				
<p>●授業概要 授業は演習形式で行う。毎週10～20個程度の短い英文（単文レベル）を書く（正確な英文を書く練習）。また、20問程度の文法問題（作文などで学生が間違いやすい問題など）の練習を行う。受講者の人数が15人以下の場合には、パラグラフ・ライティングの練習も行う。</p> <p>●授業一般目標 TOEICの500点以上を狙うレベル。適切な英語で自己表現することができるよう、文章作成能力の養成を目的とする。</p> <p>●教員連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	正宗聡				
<p>●授業概要 ニュースの英語を用いながら、普段、われわれには馴染みのない単語・熟語を覚えるとともに、それらを使うようにする。</p> <p>●授業一般目標 単語・熟語・文化的な事柄について知り、覚えながら慣れる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業態度+定期試験</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを配布しますのでバインダーで閉じておいてください。／参考書：なし</p> <p>●メッセージ なし</p> <p>●教員連絡先 未定</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日9・10時限
担当教員	JOHNSONJUDITHANN				
<p>●授業一般目標 1) Students will understand the basics of making a clear and well-organized presentation. 2) Students contribute creatively and regularly, in English, to collaborative in-class activities. 3) Students will use the necessary knowledge, skills and confidence to design and make a clear and well-organized presentation on a science or technical topic, in English.</p> <p>●成績評価方法(総合) In-class participation; Individual and group assignments; Oral presentations</p> <p>●メッセージ Bring your dictionary to EVERY CLASS. Anyone with more than 3 absences WILL NOT pass this course.</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2単位	曜時限	金曜日3・4時限
担当教員	前田満				
<p>●授業概要 この授業は TOEIC テストで高得点を取得することを目指す授業です。より多くの実践的な問題にあたり、英語の表現・文法事項などをしっかり習得していただくことにより、学生諸君の立てた目標点に達するよう指導していきたいと思います。TOEIC 準備では、おもに「TOEIC テストに慣れる」ということがテーマでしたが、この授業では、むしろ、TOEIC テストの問題などを通じて学生諸君に確かな英語力を身につけていただきます。</p> <p>●授業一般目標 (1) 学生諸君が個別に立てた TOEIC テストの目標点をクリアする。(2) 目標点に相応した英語力を身につける。 ・リスニングの能力を涵養し、口語英語についての十分な知識を習得する。 ・英文法の基本事項を確認し、さらに高いレベルの英文法の知識を習得する。 ・英語長文の速読力を高める。(3) 自ら学ぶという姿勢を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 演習という授業の性格上、出席および授業・課題への取り組みをとくに重視する。また、授業内で行う実力テスト、小テストの点数を成績評価に加味する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 固定したテキストを用いず、プリント等の配布により授業を進める。</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限				
担当教員	Higgins, Michael Leo								
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1 号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限				
担当教員									
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	GARDNER, Stephen				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	HICKS, CRAIG ROBERT				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>					

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)1年, 医・工2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	Maurice Kamel				
<p>●授業概要 This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson & Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p>					

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限		水曜日 3・4 時限			
担当教員	Higgins, Michael Leo								
<p>●授業概要 This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson & Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限		水曜日 7・8 時限			
担当教員	GARDNER, Stephen								
<p>●授業概要 This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson & Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年	単位	2単位	曜時限	月曜日3・4時限
担当教員	Higgins, Michael Leo				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of between 300-395. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English New Book One, by Johnson & Higgins Sound Approach Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p>●教員連絡先 My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 309 in the 研究1号館.</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員					
<p>●授業概要 社会の経済的基礎部分を対象に、その基本的分配ルールについて考える。読む本はジョン・ロールズの『正義論』である。1年間でこの本の Chapter 1. Justice as Fairness を読了することを目標とする。この部分を読むことによって、我々の社会においてなぜ分配ルールが必要なのか、それは何を対象とするのか、それはどのような内容となるか、に関する有益な理解の一つを得ることができるであろう。</p> <p>●授業一般目標 社会の経済的基礎部分を対象に、その基本的分配ルールについて考える。読む本はジョン・ロールズの『正義論』である。1年間でこの本の Chapter 1. Justice as Fairness を読了することを目標とする。この部分を読むことによって、我々の社会においてなぜ分配ルールが必要なのか、それは何を対象とするのか、それはどのような内容となるか、に関する有益な理解の一つを得ることができるであろう。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、毎回の翻訳の提出、授業時の理解、の三つによって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: テキスト及び参考書等 John Rawls, A Theory of Justice, Harvard University Press, 1971 (同著の一部をコピーして使う。)</p> <p>●教員連絡先 水曜日1:30-3:00 A棟4階424号室 (ただし、他の時間でもかまわない。毎日研究室に来ているので、都合のよいときに来室されたい。) If you would like to ask questions by e-mail, please send them to ht@yamaguchi-u.ac.jp. Homepage:http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	澤喜司郎				
<p>●授業概要 国際関係をテーマにとりあげます。キーワードは文明、宗教、アメリカ、戦争、テロ、軍需産業などです。</p> <p>●授業一般目標 国際関係における諸問題に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価は出席(20点)、授業態度(40点)、学期末試験(40点)によって行います。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Addicted to War: Why the U.S. Can't Kick Militarism, Joel Andreas, AK PRESS, 1993年</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	尹春志				
<p>●授業概要 経済のグローバル化のなかで進行する産業構造の再編についての基礎知識と基本概念について修得する。</p> <p>●授業一般目標 学術英語の読解能力をみにつける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Peter Dicken, Global Shift: Reshaping the Global Economic Map in the 21st Century (4th edition), SAGE, 2003. からのコピーを配布する。</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	石龍潭				
<p>●授業概要 1. テーマ この授業は、主に読みやすい英語文献を通して、参加者の皆さんに英語力を養ってもらうことを目的とする。テーマは日本から世界までの政治、経済、法律関係の諸問題を広範囲に扱う。2. 授業計画 具体的には、上記諸関係の英語文献を活用して、共同学習・研究を行う。取り上げる文献は、基本的に教官が用意したものから、参加者が教官と相談の上、選定する。しかし、特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する。なお、授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明する。3. テキスト こちらで用意してその都度配布する。4. 関連授業科目 行政法I、行政法II、日本国憲法。5. 成績評価の方法 出席(15%)、勉学意欲(15%)、筆記試験(70%)。6. 履修上の注意 やる気のない方は、来なくても良い。7. オフィスアワー・その他 水曜日・金曜日の午後以外は研究室にいますので、質問等のある学生は、上記以外の時間にきてください。(研究室・A棟4階 408号室)</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	山田正雄				
<p>●授業概要 英語で経済を学ぶ。 ●授業一般目標 英語で書かれた経済に関する記事、文献などを理解する。 ●成績評価方法(総合) 授業中の発表70%、レポート30%。出席は欠格条件であり、7割以上の出席がなければ単位を認めない。 ●メッセージ 必ず予習をしてきてください。</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	有村貞則				
<p>●授業概要 英文テキストの翻訳作業および解説を通して、最近の経営学の世界で注目を集めているビジネス・モデル、すなわち「お金を稼ぐ仕組み」について理解を深めたいと思います。また、その応用として、各自もしくは各グループで、関心のある企業のビジネスモデルを調査してもらいたいと思います。</p> <p>●授業一般目標 1. ビジネスモデルについての理解 2. ビジネスモデルのケーススタディ 3. 基本的な英文を理解すること。 4. 経営学に関する英語専門用語の修得</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、発表、期末テスト</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Business Model, Allan Afuah, Irwin McGraw Hill, 2004年</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	藤田健				
<p>●授業概要 マーケティング、企業経営に関する英文を精読する。</p> <p>●授業一般目標 授業の課題は、(1) 基礎的な教科書レベルの英文を読むこと、(2) マーケティングや企業経営に関する基本的な概念を学習することである。予習は必要としないが、授業時間中は集中して意欲的に学習し、しっかり復習する必要がある。毎回の授業の前半は、出席者に配布プリントの英文和訳をしてもらう。その際、辞書や文法書等を自由に利用してもよい。後半は担当教員が解答、解説を行う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト(1回30%*2回=60%)、最終レポート(40%)、8割以上の出席を必要とする</p> <p>●メッセージ 全員、辞書(電子辞書可)を毎回持参すること。必要であれば、英文法の参考書等を持ち込んでも良い。</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	藤原貞雄				
<p>●授業概要 前期は、経済記事や経済論文の基本的な英語表現について学んだので、後期については、少し高度な経済記事や経済論文を英語で読む。</p> <p>●授業一般目標 前期よりは長めの経済記事や経済論文を読んで、理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回の試験の成績を8割程度の割合で成績評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。問題用紙を配布する</p> <p>●メッセージ 辞書(電子辞書)持参のこと。翻訳機(パソコン等)不可。</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	一ノ澤直人				
<p>●授業概要 法に関するテーマについて、あるいは、様々な社会経済問題について、英字論文や入門的なテキスト、新聞記事を読むことで、そこにある諸問題について、法的な思考によって一緒に考えていくこととしたい。</p> <p>●授業一般目標 本講のねらいとしては、法に関わる基礎的な英文知識を身につけると同時に、法的思考になじむことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 講義の出席状況、参加度、ワークシート、レポート等により総合的に評価することを考えている。評価方法の詳細については、最初の講義時に説明する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：講義時に配布予定。辞書・六法は各自の使いやすいものを用意のこと。</p> <p>●メッセージ 法的問題について、いろいろ考えてみたいと思っている人が望ましい。積極的な参加を希望する。またこの講義への要望等を最初の講義までに整理しておいて下さい。</p> <p>●教員連絡先 オフィスアワーその他、講義時に連絡。</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	濱島清史				
<p>●授業概要 ・経済問題・経済学に関する基本的な専門用語を習得しつつ、それに関する英文読解能力を向上させつつ、経済諸問題の知識を広め、深めることを目的とする。 ・毎回CD付きの教材を用いるので、経済英語のヒアリング能力も高まることを期待する。 ・英文読解能力を向上させるには主に2通りの方法がある。精読 (intensive reading) と多読 (extensive reading) である。 ・精読とは、文法や単語の正確な意味を調べて、逐語訳することをいう。畢竟、時間内にやる文章量は限られる。(じっくり読みこなせ!奥深い認識が得られよう。) ・多読とは、文法や単語で多少わからないところがあってもよいから、できるだけ多くの文章を読みこなしていくやり方である。(とにかく読め!どんどん読んでいけ!) ・本講義では、この2つのやり方を併用しつつ、下記のような内容の英文読解能力向上と経済問題に関する知識の発展を図る。</p> <p>●授業一般目標 経済社会に関連する英文読解能力の向上を図る。より具体的には、英語の専門論文や英字新聞が辞書を用いながらも読みこなしていけるようにし、もって情報ソースの幅を拡大できるようにすることである。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 成績評価方法 (総合) 試験、翻訳課題、出席。成績評価方法 (観点別) 定期試験 (中間・期末試験) 定期試験を課す。50点程度。小テスト・授業内レポート 講義の前半に小テストを行ない、後半で解答するという実践的な方法も月に一回くらいのペースで取り上げたい。10点程度。宿題・授業外レポート 既に述べたように、特に精読の分に関してはグループ分けをして、宿題を課す。10点程度。授業態度・授業への参加度 授業への参加を高めるために、毎回、出席件質問・意見票を配布して、併せて学生の理解度をチェックする。また、メモを取ることを奨励したい。人間の記憶力は曖昧なものである。メモを取るということは人間の記憶力の限界を理解しているということであり、はるかに多くの知識を定着化することができる。受講生の発表 (プレゼン) ・授業内での制作作品 精読の分の発表のほか、講読の分についても関連情報を収集させて議論を活性化したい。10点程度。出席 出席は毎回取る (20点程度)。独学で学習できるならばよいが、これまでの経験上残念ながらそのような学生は稀有である。講義に出ることによって実力が養える。ただし、真剣に取り組まないと、怠けて知力を低下させる練習をしているような学生もいるので要注意。合計 100点</p> <p>●教科書・参考書 教科書: ・NHK 国際局経済プロジェクト他 (2001) 『対訳: 英語で話す日本経済Q & A』講談社。(生協書籍部で各自購入できるようにしておく予定、CDは欲しければ各自買うこと。) ・精読用の文献は後日指示する。 / 参考書: 参考書は適宜指示する。</p> <p>●メッセージ 知識はどこまでも伸びやかで優しいものです。共に学ばん!</p> <p>●教員連絡先 : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	古賀大介				
<p>●授業概要 本講義では、さまざまな経済系の論文を読むことを通じて、経済学的センスを磨くのと同時に 英語論文の読解能力の向上を図ります。</p> <p>●授業一般目標 (1) 英語文献に対する読解力を向上させる。(2) 国際的・歴史的視点から、現在の経済・社会問題を相対的に考える力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ゼミ形式なので、基本的に出席 (意欲・態度を含む) を重視した成績評価となります。しかし、論文の読みっぱなしは、よくありません。まとめの意味を込めて、最後に試験を実施します。詳しくは、オリエンテーションの時にお話します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教科書についてはオリエンテーションの際、指示します。</p> <p>●教員連絡先 オフィスアワーは特に定めていません。研究室に電気がついていれば、いつでもどうぞ (内線 5516)</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開2

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	橋本寛				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 テーマは次の通りである。 Matrices and Linear Systems of Equations ●授業一般目標 経済学や経営学の分野で用いられる行列 (Matrix) の初歩的事項や英語表現について学ぶ。 ●成績評価方法 (総合) 出席および試験による。 ●教科書・参考書 教科書: 資料を配布する。 ●メッセージ 理解するには出席することが早道です。 ●教員連絡先 オフィスアワーを設ける予定 					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開2

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	マルク・レール				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 前期の経済英語に引き続き、テーマは米国テレビ・シリーズに見る経済英語である。 ●授業一般目標 米国のテレビ・シリーズを見て分析することによって、英語のビジネス専門用語に強くなる。 ●成績評価方法 (総合) 出席 (欠格条件)、グループ発表 (欠格条件)、レポート (100%)。 ●メッセージ 授業で主にビデオを教材として使うので、英語の読み取り能力のほかに、聞き取り能力も必要。 ●教員連絡先 loehr@yamaguchi-u.ac.jp 					

開設科目	経済英語2	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経3年	単位	2単位	曜時限	木曜日9・10時限
担当教員	武本ティモシー				
<p>●授業概要 テーマは、話題提供として次の三つのテーマについての英文を予習として読んでいただき、授業中これらの話題について英語で話し合うこととする。1) 政治経済 2) 本文化におけるジェンダーと権力の関わり</p> <p>●授業一般目標 授業の目的は、上述した話題についての語彙・表現を学習しながら、これらの話題についての意見・知識(身近なことでも)を発信できる能力を身に付けることである。</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績評価の方法: テキストの理解をオンライン解読テストによって評価する(33%) 授業中の参加・コミュニケーション能力を特典カードによって評価する。(33%) 筆記及び選択肢的学期末試験(33%)</p> <p>●メッセージ ウェイト・トレーニングをやって筋肉が多少痛くならなければ強くなりません。本授業でも自分の恥ずかしさを乗り越え、日本語で構成されている頭の中から英語らしい表現を吐き出すことは難しく、自尊心・脳みそが痛くなりますが、積極的に参加することによって得られる英語能力向上は達成感が大きいです。</p> <p>●教員連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済4階玄関上 山口大学HPの「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	医学英語1 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学2年	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教員	谷田憲俊				
<p>●授業概要 医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がり国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト・授業内レポート = 20~40% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 受講生の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20~40% 出席 = 20~40% 観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。</p> <p>●教科書・参考書 参考書: Words of Science, ; 医学英和大辞典, ;</p> <p>●メッセージ 原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典を持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。</p>					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護 (1-40, 編入学者 1-5) 3年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護 (41-, 編入学者 6-) 3年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教員	ハドロック				

●授業概要 Students will develop skills to communicate simply and effectively with non-Japanese speaking patients and family members.
 ●授業一般目標 At the end of the course, the student will be able to: I. Carry on a simple conversation in English, in pairs or small groups, about a health care/nursing practice issue II. Correctly define, spell and pronounce English terms relating to nursing and health care practice. III. Understand and translate verbal English words and phrases.
 ●成績評価方法 (総合) Written assignments 25 % Role Play performance 25 % Participation in class exercises/activities 30 % Final exam 20 %
 ●教科書・参考書 教科書: クリステーションのやさしい看護英会話, 知念クリステーション他, 医学書院/ 参考書: Any good, comprehensive, portable English-Japanese-English dictionary 辞書, paper or electronic.
 ●メッセージ Student responsibilities: 1- Since this is a course in English conversation, it is expected that students will converse, in English. Active verbal participation in the classroom is essential. 2- Brief written assignments are to be turned in by the end of class the following week. They must be legible and use correct grammar and spelling. 3- Students are expected to read the weekly lesson prior to the beginning of class each week. 抜き打ち テスト may be given at any time.
 ●教員連絡先 tana@yic.ac.jp

開設科目	医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査4年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限
担当教員	Amy Azuma				
<p>●教科書・参考書 教科書：クリスティーンのレベルアップ看護英会話, 知念クリスティーン・迫和子, 医学書院, 2001年 / 参考書：クリスティーンのレベルアップ看護英会話, 知念クリスティーン・迫和子, 医学書院, 2001年</p>					

開設科目	教養英語(再)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全3年(平成13年度以前入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教員	伊豆大和				
<p>●授業概要 メディア英語(時事英語)を演習形式で読む。 ●授業一般目標 (1)メディア英語を読むことができる。(2)ニュース・時事問題に興味を持つ。 ●成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席状況・受講態度)を加味して評価する。 ●教科書・参考書 教科書：English in the Media 2005, 大澤岳彦, 金星堂, 2005年</p>					

系列 教養外国語科目

分野 教養英語

開設科目	教養英語(再)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全3年(平成13年度以前入学者)	単位	2単位	曜時限	金曜日3・4時限
担当教員	松田 理				
<p>●授業概要 この授業ではイギリスの民話をテキストとして、伝統的文化や価値観に触れながら英文読解力及びその基礎となる文法力を身につける。</p> <p>●授業一般目標 イギリスの文化や伝統に触れながら、やや難解な英文を面白さがわかる程度に読解する力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。また担当を割り当てられているにもかかわらず無断で当日欠席した場合も不可となる。出席と予習20%、期末試験80%の割合で評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: British Folktales and Legends, Katharine Briggs, 金星堂; 文栄堂書店で販売</p> <p>●メッセージ 私語は許さない。</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	通年(後期, 前期)
対象学生	医学5年	単位	1単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	日野田裕治				
<p>●授業概要 実践的な医学英語を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 医学論文の読解などを通じて臨床および研究に関する医学英語を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、レポートによる。</p>					

後期一外国語教育系列（初習外国語）

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	田野 武夫				
<p>●授業概要 前期に引き続き、ドイツ語の学習を行う。詳細は前期のシラバスを参照。</p> <p>●授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。 また前学期でドイツ語検定4級、後期でドイツ語検定3級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%)、期末試験(50%)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Auf Deutsch! 新版 アクティブ・ドイツ語, 清水・中島, 同学社, 2004年 / 参考書: 新アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000年</p> <p>●メッセージ 楽しく且つ有益な授業です。大学生活を豊かなものにしたい人は、ドイツ語を 学びましょう。</p> <p>●教員連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	田野 武夫				
<p>●授業概要 前期に引き続き、ドイツ語の学習を行う。詳細は前期のシラバスを参照。</p> <p>●授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。 また前学期でドイツ語検定4級、後期でドイツ語検定3級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%)、期末試験(50%)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Auf Deutsch! 新版 アクティブ・ドイツ語, 清水・中島, 同学社, 2004年 / 参考書: 新アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000年</p> <p>●メッセージ 楽しく且つ有益な授業です。大学生活を豊かなものにしたい人は、ドイツ語を 学びましょう。</p> <p>●教員連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	小粥良				
<p>●授業概要 前期のドイツ語入門1から継続して、ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題)、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: アレス・クラール!, 関口一郎, 郁文堂, 2001年; 後期から受講する人は、教科書を自分で注文・購入してください。/ 参考書: 『新装版トレーニングペーパー ドイツ語 教養課程 文法中心学習2』, ニュートンプレス, 2003年; 独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。電子辞書でも可。) また、『新装版トレーニングペーパー ドイツ語 教養課程 文法中心学習2』(ニュートンプレス)は、ドリルとしてよくできているのでお勧めします。教科書の練習問題だけでは、練習量が絶対的に足りませんので、このような自習用ドリルを買って、学習の補助としてください。購入は、各自自分で、書店で注文してください。</p> <p>●メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。) また、インターネットでも、「ドイツ語」という検索語を入れてみると、たくさんドイツ語学習に関連したサイトが見つかりますよ。</p> <p>●教員連絡先 教育学部2F小粥研究室(国際理解教育資料室向かい側) 木曜日 16:00 - 17:00</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	小粥良				
<p>●授業概要 前期のドイツ語入門1から継続して、ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題)、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: フィール・シュパース, 橋本政義, 郁文堂, 2003年; 後期から受講する人は、個人で注文・購入してください。</p> <p>●メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。) また、インターネットでも、「ドイツ語」という検索語を入れてみると、たくさんドイツ語学習に関連したサイトが見つかりますよ。</p> <p>●教員連絡先 教育学部2F小粥研究室(国際理解教育資料室向かい側) 木曜日 16:00 - 17:00</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： Szenen neu 1, Shuko Sato/ Yukiko Ito, Sanshusha, 2003 年； CD 付き スシエネン 1 場面で学ぶドイツ語 Szenen neu 1 佐藤修子/伊藤佑紀子 Tokio: Sanshusha, 2003. ISBN4-384-12223-3 C1084 ¥2900E / 参考書： 授業中に紹介します。</p> <p>●教員連絡先 授業のあといつでもいいです/ dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金(0836)22-2187 山口吉田研究室：水曜日12：30時～14：00時</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	能木敬次				
<p>●授業概要 前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) 受講態度 2) 出席 3) 小テスト 4) 定期テスト 全てを考慮する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『ドイツの街の物語 - 文法とテキスト』シュテファン・イエーガー他著、三修社/ 参考書：『新アポロン独和辞典』根本他著、周学社(辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	野口達人				
<p>●授業概要 本授業ではドイツ語を読み、書き、話し、聞く基礎的な運用能力を養成する。そのために、基本的な文法事項を説明し、聞き取り練習、パートナー練習、作文練習、読解練習などを課す。</p> <p>●授業一般目標 話法の助動詞、分離動詞、現在完了などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに基本単語・表現を習得して、簡単な日常会話ができ、簡単な文を読み、書くことができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)各課ごとに宿題の提出を課す。(3)授業の中で各課ごとの小テストを行う。(4)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!、西村佑子、Rudolf Petrik、朝日出版社、2004年；販売店：文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	能木敬次				
<p>●授業概要 前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことにより会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p>●成績評価方法(総合) 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮に入れる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『ドイツ語の翼にのって』(改訂版)友田孝興著、白水社 三修社/ 参考書：『新アポロン独和辞典』根本道也他著、同学社(辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	野口達人				
<p>●授業概要 本授業ではドイツ語を読み、書き、話し、聞く基礎的な運用能力を養成する。そのために、基本的な文法事項を説明し、聞き取り練習、パートナー練習、作文練習、読解練習などを課す。</p> <p>●授業一般目標 話法の助動詞、分離動詞、現在完了などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに基本単語・表現を習得して、簡単な日常会話ができ、簡単な文を読み、書くことができるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) (1) 各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2) 各課ごとに宿題の提出を課す。(3) 授業の中で各課ごとの小テストを行う。(4) 筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!、西村祐子、Rudolf Petrik, 朝日出版社, 2004年; 販売店: 文栄堂</p> <p>●メッセージ 授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	岡光一浩				
<p>●授業概要 ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席、中間試験、定期試験によって、評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい, 西村祐子, R.Petrik, 朝日出版社, 2004年</p> <p>●メッセージ 一生懸命頑張らなければ、面白さも見えてこない。</p> <p>●教員連絡先 人文学部 岡光研究室</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教員	江波 昌子				
<p>●授業概要 前期に引き続き、この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p>●授業一般目標 前期に引き続き、ドイツ語の発音の基本を習得する。前置詞、形容詞、分離動詞、助動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1. 出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。2. 宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語インフォメーション, 秋田 静男他, 朝日出版社, 2005年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p>●メッセージ 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	岡光一浩				
<p>●授業概要 ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、中間試験、定期試験によって、評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：行ってらっしゃい!, 西村祐子, R.Petrik, 朝日出版社, 2004年</p> <p>●メッセージ 一生懸命頑張らなければ、面白さも見えてこない。</p> <p>●教員連絡先 人文学部 岡光研究室</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	金曜日 1・2 時限
担当教員	WATANABEBERGERANGELIKA				
<p>●授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、色々なメディアを通じて”ドイツ”を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン（2500円＋税）／参考書：プリント等配布</p> <p>●メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	金曜日 3・4 時限
担当教員	WATANABEBERGERANGELIKA				
<p>●授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、色々なメディアを通じて”ドイツ”を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン（2500円＋税）／参考書：プリント等配布</p> <p>●メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	フランス語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教員	Emde Angelika				
<p>●授業概要 このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。入門2のコースは、入門1に基づいていることに注意してください。</p> <p>●授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験) 50%、小テスト・授業内レポート 20%、宿題・授業外レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教材のプリントを授業で配付します。</p>					

開設科目	フランス語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	ボシィール ジャン・クロード				
<p>●授業概要 この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介します。授業は主に日本語で行います。</p> <p>●授業一般目標 簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: SALUT, YASUKO TANABE その他, SURUGADAI</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	齊藤匡史				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教員	秋山淳				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>●授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005 年</p>					

開設科目	ハンゲル入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 前期の内容に基づき、多様な表現を学び、簡単な文章の読み書き、簡単な会話ができるようにします。また、基礎語彙(約 100)を習得します。毎回、授業の内外での課題を課します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な文法事項を理解し、正確に使用できるようにします。また、語彙力にも重点を置くことにより、簡単な会話程度ができるようにします。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 定期試験と (2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題未提出が所定の回数を超えた場合には、単位は与えません。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：コスモス朝和辞典, 菅野裕臣他, 白水社, 1988 年；聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年；コスモス朝和辞典, 菅野裕臣他, 白水社, 1988 年</p> <p>●教員連絡先 連絡先：wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：人文棟 2 階、オフィスアワー：木曜日 10:00-17:00</p>					

開設科目	ハンゲル入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教員					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員	下寄正利				
<p>●授業概要 ドイツ語文法の基本を学習するとともに、初歩的なコミュニケーション能力、とりわけ読み書きの訓練を行う。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語文法の基礎をきちんと身につけ、またごく簡単なドイツ語ならば、読んだり書いたりすることができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業中の回答、中間テスト、期末テストによる。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：親切なドイツ文法、橋本郁夫、和田達宜、伊藤真、第三書房</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 5・6 時限
担当教員	本田義昭				
<p>●授業概要 本授業では、現代ドイツ語を読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。そのために、発音を身につけ、骨組みとなる文法を学びながら、語彙力をつけて、実際に運用できるよう様々な練習を行ないます。EU(ヨーロッパ連合)の牽引車の一つであるドイツの言語を学んで、国際的な視野を広げましょう。</p> <p>●授業一般目標 現代ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞の変化・動詞の現在形などの文法項目を学習することで、ドイツ語の基礎構造を認識する。さらに、平易な表現を憶えて、簡単な日常会話ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験(30%) + 期末試験(40%) + 授業への積極的な参加度(30%)で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：CD付き 自己表現のためのドイツ語1、板山真由美、三修社、2004年</p> <p>●メッセージ こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり！将来はドイツ留学も夢ではありません。</p> <p>●教員連絡先 honda@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限
担当教員	河中正彦				
<p>●授業概要 ドイツ語初級2は、ドイツ語初級1を受講した人が受講できます。前期の成果を踏まえてさらに力をつけていきます。受講者は必ず、火曜日7・8時限 金曜日7・8時限の両方を受講してください。各課の終わりに練習問題・読章がついているからそれをレポートで提出してもらい、レポート点を100点のなかの20点に換算して評価します。試験は中間と期末の2回で、40点ずつです。受講者は上限60名とします。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の発音を習得する。各品詞の活用に習熟し、ドイツ語の基礎構造を認識する。簡単な文章を読み書き、話せるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 課の終わりに練習問題をレポートで提出してもらい、レポート点を100点のなか20点に換算して評価します。試験は中間と期末の2回で、40点ずつです。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ドイツ語とのランデヴー, 河中正彦, 郁文堂, 1999年; ドイツ語自遊自在, JTB編集部, JTB, 2002年; 教科書は文栄堂で販売。/ 参考書：ゼロから始めるドイツ語, 在間 進, 三修社, 2002年; 参考書は希望者のみ購入。</p> <p>●メッセージ 初習外国語は一度でも欠席するとダメージは大きいので、全出席のつもりで始めてください。週2回課題をレポートで出してもらいます。これはかなりきついで、覚悟しておいてください。</p> <p>●教員連絡先 研究室：研究1号館3階。オフィスアワー：水曜日 9・10時限 kawanaka@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限 木曜日 5・6 時限
担当教員	Hintereder-Emde Franz				
<p>●授業概要 後期は、前期に基づいて進める。語彙目標は650語である。自宅の常に練習をさらに効果的にやってもらうことである。週2回コースなので以下の内容は週毎(2コマ)に記されている。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語彙を習得する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Szenen 1 スツェネン 1 場面で学ぶドイツ語, 佐藤修子/伊藤祐紀子, 三修社, 2003年/参考書：授業で紹介します。</p> <p>●メッセージ 外国語は一言一言自分の身に付かないかぎり、成果はない。最初の授業に人数が多すぎると、人数を調整することがある。</p> <p>●教員連絡先 辦: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel: 933-5287 オフィスアワー：木曜日 3・4 (10:20~11:50)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 金曜日 5・6 時限
担当教員	坂本貴志				
<p>●授業概要 ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学んだ後、現代の様々なドイツに触れる。この授業ではとりわけ、新しいドイツの映画を紹介していきたい。この授業で養成されるドイツ語能力の重点は、読む、聴く、見るに置かれる。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 小テスト、レポート、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業開始時にテキストを配布する。／参考書：辞書は必携。授業開始時に紹介する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ドイツ語会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Mayumi Itayama/ Ursula Shioji/ Yuko Motokawa/ Takako Yoshimitsul, Farbkasten. Situationen .Informationen., Sanshusha, 2003 年；『自己表現のためのドイツ語 2』CD 付き：板山真由美／潮路ウルスラ／本河裕子／吉みつたか子三修社、2003 年 ISBN4-384-13074-0 C1084、2700 円</p> <p>●教員連絡先 宇部：医学部：月曜日と金曜日／電話：(0836) 22-2187 オフィスアワー：金曜日：12：30 時～14：00 時 吉田研究室：火曜日／水曜日／木曜日 オフィスアワー：水曜日：12：30 時～14：00 時 e-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語中級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	火曜日5・6時限
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>●授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験：筆記試験(45分)、会話試験(Lektion 6-10)(定期試験期間中に実施)</p> <p>●教科書・参考書 教科書：スシェネン2場面で学ぶドイツ語ニューバージョン-CD付き 佐藤修子/下田恭子/ハイケパペンチン/ゲザオルデハーベル ISBN4-384-13078-3 C1084 2900円/参考書：Shuko Sato/Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, Szenen 2 neu, Sanshusha, 2004年；佐藤修子/下田恭子/ハイケパペンチン/ゲザオルデハーベル/スシェネン2場面で学ぶドイツ語.CD付き.Sanshusha:2004 ISBN4-384-13078-3 C1084.2900円</p> <p>●教員連絡先 授業のあといつでもいいです/ dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金(0836)22-2187 山口吉田研究室：水曜日12：30～13時～：30時</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4単位	曜時限	月曜日5・6時限 木曜日5・6時限
担当教員	武本雅嗣				
<p>●授業概要 後期は、週2回、フランスの地方を舞台にしたビデオ教材を使って、「読み・書き・聴き・話す」能力を高めていきます。1年間勉強すれば、フランスの文化やフランス人の習慣がかなり把握できているはず。フランス語と英語はいわばいとこ同士の間柄ですが、両言語の間には実に多くの共通点があります。ですから、英語の知識を活用して、英語との異同に注意しながらフランス語を勉強していくのが効率的です。英語以外の外国語を学ぶと、言語や文化の多様性と共通性が少しずつ見えてきます。様々な発見の喜びが得られるような授業を行いたいと思っています。</p> <p>●授業一般目標 フランス語の文法体系を習得し、基本的なフランス語運用能力を身につけることを目標とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験：60% 小テスト：20% 出席：20%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『彼女は食いしん坊！2』、藤田裕二、朝日出版；1年間履修する人は、前期(フランス語初級1)のテキスト『彼女は食いしん坊！』も必要です。4月に学生会館の生協で、あらかじめ合わせて2冊購入しておいて下さい。/参考書：『クラウン仏和辞典』、天羽均、三省堂；『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、田村毅、旺文社；『ディコ仏和辞典』、中條屋進、白水社；学生会館の生協にて販売。</p> <p>●メッセージ ほぼ毎回宿題を課すので、休まず出席すること。</p> <p>●教員連絡先 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員	井上三朗				
<p>●授業概要 フランス語初級1に同じ。</p> <p>●授業一般目標 フランス語初級1に同じ。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験は定期試験をふくめて、2度おこないたいと思っている。その試験の点数と平常点との総合で、成績評価をおこなう。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：彼女は食いしん坊, 藤田裕二, 朝日出版社, 2003年; 初級フランス語文法, 天羽均他, 朝日出版社, 2004年</p> <p>●メッセージ 授業への積極的な参加を望む</p> <p>●教員連絡先 月曜日14:30-16:00. 人文学部613研究室。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教員	平山豊				
<p>●授業概要 本授業では現代フランス語を読み、書き、話すことができるようになるための基礎的な能力を養う。そのために文法の諸規則を説明し、発音やイントネーションを身につけ、基本単語の語彙や語形変化を憶えて実際に運用できるよう様々な練習を課す。</p> <p>●授業一般目標 現代フランス語の発音、イントネーションの基本を習得する。また名詞、形容詞、動詞、疑問詞等の品詞や文型の理解を通してフランス語文法の基礎構造を認識する。更に平易な表現を憶えて簡単な日常会話が交わせるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(ヒアリングを含む筆記試験) 70% 宿題・授業外レポート 20% 平素の練習問題 10% 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。なお、仏検の受験は任意だが、4級または5級に合格したものは別途に考慮する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Escargo 2, 藤田裕二, 朝日出版社/ 参考書：授業中に指示する。</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	フランス語会話 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	エムデ・アンゲリカ				
<p>●授業概要 この授業では会話が中心です。日常的な場面を簡単な言い方や文法のパターンで訓練します。授業に定期的に参加することが望ましい。学期末試験に加えて、学期ごとに 2、3 小テスト（筆記と口頭テスト）を行います。フランスの音楽、映画や生活文化も紹介します。</p> <p>●授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験（中間・期末試験）50% 小テスト・授業内レポート 20% 宿題・授業外レポート 20% 授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：教材のプリントを授業で配布します。</p>					

開設科目	フランス語中級 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	田尻文代				
<p>●授業概要 本授業では、初級フランス語文法を復習しながら、オーラルコミュニケーション(会話)を実践していく。毎回、前回の内容のテストを行う。毎回簡単なフランス語を読む。</p> <p>●授業一般目標 「話しながら学ぶ。学びながら話す。」自分自身のことや、思ったこと、考えたことをそのままフランス語で表現する。簡単なフランス語を読み解く。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 毎回のテスト（80%）および定期試験（20%）として評価。なお、出席が80%に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Conversations dans la classe, Jean-Luc Azra, アルマ合資会社, 2004 年；学生会館にて販売。</p> <p>●メッセージ 積極的な参加、発表、意見、質問を期待します。</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教員	富平美波				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	富平美波				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	苞山武義				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教員	更科慎一				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	根ヶ山徹				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 前期に引き続いて、現代中国語の基礎を習得する。 ●授業一般目標 前期の学習を踏まえ、より高度な表現を学ぶ。 ●成績評価方法(総合) 定期試験の成績を 100 %として評価を行う。出席は欠格条件。 ●教科書・参考書 教科書：北京の風(改訂版), 木村英樹・小野秀樹・陳蓉, 白帝社, 2002 年 ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	秋山淳				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。 ●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。 ●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価 ●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年 ●備考 工学部 JABEE 対応科目 					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	杉本知栄子				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	更科慎一				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、齊藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	秋山淳				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教員	呉鞠				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教員	呉 靱				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	陳鳳展				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	李海英				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	田梅				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員					
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教員	李海英				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	梁蕾				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	田梅				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	何曉毅				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教員	張玲				
<p>●授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>●授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード、齋藤匡史 ほか、白帝社、2005年／参考書：クラウン中日辞典、三省堂</p> <p>●メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	中国語初級会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	宇 芳				
<p>●授業概要 1 中国語の発音とアクセント 2 基本的な文型パターン 3 簡単な日常会話</p> <p>●授業一般目標 前期に習得した発音、基礎的な会話文型及び基本文法等に基づいて学習を進め、聞き取ることと話すことの訓練によって、より豊かな表現と初歩的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80 % 小テスト/授業内レポート = 20 % 未満 宿題/授業外レポート = 20 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 20 % 未満 出席 = 20~40 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 系統的に学ぼう中国語 I[会話コース], 顧 明耀等著, 白帝社 文, 2001 年 / 参考書: 講談社 中日辞典 第二版, 相原茂, 講談社, 2002 年</p> <p>●メッセージ 必ず予習、復習してください。出席 70 % 未満の者に対して成績評価を与えません。再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p>					

開設科目	中国語中級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	一木達彦				
<p>●授業概要 中級レベルの中国語を学習する。</p> <p>●授業一般目標 中級レベルの中国語の総合的な習得を目指すが、特に読解力を身につけることに重点を置いて習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験の成績を80%、小テストの成績を20%として成績評価を行う。小テストによる評価は、教員の裁量により、宿題や授業への参加度(与えられた課題に対する解答など)による評価によって替えることができる。出席は欠格事項とする</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 中国人のくらし—生涯好日—, 池上貞子・張国路, 朝日出版社, 2005 年 / 参考書: 中日辞典</p> <p>●メッセージ この授業を受講するためには、中日辞典を準備する必要があります。</p> <p>●教員連絡先 yimu@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	中国語中級会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	水曜日7・8時限
担当教員	張玲				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 前期に引き続き、中国語の理解能力を高める。中国語で表現する能力を身につける。日常会話から、様々な文化事象まで教える。 ●授業一般目標 話す能力と聞く能力を向上させる。 ●成績評価方法(総合) 定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価 ●教科書・参考書 教科書：新版 中国語さらなる一歩、尹景春など、白水社、2002年 ●メッセージ 予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習する。 ●教員連絡先 zhangling414@ybb.ne.jp 					

開設科目	中国語閲読2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教員	高木智見				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 前期に同じ ●授業一般目標 前期に同じ ●成績評価方法(総合) 前期に同じ ●教科書・参考書 教科書：前期に同じ／参考書：前期に同じ ●メッセージ 前期に同じ ●教員連絡先 前期に同じ 					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 1・2 時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>●授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教員	桂林春				
<p>●授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>●授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限 木曜日 1・2 時限
担当教員	山田寛人				
<p>●授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>●授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 3・4 時限
担当教員	山田寛人				
<p>●授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>●授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ハングル初級会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教員	桂林春				
<p>●授業概要 現代韓国語を用いた入門レベルでの基礎会話を、覚えやすい短い文章で「正確な発音」を重点的に学習していきます。</p> <p>●授業一般目標 'ハングル'の学習とその基礎会話の能力を身に付けること、そして、それらを通じて近隣国、韓国に関する知識を修得することである。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：第1回目の授業で紹介。／参考書：授業中紹介。</p> <p>●教員連絡先 lim-gye0926@n.vodafone.ne.jp</p>					

開設科目	ハングル中級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教員	和田学				
<p>●授業概要 前期の内容を基に、多様な構文を習得し、語彙を身に付ける。毎回、授業の内外で課題を課します。</p> <p>●授業一般目標 更に多様な構文、語彙を習得し、辞書なしで、多様な文章の読解、作文ができることを目指すと共に、様々な状況で会話ができるようになります。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2000年</p> <p>●教員連絡先 wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語上級 I B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 前期の日本語上級 IA に引き続き、中級レベルの日本語運用能力を既に備えている受講生を対象に、上級レベルの漢字と表現文型を学びます。</p> <p>●授業一般目標 1. 中級レベルの漢字 1,000 字を身につけていることを前提に、上級レベルの漢字の書き方、読み方、それらの漢字を使った漢字熟語の意味とその使い方を学びます。 2. 中級レベルの文法・文型表現を身につけていることを前提に、中上級及び上級レベルの文型表現を学びます。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験、宿題、教室活動、出席状況を総合して成績評価を行う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『どんな時どう使う日本語表現文型 5 0 0』, 友松悦子他, アルク, 1996 年；『漢字 1 0 0 Plus』 Vol.1, 加納千恵子他, 凡人社, 1993 年</p> <p>●教員連絡先 メールアドレス：junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号：9 3 3－5 9 8 4 オフィスアワー：金曜日 2：0 0～</p>					

開設科目	日本語中級 I B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教員	渡邊淳一				
<p>●授業概要 この授業は「漢字」と「文章の書き方」の二つの部分からできています。「漢字」では、日本語中級レベルの漢字の書き方と読み方を学び、その漢字を使った熟語とその意味と使い方を学びます。「文章の書き方」では、レポートの書き方の基本的なルールを学び、実際に書かれた文章例を読み、レポートの書き方を練習します。</p> <p>●授業一般目標 ◆「漢字」では、中級レベルの基礎漢字 500 字の書き方、読み方を身につけ、漢字熟語の意味・使い方を理解します。◆「文章の書き方」では、様々な文体の違い、句読点・各種記号の使い方、段落や起承転結などの文章作成のルールについて学び、具体的な文章例を読みそのルールの検証を行い、自分でレポートを書き、提出します。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験、漢字クイズ、提出作文評価、出席等を総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『基礎漢字 5 0 0』, 加納千恵子他, 凡人社, 1989 年；『留学生のための論理的な文章の書き方』, 二通信子・佐藤不二子, 悄悄塾, 2000 年</p> <p>●教員連絡先 E-辦 夏宗 junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線番号：5984 オフィスアワー：月曜日 1 4：0 0～</p>					

開設科目	日本語上級 IV B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読む等の「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、アンケート作成、調査、インタビュー、発表などを通して、各自が主体的に考え、その場の状況を考えてコミュニケーションをしたり発表する「発信型スキル」を獲得する。</p> <p>●授業一般目標 1. 講義を聞きながら、効果的にノートを取ることができる。 2. 必要な情報を集めて、問題点を指摘できる。 3. 自ら選択したテーマについてプレゼンテーションができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験とレポートで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ, 佐々木瑞枝他3名, The Japan Times, 2001年 / 参考書：大学生のための日本語, 産能短期大学 日本語研究室, 産能出版部, 1993年; 適宜プリント教材を配布する。テーマに応じて参考文献の資料を配布する。</p> <p>●教員連絡先 木曜日午後 (研究室) e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-85-9037</p>					

開設科目	日本語上級 II B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教員	今井新悟				
<p>●授業概要 論理的な文章の分析を通して、論理的な文章とそうでない文章の区別について理解し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解する。例文の分析と練習問題を解くことにより、論理的な文章を書くテクニックを身につける。課題文と課題レポートの作成と添削・推敲を繰り返すことによって、論理的かつ正しい日本語を書く能力、日本語のテクニカルライティングの能力を高める。</p> <p>●授業一般目標 論理的な思考に基づく論理的な日本語表現能力を高める。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 出席、練習問題、課題文、課題レポートを総合して判断する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：島倉保美 2003年『論理的な文章が自動的に書ける!』(日本実業出版社)から必要な箇所をプリントにして配布する。</p> <p>●メッセージ 授業では、電子辞書必携。</p> <p>●教員連絡先 研究室:共通教育棟 325号室、電話番号 (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日午後 2:30~4:00</p>					

開設科目	日本語中級 II B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 日本語を 300 時間ぐらい勉強し、初級の勉強が終わった留学生のためのクラスです。中級 IIB のクラスでは、簡単な説明文や論説文が読めるようになるために、書き言葉の文法、語彙、漢字や文章の構成を説明します。また、日本人の生活や文化、現代の社会や科学について考えたり、意見を言ったり、討論をしたりします。</p> <p>●授業一般目標 1. 日本の大学で、辞書を使いながらも勉強できるようになること。2. 日本語の新聞や放送がだいたいわかるようになること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験、宿題、プレゼンテーション</p> <p>●教科書・参考書 教科書：中級日本語, 東京外国語大学 留学生日本語教育センター, 凡人社, 1994 年; 資料配布/参考書：適宜授業中に参考文献のプリントを配布する。</p> <p>●教員連絡先 水曜日 12:50~14:20, 16:00~17:30 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp 00 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級 III B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教員	門脇薫				
<p>●授業概要 本授業では、日本語の中級レベルの総合的な能力を養う。特に読解練習を中心に行い、中級レベルの語彙・文法事項を確認し、運用できるような様々な練習も行う。</p> <p>●授業一般目標 日本語の中級レベルの語彙・文法事項を習得し、日常生活・大学生活において運用できる。様々なテーマの中級レベルの文章を読み、内容や書き言葉について理解ができる。それぞれのテーマについて考え、自分の考えを日本語で表現できるようになる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 小テスト、定期テストで習ったことを習得しているかを評価する。「書く」タスクは宿題として提出する。4 技能に関する様々な練習やタスクを課し、演習として評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『テーマ別 中級から学ぶ日本語』研究社</p> <p>●教員連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟 3 階 329</p>					

開設科目	日本語上級 III B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教員	杉原道子				
<p>●授業概要 大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読む等の「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、アンケート作成、調査、インタビュー、発表などを通して、各自が主体的にその場の状況を考えてコミュニケーションをしたり発表する「発信型スキル」を獲得する。</p> <p>●授業一般目標 1. 講義を聞きながら、効果的にノートを取ることができる。 2. 必要な情報を集めて、問題点を指摘できる。 3. 自ら選択したテーマについてのプレゼンテーションができる。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験、授業外レポート、プレゼンテーション</p> <p>●教科書・参考書 教科書：大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ, 佐々木瑞枝他3名, The Japan Times, 22003年；新聞記事／参考書：新聞記事、『天声人語』</p> <p>●教員連絡先 水曜日午後 12:50~14:20、16:00~17:30 TEL: 0 8 3 - 9 3 3 - 5 9 8 5 e-mail: michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

後期—一般系列

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	山口県の地域政策	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限
担当教員	吉村弘				
<p>●授業概要 山口県の状況について、おもに政策としてどのように取り組んでいるか、その取り組みにどのような問題があるかなどについて、将来展望も含めて、政策担当者や各界の方々に講義して頂く。それによって、山口県について概要を知るとともに、関心を深め、その問題点・展望・期待など自分で考える契機となることを目指す。</p> <p>●授業一般目標 山口県について関心を深める。山口県の概況を知る。山口県が何にどのように取り組んでいるか知る。山口県について自分のイメージを形成する。山口県について自分の意見・考えを形成する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席とレポートによる。</p> <p>●教員連絡先 月10:30-11:50</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	パソコンSOS2	区分	その他	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理3年	単位	2単位	曜時限	月曜日 11・12時限
担当教員	糸長雅弘, 西口毅				
<p>●授業概要 大学教育の問題点の一つは、学生自らが「発見し、はぐくみ、かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは、問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では、学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組む、その活動を通して、「発見し、はぐくみ、かたちにする」ことを実体験する。</p> <p>●授業一般目標 パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して、パソコンのスキルを向上させ、問題解決能力、文書作成能力、自己表現力を身に付ける。また、「パソコンSOS1」の既修得者はSA(ステューデントアシスタント)として、履修者の指導を行い、指導能力を身に付ける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席率80%未満を欠格条件とし、毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。</p> <p>●メッセージ パソコン相談員として活動するので、誰でも受講できるというわけではありません。受講希望者に対して、初回に能力診断テストを行い、パソコンに関するスキルが一定の水準以上の学生に履修を認めます。「パソコンSOS1」の既修得者については、無条件に履修を認めます。パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお、授業の性格から、パソコン相談を行うことが授業への出席となります(曜日は希望に応じて決定)。</p> <p>●教員連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部224号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	やまぐち学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	中野良寿				
<p>●授業概要 教育学部の教官を中心にしたオムニバス形式の授業です。各教官の取り上げるトピックスは異なりますが、「やまぐち」という共通したテーマを設定します。</p> <p>●授業一般目標 私たちの暮らす「やまぐち」をキーワードに様々の方向・学問領域からのアプローチを試みます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 各教官がそれぞれの担当の範囲で評点したものを合算して評価する。</p> <p>●教員連絡先 教育学部 美術教育教室 中野良寿</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	科学・技術と人間社会	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	田頭昭二				
<p>●授業概要 科学・技術の人間社会との関わりについて、環境問題、先端技術、食料問題、バイオサイエンスなどの現代科学について技術をささえる基礎的科学原理および社会への応用技術について様々な観点からオムニバス形式の講義により解説する。</p> <p>●授業一般目標 科学的原理に基づいた応用技術の人間社会への寄与について理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回のレポートあるいは演習、出席態度により総合的に判断する。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：適宜プリント等を配布する</p> <p>●メッセージ 講義の順番は変更する事がありますが、意欲的に取り組んでください。</p> <p>●教員連絡先 理学化学教室 田頭昭二(理学部436室、電話5734)</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	生命と倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教員	利部 聰ほか 12名				
<p>●授業概要 人は、たった1匹の精子と、数百万個のうちの1個の卵子が会って長い人生を開始する。せつかくこの世に生を受けた命も、光を見ることなく闇から闇に葬り去られたり、生まれてこなかったほうがよかったと、治療停止をされたりする新生障害児もいる。成長しても、いじめに会って命を奪われ、戦争でも殺される。人の命を支えるために殺される家畜や実験動物の命はどうか。私達は、こういった問題をどのように考えたらよいのだろうか。命を取りまく問題をいろいろな角度から取りあげ、「命」と「倫理(人の道)」をともに考え、講義する。</p> <p>●授業一般目標 皆さんの知的欲求を刺激し、大学で身に付けなければならない自己学習能力(理解能力・計画能力・情報能力)を養うことも目的とします。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業に出席し、400ないし800字程度の感想文を提出してください。おもにこの2点で評価いたします。</p> <p>●メッセージ 山口で考えられる最高の講師に依頼しました。「いのち」をさまざまな切り口から論じ、みんなで考えてみませんか。毎回講師が変わり、「いのち」というテーマがこれほどまでに奥深いと実感させられます。後期は就職活動・教育実習等で受講できないことがあると思います。相談に応じます。順番は講師の都合で変わることがあります。</p> <p>●教員連絡先 利部 聰(かがぶ さとし) 電話:083-933-5910 居室:農学部北ウイング211号室 オフィスアワー:金曜日11時から12時。在室時は随時</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	クローズアップ・ドイツ	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教員	Hintereder-Emde Franz				
<p>●授業概要 山口大学やその他の機関でドイツにかかわる研究をしているいろいろな人々が、ドイツでの生活体験や自分の研究分野に基づいて、「ドイツのメディア」「ドイツの絵画」「ドイツの音楽」「ドイツの社会保障制度」「ドイツの映画」「ドイツの飲食文化」といった視点から、ドイツについての情報を提供する。基本的には一人の講師が2回にわたって講義する。</p> <p>●授業一般目標 2004年5月1日に10カ国が新たに加入し、現在25カ国からなっている「EU」が現代の世界で果たしている役割は計り知れないし、中東情勢が依然として不安定な現在その存在意義が今後一層高まることは確実である。この授業の目標は、ドイツ語の履修を問わずに、学生に、「EU」の中で中心的な役割を果たしているドイツの真の姿を様々な角度から伝えることで、ドイツをより身近に感じるようになってもらいたいというところにある。対象学生は、2年生以降となっているが、1年生も奮って聞いていただきたい。異文化理解や外国語へのオリエンテーションにもつながると思われる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 授業内レポート=20%未満 各担当教官ごとに課題を出し、100点満点で成績をつける。マネージャーがそれを取りまとめ、計算し最終成績とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書:各担当者が適宜教材を配布する。</p> <p>●メッセージ 各担当教官の講義一週目に「質問の時間」をもうけるので、「二週目に聞きたいこと」があれば、口頭ないしは文書で申し入れるべく準備しておくこと。講義で紹介されるのはドイツの一面にすぎない。その他の事柄についても出来るだけ自分で興味を持って調べるようにして欲しい。</p> <p>●教員連絡先 人文学部独仏語文化論コース:ヒンターエーダー=エムデ・フランツ tel:933-5287, mail:emde@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー:木曜日 3・4(10:20~11:50)</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	観光と経済	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日5・6時限
担当教員	田淵太一ほか				
<p>●授業概要 平成17年4月, 全国の国立大学に先駆けて, 本学経済学部にて観光政策学科が設立されます。この新学科は山口県, ひいては日本の観光政策をリードする研究・教育拠点になっていく存在として注目を浴びています。本講義は新学科設立を記念し, 経済学によって「観光を科学する」とはどのようなことなのかを一般向けに解説する授業です。リレー講義の中で, 観光が世界経済に及ぼす影響, 観光産業の現状や展望, 観光が地域経済や自然環境に及ぼす影響, 等々を考察してゆきます。新学科設立を記念して出版される『観光経済学』をテキストとして, 新学科教員ならびに翻訳を担当した経済学部教員が担当章を題材にして講義を行います。</p> <p>●授業一般目標 経済学によって「観光を科学する」ことの意義を学び, わが国や山口県における観光産業の現状や将来を考察するための基礎知識を身につけます。</p> <p>●成績評価方法(総合) 毎回, 講義終了時に通知される課題にたいして, 次回の講義のはじめに, 800字のレポートを提出してもらいます。このレポートの合計点により成績評価を行います。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 観光経済学, J・マック, 日本評論社, 2005年 / 参考書: 必要に応じて授業中に指示する。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	メディア情報処理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日3・4時限
担当教員	熊谷武洋				
<p>●授業概要 本講義は Adobe 社の Illustrator というソフトを利用し, コンピュータを用いたグラフィックデザインを行う。初心者を対象としているが, 単に操作方法だけにとどまらず画像情報処理の基本原則やデザイン理論についても言及する。テキストは以下を用いる。 http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetunote/text_2003/13/index.html</p> <p>●授業一般目標 本講義は, 簡単なグリーンカードやサークル勧誘ポスター, CD ジャケットなどを制作できる程度の操作方法を修得し画像情報処理における基本的な概念を理解することを目標としている。</p> <p>●成績評価方法(総合) 提出された課題制作について, その制作過程, 完成度についてそれぞれ総合的に評価する</p> <p>●教員連絡先 E-mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp 電話:083-933-5403</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	平川地域研究入門	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教員	外山英昭				
<p>●授業概要 平川の自然・文化・暮らしについてまず地域の方の話を聞き、つづいて各担当教員が説明をする。その上でグループを結成し、グループごとに現地調査をした上で、報告をまとめ、全体場で発表する。また、調査結果をレポートとしてまとめ提出する。</p> <p>●授業一般目標 平川の自然・文化・暮らしについて講義を受け、平川の歴史および現状を知ることができる。自然・文化・暮らしの中からテーマを選び、地域調査をし発表することができる。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：石川卓美『増補 平川文化散歩』（山口市平川公民館発行）</p> <p>●メッセージ 外山以外の担当教官については開講時に紹介します。受講生は40人以下とします。</p> <p>●教員連絡先 教育学部社会科教育教室 外山（内線5323）</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	実践的現代芸術・文化論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	金曜日9・10時限
担当教員	奥津・貞方・藤川・中野・菊屋・堀家・H.E. フランツ				
<p>●授業概要 山口という場で行われている現代芸術およびその支援活動の姿を体験的に学習する。実際の芸術実践者をお招きしての作品紹介・意見交換、イギリスなどとの芸術・文化交流活動の実践例、グローバルな芸術・文化史についての研究者の報告、さらには芸術イベント探訪をも織り込んで、知られざる地域の文化活動を学ぶ。</p> <p>●授業一般目標 長い活動の歴史とグローバルな規模を持って展開する山口の現代芸術・文化活動を学び、地域に根ざしつつ、世界と結びつく人間活動のあり方を考えることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 毎回の授業の内容について、その関心や理解の度合いを問う課題回答を求める。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：多くの授業実施者からなるので、その都度配付するプリント類によって授業を行う。／参考書：授業の報告者・話題提供者によって、その都度、適切な文献等が指示される。</p> <p>●メッセージ 山口の芸術・文化振興NPO活動に関心のある人も来てください。</p> <p>●教員連絡先 kokutsu@mac.com sadakata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	音で楽しむコミュニケーション論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	
担当教員	堀江穆				
<p>●授業概要 学生が就職試験に臨んで最も苦勞するのが面接である。その苦手意識を克服するために、人と人がコミュニケーションを図る原点となる事象を、音楽を通じて体得させることを目標とする。授業は、世界で活躍するジャズ・ピアニストの佐藤允彦さんを非常勤講師に迎え、ジャズの真髄ともいえるインプロビゼーション（即興）の面白さを体得するために実習中心の編成とする。</p> <p>●授業一般目標 楽器の有無、音楽の素養を問わず、音を通じたコミュニケーションのあり方を探る。この授業で体得した技術は、将来、イベントの開催や組織の中で働く人の心理を汲み取るなど社会生活に役立つものとする。</p> <p>●メッセージ 参加して初めて面白さが理解できる特殊講義です。受講生は最大50名とし、集団での演奏を最終目標としますので、受講生全体に迷惑を及ぼす、意欲が感じられない学生は退席を求めることもあります。</p> <p>●教員連絡先 堀江 穆（あつし） 共通教育棟4階 堀江研究室 随時 電話 933-5046</p> <p>●備考 集中授業</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	総合科目(知的財産権論)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)3年	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	福代和宏				
<p>●授業概要 特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての知識を実例を交えて講義する。また、特許調査、活用プランニングなど実践的な演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1) 特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての基本的な知識を習得する。(2) 特許調査、活用プランニングなどの演習を通じて、特許活用の実践的なスキルを習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 特許調査、活用プランニングなどの演習で作成したレポートを、(1) 知的財産権の基礎知識、(2) 思考力、(3) 特許調査のスキルの3つの観点から評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：知的財産教本, 山口大学知的財産本部, EME パブリッシング, 2004年</p> <p>●メッセージ 現在、社会のあらゆる場所で、知的創造活動の成果を守り、活用することが要求されています。本講義を通して知的財産権についての知識を深めてください。</p> <p>●教員連絡先 研究室内線番号9711 研究室不在時にはベンチャービジネスラボラトリー2階のMOTオフィス(内線9876)まで</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

前期一夜間主コース

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教員	一川 誠				
<p>●授業概要 経験科学としての心理学の概要について学習し、人間の心や行動の特性についての理解を深める。</p> <p>●授業一般目標 心理学の基本的な知見を理解し、人間の認知機能や社会の中での個人の心理、人間と環境との関係についての洞察を深めることを目的とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) レポートと小テスト。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：心理学, 鹿取廣人, 杉本敏夫, 東大出版会, 2004年; 「心理学」東京大学出版会。 / 参考書：講義中に参考書を示す。</p> <p>●メッセージ 講義中、携帯電話をオフにしておくこと</p>					

開設科目	外国文学(ドイツ文学)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教員	江波 昌子				
<p>●授業概要 古典の名作から最近の作品まで、ドイツ文学をできるだけ多く鑑賞し、その問題点や意味、表現方法などを考察する。また、その作品を手がかりに、自らの考えや主張を文章にまとめる訓練をする。現代に生きる若い皆さんが共感できる作品をとりあげていく予定。</p> <p>●授業一般目標 ドイツ文学に親しみ、作品が問いかける問題を読みとって理解を深め、その芸術性を味わう。同時に、作品についての自らの考えや主張を、正確な日本語と表現方法によって文章にまとめ、他者に訴えかける力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席と授業内レポートを含めた平常点を50%とし、定期試験50%と合わせて評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：適宜、プリントを配布します。</p> <p>●メッセージ 「自分の書いたものに責任を持つ」とはどういうことでしょうか？ 社会に出れば今以上に、自分の書いたものが「自分の顔になる」ということを痛感するはずです。人に読まれても恥ずかしくない文章が書けるようになりたいものですね。</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教員	上杉信敬				
<p>●授業概要 国の基本法である日本国憲法の内容について考えていく。その際、国民主権、基本的人権の保障、権力分立、平和主義、などの主要原則について考えていく。そして、国民が主権者であることを基本として大切なことを理解していく。その際、憲法の問題は、政治と法の双方がかかわることに注意していく。</p> <p>●授業一般目標 最高法規について重要なことを理解すること。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 小テスト/授業内レポート = 20%未満 宿題/授業外レポート = 20%未満 出席 = 20%未満</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 開講時に指示する。/ 参考書: 開講時に指示する。</p>					

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教員	星野 晋				
<p>●授業概要 文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在にあって、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とどのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とは、いかなるものを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p> <p>●授業一般目標 人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出欠をかねた小レポート、定期試験</p> <p>●教員連絡先 hoshino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 授業後(小串では水曜日午後)</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日 13・14時限
担当教員	宮本政英				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数学入門2とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップのページ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版、の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	水曜日 9・10時限
担当教員	宮本政英				
<p>●授業概要 微分積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微分積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>●成績評価方法(総合) 数学入門1とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学部会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップ→機構・附属施設・センター→大学教育センター→デジタル教科書案内版、の順にリンクをたどれば入手可能である。</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 (夜)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限 (夜間)
担当教員	栗山 憲				
<p>●授業概要 理工系の基礎となる微分積分学において、1 変数関数の微分と積分について講義し、その概念を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 1 変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の分野で生じる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 2 回の試験 (中間試験と期末試験) とレポート、および講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により以下の割合で総合的に判断する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：理工系の基礎 微分積分 (増補版) 石原繁、浅野重初 裳華房</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門 1』及び『数学入門 2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限 水曜日 9・10 時限
担当教員	河野俊一				
<p>●授業概要 理工系の基礎となる微分積分学において、1 変数関数の微分と積分について講義し、その概念を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>●授業一般目標 1 変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の分野で生じる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・定期試験 (中間・期末試験) で 70%、宿題・授業外レポートで 15%、授業内の演習において 15% の成績評価をする。なお、5 回以上 (5 回も含む) 欠席したものは、定期試験を受ける資格がない。すなわち、5 回以上欠席したものは、本科目の単位は得られない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：理工系の基礎 微分積分 (増補版) , 石原繁、浅野重初, 裳華房, 2005 年</p> <p>●メッセージ 中学、高校の数学を復習しておくこと。</p> <p>●教員連絡先 Email : skawano@robo.mech.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	末岡 修				
<p>●授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>●授業一般目標 位置 & # 8226; 速度 & # 8226; 加速度の関係を表し、簡単な例題が解けるようになる。放物運動が解けるようになる。これらの過程で、ベクトルとその成分の関係を理解し、各成分の運動が独立であることを理解する。正規の講義”物理学”が理解できるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>●教科書・参考書 教科書：2「新物理学」、シップマン著, 学術図書出版社, 2002年 / 参考書：「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版社 1996</p> <p>●教員連絡先 非常勤のため E-mail osueoka@fm2.seikyoku.ne.jp にて対応する</p>					

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日9・10時限
担当教員	末岡 修				
<p>●授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>●授業一般目標 電気力・電場・電位・電気的エネルギーの関係を学ぶ。オームの法則が自由に使えるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 期末試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>●教科書・参考書 教科書：2「新物理学」、シップマン著, 学術図書出版社, 2002年 / 参考書：「改訂版 基礎物理学」原康夫著 学術図書出版 1996</p> <p>●教員連絡先 非常勤のため E-mail osueoka@fm2.seikyoku.ne.jp にて対応する</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 (夜)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限 (夜間)
担当教員	宮本 政英				
<p>●授業概要 力学についてはすでに何度か学習をしてきていると思われるが、統一的に理解するということはあまりなかったのではないかと。本講義では、古典力学をニュートンの運動法則をもとに統一的に理解できるように説明し、基本法則からさまざまな法則が現れることを示す。</p> <p>●授業一般目標 ニュートンの運動法則を下に力学の全体構造を把握し、力学の考え方を日常生活における現象に具体的に応用できる能力を身に付けることを目標とする。特に様々な法則の下にある基本原理を理解する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版「基礎物理学」, 原康夫, 学術図書</p> <p>●メッセージ 授業中に理解を助けるため演習を行うので関数キー付き電卓を常に持参すること。</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門 1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工 (夜) 1 年, 工 (昼) 2 年	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教員	今村速夫				
<p>●授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関しての理解が不十分な学生に対して、工学を学ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に化学について関係しなくなればならなくなった時に勉強するための初歩の知識についてやさしく解説する。</p> <p>●授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強するに当たっての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 定期試験および講義中のレポートにより総合的に評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録 (新課程用), 数研出版編集部, 数研出版, 2004 年</p> <p>●メッセージ よく復習をすること。</p> <p>●教員連絡先 hi-khm@yamaguchi-u.ac.jp, 総合研究棟 6 階 614 号室</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	金曜日9・10時限
担当教員	笠谷和男				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 化学I、化学IIを受講するために必要な基礎知識を講義する。 ●授業一般目標 化学結合を理解する。簡単な有機化合物の種類と性質を理解する。 ●成績評価方法(総合) 期末試験(約80%)及び小テスト(約20%)により評価する。2回以上欠席すると単位を認定しない。 ●教科書・参考書 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録(新課程用), 数研出版編集部, 数研出版, 2003年 ●メッセージ わかりやすい説明を行うので、遅刻や欠席をせずに全部の説明を聞いて欲しい。 ●教員連絡先 質問等は授業中に示す電子メールアドレスで対応する。 					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	酒多喜久				
<ul style="list-style-type: none"> ●授業概要 理系の学生として重要な基礎分野である化学についての重要性を理解する。特に、物質の成り立ちとその構造を正しく理解すること、あるいは物質の性質が物質の構造と如何なる関係にあるかを理解する。さらに物質の変化、すなわち化学反応がどのように起こるのかについて理解を深める。 ●授業一般目標 化学についての基本的な知識を系統的に学び、化学的な考え方が出来る基礎的な能力を身につける。 ●成績評価方法(総合) 期末試験により評価する ●教科書・参考書 教科書: 化学入門, 大野公一, 共立出版, 1997年 / 参考書: ケミカルと人間社会, 土屋晋, 総和社, 2004年 ●教員連絡先 教員研究室、総合研究棟6階616号室、在室中であれば何時でも対応します。 					

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4・5 時限 (夜間)
担当教員	荻原千聡				
<p>●授業概要 種々の分野にわたる基本的な物理学実験をグループに分けて実施させ、物理学実験一般に関する基礎知識、実験器具操作法、報告書作成要領等を修得させる。</p> <p>●授業一般目標 各種測定機器の動作原理、使用法、計算機によるプログラミングと計算実行の手順など、実験的な研究を行う上で必要となる知識を身につける。適切な測定法の選択、測定上の工夫を実行でき、データの適切な解析と図表化、正しい誤差の取り扱いができ、十分な考察に基づく報告書を書けるようになる。</p> <p>●成績評価方法(総合) (1) 実験を終了したグループは、実験の内容と結果について担当教官に報告し完了のチェックを受け、その際に授業への参加度としての得点が記録される。通常は合否のみの判定であるが、マナー、参加度の不良が認められる場合は減点する。(2) 実験ノートを授業時にチェックし、最後の授業の1週間後に提出する。必要事項が記載されているか、図表化が適切か、考察の内容は十分かどうかを中心に採点する。なお、与えられた6テーマの実験を完了し、かつノートを提出した者以外には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：実験テキストを使用する。「応用物理学実験(物理学実験B)」(山口大学工学部共通講座編著) 山口大学生協工学部ショップで販売</p> <p>●教員連絡先 荻原 0836-85-9811、月 9-10 時限</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(昼・夜) 4年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	古川浩平, 田村洋一, 濱田純夫				
<p>●授業概要 本講義は、建設技術の基礎を習得するためのものである。土木工学の発達の歴史を国内および世界へと展望する。土木工学の歴史は科学技術の歴史に通ずるところもある。まず、土木構造物の代表とも言える橋について、その歴史を長大橋の建設に至るまでの講義を行う。その中には、落橋事故や人的、社会的背景などについても含まれる。次いで、道路交通が当面している諸課題を日本の道路交通の歴史的特徴と関連付けながら解説し、その上でバリアフリー、TDM, ITSの必要性と意義について説明する。さらにこれらに関わる施策・技術の内容と進展経過、今後の技術開発課題について紹介し、解説する。最後に、近代土木工学における材料について解説する。</p> <p>●授業一般目標 この講義は土木工学の概観ばかりでなく、社会・環境との連繋の有り方を学ぶことを目標とする。 (C) 実務への応用力と倫理観のある技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・C-1 実務上の問題点や課題を理解し、適切に対応する能力 ・C-2 土木技術者の関与するプロジェクトが社会や自然環境に及ぼす影響を理解する能力(技術者倫理・環境倫理) (D) 豊かな教養と多面的な視点を持つ技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・D-1 技術、人類、文明、地域、自然の相互の係わりを理解する能力 ・D-2 基礎的な国際コミュニケーション能力</p> <p>●成績評価方法(総合) 全回出席を条件とする。ただし、やむを得ない事情があった場合には、次回の講義までに必ず担当教官に届け出る。毎回レポートを課すので、必ず全て提出すること。評価は、最終的に課したレポートの内容により判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：プリント配布</p> <p>●メッセージ 履修上の注意 古川・田村・浜田の各担当者による試験またはレポートにより、理解度を判定する。それぞれが60点以上であることが要求される。病気などやむを得ない理由で欠席した場合には必ず次の授業時間までに担当教官に理由を申し出ること。</p> <p>●教員連絡先 古川浩平：E-mail furukaw@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9327, 研究室 構造設計工学 田村洋一：E-mail ytamura@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9308, 研究室 都市空間計画学 濱田純夫：E-mail shamada@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9347, 研究室 施設材料工学</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)1年, 工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教員	藤宮龍也				
<p>●授業概要 クローン人間や遺伝子工学など生命科学の知識はよく耳にするようになりました。21世紀は生命科学の時代といわれ、社会生活を行う上で必須の常識となりつつあります。そこで、生命の誕生から病気や死に至るまでの種々の生命現象を取り上げ、様々な角度から科学的に検討し、学生諸君の新しい視点の構築の助けとなることを目指します。</p> <p>●授業一般目標 複雑な生命現象や医学的問題のうちトピックスをとりあげ、科学的にどのようにして解析され、どこまで解明されているかについて理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席40%、授業態度や授業への参加度10~20%、小テスト10~20%、課題レポート20~40%程度で、総合評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じて資料の配付を行う。</p> <p>●メッセージ 授業中は携帯電話の電源を切る(又はマナーモード)。自分の頭で考えよう。関連ホームページ：http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/</p> <p>●教員連絡先 医学部法医学教室、藤宮龍也</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)3年	単位	2単位	曜時限	月曜日3・4時限(夜間)
担当教員	三好, 甲斐, 堀田, 浅田				
<p>●授業概要 1)放射線の影響について解説する。2)電磁波の人体への影響について述べる。3)エネルギーと環境の関係について説明する。</p> <p>●授業一般目標 1)放射線が人体、環境に及ぼす影響を知る。2)電磁波が人体に及ぼす影響を知る。3)各種エネルギー利用と環境の関係を認識する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1)レポート(小テスト形式を含む)を3回提出する。2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 参考書：物理・化学から考える環境問題, 白鳥紀一編, 藤原書店, 2004年; 放射線のやさしい知識, 飯田博美・安齋育郎共編, オーム社, 1984年; 電気の暮らしと健康不安, 電気学会電磁界生体影響問題調査特別委員会編, 電気学会, 2001年; 身の周りの電磁界と人の健康への影響, 電気学会電磁界生体影響問題調査特別委員会編, 電気学会, 2003年; 現代エネルギー・環境論, 新田義孝編, 電力新報社, 1999年</p> <p>●メッセージ 授業担当者は、第1週~第2週 三好、第3週~第6週 甲斐、第7週~第10週 堀田、第11週~第14週 浅田</p> <p>●教員連絡先 三好 E-mail tmiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号 0836-85-9450 研究室 電気電子棟 A708 オフィスアワー 研究室入口に表示 堀田 E-mail hotta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 随時</p>					

開設科目	人間環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教員	三好正毅				
<p>●授業概要 1) エントロピーと物質循環の概念について解説する。2) 環境問題の現実の諸様相にこの概念を適用する。</p> <p>●授業一般目標 1) エントロピーと物質循環の概念を理解する。2) この概念を軸として、環境問題を考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 1) レポートによって評価する。2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 物理学に基づく環境の基礎理論, 勝木 渥著, 海鳴社, 1999年 / 参考書: 物理・化学から考える環境問題, 白鳥紀一編, 藤原書店, 2004年</p> <p>●教員連絡先 E-mail tmiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号 0836-85-9450 研究室 電気電子棟 A708 オフィスアワー 研究室入口に表示</p>					

開設科目	スポーツ運動実習	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	1単位	曜時限	月曜日3・4時限(夜間)
担当教員	高見京太				
<p>●授業概要 心身の健康や生活の質の向上において、運動・スポーツの実践は重要な役割を果たす。最近では比較的ルールや技術が平易なニュースポーツが、生涯スポーツとして幅広い年齢層で行われている。そこで本授業では、ニュースポーツに分類されるスポーツ種目を実践し、これらのルールやゲームの進め方、また楽しみ方を身につける。</p> <p>●授業一般目標 生涯にわたって楽しくスポーツの実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 教科書は使用しない / 参考書: ニュースポーツ事典, 北川勇人, 遊戯社, 1991年</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建(夜)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	関根雅彦、榊原弘之、中田幸男				
<p>●授業概要 大学の学習において重要な、日本語による的確な表現力とは何かについて説明し、それを身につけるための実習を実施する。</p> <p>●授業一般目標 大学でさまざまな内容を学習していく上で重要な日本語による表現力を身につける。具体的には(1)レポート・レジュメ作成に必要な文章力, (2)内容をわかりやすく口頭で説明するプレゼンテーション能力を身につける。本科目は、本プログラムの学習・教育目標のうち、以下の目標に対応している。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける A-3 日本語による的確な表現力</p> <p>●成績評価方法(総合) 本講義は演習を重視しており、授業内外のレポート及びプレゼンテーションによって成績を評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 日本語表現のレッスン—文章技法からイベント・プレゼンの企画と実施まで, 長沼行太郎, 入部明子, 幸田国広, 青島康文, 向後千春, 教育出版, 2003 年</p> <p>●教員連絡先 関根:ms@env.civil.yamaguchi-u.ac.jp 榊原:sakaki@yamaguchi-u.ac.jp 中田:nakata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能(夜)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限(夜間)
担当教員					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建(夜)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	吉武 勇				
<p>●授業概要 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の実習を中心に講義する。</p> <p>●授業一般目標 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の修得し、道具としてのコンピュータを使いこなすことができるようになる。この科目は以下の学習・教育目標に対応します。社会建設工学コース（A）確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法（総合） 1. 演習講義には毎回出席し試験をすべて受けること。（出席は欠格条件です。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席・遅刻した場合は必ず担当教官に理由を申し出ること。） 2. レポート課題を 40%，期末試験を 60%として成績を評価し、60 点以上(100 点満点)を合格とする。 3. 再試験を行う場合は、下記の条件に基づいて受験資格を与える。 ・演習講義には全て出席しており、且つ期末試験を受験していること。 ・レポート課題等は全て提出していること。 4. 再試験を行う場合は、定期試験評価の 60%のうち、期末試験と再試験の平均値をもって計上し、60 点以上を合格とする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ホームページ上で公開されている情報処理テキストを使います。</p> <p>●メッセージ ・この講義には、ノートパソコンが必要です。 ・いろいろな機能について、実際に試して、体得して下さい。</p> <p>●教員連絡先 吉武 勇 Tel：0836-85-9306 e-mail: yositake@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能(夜)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	中村秀明				
<p>●授業概要 近年、インターネットが急速に普及し始め、企業においても個人の生活においても情報ネットワークが浸透している。こうしたなか、情報処理の知識は、ますます不可欠となってきている。本講義では、パソコンを使い、演習を中心として授業で、ワープロ、表計算、電子メール、インターネットなどの基本的な操作方法を習得する。</p> <p>●授業一般目標 本講義では、パソコンに慣れ親しむことを最大の目的とし、パソコンに関する基礎的知識と操作技能の習得を目標とする。</p> <p>●成績評価方法（総合） 成績は、定期試験（期末試験）および時間内での小テスト、時間外のレポートで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じプリントを配布する。</p> <p>●メッセージ パソコンでの実習が主であるため、3 回以上欠席した場合は、単位を認めない。授業に関する情報は、下記の URL に掲載します。 http://gateway2.design.csse.yamaguchi-u.ac.jp/lab/lecture/index.html</p> <p>●教員連絡先 電話 0836-85-9531 研究室 総合研究棟システム設計工学 オフィスアワー いつでも 授業に関する情報は、下記の URL によりホームページから参照できる。 http://gateway2.design.csse.yamaguchi-u.ac.jp/lab/ 授業についての質問は、下記のアドレスまで。 nakamura@design.csse.yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)	単位	1 単位	曜時間	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	岩部浩三				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●教員連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室(人文 607)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(昼・夜) 2 年	単位	1 単位	曜時間	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p>●授業一般目標 (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(−0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年/ 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>●メッセージ ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜) 2年, 医・工(昼) 3年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、 (誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: TOEIC Test: Head Start. 山本成代、Jim Knudsen 著、南雲堂、2005 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜) 1年, 医・工(昼) 3年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、 (誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞きとり、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Enjoy Learning the TOEIC Test. 石井隆之、中川 昭、Thomas Koch 著、三修社、2005 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英文法の基礎を身に付け、リーディングのスコアを向上させよう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	FARRAR, DAVID HANSON				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	Maurice Kamel				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法 (総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson & Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>					

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[2])	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	Johnson Judith Ann				
<p>●授業概要 This course is for students with a TOEIC score of more than 400. It is recommended that students who have a TOEIC score of more than 500 take this class, but any student with more than 400 may take this class if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Comprehensive English New Volume One (revised edition), by Johnson & Higgins Sound Approach Pronunciation Book, by Higgins</p>					

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)3年(平成13年度以前入学者)	単位	1単位	曜時限	水曜日3・4時限(夜間)
担当教員	桂哲男				
<p>●授業概要 訳読中心の授業、小説を通してアメリカの文化、精神に触れる。</p> <p>●授業一般目標 上級程度の英文読解力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期テスト(80点)+レポート(10点)+授業での評価(1回5点)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: アメリカ青春小説選, 桐原書店</p> <p>●教員連絡先 katura@tokuyama.ac.jp</p>					

後期一夜間主コース

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	谷田憲俊				
<p>●授業概要 医療には医学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では医療に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p>●授業一般目標 医療について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席点40%、レポート点40%、試験結果20%</p> <p>●教科書・参考書 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPointファイルとして予め学生にeメールで送付することができる。</p> <p>●メッセージ PowerPointファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jpまでメールすること。なお、ファイルが大きいので、2Mほどの容量を要する。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので留意すること。</p> <p>●教員連絡先 tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教員	岡本健一郎				
<p>●授業概要 ○テーマ：山口県近代史(近代化と地域開発) 本講義では、明治～昭和戦前期を対象として、山口県内の主要都市の発展や工業化の過程を追い、その中で工業地帯の形成や地域の中核都市への発展の状況について学ぶ。とくに山口県の特徴である瀬戸内海沿岸部・日本海側・山間部などの地理的特性を重視し、近代化をめぐる県内の動きについて考察を加えてみたい。</p> <p>●授業一般目標 ・明治期以降の日本の歴史を概観しつつ、その実質を自らの視点で理解・再認識する姿勢を養う。・山口県内の各地域について、より實際生活に直結している工業地帯や地域の中核都市の形成をキーワードに理解を深める。</p> <p>●成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中数回程度のレポートを課す。期末試験65%、小レポート20%、出席15%。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。資料プリントを毎回配付する。／参考書：参考文献については、講義の中で適宜紹介する。</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限(夜間)
担当教員	石田毅				
<p>●授業概要 産業あるいは企業が社会と係わりを持つ際に必要となる産業倫理や企業倫理について、4人の学外講師により次のようなテーマの講義がなされる。(1)組織マネジメントと倫理について(2)装置産業における事故事例と安全遵守義務について(3)サムライ・マインドと現代について(4)持続可能な社会の実現と技術者倫理</p> <p>●授業一般目標 産業あるいは企業が社会と係わりを持つ際に必要となる産業倫理や企業倫理、ならびに、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果や技術者が社会に対して負っている責任、すなわち技術者倫理に関する理解をはかる。</p> <p>●成績評価方法(総合) 講義には毎回出席することを原則とする。4回のレポートをすべて提出することが、合格の最低条件である。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：必要に応じ、プリントを配布する。</p> <p>●メッセージ 講義担当教員は以下の通り。第1回：石田毅先生 第2回～第4回：杉山明夫先生 第5回～第7回：横田守久先生 第8回～第10回：古谷博司先生 第11回～第13回：住居孝紀先生 第14回：石田毅先生 4人の学外の先生の講義が中心なので、先生方に失礼のないよう、また山口大学の学生として恥ずかしくない態度で受講してください。・杉山、横田、古谷、住居先生それぞれ3回の授業のいずれかに1回も出席しない場合は、不合格。・出席率が総授業数の2/3以上に満たない場合は不合格。・4回のレポートのうちひとつでもレポートが提出されていない場合には不合格。</p> <p>●教員連絡先 TA(チーピング・アシスタント)が毎回出席しているので、簡単な質問などはTAにしてください。この講義の世話教員(石田)の連絡先は以下の通りです。電話：0836－85－9338(内線9338) E-mail:tyishida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	数学II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限(夜間)
担当教員	柳原宏				
<p>●授業概要 前期の数学I で学習した1変数の微分積分の内容を踏まえて、2変数の関数についての微分積分を学習する</p> <p>●授業一般目標 この科目は以下の工学部各学科の学習・教育目標に対応します。確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。数学, 自然科学, 情報処理の基礎力</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験、前期試験などの結果に適宜レポートの点数を2割分くらいに換算して加点し成績をつける。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：微分積分, 石原繁 浅野重初, 裳華房, 2002年; 前期の数学Iで使用した教科書を引き続いて使用する。</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 (夜)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限 (夜間)
担当教員	山田陽一				
<p>●授業概要 電磁現象に関する基礎概念とその定量的な取り扱い方を説明し、巨視的電磁現象のすべてを統一的に説明することが可能な理論体系を解説する。</p> <p>●授業一般目標 電磁現象に関する基本的な観測事実からマクスウェルの方程式の定式化を行い、その物理的意味と一般的性質を理解する。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 期末試験の成績により評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：改訂版 基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 2000 年</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 (夜)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限 (夜間)
担当教員	山本豪紀				
<p>●授業概要 本授業では、有機化学を取り扱う。理系学生として最低限必要な有機化学の基礎である炭化水素、芳香族化合物、ハロゲン化合物、アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、アミン等の構造と性質、およびそれらの反応について説明する。また、有機化合物の反応における基本的な原理・法則についても説明するとともに、有機化学における最新の研究も解説する。さらに生命科学から材料科学の広範囲にわたって利用される有機化合物について、工学系各分野における実例を紹介する。</p> <p>●授業一般目標 (1) 理系学生として最低限必要な有機化学の基礎的な事項について理解するとともに、一般的な有機化合物の構造、性質、反応について知る。(2) 有機化合物について関心を持ち、工学の中での有機化合物の役割を積極的に理解しようとする態度を養う。</p> <p>●成績評価方法 (総合) 中間試験、期末試験、演習に対する取り組みの積極性を下記の観点・割合で評価する。出席回数が、所定の回数に満たないものには、単位を出さない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：グリーン・ケミストリー, 吉村忠与志・西宮辰明・本間善夫・村林眞行, 三共出版, 2002 年</p> <p>●メッセージ 今ではたくさんの有用な情報がインターネット上にあります。講義に関連する多くの情報もインターネット上にありますので、それを上手に利用してください。</p> <p>●教員連絡先 電話 9262, オフィスアワー 17:00 18:00</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	金曜日1・2時限(夜間)
担当教員	久井守				
<p>●授業概要 この授業では、統計学で扱われる内容の中から、重要と思われる事項をトピックス的に取り上げて解説する。できれば理工学分野の話題または応用例のいくつかを紹介したい。ただし体系的な解説は専門科目の「確率統計」にゆずりたい。</p> <p>●授業一般目標 1) 統計資料の集計や分析の方法を理解する。2) 確率分布、特に正規分布とその応用方法を理解する。3) 区間推定の考え方とその方法を理解する。4) 仮説検定の考え方とその方法を理解する。5) 公式を機械的に適用するのではなく根本的な考え方を理解する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 中間試験60点、期末試験100点、演習20点、宿題20点、合計200点中120点以上で合格。ただし欠席と遅刻は厳しくチェックする。遅刻2回で欠席1回とカウントし、欠席5回以上になれば期末試験の受験資格を失う。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：新統計入門, 小寺平治著, 裳華房, 2004年 / 参考書：統計学に関する図書は無数にあります。まずは図書館で調べてみて下さい。しかし最初は教科書をよく読んで下さい。そしてもっと詳しく勉強したいときに図書館で調べるとよいでしょう。高校の「確率統計」の教科書があればそれも参考になるかもしれません。</p> <p>●メッセージ 教科書に従って授業を進めます。したがって教科書は必ず購入して下さい。教科書がないと単位をとるのは困難です。毎回の授業で簡単な演習を行います。十分に予習復習をして下さい。遅刻や欠席をしないようにして下さい。そうでないと授業についていけなくなる可大です。</p> <p>●教員連絡先 TEL: 0836-85-9533 オフィスアワー: 木曜日 17:00~18:30 (予定) これ以外の時間でも結構です。気軽にドアをノックして下さい。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	工(夜)1年, 医・工(昼)3年	単位	1単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC スコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Vocabulary Building for the TOEIC Test. 古家聡、藤岡美香子著、三修社、2004 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	工(夜) 1年, 医・工(昼) 3年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田 守				
<p>●授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート I (写真描写問題)、II (応答問題)、V (文法・語彙問題)、(誤文訂正問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する。速読直解の習慣を身に付ける。TOEIC テストにおいて、300 点以上を取ることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>●教科書・参考書 教科書: Word Master Approach for the TOEIC Test. 松井こずえ、戸辺紀子著、成美堂、2005 年 参考書: TOEIC Test 英文法出るとこだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ 予習をして授業に出よう。英文法の基礎を身に付け、リーディングのスコアを向上させよう。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	唐下笑美子				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習と e-learning ソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learning の URL は、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp の予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っておりません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが 1400 点(14 回)単語テストが 400 点(10 回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004 年</p> <p>●備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っておりません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工(昼・夜)2年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	内海俊祐				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っておりません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員	宮原一成				
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工(昼・夜)3年	単位	1単位	曜時限	火曜日1・2時限(夜間)
担当教員					
<p>●授業概要 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題はすべて予習です。テキストの予習とe-learningソフト『英文法徹底トレーニング』でテスト準備をしておくことが授業を受ける条件です。e-learningのURLは、https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jpの予定です(シラバス作成時点ではまだ利用環境が整っていません。変更になった場合は、掲示等で連絡します)。授業では、テキストに基づいて文法事項のおさらいをした後、文法と単語のテストを実施します。</p> <p>●授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 文法テストが700点(7回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を100点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：『英語基礎』, 山口大学共通教育英語部会編, 開拓社, 2004年</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)1年, 医・工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教員	KAMAR, Katherine				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦労を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2単位	曜時限	月曜日3・4時限(夜間)
担当教員	KAMAR, Katherine				
<p>●授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦労を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>●授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>●メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>●教員連絡先 HP:http://www.eigodaigaku.com でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工(昼・夜) 3年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	池田守				
<p>●授業概要 この授業では英語でコミュニケーションを図る際に必要とされる本格的なリスニング力 や読解力を養う授業を行う。英語による写真説明、応答や会話を聞き、内容を正しく判断する力を身に付けさせる。また、英語の文法理解を深めると共に、語彙を拡大させる。さらに、英文の速読直解力を向上させる。</p> <p>●授業一般目標 英語の文法を理解すると共に、ネイティブによる会話、応答、写真描写の説明を聞き、英語が使われている状況を正しく判断できる。英文の音読及び速読直解を通し、実践的コミュニケーション能力が高まる。この授業では、TOEIC テストの 400 点以上に相当する英語力を身に付けることを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 試験は中間及び期末の 2 回実施する。授業の中で小テストを 2 回実施する。レポートを 1 回課す。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Get Ready for the TOEIC Test. 松岡 昇著、金星堂、2005 年／参考書：TOEIC Test 英文法出るところだけ、小石裕子著、アルク、2003 年</p> <p>●メッセージ ・受講にあたり、自分の持つ TOEIC スコアを提示すること。・TOEIC テストですでに 400 点以上をマークしている学生の受講は原則として認めない。・成績評価は「成績評価方法(総合)」欄で記したことの他、与えられた課題を学習し終え、かつ次の条件の一つを満足させた受講生を合格とする。 1. 期間中に受験した TOEIC でスコア 400 点以上を取る。 2. 自己スコアの伸び 50 点以上を記録する。</p> <p>●教員連絡先 ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜) 1年, 医・工 2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限(夜間)
担当教員	Maurice Kamel				
<p>●授業概要 This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p>●成績評価方法(総合) Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p>●教科書・参考書 教科書：Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson & Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p>●メッセージ This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)4年(平成13年度以前入学者)	単位	1単位	曜時限	水曜日3・4時限(夜間)
担当教員	桂哲男				
<p>●授業概要 訳読中心の授業、小説を通してアメリカの文化、精神に触れる。</p> <p>●授業一般目標 上級程度の英文読解力を身につける。</p> <p>●成績評価方法(総合) 定期テスト(80点)+レポート(10点)+授業での評価(1回5点)。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：現代イギリス小説を読む, 安藤勝夫他, 桐原書店</p> <p>●教員連絡先 katura@tokuyama.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	総合科目(知的財産権論)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)3年	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教員	福代和宏				
<p>●授業概要 特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての知識を実例を交えて講義する。また、特許調査、活用プランニングなど実践的な演習を行う。</p> <p>●授業一般目標 (1)特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての基本的な知識を習得する。(2)特許調査、活用プランニングなどの演習を通じて、特許活用の実践的なスキルを習得する。</p> <p>●成績評価方法(総合) 特許調査、活用プランニングなどの演習で作成したレポートを、(1)知的財産権の基礎知識、(2)思考力、(3)特許調査のスキルの3つの観点から評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：知的財産教本, 山口大学知的財産本部, EMEパブリッシング, 2004年</p> <p>●メッセージ 現在、社会のあらゆる場所で、知的創造活動の成果を守り、活用することが要求されています。本講義を通して知的財産権についての知識を深めてください。</p> <p>●教員連絡先 研究室内線番号9711 研究室不在時にはベンチャービジネスラボラトリー2階のMOTオフィス(内線9876)まで</p> <p>●備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

フレッシュマンセミナー（新入生合宿）